

科目名	宗教学	対象 単位数 必修	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 必修
担当教員	福島 寅太郎		
開講期	I		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 ☑</p> <p>①本学の建学精神を理解するために必要な教養的知識を習得させる。☑</p> <p>②教養のある現代人として宗教に関する必要な知識を身につけさせる。☑</p> <p>〔授業の概要〕 ☑</p> <p>本講義は本学の建学精神に基づいた全学科・専攻の必修科目である。☑</p> <p>宗教は人間生活のあるところ、どの時代にもどの場所にも影響を及ぼしており、現在の私たちもまた日常生活の中で常にそれらと関わっている。グローバル化が進み、異文化間の相互理解が求められる現代において、宗教は果たしてどのような役割を果たすことができるのであろうか。☑</p> <p>本講義は、諸宗教の思想や信仰、特に現代日本およびアジアの諸宗教におけるさまざまな事例を取り上げ、宗教学的観点から探ることを目的とする。授業への理解を深めるために、アニメなどの映像を数多く取り扱う予定である。ちなみに「トトロはオスですか、それともメスですか」。素朴な疑問が学問への重要な一歩である。☑</p> <p>本年度は、本学の学問の特徴である「生活学」に焦点を当てて、宗教と生活との関わりを考えてみたい。具体的には、当該当該問題に関連した最新の研究書を教科書として用い、当該教科書の読解を通じて理解を深めていきたいと考えている。☑</p> <p>授業時の質疑応答やレポートの返却等によってフィードバックを行う。☑</p> <p>位置づけ・水準:CD1102</p>		
達成目標	<p>〔到達目標〕 ☑</p> <p>①宗教学的“ものの見方”を理解する。☑</p> <p>②宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。☑</p> <p>③紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解する。☑</p> <p>単位認定の最低基準は:は「内容の7割以上を理解していること」☑</p> <p>DPとの関係: 知識理解、創造的思考力</p>		
受講資格	特になし	成績評価 方法	試験成績60点、授業における発表20%、授業における参加態度20%など。理解度8割で、合とする。
教科書	なし		
参考書	特になし		
学生への要望	ノートをこまめにとること。		
オフィスタイム	月曜日から金曜日（火曜日を除く）昼休みの時(12時～12時40分)。担当教員の研究室（創学館No.5）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の進み方、建学精神との関連について述べるとともに、テストや成績評価などについて紹介する。教科書についても案内する予定である。	初回に当たり、とくになし。	1.5
2	生活と宗教（1）一 禅の教えと歴史	具体的には禅を取り上げる。禅の歴史や基本的な教えについて、教科書に沿って述べる。アップルの創始者・ジョブズ氏は敬虔な禅の実践者である。シンプルさを追求したアップル製品を話題にしなが、生活における禅の役割を考える。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
3	生活と宗教（2）一 生活の中の「禅」	前回の続き。教科書に沿って、禅とは何かを、身近な話題を通して考える。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
4	生活と宗教（3）一 「生活禅」とは何か	「生活禅」とは何か。教科書を通して学びながら、一緒に考えてみる。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
5	生活と宗教（4）一 だるまさん・ダルマと達磨	「達磨さんが転んだ」という鬼ごっこをみんなは一度ぐらい遊んだことがあろう。ここに出てくる達磨さんとは誰のことであろうか。歴史上の達磨さんと民間信仰のそれとの異同を明らかにしてみたい。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
6	生活と宗教（5）一 般若心経	『般若心経』と生活禅について述べる。日常生活の中で、『般若心経』に触れる場面があると思う。ここでは教科書を用いながら『般若心経』とはどんなお経なのかを学ぶと共に、生活禅との関係を理解する。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
7	生活と宗教（6）一 こころと心	心とは何か。宗教は人間の不可視的なものを可視的にするものである。ここでは宗教から見た人間の心とは何かを、禅における心のとらえ方を通して理解する。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
8	生活と宗教（7）一 禅マンガについて	前回の続き。具体的には『十牛図』という最古のマンガを通して理解を深める。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
9	生活と宗教（8）一 宗教における悩みの対処法	悩みとは何か。禅における悩みの対処法を、教科書を通して理解する。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	生活と宗教（9）－アニメにおける宗教的要素 其の一	気分転換のために、アニメにおける宗教的要素について考察する。具体的には『となりのトトロ』を取り上げる。☒	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
11	生活と宗教（10）－アニメにおける宗教的要素 其の二	前回の続き。ちなみに、トトロの性別はオスか、それともメスか。素朴な疑問が学問への重要な第一歩である。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
12	生活と宗教（11）－生活と宗教との関わり 其の一	再び教科書に戻る。「生活の中で修行し、修行の中で生活する」という教科書の著者の言葉を理解しながら、生活と宗教との関わりを考える。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
13	生活と宗教（12）－生活と宗教との関わり 其の二	前回の続き。「人間らしく生きるためにはどうしたらいいか」「人間の本質とは何か」などの問題について、教科書を参考にしつつ考えてみる。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
14	生活と宗教（13）－まとめ	これまでの授業の全体についてまとめると共に、期末テストについて説明する。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
15	最終回－まとめ其②	授業の内容を踏まえつつ、本学の建学精神である「尊敬・責任・自由」の意義を再び考えてみることにする。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5

科目名	情報処理 I	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	山口 猛,米本 順子		
開講期	I		
授業概要	パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。とくに本演習ではオペレーティング・システム(OS)の基本操作・メールやウェブの利用方法・文書作成について学習する。また、IT企業でのシステムエンジニア勤務経験を活かし、実務的なパソコン活用力について考慮した授業を行う。☑ ☑ 実務経歴：システムエンジニアとして株式会社エフコムに勤務☑ システム開発・情報処理の経験をもとに、文書作成・表計算についての授業を行う。☑ ☑ フィードバックとして、未提出物がある場合や提出物の内容が不十分である場合などは追加課題の実施等を行う。☑ ☑ 位置づけ・水準 GC1116		
達成目標	本演習における達成目標は次の通りとする。☑ 1. オペレーティング・システム(OS)の基本的な操作ができること。☑ 2. ウェブとメールを利用した情報収集および情報伝達ができること。☑ 3. 文書作成・表計算ソフトウェアを利用し、必要な情報を盛り込んだ文書を作成することができること。☑ ☑ 単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること☑ ディプロマポリシーとの関係：他との協調、人間形成		
受講資格	なし。	成績評価方法	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は課題1を20%、課題2を40%、課題3を40%とする。☑
教科書	イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル、noa出版 (2016)		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。☑		
オフィスタイム	月曜日 2・4限, 芸術館2階 No.2生芸科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、オリエンテーション時の内容を復習し、Webメールを利用、Windowsの基本操作ができるようにする。	復習として次のことを行うこと。 ・Webメールから携帯電話へメールを送信する(正しく着信することを確認する)。 ・携帯電話からWebメールのアドレスへメールを送信する。メールが転送されることを確認する。	45
2	ブラウザと検索	World Wide Web (WWW) を利用するために、ブラウザ・文字コード・Uniform Resource Locator・プロトコルなどのネットワークを利用する上での基礎事項を学習する。またインターネットの普及を踏まえた上で、インターネットを利用する上での注意事項について触れる。☑	復習として、次の点についてまとめること。 ・URLの構造 ・インターネットを利用する際に注意すべきポイント	45
3	Email	Email のアドレスの構造やメール転送の仕組みを学ぶ。メールアドレスの管理やメールのフィルタリング、TO, CC (Carbon Copy), BCC (Blind Carbon Copy) 違いなどメールの基本について学ぶ。☑ また、安全に Email を利用する方法やまたローカルコンピュータ上のメーラーだけでなく、Gmail を用いて Web 上のメールの用法も理解する。☑	復習として、Emailアドレスの構造とTO, CC, BCC の違いをまとめること。	30
4	課題1	インターネット(ブラウザ・メールなど)の用法について、正しく利用できるか確認をする。☑ また次回以降の教材の準備を行う。 教材のダウンロード http://www.noa-prolab.co.jp/download/	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	Wordによる文書作成1	Word を用いた文章作成について学ぶ。Word の画面構成と名称を学び、書式の意味とその設定を行う。また文章中での表の作成・挿入などの方法を学ぶ。☒	復習として、eLearning Systemを用いて Word STEP2 確認テスト1を実施すること。	20
6	Wordによる文書作成2	表作成の操作として、列幅や行幅の変更・セルの結合・スタイルの設定等について学ぶ。さらにワードアートを始めとした図の挿入方法とその際の各種設定方法について学ぶ。☒	復習として、eLearning Systemを用いて Word STEP2 確認テスト2を実施すること。	20
7	Wordによるレポート作成	レポート作成時に必要となる基本的な設定方法について学ぶ。また文章内に表やグラフを挿入する際に必要となる Excel の基礎知識、脚注や引用などについても学ぶ。☒	復習として、eLearning Systemを用いて Word STEP2 確認テスト3, 確認テスト4を実施すること。	40
8	課題2	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での文章作成を行う。作成した文章については Web を通じて指定箇所に提出することで、一連の学習状況の確認を行う。☒	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	60
9	表の作成	Excel を用いて表計算ソフトを学ぶ。表計算ソフトの基本画面構成・文字と数値の扱い・データ削除方法などの基本操作のほか、オートフィルや書式の設定などについて学ぶ。	復習として、授業内でオートフィルの機能を用いて作成した連続データを、再度作成してみること。	30
10	計算とアドレス	数式を用いた計算方法を学ぶ。特に表計算を行う上で重要な相対アドレス・絶対アドレス・混合アドレスの差異を学ぶ。☒	予習として教科書のp.132からp.140までを読んでおくこと。	30
11	関数	コンピュータ上での関数について学ぶ。基本的な関数である SUM 関数および AVERAGE 関数を用い、表計算ソフト上での関数の扱いについて学ぶ。☒	予習として教科書のp.132からp.152までを読んでおくこと。	30
12	論理	実用的な計算を行う上で重要な論理計算を行う関数について学ぶ。具体的には IF 関数や COUNTIF 関数などの用法などについて学ぶ。☒	復習として、eLearning Systemを用いて Excel STEP2 確認テスト5, 確認テスト6を実施すること。	30
13	表とグラフ	表計算ソフトでの表の書式設定を学び、作成した表からグラフを作成する方法について学ぶ。またグラフに関する基本的な設定を行う。☒	復習として、eLearning Systemを用いて Excel STEP3 確認テスト1, 確認テスト2を実施すること。	30
14	課題3	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での Excel で処理を行う。処理したファイルは Web を通じて指定箇所に提出する。これにより学習状況の確認を行う。☒	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	60
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンテーションの基本やスライド作成の注意点、スライド作成の基本機能について学ぶ	予習として、パワーポイントに関する章を読んでおくこと。	30

科目名	総合英語コミュニケーション	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	ポール バーナミィ		
開講期	I		
授業概要	PREREQUISITES FOR THIS CLASS: <input checked="" type="checkbox"/> Students will have completed high school English. Students should be able to understand and use language concerning familiar, everyday topics, such as likes and dislikes. They also should be able to give basic personal and family information. <input checked="" type="checkbox"/> A. The number of this subject is CD1103. <input checked="" type="checkbox"/> B. The instructor has taught English for more than 20 years. <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> EVALUATIONS FOR THIS CLASS: <input checked="" type="checkbox"/> ① You should be able to give a short clear self-introduction. <input checked="" type="checkbox"/> ② You should be able to read smoothly and understand a short passage. <input checked="" type="checkbox"/> ③ You should be able to do basic grammar in the context of spoken and written form. <input checked="" type="checkbox"/> FEEDBACK: I will frequently give constructive feedback to students on their participation, articulation, homework, quizzes and development. <input checked="" type="checkbox"/>		
達成目標	GOALS OF THIS CLASS: <input checked="" type="checkbox"/> A. The main focus will be to enhance key listening and language proficiency. <input checked="" type="checkbox"/> B. Additionally, required quizzes and homework will incorporate listening tasks <input checked="" type="checkbox"/> to evaluate overall comprehension. There will be a cumulative final exam. <input checked="" type="checkbox"/> C. The minimum standard to receive 2 credits for this subject is to achieve 60% or higher on <input checked="" type="checkbox"/> the overall average of these main criteria, attitude, quizzes and the final test. <input checked="" type="checkbox"/> D. The "Diploma Policy" (DP) for this subject stipulates "Knowledge" <input checked="" type="checkbox"/> and "Understanding." <input checked="" type="checkbox"/>		
受講資格	短大1年	成績評価 方法	1. Active, Enthusiasm (20%) <input checked="" type="checkbox"/> 2. Quizzes, Homework (30%) <input checked="" type="checkbox"/> 3. Final Cumulative Test (50%)
教科書	Speak NOW 2 by Jack C. Richards & David Bohlke <input checked="" type="checkbox"/>		
参考書	Oxford University Press 2012		
学生への要望	Don't miss class. Be attentive. <input checked="" type="checkbox"/> Do regular listening of your audio files. <input checked="" type="checkbox"/> Study 120 minutes of homework each class. <input checked="" type="checkbox"/> Review all material including textbook, online self-study and supplemental material. <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>		
オフィスタイム	Room 837: Wednesday, 14:30~16:30 <input checked="" type="checkbox"/> 時間: 水曜日, 14:30~16:30 時限 <input checked="" type="checkbox"/> 場所: 83年館 3F 837研究室 <input checked="" type="checkbox"/>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	Introduction to Class	Lessons 1-4---FRIENDS & FAMILY---Lesson 1---Where are you from? Pages 2-8, Explain Textbook, Tests, Quiz. Active Learning Explained. External Supplements Explained. Homework, Attendance, etc. I will explain in detail how the online portion of the class will be used. <input checked="" type="checkbox"/> Encourage students to ask questions and to give feedback on office hours, assignments, quizzes, test information, and any question they would like to ask.	Review the textbook. Read through Scope and Sequence of the textbook. Explain lessons we will do for the class. Show and explain the textbook and the online activities the students will do for the class. Bring textbook to all classes. Bring computer to all classes.	120
2	Lesson 1	Lesson 1---Where are you from?---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 2-4. Conversation. Active learning pair work activity. English in Action Video, <input checked="" type="checkbox"/> Page 10. Watch and explain online video.	Review the textbook. Read through pages 2-3. Listen to tracks 2-4. Do vocabulary worksheet 1. Do first online assignment.	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
3	Lesson 2	Lesson 2---I'm tall and thin.---Review Lesson 1---Where are you from?---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 5-6. Conversation. Active learning pair work activity. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 4-5. Listen to tracks 5-6. Do vocabulary worksheet 2. Do online assignment.	120
4	Lesson 3	Lesson 3---Alice is more serious.---Review Lesson 2---I'm tall and thin.---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 7-8. Conversation. Active learning pair work activity. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 6-7. Listen to tracks 7-8. Do vocabulary worksheet 3. Do online assignment.	120
5	Lesson 4	Lesson 4---All of my friends text.---Review Lesson 3---Alice is more serious.---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 9-11. Conversation. Active learning pair work activity. Summary review. Pages 10-11. Confidence booster. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 8-9. Listen to tracks 9-11. Do vocabulary worksheet 4. Do online assignment. Review pages 12-13 English in Action online video supplement.	120
6	Lesson 5	Lessons 5-8---RESTAURANTS---Lesson 5---I've never had Thai food.---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 12-13. Conversation. Active learning pair work activity. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 12-13. Listen to tracks 12-13. Do vocabulary worksheet 5. Do online assignment.	120
7	Lesson 6	Lesson 6---First, grill the bread.---Review Lesson 5---I've never had Thai food.---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 14-16. Conversation. Active learning pair work activity. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 14-15. Listen to tracks 14-16. Do vocabulary worksheet 6. Do online assignment.	120
8	Lesson 7	Lesson 7---The service is great.---Review Lesson 6---First, grill the bread.---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 17-18. Conversation. Active learning pair work activity. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 16-17. Listen to tracks 17-18. Do vocabulary worksheet 7. Do online assignment.	120
9	Lesson 8	Lesson 8---Are you ready to order?---Review Lesson 7---The service is great.---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 19-21. Conversation. Active learning pair work activity. Summary review. Pages 20-21. Confidence booster.	Review the textbook. Read through pages 18-19. Listen to tracks 19-21. Do vocabulary worksheet 8. Do online assignment. Review pages 20-21 English in Action online video supplement.	120
10	Lesson 9	Lessons 9-12---HEALTH---Lesson 9---I have a sore throat.---Review Lesson 8---Are you ready to order?---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 22-23. Conversation. Active learning pair work activity. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 22-23. Listen to audio tracks 22-23. Do vocabulary worksheet 9. Do online assignment. Review English in Action online video supplement.	120
11	Lesson 10	Lesson 10---What should I do?---Review Lesson 9---I have a sore throat.---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 24-27. Conversation. Active learning pair work activity. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 24-25. Listen to audio tracks 24-27. Do vocabulary worksheet 10. Do online assignment. Review English in Action online video supplement.	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	Lesson 11	Lesson 11---I'd love to try that!---Review Lesson 10---What should I do?---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 28-29. Conversation. Active learning pair work activity. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 26-27. Listen to audio tracks 28-29. Do vocabulary worksheet 11. Do online assignment. Review English in Action online video supplement.	120
13	Lesson 12	Lesson 12---Soccer is more exciting!---Review Lesson 11---I'd love to try that!---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 30-32. Conversation. Active learning pair work activity. Summary review. Pages 30-31. Confidence booster. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 28-29. Listen to tracks 30-32. Do vocabulary worksheet 12. Do online assignment. Review pages 30-31 English in Action online video supplement.	120
14	Lesson 13	Lessons 13-16---JOBS---Lesson 13---I can write pretty well!---Review Lesson 12---Soccer is more exciting!---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 33-36. Conversation. Active learning pair work activity. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 32-33. Listen to tracks 33-36. Do vocabulary worksheet 13. Do online assignment. Review English in Action online video supplement.	120
15	Test Review	Textbook Summary, CD Review, Quiz, Conversation. Active learning pair work activity review. Test Preparation & Review. English Picture Book Final Presentation. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages indicated to study for the final test. Listen to all audio tracks indicated during test preparation.	180

科目名	キャリアデザインⅠ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	桑野 聡, 仲田 佐和子		
開講期	I		
授業概要	本学におけるキャリア教育は、「一人一人の社会的自立に向け、生涯を通して自己を磨き続けることができる能力を育成するための教育」と定義されま ず。本授業では、まず大学生として学ぶ姿勢の基本を身につけることで、「つくる力」(創造力、論理的思考力、表現力)と「かかわる力」(主体的行動力、コ ミュニケーション能力、倫理・道徳観)という社会で活躍するための基礎力を確認し、主体的に大学生活を送ることで各自のライフキャリアを構築できる ようにします。 <input type="checkbox"/> 最終授業で全体に対するフィードバックを行います。提出物は返却しますので、必ずファイリングして以後の集会や就職活動等に役立ててください。 GC1117		
達成目標	自分の夢を実現するための具体的な目標をキャリアプランニングの意識を持って自主的にレポートにまとめることができる。初回と最終回の自己評 価・2回の課題レポートの提出・最終回のテキスト提出を単位認定の最低基準とする。 ディプロマ・ポリシーとの関係： 個の確立・人間形成		
受講資格	特になし	成績評価 方法	授業時のワークへの取り組み状況（使用教材集提出）と提出物（第6 回授業の課題レポートと第14回授業のレポートなど）から「認」評価 を判定する。
教科書	教材集『キャリアデザイン-大学の教養・キャリア教育のスタートをバックアップ!』配布		
参考書	授業中に適宜提示する。		
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やインターネットなどのメディアには、有益な進路情報がたくさん掲載されています。定期的な目を通すことで、労働環境や職業社会の実態を把握し、自分の意見を整理してみましょう。 ・自分自身の進路について、周囲の友人や家族と日常的に話してみましょう。また、身近にいる社会人から仕事や家庭生活に関する話を聞いてみることも、進路を考える上でヒントになります。 ・就職部の実施する就職ガイダンス・各種模擬試験・インターンシップなどの活動に積極的に参加しましょう。 		
オフィスタイム	全体のコーディネーターは桑野が担当する。 火曜Ⅱ時限目（10:30～12:00）・金曜Ⅴ時限目（16:10～17:40） 考古学研究室（83年館1階）。その他、各担当教員の指示に従ってください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション-キャリアデザインの意義と目的 4月7日	本講義の目的・意義・内容・計画を理解した上で、「キャリア」とは何か、「キャリアをデザインする」とはどういうことかを考えます。	自己評価票を真摯に記入し、現時点での自分をよく観察してみましょう。	60
2	郡山女子大学を知ろう-建学の精神と学園の歴史 4月14日	学園の歴史と建学の精神の基本的な考え方を解説します。	『開成』を読み返し、図書館で『学園史』を手にとったり、集会などで学科のアドバイザーの先生と建学の精神について話し合ってみてください。	60
3	「つくる力」を育てる(1)-情報を読む力・まとめる力 4月21日	講義から情報を読む力（聴く力・ノートにまとめる力）をトレーニングします。	講義を聞く姿勢、ノートの取り方の基本は同じでも、詳細は科目によって異なります。自分でも工夫を心掛けてみましょう。	60
4	「つくる力」を育てる(2)-書く力・伝える力の育成 4月28日	レポートの書き方を手掛かりに事実と意見の違いや「きちんと考える」ことの必要性を確認します。	新聞や参考文献、友人や家族と話し合ってみて、レポートの構成を良く考えましょう。	120
5	「つくる力」を育てる(3)-社会でのパソコン活用マナー 5月9日(土) 火曜授業実施日	メール作成の方法、添付ファイルの方法、パソコンによるレポート作成の方法を基礎から学びます。	パソコンを用いてレポートを書いた後、提出前に必ず読み直しをして「推敲」しましょう。	120
6	「かかわる力」を育てる(1)-多様なライフコース 5月12日	女性のライフコースの多様な選択肢をワークライフバランスに着目して考えます。	現時点の自分の考えを確認すると共に、家族や友人と意見交換をして、異なる意見に沢山出会ってください。	60
7	「かかわる力」を育てる(2)-男女の働き方、ワークライフバランスを考える 5月19日	前回の授業を受けて、長いキャリアの中でパートナーや家族と共に生活する上での諸問題を考えます。	男女に拘らず、複数で共同生活することは、私たちの社会生活の基本であることを自覚して、創造力を発揮して話し合いましょう。	60
8	「かかわる力」を育てる(3)-お金から考えるライフプランニング 5月26日	長いキャリアを生きる中で、私たちは多くのライフイベントを経験し、生活共同体の中での役割を変化させていきます。その時々状況をお金の面から考えます。	講義の後、自分自身や家族の貯金・保険・年金などについて実際に具体的な話をしてみましょう。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	「かかわる力」を育てる(4)-働くためのルール 6月2日	労働法の基礎知識から働く上での諸問題への対応方法を考えます。	講義の後、自分自身のアルバイト経験や家族の働き方について話をしてみましょう。	60
10	「かかわる力」を育てる(5)-アサーショントレーニング① 6月9日	堂々と自分の意見を述べるために必要なアサーションの考え方の基本を学びます。	アサーションは、自分自身が考え納得して行動することが大切です。表面的なテクニックだけでなく、よく自分の内面と向かい合ってみてください。	60
11	「かかわる力」を育てる(6)-アサーショントレーニング② 6月16日	アサーションの技術を向上させる。I・Youメッセージを学びます。	アサーションは、自分自身を守るためだけでなく、相手のことを考えることに繋がります。周りの人とよく話し合ってみましょう。	60
12	「かかわる力」を育てる(7)-働くこと、生きることを考える 6月23日	働き続けることを「ライフキャリアの虹」を用いて解説し、職業レディネステストを実施して分析します。	職業レディネステストのワークをよく見直し、職業適性検査やさまざまな情報と比較検討してみましょう。	60
13	総合演習(1) -女性と就業について① 講演 6月30日	素敵な生き方を実践している外部講師による講演を実施します。	講演を傾聴し、講演後はSNSや新聞などで講演者や時代、事件などについて調べてみましょう。もっと多くのモノが見えてきます。	60
14	総合演習(2) -女性と就業について② グループ討論 7月7日	前回の外部講師の講演を踏まえて討論し、レポートを作成します。	半期の授業も終盤です。自分の学びの総まとめとして積極的に討論に参加できるように準備しましょう。	120
15	まとめ -自分のキャリアを創ろう！ 7月14日	自己評価票の記入・授業アンケートを実施し、「マンダラチャート」を作成して各自のキャリアプランの作成を試みます。	初回の自己評価票とじっくり比較すると共に、「マンダラチャート」で次の具体的な一歩を明確にしましょう。	60

科目名	キャリアデザインII	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	森 みい		
開講期	I		
授業概要	<p>【授業のねらい】☑ 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。☑</p> <p>☑ インターンシップ終了後に、課題・レポート提出及び、インターンシップ報告会を行い、課題についてフィードバックを行います。☑</p> <p>【授業の概要】☑ インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期6回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（3日間）、および、受け入れ企業のご担当者を招いた報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。担当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し、長く就職指導にあたっている経験を活かし授業を行います。☑</p> <p>☑ ☑ ☑ GC1118</p>		
達成目標	<p>【授業終了時の達成目標】☑ インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、今後の学生生活の中に活かしていくことで、新たな学習意欲の契機となることを目標とします。仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解、責任の重さや成し遂げる充実感や社会への貢献、多様な課題を自らの手で発見し、それらを分析し解決する力を身につける事を目標とを目標としています。</p>		
受講資格	特になし	成績評価 方法	就業体験50%・報告会10%・提出物10%「認」評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
オフィスタイム	月曜日 9:00～12:30 水曜日 9:00～12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	インターンシップの概要☑ 6/4(Vコマ)☑	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インターンシップに必要な書類についての確認する。☑	就業体験先の希望調査があるので、企業・業界研究をしておく。 インターンシップの目標を設定する。	30
2	インターンシップの心構え☑ 6/18(Vコマ)	インターンシップの取り組みを動画で見て、ワークを実施しながらインターンシップの考えを深化させていく。(ムビケーションの実施)☑	インターンシップは具体的にどのように考えていくか、実施している企業を研究する。	30
3	企業研究(講演)☑ 7/9(Vコマ)☑ ☑ ☑	身近な若き経営者の講演を実施する。社会と協働する中で、人間力や就業観の醸成及び学習意欲を高めていく。また、人生をどのように生きていく、自分の将来のキャリアプランを考える。	企業の働きから、社会の動向を学び、働く事への理解を深める。	30
4	事前指導☑ (ビジネス文書作成)☑ 7/30(Vコマ)☑	メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。☑	手紙の書き方、ビジネスでのメール送信、電話の掛け方等、一般的なナーを確認しておく。	30
5	事前指導☑ (マナー講座)☑ 8/6(Vコマ)☑	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。☑ 就業体験先との打合せを始める。	挨拶・言葉遣いを実践で学んでいくので、印象のいいマナーを日常から意識をして練習する。	30
6	直前指導☑ (インターンシップ先の企業研究)8/27(Vコマ)☑ ☑	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	インターンシップ先にアポイントを取り担当者との打合せをする。電話の掛け方、インターンシップに向けてマナーの練習をする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	インターンシップ実施 9/7～ 9/9	各企業において、夏季休業中（9月上旬）に3日間のインターンシップ(就業体験)を行います。	企業研究及び交通手段の確認をする。インターンシップ先の企業研究を行い、最終確認をする。	30
8	インターンシップ報告会☒ 9/26（Iコマ）☒	事後報告会として、グループで全員が報告会を実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会の準備と提出物の最終確認をする。	30
9	インターンシップ報告会☒ 9/26（IIコマ）☒ ☒	事後報告会として、代表者の報告を企業の方も参加して実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会で発表し、報告者の発表から課題を考えていく。	30

科目名	地域創成ゼミナール		
担当教員	斎藤 美保子, 福島 寅太郎, 浅野 章, 斎藤 弘久, 桑野 聡, 會田 容弘, 知野 愛, 小松 太志, 松田 理香, 仲田 佐 和子, 黒沼 令, 佐藤 愛未, 和知 剛	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 必修
開講期	通年		
授業概要	<p>本学科の目指す「学生各自の学びとそれを活かした地域活動」に貢献できる人材の育成を進めていく上で重要な基礎力を育むことを目的とする。具体的には、「地域」を考えるための手掛かりとして身近な生活圏の歴史や文化を学び、「地域」が人々の生活の連鎖の中で作り上げられてくる歴史的・社会的共同体であることを確認し、地域共同体形成への基本姿勢を準備する。まず①福島県と郡山市を具体例に、地域の抱える問題と地域創成学科の学びがどのように関係するのかを考え、次に②さまざまな地域活動の具体例を学び、③もみじ会で具体的な企画イベントの実施を経験する。そして後期では、半期の地域創成学科での学びを踏まえて、④学生各自が自分の学びの核となる卒業研究との取り組みを考える（「個の確立」）と共に、この学びを活かして⑤近代市民社会において私たちが「地域」とどのように関わっていくのかを2年生の地域創成プロジェクト演習の具体例から学び、次年度に取り組み具体的な地域活動への所属を決定する（「他との協調」）。</p> <p><input type="checkbox"/>もみじ会終了後の後期ガイダンスと最終授業で全体に対するフィードバックを行います。 CD1101</p>		
達成目標	<p>学生各自が「卒業研究」に集約される地域創成学科での学びの核を自覚し、前期の事例で学んだ地域形成のさまざまな切り口を例にそれぞれの地域共同体とどのように関わっていくことが出来るかを主体的に考え、最終的に次年度から実際に参加する具体的な地域活動（プロジェクト演習）の所属を決める際に積極的に取り組む姿勢を持つことを達成目標とする。</p> <p><input type="checkbox"/>単位認定の最低基準は、「卒業研究」と「プロジェクト演習」の二つのアンケートに主体的に答え、授業内容の7割を理解していること。</p> <p><input type="checkbox"/>ディプロマポリシーとの関係： 知識理解・創造的思考力・主体的行動力</p>		
受講資格	地域創成学科1年必修	成績評価 方法	各回授業の自己評価ペーパーとさまざまなワーク（うねめ踊り参加・もみじ会を含む）の総合評価（100点）
教科書	特に使用しません。		
参考書	必要に応じて随時授業の際に提示します。		
学生への要望	この授業は、各自が「学びの核」（卒業研究に繋がる一番力を注ぐ専門分野）を持ちながら、2年次の地域創成プロジェクト演習に連動する地域創成学科の必修科目です。学びを行動に繋ぐ主体性・積極性を期待します。		
オフィスタイム	全体のコーディネーターは桑野が担当する。 火曜1時限目（8:50～10:20）・金曜V（16:10～17:40） 考古学研究室（83年館1階）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス（齋藤美・桑野）	「地域」とは何か、を問ひかけ、授業の目的と進め方を解説することで、次回からの学習の導入を行う。	『入学手続き・準備について』10～11頁に記載されている「身近な地域」に対する関心を準備する課題を振り返り、授業開始に備える。	30
2	【第1ステップ】 地域を学ぶ①（桑野）	地域を学ぶモデルケースとして「福島」を扱うため、震災後の福島県の抱える問題の基本を確認する。	東日本大震災・福島原発事故以降の福島の問題を新聞や提示された参考文献を活用して考える。	30
3	【第1ステップ】 地域を学ぶ②（佐藤愛）	福島県の歴史を概観して地域の多様性を確認すると共に、地域活動の発想を学ぶ。	福島県や郡山の歴史を自分の出身地の歴史・文化と結びつけながら整理する。『ふくしま手帳』を活用。	30
4	【第1ステップ】 地域を学ぶ③（會田）	福島県の歴史・文化を使った地域活動について事例紹介を通じて考える。	身近な博物館等施設を訪ね、講義で紹介された多様な活動の実例を確認するように努める。	30
5	【第1ステップ】 地域を学ぶ④（浅野）	福島県の美術活動について学び、アートを活かした地域活動の発想を得る。	県立・市立美術館をはじめとするアート系施設を訪問すると共に、さまざまなアート情報を確認し活用する。	30
6	【第1ステップ】 地域を学ぶ⑤（桑野）	福島県の食文化について学び、食を活かした地域活動の発想を得る。	郷土料理に関心を持つと共に、食材や新しい食の話題に関心を持って自ら食べてみる体験を増やす。	30
7	【第1ステップ】 地域を学ぶ⑥（福島）	福島県の伝統文化・宗教について学び、地域活動の発想を得る。	祭に代表される地域の伝統文化・行事に関心を持ち、参加する姿勢を育む。郡山市のうねめ踊り流しに参加する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	【第1ステップ】 地域を学ぶ⑦（知野）	福島県の女性の歴史を踏まえて、生活や家族と社会の関係に着目して地域活動の発想を得る。	同世代だけでなく、様々な世代の女性の生き方に関心を持ち、家族や地域の方々と話す機会を設ける。	30
9	【第2ステップ】 地域活動を学ぶ①	実際の地域活動の実例を学ぶ。【実施予定①】郡山市国際政策課「シティプロモーション事業について」	講義内容を「広報こおりやま」や新聞、ホームページなどで確認する。	60
10	【第2ステップ】 地域活動を学ぶ②	実際の地域活動の実例を学ぶ。【実施予定②】郡山の歴史と文化をパフォーマンスで発信する活動を行っている「ASAKA座」の取り組みを紹介予定。	講義内容を新聞、ホームページ、SNSなどで確認する。	60
11	【第2ステップ】 地域活動を学ぶ③	実際の地域活動の実例を学ぶ。【実施予定③】東日本大震災の記憶を紙芝居で語り継ぐ活動を展開する方々の活動を紹介予定。	講義内容を新聞、ホームページ、SNSなどで確認する。	60
12	【第3ステップ】 地域活動を考える①	もみじ会を題材に具体的なイベントの企画運営を体験するため、今年度の地域創成学科もみじ会（10月10・11日）の企画案について解説し、グループ分けを発表する。	高校や他大学の文化祭や学園祭とは異なり、地域を学ぶ学生としてイベントを企画することを考える。	60
13	【第3ステップ】 地域活動を考える②	グループ毎に活動。	積極的に意見を述べ、情報収集などに努める。	60
14	【第3ステップ】 地域活動を考える③	グループ毎に活動。	同上。	60
15	【第3ステップ】 地域活動を考える④	グループ毎に活動。	同上。	60
16	【第3ステップ】 地域活動を考える⑤	グループ毎に活動。	同上。	60
17	【第3ステップ】 地域活動を考える⑥	もみじ会実施案について、各グループの進捗状況を報告し、情報共有に努める。	自分のグループだけでなく、学科の企画全体を意識して、建設的な意見を述べることに留意する。	60
18	【第3ステップ】 地域活動を考える⑦	「もみじ会」を題材としたプロジェクト実施体験の反省を行い、後期の授業の行い方を解説する。	もみじ会実施中に多くの学科の活動を確認し、次年度のために客観的な意見交換に努める。	60
19	【第4ステップ】 学びの核を考える①（桑野）	次年度の参加プロジェクトを考えるために、学生各自の学びの核を再確認する。『卒業研究の手引き』を使って、本学科における卒業研究の位置づけを解説する。	これまでの地域創成学科の各授業を振り返り、自分の関心や特徴を再確認してみてください。	30
20	【第4ステップ】 学びの核を考える②	卒業研究を担当する各教員から、それぞれの卒業研究ゼミの特色を説明し、何ができるかを考える手掛かりを発信する。	同上。	60
21	【第4ステップ】 学びの核を考える③	同上。 3回の卒業研究に関する説明を踏まえて、指定日までに「めばえシステム」でアンケートに回答する。	同上。 アンケートをよく考えて期限内に提出する。	60
22	【第5ステップ】 プレ演習①	次年度実施予定のプロジェクトの概要を説明する。	各プロジェクトの報告を傾聴すると共に、新聞や広報、SNSなど多様な情報ツールで活動を確認し、自分なりに各プロジェクト活動の周辺にも目配せを行うように努める。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
23	【第5ステップ】 プレ演習②	次年度実施予定のプロジェクトの概要を説明する。	同上。	60
24	【第5ステップ】 プレ演習③	12月19日（土）実施予定の活動報告会の予行練習として2年生のプロジェクト演習の実施報告を1年生が聞く。	教員の説明以上に2年生の報告をよく聞き、積極的に質問する準備をする。	60
25	【第4ステップ】 学びの核を考える④ 12月2日	卒業研究の仮所属に分かれ、次年度4月から卒業研究に取り組む準備をする。	自分のやりたい卒業研究のテーマをしっかり担当教員に説明できるようにまとめて準備する。	60
26	【第4ステップ】 学びの核を考える⑤	卒業研究の仮所属に分かれ、次年度4月から卒業研究に取り組む準備をする。	自分のやりたい卒業研究のテーマをしっかり担当教員に説明できるようにまとめて準備する。	60
27	【第5ステップ】 プレ演習④	前回の報告の続きを聞く。1年生は、教員の説明と2年生の報告を踏まえて、指定日までに「めばえシステム」のアンケートに答える。	教員の説明以上に2年生の報告をよく聞き、積極的に質問する準備をする。	60
28	【第5ステップ】 プレ演習⑤	配属毎に次年度の活動のための準備に入る。	グループ内で積極的な意見交換が出来るように努める。	60
29	【第5ステップ】 プレ演習⑥	配属毎に次年度の活動のための準備に入る。	同上。	60
30	まとめ	本年度の活動を総括し、次年度の「地域創成プロジェクト演習」への準備を整える。	原点に戻って「地域」を考えるために、友人間で意見交換する。	60

科目名	地域創成プロジェクト演習		
担当教員	斎藤 美保子, 福島 寅太郎, 浅野 章, 齊藤 弘久, 桑野 聡, 會田 容弘, 知野 愛, 小松 太志, 松田 理香, 山口 猛, 仲田 佐和子, 黒沼 令, 佐藤 愛未, 和知 剛	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 必修
開講期	通年		
授業概要	<p>1年次の「地域創成ゼミナール」を踏まえて具体的な地域活動に関わることで、実地活動の難しさと共に楽しさを学ぶ。CD1201 もみじ会の発表や報告会の意見交換などを各プロジェクトの活動・成果のフィードバックの機会とする。☑</p> <p>今年度は11のグループに分かれて実施する。1 パブリック・アートの鑑賞と整備 (斎藤美保子 黒沼 令) 2 歴史遺産を活用した地域創成プロジェクト (會田 容弘 仲田佐和子) 3 地域貢献としての壁画制作 (浅野 章 松田 理香) 4 海老根伝統手漉和紙の保存・普及 (齊藤 弘久小松 太志) 5 新聞記者活動プロジェクト (山口 猛) 6 女性の人生を考えるプロジェクト (知野 愛) 7 郡山の魅力発信プロジェクト (桑野 聡) 8 新聞が語る祭りと町おこし (福島寅太郎) 9 まちの歴史再発掘プロジェクト (佐藤 愛未) 10 クローバー図書館の利用カード調査 (和知 剛) 11 つなぐデザインproject (小松・齊藤・松田)</p>		
達成目標	<p>教員の支援を得ながら、地域に役立つプロジェクトを積極的に実施できるようになる。☑</p> <p>地域との一度のみの関係ではなく、継続的な関係を構築できるようになる。☑</p> <p>単位認定の最低基準は、各グループ内で役割を果たし、中間・最終報告会に参画すること。☑</p> <p>DPとの関係：創造的思考力、課題解決力、主体的行動力</p>		
受講資格	1年生の「地域プロジェクト演習」の単位を取得した地域創成学科の学生	成績評価 方法	グループワーク (50点) ☑ 中間発表・もみじ会発表・最終報告 (50点)
教科書	グループごとに指示する。		
参考書	グループごとに指示する。		
学生への要望	協調性を持ちつつ、積極的に行動すること。		
オフィスタイム	グループごとに設定する。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	11プロジェクトの確認とグループ分け	自分のグループのプロジェクトの進め方を理解する。	90
2	各プロジェクトの活動1	グループごとの活動1	活動の振り返りと次の準備	90
3	各プロジェクトの活動2	グループごとの活動2	活動の振り返りと次の準備	90
4	各プロジェクトの活動3	グループごとの活動3	活動の振り返りと次の準備	90
5	各プロジェクトの活動4	グループごとの活動4	活動の振り返りと次の準備	90
6	各プロジェクトの活動5	グループごとの活動5	活動の振り返りと次の準備	90
7	各プロジェクトの活動6	グループごとの活動6	活動の振り返りと次の準備	90
8	各プロジェクトの活動7	グループごとの活動7	活動の振り返りと次の準備	90
9	各プロジェクトの活動8	グループごとの活動8	活動の振り返りと次の準備	90
10	各プロジェクトの活動9	グループごとの活動9	活動の振り返りと次の準備	90
11	各プロジェクトの活動10	グループごとの活動10	活動の振り返りと次の準備	90
12	各プロジェクトの活動11	グループごとの活動11	活動の振り返りと次の準備	90
13	中間発表	グループごとにパワーポイントを用いた発表 (前半)	パワーポイント読み上げ原稿の作成	90
14	中間発表 つづき	グループごとにパワーポイントを用いた発表 (後半)	パワーポイント読み上げ原稿の作成	90
15	もみじ会準備	グループごとに展示または報告会を準備する	パネル等の作成と準備	90
16	もみじ会準備 つづき	グループごとに展示または報告会の準備を完成させる	パネル等の作成と準備	90
17	もみじ会反省	11グループによるもみじ会の反省	もみじ会を振り返りまとめる	90
18	各プロジェクトの活動12	グループごとの活動12	活動の振り返りと次の準備	90
19	各プロジェクトの活動13	グループごとの活動13	活動の振り返りと次の準備	90
20	各プロジェクトの活動14	グループごとの活動14	活動の振り返りと次の準備	90
21	各プロジェクトの活動15	グループごとの活動15	活動の振り返りと次の準備	90
22	各プロジェクトの活動16	グループごとの活動16	活動の振り返りと次の準備	90
23	各プロジェクトの活動17	グループごとの活動17	活動の振り返りと次の準備	90
24	各プロジェクトの活動18	グループごとの活動18	活動の振り返りと次の準備	90
25	各プロジェクトの活動19	グループごとの活動19	活動の振り返りと次の準備	90
26	各プロジェクトの活動20	グループごとの活動20	活動の振り返りと次の準備	90
27	各プロジェクトの活動21	グループごとの活動21	活動の振り返りと次の準備	90
28	各プロジェクトの活動22	グループごとの活動22	活動の振り返りと次の準備	90
29	報告発表会	1年間の活動の報告 (前半)	1年間の活動を振り返りまとめる	90
30	報告発表会 つづき	1年間の活動の報告 (後半)	1年間の活動を振り返りまとめる	90

科目名	生涯学習概論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	瀬谷 真理子		
開講期	I		
授業概要	<p>前半においては、「生涯学習」の現代的意義と「社会教育」の概念と意義について、基本的な内容の理解をしていきます。後半は、その理解を踏まえて、多角的な視点から「生涯学習」を分析し、社会教育施設としての公民館や図書館等の役割について考察していきます。授業全体を通して、主体的で対話的な深い学びの実践を目指し、アクティブラーニングの手法を随所で用います。各授業の後半で実施する小テストや小レポートは、評価を加えて次回授業冒頭に返却し、フィードバックします。また、「学び」について様々な角度から考えていくため、現代的課題として世界の子どもの現状から学びについて考える機会として、DVD視聴により課題を把握し、未来に向けた学びの視点を育てていきます。さらに最終回の授業において、授業全体をフィードバックします。☒</p> <p>なお、福島の教育行政において社会教育課勤務を活かした社会教育主事の視点での実践的な指導を行うとともに学校教育との関連性を持たせ、社会教育施設の役割や生涯学習の意義を捉える視点を重視します。☒</p> <p>実務経歴：福島県立高等学校校長、教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。☒</p> <p>☒ 位置づけ・水準 CD1104</p>		
達成目標	<p>1.現代的課題を踏まえ「生涯学習」の意義と必然性を理解する。☒</p> <p>2.「社会教育」と「生涯学習」の関連性を理解する。</p> <p>3.「生涯学習」の観点から社会教育施設の意義を理解する。☒</p> <p>4.「知の拠点」としての社会教育施設の役割を理解する。☒</p> <p>5.家庭教育について現状と課題を把握し、地域における家庭教育支援のあり方を考える。☒</p> <p>6.主体的で対話的な学びを通じて、生涯学習を推進するための参画型事業企画を実践する。☒</p> <p>単位認定の最低基準は、上記1～6の総合的評価が達成度7割以上であること。☒</p> <p>ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、創造的思考力、主体的行動力</p>		
受講資格	科目を選択履修した者	成績評価 方法	各授業ごとに実施される、又は自宅学習の課題として出される小テストやレポート（40%）、最終回のまとめ授業で実施される理解度確認テスト（40%）、授業への意欲・態度（20%）
教科書	<p>二訂「生涯学習概論」執筆・編集代表 馬場祐次朗</p> <p>授業ごとに作成した自筆ノートと配布プリントを一緒にファイリングすること。最終回の授業のまとめと、理解度確認テストで使用します。</p>		
参考書	<p>・山本順一、前平泰志、渡邊洋子監修『生涯学習概論－知識基盤社会で学ぶ・学びを支える』ミネルヴァ書房、2014年☒</p> <p>・浅井経子編著『生涯学習概論－生涯学習社会への道－増補改訂版』理想社</p>		
学生への要望	<p>「生涯学習」とは、何か。「学ぶ」とは何か。未来に向けて何が課題となっているのか。社会教育の果たす役割と社会教育施設の意義を踏まえ、確かな知識を獲得しながら、それを基盤に周囲の仲間と対話を深めながら、自己の思考を展開していく主体的な姿勢を持って授業に臨んでください。</p>		
オフィスタイム	水曜 I、II 限 生活科学科（家政学館4階）☒		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション☒	前半は、授業を受けるにあたっての一般的な注意事項や授業計画・評価方法等について説明する。☒ 後半は、「学び」に関する典型的モデルを提示した上で、受講者の「学び」に関する認識を確認する。☒ 受講者は周囲の者と話し合いを行い、「学び」について、次の授業までにレポートにまとめる。☒	ノート整理☒ レポート	90
2	「生涯学習」の現代的意義	前時の教育モデルに関する受講生の認識を基盤にしなが ら、「生涯学習」とは何か、「学ぶ」とは？について理解 を深める。	ノート整理☒ レポート	90
3	「社会教育」の概念と意義	「社会教育」の概念と意義について理解を深めるととも に、「生涯学習」との関係性を整理し、学びについて理解 を深めていく。受講生は周囲の仲間と話し合いながら、自 己の見解をまとめ（アクティブラーニング）、次の授業ま でにレポートにまとめる。	ノート整理☒ レポート	90
4	「社会教育」の特質	「社会教育」の特質について注目し、日本における歴史的 展開とその意義を理解する。	ノート整理☒ レポート	90
5	「生涯教育論」の展開	ラングラン以降の「生涯教育論」が、複数の系統に分かれ る展開を示していることを理解する。	ノート整理☒ レポート	90
6	社会教育の基本法令・施策	社会教育の基本法令から学校教育との連携やその補完機能 としての期待を担った社会教育の役割を理解する。	ノート整理☒ レポート	90
7	現代的課題と生涯学習の役割	現代的課題としてグローバルな視点で、貧困格差と世界の 子どもたちの現状と課題を捉え、「学ぶ」ことの意味を深 める。	ノート整理☒ レポート	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	社会教育施設の意義と役割	地域における「知の拠点」として社会教育施設の果たす役割について理解するとともに、それぞれの社会教育施設における課題を把握する、周囲の仲間と議論をすることで自己の見解をまとめ（アクティブラーニング）、次の授業までにレポートをまとめる。	ノート整理☑ レポート	90
9	社会教育施設における事業と生涯学習 1	地域における「知の拠点」としての役割を果たすとともに、人々の「生涯学習」を支援するための事業について、参画型事業の企画を図書館、公民館のいずれかを選択して実際に企画する。プレゼンテーションを行う。	ノート整理☑ レポート	90
10	社会教育施設における事業と生涯学習 2	地域における「知の拠点」としての役割を果たすとともに、人々の「生涯学習」を支援するための事業について、参画型事業の企画を図書館、公民館のいずれかを選択して実際に企画する。プレゼンテーションを行う。	ノート整理☑ レポート	90
11	社会教育施設における事業と生涯学習 3	地域における「知の拠点」としての役割を果たすとともに、人々の「生涯学習」を支援するための事業について、参画型事業の企画を図書館、公民館のいずれかを選択して実際に企画する。プレゼンテーションを行う。	ノート整理☑ レポート	90
12	生涯学習社会と家庭教育	現代社会における子育ての現状と課題を把握しながら、地域における家庭教育支援に向けた生涯学習施策について考える。	ノート整理☑ レポート	90
13	生涯学習社会と学校教育	学校教育との連携において社会教育の果たす役割を認識しながら、「学校」「家庭」「地域」の一体となった教育を推進していくために必要な施策について考える。	ノート整理☑ レポート	90
14	現代的課題と生涯学習の役割	知識を創る学習を奨励する意味での「知識基盤社会」の持つ可能性と課題とを明らかにする。	ノート整理☑ レポート	90
15	授業のまとめ	授業のまとめを行う。	まとめテスト☑ レポート	90

科目名	家族社会学	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	知野 愛		
開講期	I		
授業概要	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、家族の意義と機能、家族の変化等を中心に考える。少子高齢社会の現状と課題を様々な視点で考える。☑ 最終的に、レポートを返却しフィードバックを行います。☑ 位置づけ・水準:CD1105		
達成目標	中間ポイント確認シートを8割以上、レポートを指定通りに提出すること。☑ 単位認定の最低基準:内容の8割を理解していること。ディプロマ・ポリシーとの関係:1)知識理解、3)課題解決力		
受講資格	地域創成学科 1年生	成績評価 方法	中間ポイント確認シート(20点)☑ レポート(80点)
教科書	プリントを配布します。		
参考書	その都度紹介します。		
学生への要望	授業内容をこのシラバスで確認し、興味をもった事項を調べておくこと。		
オフィスタイム	木曜 1限、金曜 1限、芸術館1階地域創成学科研究室N0.1		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の進め方と概要	シラバスに基づき、授業の内容と進め方、授業のねらい及び評価の方法について説明する。資料を配布し、家庭や世帯の定義、社会を構成する小集団としての家庭の意義について考える。	復習:配布資料の確認。予習:次回内容を見てキーワードを調べておく。	120
2	家族と法律	結婚・婚約、婚姻の要件、結婚の効果、親子関係の成立等に関する法律的側面について理解する。明治民法と比較して考える。	復習:配布資料を確認する。予習:次回のシラバスを見てキーワードを調べておく。	120
3	戸籍と家族	戸籍という面から家族を考える。戸籍に見る人の一生、戸籍の様式や記載内容、様々な事例について学ぶ。	復習:配布資料を確認する。予習:次回のシラバスを見てキーワードを調べておく。	120
4	戦後日本の人口変動	戦後日本の合計特殊出生率の変化、生産年齢人口や高齢者人口割合の変化等に注目し、家族の変化について考える。戦後のベビーブーム、高度経済成長期の家電製品の普及と家族の変化について考える。	復習:配布資料を確認する。予習:次回のシラバスを見てキーワードを調べておく。	120
5	少子社会の現状	日本の少子化に関する統計資料を基に、少子化の定義、問題点等について焦点をあて、現代の家族の置かれている状況を考える。	復習:配布資料を確認する。予習:次回のシラバスを見てキーワードを調べておく。	120
6	中間振り返り・補足	家族の機能とは何かを考え、ここまで学んだ内容を振り返り、ポイントを確認する。	復習:配布資料を確認する。予習:次回のシラバスを見てキーワードを調べておく。	120
7	少子化と子育て支援	少子社会における子育て支援の具体的な事例を知り、子育て家庭の現状や家族の置かれている状況を考える。	復習:配布資料を確認する。予習:次回のシラバスを見てキーワードを調べておく。	120
8	地域における子育て	少子社会の背景の一つに母親の孤立ということが挙げられ、子育ての地域ネットワークづくりが重要である。子育て支援策を欧米諸国の事例から学ぶ。	復習:配布資料を確認する。予習:次回のシラバスを見てキーワードを調べておく。	120
9	家族が抱える諸問題(1)	経済的な問題、家族の不和、育児不安や虐待の問題等に焦点をあて現代の家族の置かれている状況を考える。	復習:配布資料を確認する。予習:次回のシラバスを見てキーワードを調べておく。	120
10	家族が抱える諸問題(2)	経済的な問題、家族の不和、育児不安や虐待の問題等に焦点をあて現代の家族の置かれている状況を考える。	復習:配布資料を確認する。予習:次回のシラバスを見てキーワードを調べておく。	120
11	中間振り返り・ポイント確認	家族の機能とは何かを考え、ここまで学んだ内容を振り返り、ポイントを確認する。	復習:配布資料を確認する。予習:次回のシラバスを見てキーワードを調べておく。	120
12	高齢化と世帯の変化	国勢調査の結果から、人口減少と世帯数の増加、世帯構造の変化に注目する。様々な事例を読み、高齢者とそれを取り巻く家族の様子を知る。	復習:配布資料を確認する。予習:次回のシラバスを見てキーワードを調べておく。	120
13	諸外国の高齢者	諸外国の高齢者の生活を概観した資料を読みまとめる。	復習:配布資料を確認する。予習:次回のシラバスを見てキーワードを調べておく。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	家族の変化と高齢者の生活の変化	戦後日本における家族の変化と高齢者の生活の変化に注目する。また、現在の要介護高齢者と家族を取り巻く社会状況の変化に着目する。 最終レポートのテーマは「現代家族が抱える諸問題」(副題は各自が決めて焦点を絞ること)。	復習:配布資料を確認する。予習:次回のシラバスを見てキーワードを調べておく。	120
15	まとめ・補足	この授業を通して学んだ事項を振り返る。	復習:配布資料を確認する。予習:次回のシラバスを見てキーワードを調べておく。	20

科目名	生活芸術学入門		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	浅野 章, 斉藤 弘久, 小松 太志, 黒沼 令, 松田 理香			
開講期	I			
授業概要	生活芸術学入門では芸術や美についてのさまざまな考え方に触れながら、生活と芸術（美術を中心に）の関わりを考えます。この講義では地域創成学科アート&デザイン系教員によるオムニバス形式をとり、各教員の専門を手掛かりにしながら「芸術と美」についての理解を深める一助とします。また担当教員の紹介する芸術作品などにも幅広く触れ、それらを題材として意見を出し合いながら生活と芸術の関わりを考える授業とします。提出したレポートなどを返却する際はコメントなどによるフィードバックを行います。 CD1106			
達成目標	オムニバス形式として各教員の高度な専門性を手掛かりにしながら「芸術と美」についての理解を深めることを目標とします。単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していることとし、ディプロマ・ポリシーとの関係は知識理解・創造的思考力となります。			
受講資格	地域創成学科1年生☑	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。①提出作品や小テストによる課題目標達成度が70%以上であること（配点80点）②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）	
教科書	特になし（必要な資料等は各担当教員が準備します）			
参考書	新版造形の基礎技法（建帛社）☑ 美学辞典（竹内敏雄編集/弘文堂）☑			
学生への要望	生活芸術という概念をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望むこと。☑			
オフィスタイム	授業に関する質問は各教員の授業のない時間帯（下記参照）に生芸研究室で受けます。ただしV時限目は17:00までとします。☑ 浅野→火曜日IV～V、水曜日I～II・V、木曜日IにNo.1絵画室またはNo.5地域創成学科研究室で受けます。ただしV時限目は17:00までとします。 斉藤→月曜日II～V時限、火曜日II～V時限、No.2デザイン室☑ 小松→火曜日III・IV時限、No.2生芸科研究室☑ 黒沼→月曜日III～IV、水曜日I～II、彫刻室☑またはNo.1工芸室 松田→月曜日II～IV、木曜日I・II No.2工芸室☑			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	生活芸術学入門のガイダンス及び絵画（1）	この授業の目標と内容、および授業の進め方、授業資料・参考書などについてのガイダンス。また絵画についての考え方を解説する。	【事前学習】授業内容に関連する「絵画」について事前に調べておく。 【事後学習】授業内容を踏まえ、画集などで復習しておく。	30
2	絵画（2）	今日、日本の文化の中で絵画ほど人々に浸透し、愛され、生活の中で欠くことの出来ない存在になっているものはないだろう。その理由を、参考資料を用いながら少しずつ紐解いていく。	【事前学習】授業に関連する「絵画」について事前に調べておく。 【事後学習】授業内容を踏まえ、画集などで復習しておく。	30
3	絵画（3）	絵画を中心とした参考作品画像を紹介、解説する。それを基に、生活の中での絵画の生かし方、楽しみ方、考え方を探っていく。授業後半に生活芸術学入門・絵画に関する簡単な小テストを実施する。	【事前学習】授業に関連する「絵画」について事前に調べておく。また小テストに備え、自分の考えをまとめておく。 【事後学習】授業内容を踏まえ、画集などで復習しておく。	30
4	デザイン（1）	教員の自己紹介とグラフィックデザインにおける印刷との関係を解説。	【事前学習】グラフィックの意味を各自が調べる。【事後学習】生活の中グラフィックを探してみる。	30
5	デザイン（2）	「生活をデザインする」とか「人生をデザインする」とよく言われますが、いろいろ形を変えるデザインを考えて行きます。	【事前学習】幅広いデザインの意味を調べておく。【事後学習】興味を持った分野をまとめてみる。	30
6	デザイン（3）	ブランディングとデザインから見えてくる自己表現を考えます。☑	【事前学習】ブランディングの意味を調べておく。【事後学習】自分の個性を明確にする表現をまとめる。	30
7	CGアート（1）	造形活動とキャリア形成の関係について考察します。コンピュータによる造形表現（デザイン含む）と担当教員のキャリアを話題として、造形活動とキャリアを考える契機とします。	【事前学習】授業に関連する「映像メディア表現」について事前に調べる。（1時間以上） 【事後学習】生活の中の映像メディアについて調べる。（1時間以上）	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	CGアート（2）	地域創成学科においてコンピュータによる造形表現を学修する意義について理解を深めます。☒ 地域創成学科では、多様な芸術領域を横断して学修します。コンピュータによるデザイン・造形表現における学修と他領域の学修がどのような関わり合いを持ち、成果になり得るのかを過去の学生作品を紹介しながら解説します。	【事前学習】授業に関連する「映像メディア表現」について事前に調べる。（1時間以上） 【事後学習】自分の目標とする進路と映像メディアの関わりについて考察し、レポートにまとめる。（1時間以上）	30
9	CGアート（3）	映像メディア表現に対する理解を深めます。☒ 映像メディア表現を中心として、メディアアート、デザイン分野の近年の動向を紹介します。	【事前学習】授業に関連する「映像メディア表現」について事前に調べる。（1時間以上） 【事後学習】自分の目標とする進路と映像メディアの関わりについて考察し、レポートにまとめる。（1時間以上）	30
10	彫刻（1）	教員自己紹介を兼ねて自分の作品を紹介しながら、彫刻という表現活動が自己形成にどのように関係してきたか解説します。	授業の内容について、また、授業を受ける前の彫刻に関する知識や経験等を簡単にレポートにまとめる。	30
11	彫刻（2）	彫刻という芸術分野が少しでも身近に感じられるよう地域創成学科で彫刻を学習する目的や意義など、これまでの学生の活動や作品を参考にして解説します。また地域創成学科で体験できる彫刻の技法や、制作過程など、具体的に紹介します。☒	授業の内容について、簡単にレポートにまとめる。	30
12	彫刻（3）	現代の彫刻表現について、どのような時代的変化を経て来たか、これからどのような表現が求められているか、様々な作品を紹介しながら解説します。	授業の内容について、また、3回の授業を受けて彫刻の印象がどのように変化したか等、簡単にレポートにまとめる。	30
13	デザイン（4）	教員の自己紹介を交えて生活の中にある身近なデザインについて考えます。	【事前学習】生活の中にある身近なデザインについて調べる。 【事後学習】配布の資料を参考に生活の中におけるデザインの役割について簡単にレポートにまとめる。	30
14	デザイン（5）	ポケットティッシュ（小型グラフィック）を使った広報活動について	【事前学習】生活の中にある身近な広報活動について調べる。 【事後学習】広報活動で使うポケットティッシュのデザインを考える。	30
15	デザイン（6）	ポケットティッシュ（小型グラフィック）の制作と提出 ※もみじ会で配布します	【事前学習】掲示・配布・配信など、広報活動全般についての理解を深める。 【事後学習】ポケットティッシュを使った新たな広報活動の可能性をレポートにまとめる。	30

科目名	インターンシップ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員	桑野 聡		
開講期	III		
授業概要	この授業では、事前学習として、実習先企業（団体）を調べることやビジネスマナー、プレゼンテーションについて学習します。その後、企業（団体）等において就業体験をします。 実習後のレポート（実習記録等）の提出と発表に対して、コメントや面談によってフィードバックする。 CD1905		
達成目標	1. 将来のキャリアに関連した就業体験で経験を積む。 2. 実際の職場のマナーやルール、働いている方とのコミュニケーションを通し、職業意識を高める。 就業体験だけでなく、報告を行うことを単位認定の最低基準とする。 ディプロマ・ポリシーとの関係： 課題解決力・主体的行動力		
受講資格	地域創成学科 2年生	成績評価 方法	事前学習（30点）、実習状況（60点）、実習成果報告（10点）
教科書	特に指定しない		
参考書	随時配布する		
学生への要望	インターンシップに参加する目的を明確に持ち、積極的に取り組むこと		
オフィスタイト	コーディネーター担当の山口が全体の質問を受け付ける。 月曜日 2・4限、芸術館 2階 No.2 生芸科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	インターンシップの内容、心構え、この授業で目指していることを理解する。	インターンシップの目的を理解するために、話の内容をまとめる。	30
2	実習先の概要(1回目)	インターンシップ先の説明とアンケート調査	自分の将来の目標と照らし合わせて、インターンシップ先の特徴を振り返る。	30
3	実習先の概要(2回目)	インターンシップ先の説明とアンケート調査	自分の将来の目標と照らし合わせて、インターンシップ先の特徴を振り返る。	30
4	指導教員の就業経験	指導教員の、実際のこれまでの就業経験（良かったこと、悪かったこと、工夫していることなど）の話聞き、就業意識の理解を深める。	指導教員の発表内容をまとめ、次回のグループワークに備える。	30
5	インターンシップ（就業経験）を理解するためのグループワーク	第4回の内容を踏まえて、自分が将来就業する際に予想される良いこと、悪いこと、工夫したいことを考え、インターンシップに取り組む意義をより深く知る。	グループワークで得られたさまざまな意見を振り返りつつ、自分有のインターンシップに取り組む意義として意識を持つ。	30
6	事前学習（プレゼンテーション計画）	インターンシップに必要な、意見創出・まとめ・発言・話し方などの能力を身に着けるために、プレゼンテーション実習（PowerPointによるプレゼンテーション）を行う。今回は、発表テーマや発表準備の名が手について説明する。	発表テーマに基づき、内容をまとめる。	60
7	事前学習（プレゼンテーション準備）	インターンシップに必要な、意見創出・まとめ・発言・話し方などの能力を身に着けるために、プレゼンテーション実習（PowerPointによるプレゼンテーション）を行う。今回は、資料作成を行う。	PowerPointの各種機能を理解する。	60
8	事前学習（プレゼンテーション実施）	インターンシップに必要な、意見創出・まとめ・発言・話し方などの能力を身に着けるために、プレゼンテーション実習（PowerPointによるプレゼンテーション）を行う。今回は、プレゼンテーションの実施と相互評価を行う。	プレゼンテーションの相互評価を通して、自分の癖を理解する。	60
9	直前指導	実習ノートの書き方。実習に関する諸注意。	実習ノートの取り扱い方を復習する。	60
10	学外実習 1日目	実際の実習スケジュールは別途計画表で管理する。5日間を基本とし、1日5コマ分とする。 *実習先によっては、実施期間が変動する可能性もある。	実習ノートの記入を通して、実習内容を振り返り、就業の意義を理解する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	学外実習 2日目	実際の実習スケジュールは別途計画表で管理する。5日間を基本とし、1日5コマ分とする。 *実習先によっては、実施期間が変動する可能性もある。	実習ノートの記入を通して、実習内容を振り返り、就業の意義を理解する。	30
12	学外実習 3日目	実際の実習スケジュールは別途計画表で管理する。5日間を基本とし、1日5コマ分とする。 *実習先によっては、実施期間が変動する可能性もある。	実習ノートの記入を通して、実習内容を振り返り、就業の意義を理解する。	30
13	学外実習 4日目	実際の実習スケジュールは別途計画表で管理する。5日間を基本とし、1日5コマ分とする。 *実習先によっては、実施期間が変動する可能性もある。	実習ノートの記入を通して、実習内容を振り返り、就業の意義を理解する。	30
14	学外実習 5日目	実際の実習スケジュールは別途計画表で管理する。5日間を基本とし、1日5コマ分とする。 *実習先によっては、実施期間が変動する可能性もある。	実習ノートの記入を通して、実習内容を振り返り、就業の意義を理解する。	30
15	まとめと事後の指導	実習のまとめと報告 学内での実習体験発表。グループ討議。学外実習ノートの整理と提出。	実習ノートをまとめる。	60

科目名	基礎学力トレーニング		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	知野 愛, 斉藤 弘久, 小松 太志, 山口 猛, 仲田 佐和子			
開講期	I			
授業概要	今後の授業の土台となる基礎学力向上を目指し、自学自習の学習習慣を身に付ける。今まで学んできた英国数理社の基礎学力を向上させると共に、就職試験対策の一環でもある。最終的に、システムめばえ(eラーニングシステム)の達成状況を確認し、最終回に総評を行いフィードバックを行う。 位置付け・水準:CD1107			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・システムめばえの問題を各自のペースで解答していく。 ・自主学習の習慣を身に付ける。 ※単位認定の最低基準:課題達成目標の7割を達成していること。※ディプロマポリシーとの関係: 知識理解、課題解決力			
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	システムめばえの課題達成状況を確認し評価をつける(100点満点)	
教科書	特になし			
参考書	特になし			
学生への要望	自発的な基礎学力トレーニングと将来の就職試験対策を目的としています。積極性・継続性を高く評価します。何度も挑戦しましょう。			
オフィスタイム	コーディネート担当の山口先生が全体の質問を受け付けます。☒ 月曜Ⅱ限,火曜Ⅱ限 芸術館地域創成学科研究室No.3☒			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	今後の授業の進め方を説明する	Eラーニングシステムにより学修する	120
2	「めばえドリル①基礎編」復習 1	▼入学前教育課題でeラーニング「めばえドリル①基礎編」の5教科6分野のすべての実力診断テストで100点を目指すよう課題を出しました。各自、下記に応じて課題に取り組む。 ●すべての実力診断テストで100点を達成した者 →自身が最も苦手と感じている科目を1つ選び、再度、実力診断テストを実施し、100点にすること。 ●実力診断テストで100点を達成していない分野がある者 →100点を達成していない科目を100点にすること。 ●入学前教育課題の実施対象外であった者 →新入生オリエンテーションで配布する入学前教育「めばえドリル①基礎編」の資料を参照し、国語と数学の実力診断テストを100点にしてください。	Eラーニングシステムにより学修する	120
3	「めばえドリル①基礎編」復習 2	▼入学前教育課題でeラーニング「めばえドリル①基礎編」の5教科6分野のすべての実力診断テストで100点を目指すよう課題を出しました。各自、下記に応じて課題に取り組む。 ●すべての実力診断テストで100点を達成した者 →自身が最も苦手と感じている科目を1つ選び、再度、実力診断テストを実施し、100点にすること。 ●実力診断テストで100点を達成していない分野がある者 →100点を達成していない科目を100点にすること。 ●入学前教育課題の実施対象外であった者 →新入生オリエンテーションで配布する入学前教育「めばえドリル①基礎編」の資料を参照し、国語と数学の実力診断テストを101点にしてください。	Eラーニングシステムにより学修する	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	「めばえドリル②応用編」1	▼応用編の5教科6分野のうち、いずれかの教科から3分野を選択し、実力診断テストで70点以上を目指す。	▼Eラーニングシステムにより学修する ▼13回目の授業時点で、5教科6分野の全てにおいて実力診断テストが70点以上になっているように配分して進めること。	120
5	「めばえドリル②応用編」2	▼応用編の5教科6分野のうち、いずれかの教科から3分野を選択し、実力診断テストで70点以上を目指す。	▼Eラーニングシステムにより学修する ▼13回目の授業時点で、5教科6分野の全てにおいて実力診断テストが70点以上になっているように配分して進めること。	120
6	「めばえドリル②応用編」3	▼応用編の5教科6分野のうち、いずれかの教科から3分野を選択し、実力診断テストで70点以上を目指す。	▼Eラーニングシステムにより学修する ▼13回目の授業時点で、5教科6分野の全てにおいて実力診断テストが70点以上になっているように配分して進めること。	120
7	「めばえドリル②応用編」4	▼応用編の5教科6分野のうち、いずれかの教科から3分野を選択し、実力診断テストで70点以上を目指す。	▼Eラーニングシステムにより学修する ▼13回目の授業時点で、5教科6分野の全てにおいて実力診断テストが70点以上になっているように配分して進めること。	120
8	「めばえドリル②応用編」5	▼応用編の5教科6分野のうち、いずれかの教科から3分野を選択し、実力診断テストで70点以上を目指す。	▼Eラーニングシステムにより学修する ▼13回目の授業時点で、5教科6分野の全てにおいて実力診断テストが70点以上になっているように配分して進めること。	120
9	「めばえドリル②応用編」6	▼応用編の5教科6分野のうち、いずれかの教科から3分野を選択し、実力診断テストで70点以上を目指す。	▼Eラーニングシステムにより学修する ▼13回目の授業時点で、5教科6分野の全てにおいて実力診断テストが70点以上になっているように配分して進めること。	120
10	「めばえドリル②応用編」7	▼応用編の5教科6分野のうち、いずれかの教科から3分野を選択し、実力診断テストで70点以上を目指す。	▼Eラーニングシステムにより学修する ▼13回目の授業時点で、5教科6分野の全てにおいて実力診断テストが70点以上になっているように配分して進めること。	120
11	「めばえドリル②応用編」8	▼応用編の5教科6分野のうち、いずれかの教科から3分野を選択し、実力診断テストで70点以上を目指す。	▼Eラーニングシステムにより学修する ▼13回目の授業時点で、5教科6分野の全てにおいて実力診断テストが70点以上になっているように配分して進めること。	120
12	「めばえドリル②応用編」9	▼応用編の5教科6分野のうち、いずれかの教科から3分野を選択し、実力診断テストで70点以上を目指す。	▼Eラーニングシステムにより学修する ▼13回目の授業時点で、5教科6分野の全てにおいて実力診断テストが70点以上になっているように配分して進めること。	120
13	「めばえドリル②応用編」10	▼応用編の5教科6分野のうち、いずれかの教科から3分野を選択し、実力診断テストで70点以上を目指す。	▼Eラーニングシステムにより学修する ▼13回目の授業時点で、5教科6分野の全てにおいて実力診断テストが70点以上になっているように配分して進めること。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	1	▼自身が苦手と感じている科目を1つ選び、再度、実力診断テストを実施し、90点以上にすること。	これまでの学修を振り返る。再挑戦してみる。	120
15	2	▼自身が苦手と感じている科目を1つ選び、再度、実力診断テストを実施し、90点以上にすること。 ▼「めばえドリル③SPI対策」の利用方法について説明する。	これまでの学修を振り返る。再挑戦してみる。	120

科目名	数理・データサイエンス基礎	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	石原 正道		
開講期	Ⅱ		
授業概要	この講義では、データを扱うための表現およびデータから情報を抽出する方法を学ぶことを目的とする。従来より様々なデータを処理し、情報を抽出することは重要な作業とされていた。今日では、コンピュータの発達・インターネット等の情報網に発達により大量のデータが得られるようになったことやディープ・ラーニングに代表される情報処理技術の進展により、いかにデータから情報を抽出するかということがこれまで以上に重要となった。これらの情報抽出は統計学を含む数的な扱いに基礎をおいており、昨今の数理データサイエンスを学ぶうえで基礎的な扱いを含むデータ処理を理解しておくことが必須である。以上の事を踏まえ、本講義では、データを扱うための基礎的な数理表現およびデータから情報を抽出する基本的な方法を学ぶ。☑ フィードバックとして、確認ペーパーの返却や中間課題の説明等を行う。☑ ☑ 位置づけ・水準 CD1108		
達成目標	データを扱うための数理表現およびデータから情報を抽出する方法を学ぶための具体的な目標は、☑ 1. データを扱うために必要な数処理（数の表現・比率・方程式・集合）ができるようになること☑ 2. データの記述方法とデータからの情報抽出（回帰・検定）ができるようになること☑ である。☑ ☑ 単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：他との協調、人間形成		
受講資格	なし。	成績評価 方法	確認ペーパー・中間演習の結果・レポート課題による。成績評価への割合は、確認ペーパーの提出を20%、中間演習とレポート課題の割合をそれぞれ40%とする。
教科書	テキストを PDF として Web 上で配信する(同PDFの印刷物を授業時に配布する)。		
参考書	前野 昌弘, 三國 彰, "統計解析", 日本実業出版社 (2000); 涌井 良幸, 涌井 貞美, "多変量解析", 日本実業出版社 (2001)		
学生への要望	事前に資料に目を通しておき、理解できない部分を確認しておくこと。		
オフィスタイム	石原：水曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室☑ 金曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室☑ 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。☑ アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp☑ 山口：月曜日 14:30-16:00, No.3地域創成学科研究室☑ 水曜日 10:30-12:00, No.3地域創成学科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション 整数と有理数	本講義で行う目的・内容・単位数・成績評価方法など説明を行う。基本な数に自然数があり、これを拡張したものが整数である。また整数をさらに拡張すると有理数へとつながる。本時では自然数・整数・有理数間の差異を理解し、その演算規則について学ぶ。	本時の復習として、自然数・整数・有理数の包含関係を再確認してすること。また加減乗除の演算に対し、どの演算において閉じていないのか確認すること。	20
2	巾の演算	積の概念を発展させたものに冪がある。概念的には積と商で理解できるが、冪の演算に習熟すると様々な場面で計算が簡略化される。本時では冪とその演算規則について学ぶ。	復習として冪に関する演算規則を確認すること。また冪を用いた数値の表現について確認すること。	30
3	文字と文字式	数を文字に置き換え抽象化することで汎用性が生じる。本時では文字を用いた抽象化や式の変形などを学ぶ。また文字を使う際の注意点について触れる。	予習として、例題を確認しておくこと。復習として、文字を用いた演算において注意すべき点を確認すること。	60
4	比率	数の概念を有理数へと拡張したことにより、整数比を有理数で表すことができる。これらの比と有理数の関係や割合を表す際に利用するppm やppb などの単位（これでよいか？）について学ぶ。	復習として割合や比率と単位の関係（無次元であることを確認すること）を確認すること。また百分率などについても確認しておくこと。	45
5	一次関数	一次関数は連続量を扱う数学では基本的な関数である。微分とも関連し応用範囲は広い。本時では一次関数とグラフの関係や回帰式などについて触れる。	復習として、一次関数の各係数の意味、グラフとの関係を再確認しておくこと。	45

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	連立方程式とその応用	様々な量の関係を求めようとするとき、連立方程式が現れることがある。本時では、問題から式を構築し得られた方程式を解く方法や、解の検討方法を学ぶ。応用では、具体的な問題を通して連立方程式がどのように現れるのかを知り、立式した連立方程式を解いてその有用性を学ぶ。	復習として、連立方程式の様々な解き方（行列を用いた解き方など）を再確認すること。また立式の過程を再確認すること。	90
7	集合	数学の基礎の一つに集合がある。本時では部分集合や集合の積・和・差などの概念を導入する。また集合演算の基礎であるド・モルガンの法則やその応用方法を学ぶ。	復習として、集合の基本概念（空集合など）および集合間の演算について確認すること。	60
8	課題	これまで学修した内容に対する課題を提示する。本課題を通じ、これまでの学修内容を確実なものにする。	復習として、提示した課題を再度行ってみること。このことにより、理解が不足している部分を確認すること。	120
9	データとその記述	データには様々な種類がある。ここでは統計を適用する上で認識しておくべきデータの種類、基本的な統計量を学ぶ。実際に受講生自身で基本統計量を算出することとする。	復習として、データの種類毎に実例を探してみる。また平均や分散などの特徴を再確認すること。	90
10	相関	二つの事柄に関係があるとき相関があるという。この相関を統計学的に見出す手法について学ぶ。また実際に受講生がデータから相関を算出することとする。	復習として、相関係数の定義を確認すること。また相関関数の値をみることで、あらゆる相関が判断できるわけではないことを確認すること。	45
11	線形回帰	ある変数(目的変数)と残りの変数(説明変数)を回帰式と呼ばれる関係により分析することを回帰分析という。本時では回帰の基本的な考え方を理解した上で、受講生自身により回帰直線を求めてみる。こととする。	復習として、回帰の基本的な考え方を確認すること。また実際に回帰直線を求めることにより、回帰直線の決定の仕方により、目的変数と説明変数の間に非対称が生じうることを確認すること。	90
12	非線形回帰	回帰式を非線形な式(直線でない式)とした回帰を非線形回帰という。一次関数では捉えられない関係を見出すために用いられる。ここでは非線形回帰について学び、非線形回帰を行う方法を学ぶこととする。	復習として、複数の関数を用いて非線形回帰を行ってみること。	90
13	パラメトリック検定	ある仮説が正しいか否かを統計的に調べる方法を検定という。ここでは検定の基本的な考え方を学ぶ。検定する対象により様々な検定方法があるが、本時ではパラメトリックな平均値の検定を学び、受講生自身により平均値の検定を試みる。こととする。	復習として、有意水準やP値など用語の意味を確認すること。また複数のデータで平均値の検定を行ってみること。	90
14	ノンパラメトリック検定と適合度の検定	適当な条件下でないとパラメトリックな検定が使えない。そこでこの条件を満たさなくてもよいノンパラメトリックな検定について学ぶ。また適合度の検定方法についても学ぶ。これらの検定を受講生自らも行き、検定結果を確認することとする。	復習として、講義内で示した例において、数値を変えて適合度の検定を行ってみること。	60
15	まとめ	本科目の総まとめをする。どのような統計手法がどのような目的で使われたのか整理する。また総まとめとなるレポート課題を提示する。	授業内容に則し、課題を実施しレポートとしてまとめること。	300

科目名	芸術鑑賞講座・教養講座Ⅰ		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 0.5単位 必修
担当教員				
開講期	通年			
授業概要	<p>芸術は人間存在や世界の真相をありありと感じさせるものです。高度な芸術に接して感動することにより、人間として最も大切な感性を磨き、豊かな人間性を育てます。芸術鑑賞講座として年に4回、一流のアーティストや作品を学内に招き、全学で感動を共有します。教養は個々の専門知識を縦横に関連づけ、創造的な思考を導くものです。教養講座として年に3回、一流の文化人を招き、全学で講演を聴き、個々の人生について深く考えます。このほかに「特別教養講座」を行う場合もあります。</p>			
達成目標	知的で心豊かな、人の役に立つ人生について、考えを深める力を養います。			
受講資格	本学の全学生	成績評価 方法	レポート	
教科書	リーフレット、講演資料			
参考書	図書館で関連図書を展示します。			
学生への要望	自分でも積極的に調べ、毎回きちんと感動および考えを文章にすること。			
オフィスタイム	集会時（各アドバイザー）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	第1回 教養講座 4/22 (11:00~12:00)	養老孟司氏	御著書『バカの壁』は、若い人にも読みやすい大ベストセラーです。一読してみましょう。	120
2	第209回 芸術鑑賞講座 5/13 (13:00~15:00)	「劇団新制作座 泥かぶら」	新制作座の創立者、真山美保について調べ、劇団の意義を考えてみましょう。	90
3	第210回 芸術鑑賞講座 5/3 (13:00~14:30)	「一人芝居」	杉原千畝の偉業を理解するには、第二次世界大戦、特にユダヤ人に対するナチスドイツの迫害を知らなければなりません。歴史書等で調べてみましょう。	120
4	第2回 教養講座 7/8 7/8 (13:00~14:00)	大林素子氏	バレーボール選手としてアトランタ五輪（1996年）に出場した頃の御活躍を、ネット等で調べてみましょう。	90
5	第211回 芸術鑑賞講座 9/16 (13:00~14:00)	腰越満美ソプラノコンサート	特に印象に残った曲目について、作曲家や制作の時代背景を調べてみましょう。	90
6	第212回 芸術鑑賞講座 10/6~10/11	「齋 正機展」	会期中に何回も鑑賞しましょう。また、自分でも色鉛筆やクレヨンなどで風景画を描いてみましょう。	90
7	第3回 教養講座 11/18	ケントギルバート氏	御著書『私が日本に住み続ける15の理由』は電子書籍にもなっています。日米を比較することでわかることも多いので、一読してみましょう。	120

令和2年度

科目名	芸術鑑賞講座・教養講座Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 0.5単位 必修
担当教員				
開講期	通年			
授業概要	<p>芸術は人間存在や世界の真相をありありと感じさせるものです。高度な芸術に接して感動することにより、人間として最も大切な感性を磨き、豊かな人間性を育てます。芸術鑑賞講座として年に4回、一流のアーティストや作品を学内に招き、全学で感動を共有します。教養は個々の専門知識を縦横に関連づけ、創造的な思考を導くものです。教養講座として年に3回、一流の文化人を招き、全学で講演を聴き、個々の人生について深く考えます。このほかに「特別教養講座」を行う場合もあります。</p>			
達成目標	知的で心豊かな、人の役に立つ人生について、考えを深める力を養います。			
受講資格	本学の全学生	成績評価 方法	レポート	
教科書	リーフレット、講演資料			
参考書	図書館で関連図書を展示します。			
学生への要望	自分でも積極的に調べ、毎回きちんと感動および考えを文章にすること。			
オフィスタイム	集会時（各アドバイザー）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	第1回 教養講座 4/22 (11:00~12:00)	養老孟司氏	御著書『バカの壁』は、若い人にも読みやすい大ベストセラーです。一読してみましょう。	120
2	第209回 芸術鑑賞講座 5/13 (13:00~15:00)	「劇団新制作座 泥かぶら」	新制作座の創立者、真山美保について調べ、劇団の意義を考えてみましょう。	90
3	第210回 芸術鑑賞講座 5/3 (13:00~14:30)	「一人芝居」	杉原千畝の偉業を理解するには、第二次世界大戦、特にユダヤ人に対するナチスドイツの迫害を知らなければなりません。歴史書等で調べてみましょう。	120
4	第2回 教養講座 7/8 5/8 (13:00~14:00)	大林素子氏	バレーボール選手としてアトランタ五輪（1996年）に出場した頃の御活躍を、ネット等で調べてみましょう。	90
5	第211回 芸術鑑賞講座 9/16 (13:00~14:00)	腰越満美ソプラノコンサート	特に印象に残った曲目について、作曲家や制作の時代背景を調べてみましょう。	90
6	第212回 芸術鑑賞講座 5/8 10/6~10/11	「斎 正機展」	会期中に何回も鑑賞しましょう。また、自分でも色鉛筆やクレヨンなどで風景画を描いてみましょう。	90
7	第3回 教養講座 11/18	ケントギルバート氏	御著書『私が日本に住み続ける15の理由』は電子書籍にもなっています。日米を比較することでわかることも多いので、一読してみましょう。	120

科目名	図書館概論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	和知 剛		
開講期	I		
授業概要	<p>「図書館」とは何か、その意義と役割を、その理念・歴史・教養の3つの面からそれぞれ説き起こす。講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。市井においては公共図書館のよき理解者であり利用者、大学においては大学図書館のよき利用者たることを目指す。担当教員はこれまで大学図書館に30年ほど勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。</p> <p>担当教員は大学図書館に30年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。</p> <p>位置づけ・水準 GD2110</p>		
達成目標	<p>単位認定の最低基準は、①内容の8割を理解すること、②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探索し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることである。</p>		
受講資格	地域創成学科に在籍する1年生。司書ユニット受講の有無は問わない。	成績評価 方法	レポート3割、期末試験7割で評価します。
教科書	『図書館情報学基礎資料』樹村房		
参考書	大学図書館のNDC010-019に排架されている書籍はすべて参考書		
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがある。		
オフィスタイム	月曜－木曜のそれぞれ2コマ目（10時30分－12時）に図書館情報学研究室まで		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	図書館のイメージとその多様性	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	「図書館」とは何か	「図書館」の定義と公共図書館vs公立図書館	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	図書館施設・図書館建築	図書館建築に求められる機能と役割	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	図書館資料	図書館資料の種類と求められる役割	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	図書館員	図書館員に求められる役割	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	図書館利用者	「図書館利用者」とは誰のことか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	図書館史（1）	図書館の起源・イギリスの公共図書館・アメリカの公共図書館	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	図書館史（2）	日本の公共図書館史（1）明治・大正時代まで	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	図書館史 (3)	日本の公共図書館史 (2) 昭和戦前期	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	図書館史 (4)	日本の公共図書館史 (3) 戦後復興から『市民の図書館』の時代へ	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	図書館史 (5)	日本の公共図書館史 (4) ポスト『市民の図書館』の動き	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	「社会的共通資本」としての図書館	「図書館」に期待されている役割・場所としての図書館	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	図書館を支える基盤 (1)	出版流通業界について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	図書館を支える基盤 (2)	「読書」について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	「図書館」とは何か・再び	これまでの講義のまとめとこれからの展望	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

科目名	博物館概論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	會田 容弘		
開講期	I		
授業概要	東北大学文学部考古学研究室助手として研究室が保管する考古資料の貸し出し業務を行った。奥松島縄文村歴史資料館学芸員として歴史資料館立ち上げの過程に携わり、常設展製作、映像資料の製作を行った。オープン後は企画展・体験学習の実施、博物館経営、発掘調査による資料収集を担ってきた。それらの経験を活かし、博物館の様々な側面を経験に基づいて講義を行う。博物館概論とは博物館法施行規則に記載されている博物館学芸員資格を取得するための必修科目のひとつである。本科目を履修する学生は博物館学芸員資格を取得し、将来博物館学芸員という職業に就くことを希望し、学芸員としての専門性は各自の専攻分野によって養われつつあることが前提となる。博物館概論もその専門性と密接にかかわる部分がある。特に文化学科では選択専門科目でもあることから、法規、倫理、歴史、学芸員の仕事など博物館について広範囲に学習する。課題に対するレポートはデータで提出し、それを添削し、コメントを加えるなどのフィードバックを行う。内容が不十分な場合は再提出を求め、同様のフィードバックを行う。課題に対するレポートはデータで提出し、それを添削し、コメントを加えるなどのフィードバックを行う。内容が不十分な場合は再提出を求め、同様のフィードバックを行う。☑ 位置付け水準 CD2120		
達成目標	<到達目標>博物館学芸員課程科目の基礎を理解し、博物館の専門分野の理解に至るに、十分な知識を獲得すること。☑ 博物館利用者として、十分な知識を持つこと。単位認定の最低基準は授業内容の7割以上を理解していること。ディプロマポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力		
受講資格	地域創成学科学学生及び学芸員資格取得学生	成績評価 方法	レポートと試験(レポート50%、試験50%)。60点以上で合格とする。学芸員資格取得には80%以上の授業理解を求める。
教科書	博物館概論		
参考書	地域資料館の挑戦		
学生への要望	博物館で将来働くことを希望する学生はなるべく多くの博物館施設を見学していることが望ましい。また、博物館が置かれている社会状況についても十分注意を払ってほしい。		
オフィスタイム	火曜日3時限目、水曜日2・4時限目。重要な質問がある場合は事前にメールでアポをとってから面会に来ること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	0：博物館学の受講の前に	博物館学は文化学科選択専門科目であると同時に、資格課程の学芸員補の必修科目である。学芸員資格を取得するための方法、及び学芸員資格取得に必要な必修科目、選択科目に博物館法施行規則にのっとり、説明を行う。☑	授業内容を整理し、レポートで用いる見学したい博物館を博物館・美術館ホームページなどで検索する。	30
2	1：博物館とは何か	教育基本法－社会教育法－博物館法－博物館法施行令－博物館法施行規則－基準－取り扱いに基づいて、日本における博物館の位置づけを説明する。☑	授業内容を整理し、見学したい博物館の事前調査を行い、その博物館の使命や概要をまとめてく。	30
3	2：続・博物館とは何か	博物館の機能について、博物館法をもとに説明する。☑ ☑	授業内容を整理し、授業で取り上げた教育基本法－社会教育法－博物館法－博物館法施行令－博物館法施行規則－基準－を出力し、ノートに加えておく。	30
4	3：さまざまな博物館	博物館はその収集展示する資料による分類、設立主体による分類、博物館法による制度別分類、運営手法による分類、機能による分類、資料の展示場所による分類ができる。実例をあげながらそれを説明する。	授業内容を整理し、見学した博物館について概要、展示内容、注目した点などを箇条書きにまとめておく。	30
5	4：博物館学芸員の役割（1）	博物館法、それぞれの博物館条例に記された博物館学芸員の役割について、法規に基づいた説明を行う。	授業内容を整理し、レポートを作成してみる。	30
6	5：博物館学芸員の役割（2）	奥松島縄文村歴史資料館学芸員の実例をあげながら、学芸員の一年を通じた仕事内容を説明する。	授業内容を整理し、レポートを推敲し、不足部分を補う。	30
7	6：博物館の歴史（1）	欧米における博物館の成立から現代にいたる博物館について、通史的に説明する。☑	授業内容を整理し、レポートを完成させる。	30
8	7：博物館の歴史（2）	日本における近代博物館の歴史は東京国立博物館の歴史でもある。国威発揚の帝室博物館、教育施設としての科学博物館を対比しながら説明する。☑	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のHPを閲覧する	30
9	8：博物館の歴史（3）	地方博物館は1970年代から整備される。それ以前にも博覧会、私立博物館、私立美術館、水族館などが地方に建設されていた。東北地方の博物館の歴史をみてゆく。	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のHPを閲覧する。	30
10	9：博物館組織と運営	博物館法に基づいた博物館組織を説明し、実例をあげてその運営を解説する。☑	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のHPを閲覧する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	10：生涯学習と博物館、地域社会と博物館	生涯学習をおこなう博物館の実例をあげて説明する。地域社会と博物館の関係をとりあげ説明する。☒	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のHPを閲覧する。	30
12	11：学校教育と博物館、文化財保護と博物館、自然保護と博物館	学校教育と連携した博物館の実例の説明、文化財保護・自然保護を押し進める博物館の実例をあげて説明する。☒	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のHPを閲覧する。文化財保護法を出力し、ノートに加える。	30
13	12：博物館の現状と課題(1)	博物館の置かれているさまざまな問題について検討する。博物館法改正の現状や指定管理者制度導入、平成の大合併による市町村博物館の実態などについて実例をあげて検討する。	授業内容を整理し、指定管理者制度についてネットでしらべてみる。	30
14	13：博物館の現状と課題(2)	これからの博物館について、望ましい姿を模索する。	授業内容を整理し、試験に備え、全体を振り返ってみる。、	30
15	14：博物館の危機管理	3・11東日本大震災で博物館は多くの被災した。これらことから博物館における危機管理の問題が改めて注目されている。阪神大震災などと比較しながら博物館の被害状況、対応、再生を考えてみたい。	授業内容を整理し、試験に備え、全体を振り返ってみる。、	30

科目名	女性文化史	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	知野 愛		
開講期	Ⅲ		
授業概要	日本における女子教育史、女性の労働史を概観した上で、福祉分野で功績を残した女性先駆者、福島県ゆかりの女性先駆者達の生涯と功績について学びます。中間レポートと最終レポートを次回に返却しフィードバックを行います。☑ 位置づけ・水準:CD2150		
達成目標	中間レポート、最終レポートを指定通りに提出すること。単位認定の最低基準:内容の8割を理解していること。ディプロマ・ポリシーとの関係:1)知識理解、3)課題解決力		
受講資格	地域創成学科2年生(Ⅲ期)、1年生(Ⅱ期)	成績評価 方法	中間レポート(20点)☑ 最終レポート(80点)
教科書	なし、レジュメ配布		
参考書	随時、提示します		
学生への要望	興味深いと感じたテーマを見つけ自分から調べてみて下さい。		
オフィスタイム	知野:(Ⅲ期)木曜Ⅰ限、金曜Ⅱ限、(Ⅱ期)木曜Ⅱ限、金曜Ⅲ限、場所:芸術館1階地域創成学科研究室N0.1		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス☑	授業内容とスケジュールを説明する。	復習:配布資料を読む。予習:次回の内容を見て興味をもったワードを調べる。	120
2	明治期以降の女子教育史	全国的に女子教育がどのように始まり、どのようにして就学率が上がっていったのかなどを概観する。	復習:配布資料を読む。予習:次回の内容を見て興味をもったワードを調べる。	120
3	女子教育史(2)	明治時代初期に行われた女子への初等教育の歴史を学ぶ。	復習:配布資料を読む。予習:次回の内容を見て興味をもったワードを調べる。	120
4	女子教育史(3)	明治から大正にかけて、各地に設立されていく女子教育施設を概観する。	復習:配布資料を読む。予習:次回の内容を見て興味をもったワードを調べる。	120
5	女性の労働の歴史(1)	明治以降の女性たちの労働史を学ぶ。	復習:配布資料を読む。予習:次回の内容を見て興味をもったワードを調べる。	120
6	女性の労働の歴史(2)	大正時代からの女性労働はどのようなものであったのか学ぶ。	復習:配布資料を読む。予習:次回の内容を見て興味をもったワードを調べる。	120
7	女性の労働の歴史(3)	大正から昭和にかけて、女性労働にはどのような変遷があったのか学ぶ。	復習:配布資料を読む。予習:次回の内容を見て興味をもったワードを調べる。	120
8	福祉分野で活躍した女性	福祉の分野で社会的貢献を果たした女性たちの生涯を学ぶ。	復習:配布資料を読む。予習:次回の内容を見て興味をもったワードを調べる。	120
9	福島の女性たち-瓜生岩子-	福島県会津出身の瓜生岩子。貧困児童の救済と教育に身を捧げた生涯を辿り、功績を知る。	復習:配布資料を読む。予習:次回の内容を見て興味をもったワードを調べる。	120
10	福島の女性たち-山川捨松1-	山川捨松の生涯と功績について学ぶ。	復習:配布資料を読む。予習:次回の内容を見て興味をもったワードを調べる。	120
11	福島の女性たち-山川捨松2-	山川捨松と津田梅子との交流、生涯と功績を学ぶ。	復習:配布資料を読む。予習:次回の内容を見て興味をもったワードを調べる。	120
12	福島の女性たち-服部ケサ-	服部ケサのハンセン病者救済に捧げた生涯を知り、医療面から女性史をみていく。	復習:配布資料を読む。予習:次回の内容を見て興味をもったワードを調べる。	120
13	福島の女性たち-若松賤子-	会津出身の若松(松川、大川)賤子。「小公子」「小公女」を日本で最初に翻訳した人物。女性のあり方を文学を通して語りかけたその生涯を知り、功績を考える。作品を鑑賞する。	復習:配布資料を読む。予習:次回の内容を見て興味をもったワードを調べる。	120
14	福島の女性たち-補足-	その他、福島県ゆかりの女性先駆者たちの生涯と功績を学ぶ。	復習:配布資料を読む。予習:次回の内容を見て興味をもったワードを調べる。	120
15	まとめ	これまでの授業内容をまとめる。	復習:配布資料を読み授業全体を振り返る。	20

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
---	----	------	------	------

科目名	デザイン論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	小松 太志		
開講期	Ⅱ		
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】☑</p> <p>①「デザイン」の概念的理解を深める。☑</p> <p>②デザインにかかわる周辺の知識を深める。☑</p> <p>③近年のデザインにかかわる動向について理解を深める。☑</p> <p>☑</p> <p>広告制作会社に勤務した経験を活かして、デザインと社会の関わりについて授業を行う。☑</p> <p>実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務☑</p> <p>☑</p> <p>【授業全体の内容の概要】☑</p> <p>①近代デザイン史を概観する。☑</p> <p>②「デザイン」の概念について理解を深める。☑</p> <p>③「デザイン思考」をもとに、課題解決手法としてのデザインについて学修する。☑</p> <p>④ソーシャルデザインの事例をもとに社会的課題を解決するためのデザインについて学修する。☑</p> <p>⑤デザインに関わる法律について学修する。</p>		
達成目標	<p>①近代デザイン史の概要を理解している。☑</p> <p>②デザイン的な思考の方法、ものの見方を理解している。☑</p> <p>③社会との関わりの中でデザインの果たす役割について理解している。</p>		
受講資格	地域創成学科1年	成績評価 方法	<p>授業の総合的理解度が7割程度に達していることを基本として、以下の基準で成績評価する。☑</p> <p>①授業への態度・意欲（30%）☑</p> <p>②各授業内容に対応した小レポート（30%）☑</p> <p>③期末レポート（40%）</p>
教科書	適宜、ハンドアウトを配布する。		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	<p>・日常生活の中にある事象を「デザイン」の視点で考えるように意識すること。☑</p> <p>・授業で紹介する書籍について一冊以上は読むこと。</p>		
オフィスタイム	月曜日Ⅲ・Ⅳ時限、金曜日Ⅲ・Ⅴ時限、No.3地域創成学科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	ガイダンス⇒デザインの履修、授業内容について説明する。	<p>【事前学習】身の回りのデザインについて調べる。</p> <p>【事後学習】授業で紹介したデザイナーについて調べる。</p>	60
2	近代デザインの歴史的背景と思想(1)	18世紀の産業革命から現代までのデザインの変遷について、その歴史的背景とデザイン思想について主要なトピックを挙げて概説する。（産業革命～アーツアンドクラフツ運動）	<p>【事前学習】配布資料を読んで、予習する。</p> <p>【事後学習】授業内容をまとめる。</p>	60
3	近代デザインの歴史的背景と思想(2)	18世紀の産業革命から現代までのデザインの変遷について、その歴史的背景とデザイン思想について主要なトピックを挙げて概説する。（アール・ヌーヴォー～バウハウス）	<p>【事前学習】配布資料を読んで、予習する。</p> <p>【事後学習】授業内容をまとめる。</p>	60
4	近代デザインの歴史的背景と思想(3)	18世紀の産業革命から現代までのデザインの変遷について、その歴史的背景とデザイン思想について主要なトピックを挙げて概説する。（戦後のデザインとその背景）	<p>【事前学習】配布資料を読んで、予習する。</p> <p>【事後学習】授業内容をまとめる。</p>	60
5	デザインとは何か	「HELLO WORLD 「デザイン」が私たちに必要な理由」(Alice Rawsthorn, 石原 薫訳, フィルムアート社, 2013.) 第1章「デザインとは何か」をもとに、歴史的視座に立ってデザインの価値と本質について考える。	<p>【事前学習】配布資料を読んで、予習する。</p> <p>【事後学習】授業内容をまとめる。</p>	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	デザインと芸術	「HELLO WORLD 「デザイン」が私たちに必要な理由」 (Alice Rawsthorn, 石原 薫訳, フィルムアート社, 2013.) 第7章「デザインと芸術をけっして混同してはならない理由」をもとに、「デザインは芸術の一分野か」という命題 に対して考察しながら、デザインの本質を捉える。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60
7	デザインとアイデア・発想の方法(1)	アイデア・発想の方法について解説する。簡易なワークを通して、グループによるアイデア創造を試みる。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60
8	デザインとアイデア・発想の方法(2)	アイデア・発想の方法について解説する。簡易なワークを通して、グループによるアイデア創造を試みる。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60
9	デザイン思考(1)	「デザイン思考が世界を変える」(ティム・ブラウン, 千葉敏生 訳, 早川書房, 2014.) 著者は世界的なデザインコンサルタント会社IDEOの社長兼CEOであるティム・ブラウン。 本書をもとにデザイン思考について学修する。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60
10	デザイン思考(2)	「デザイン思考が世界を変える」(ティム・ブラウン, 千葉敏生 訳, 早川書房, 2014.) 著者は世界的なデザインコンサルタント会社IDEOの社長兼CEOであるティム・ブラウン。 本書をもとにデザイン思考について学修する。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60
11	社会とデザイン(1)	社会的課題に対してその解決策をデザインする行為をソーシャルデザインと呼ぶ。ソーシャルデザインの事例を紹介し、地域社会におけるデザインの果たす役割について考える。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60
12	社会とデザイン(2)	社会的課題に対してその解決策をデザインする行為をソーシャルデザインと呼ぶ。ソーシャルデザインの事例を紹介し、地域社会におけるデザインの果たす役割について考える。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60
13	デザインと法律「表現の自由」	・「表現の自由」は日本国憲法21条によって保証されている。「表現」に携わる上で知っておくべき権利とその規制について学修する。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60
14	デザインと法律「知的財産権」(1)	・知的財産権とは、人の精神的活動によって生み出された成果の経済的価値や文化的価値の保護と利用促進を目的とするさまざまな法規の総称である。デザイン、芸術に携わる上で知っておくべき知的財産権法について学修する。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60
15	デザインと法律「知的財産権」(2)	・知的財産権について学修する。事例をもとに、知的財産権について理解を深める。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60

科目名	色彩学	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	松田 理香		
開講期	I		
授業概要	色彩の基礎を学びます。物理的側面と心理的、生理的側面を概観しながら、日常生活における色彩の役割について学びます。色が見えるとはどういうことか、色の役割、色の分類や名前、心理効果、配色などについて解説します。毎授業の最後に簡単な確認問題に取り組みます。また色相やトーン体系を理解するために、色材を使っての混色演習や、配色カードを用いた課題に取り組むとともに、色覚弱者についても学びます。☑ 提出作品や確認問題の答え合わせの際には解説やコメントなどによるフィードバックを行います。CD2166		
達成目標	色彩に関する知識（検定試験3級程度）を身につけることを目標とします。☑ ・単位認定の最低基準：課題、確認問題などの提出（ルーブリック評価に基づいて判定します）☑ ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解、課題解決力		
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	確認問題(60点)、演習課題(40点)で総合的に評価しますが、☑ 講義内容の7割程度の理解を期待します。
教科書	ありません。☑ 各單元ごとに資料を配布します。		
参考書	○演習課題で使用する資料☑ (資料についてのガイダンスを行い購入希望者がいた場合はまとめて発注します) ☑ ・日本色彩研究所監修 ①新基本色表シリーズ4 (PCCS) ②新配色カード199a☑ ○参考書☑ ・色彩学概説(千々岩英彰著:東京大学出版) ☑ ・カラーマスターベーシック (NPO法人アデック出版局/色彩士検定参考書) 他☑		
学生への要望	・日常生活の中で色彩が果たす役割について考えてください。☑ ・演習課題で使用する筆や絵具、カッター、のりなどは各自で準備してください。☑ (画材のガイダンスを行い購入希望者がいた場合はまとめて発注します) ☑		
オフィスタイム	月曜日 II~IVコマ☑ 木曜日 I・IIコマ☑ 場所: 芸術館1階 No.2工芸室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	1. 授業の目的や内容について説明する。☑ 2. 色を見るときはということか、色の役割などについて考える。	ガイダンスで配布された資料をもとに生活の中にある色の役割を考える。	30
2	講義: 色のなりたち (1)	1. 色を感じる経路 2. 光 3. 物体の色 4. 色を見るための光源	色が見える仕組みや光とは何かについての理解を深める。	60
3	講義: 色のなりたち (2)	5. 色の分類 6. 目の構造と視細胞 ※確認問題	目の構造について配布資料や確認問題を参考にして理解を深める。	60
4	講義: 混色	1. 混色と等色 2. 三原色 3. 加法混色 4. 減法混色 5. 色材の混色 ※確認問題	混色について配布資料や確認問題を参考にして理解を深める	60
5	講義: 色の表示方法 (1)	1. 表示方法の分類 2. 色名による表示	色の表示方法について配布資料を参考にして理解を深める。特に、色名による表示と表色系についての学習を行う。	60
6	講義: 色の表示方法 (2)	3. PCCS (日本色研配色体系) 4. マンセルシステム	色の表示方法について配布資料を参考にして理解を深める。特に、PCCSやマンセルシステムなど、色彩を体系的に捉えて学習する。	60
7	演習: 課題1 (1)	【課題1】色材の混色と着色 (1) ☑ ※不透明絵具、マスキングテープを使用	色材や作業道具の特性を知り、混色についての理解を深める。	120
8	演習: 課題1 (2)	【課題1】色材の混色と着色 (2) ☑ ※不透明絵具、マスキングテープを使用	色材や作業道具の特性を知り、混色についての理解を深める。	120
9	講義: 色の心理効果	1. 色の感情効果 2. 色のイメージ(心象) 3. 色の意味的作用/連想 ※確認問題	色の感情効果について配布資料や確認問題をもとに学習する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	講義：色彩調和 (1)	1. 配色と色彩調和 2. 色彩調和の原理 3. 色彩調和の形式 4. 配色の基本的な考え方 5. 色相を基準にした配色	色彩調和について配布資料を参考にして学習する。特に、色の調和とは何かについて理解を深める。	60
11	講義：色彩調和 (2)	6. トーンを基準にした配色 7. 基本的な配色技法 8. 慣習的な配色技法 9. 秩序の原理による配色の形式 10. 配色とイメージ ※確認問題	色彩調和について配布資料を参考にして学習する。特に、配色とは何かについて理解を深める。	60
12	演習：課題2	【課題2】PCCS色相とトーン☑ 新配色カード199aを用いて以下の台紙を完成させる。☑ ①PCCSトーン別色相環☑ ②PCCS色相・トーン一覧表 ☑ ③色の心理効果	新配色カードを用いた台紙を完成させ色の体系についての理解を深める。	120
13	演習：課題3	【課題3】配色演習☑ 新配色カード199aを用いて配色演習を行う。☑ ①色相を基準にした配色☑ ②トーンを基準にした配色☑ ③配色技法	①～③の配色演習に取り組むことにより配色についての理解を深める。	60
14	講義：色のユニバーサルデザイン	1. 色弱者の見え方 2. 高齢者の見え方 3. ユニバーサルデザイン 4. 見えづらい例と改善例	色のユニバーサルデザインについて配布資料を参考にして理解を深める。	60
15	まとめ	1. 講義のまとめ 2. 演習課題のまとめ 3. その他 色彩に関する検定試験について	これまでの配布資料や演習課題を参考にし色彩学の基礎を改めて学習する。	30

科目名	情報処理Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	山口 猛		
開講期	Ⅱ		
授業概要	<p>いかなる職業においても必要なパソコン活用能力の習得に向けて、情報処理士の資格取得が目標せることは、ご承知の通りです。昨今の就職活動や就業後のキャリアアップにおいて注目されている、Microsoft Office Specialist Word2016の受験に相当する内容を学びます。また、IT企業でのシステムエンジニア勤務経験を活かし、実務的なパソコン活用力について考慮した授業を行います。☒</p> <p>☒ 実務経歴：システムエンジニアとして株式会社エフコムに勤務☒ システム開発・情報処理の経験をもとに、文書作成・表計算についての授業を行う。☒</p> <p>☒ 間違いの多い箇所の解説を授業で解説することで、フィードバックを行います。☒ また、随時質問を授業内外で受け付け、対面でフィードバックを行います。☒</p> <p>☒ 位置づけ・水準 CD2130</p>		
達成目標	<p>本演習における達成目標は次の通りとする。☒</p> <p>1. Microsoft Office Specialist Word2016スペシャリストレベルの合格に必要なスキルを身につける☒</p> <p>2. Word2016の応用的な利用方法を身につける☒</p> <p>3. Word2016において、操作時の不明点を自分で調べ、解決することができる☒</p> <p>☒ 課題1～3を実施し、60%以上の理解・正解すること☒ ディプロマポリシーとの関係：知識理解</p>		
受講資格	なし。	成績評価 方法	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は課題1を20%、課題2を40%、課題3を40%とする。☒
教科書	Microsoft Word 2016 対策テキスト&問題集		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。☒		
オフィスタイム	月曜2・4限 芸術館2階 No.2生芸科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、パソコンのセットアップを行う。	パソコンのセットアップ後の、操作方法を復習する。	30
2	文書の作成と管理（1）	テンプレート、PDF作成、外部データインポート、検索、ハイパーリンク、ページ設定、ヘッダー・フッター、頁番号、プロパティ設定、クイックアクセスツールバー設定、アクセシビリティ検査、下位バージョン互換性検査	テキストの実施箇所について、再度実施し、復習する。	60
3	文書の作成と管理（2）	2回目と同じ。（テンプレート、PDF作成、外部データインポート、検索、ハイパーリンク、ページ設定、ヘッダー・フッター、頁番号、プロパティ設定、クイックアクセスツールバー設定、アクセシビリティ検査、下位バージョン互換性検査）	テキストの実施箇所について、再度実施し、復習する。	60
4	文字、段落、セクションの書式設定（1）	置換、オートコレクト、特殊文字、フォント変更、行の間隔、段落の間隔、配置、インデント、書式コピー、強調表示、ワードアート、組み込みスタイル、ページ区切り、段組み、セクション区切り	テキストの実施箇所について、再度実施し、復習する。	60
5	文字、段落、セクションの書式設定（2）	4回目と同じ。（置換、オートコレクト、特殊文字、フォント変更、行の間隔、段落の間隔、配置、インデント、書式コピー、強調表示、ワードアート、組み込みスタイル、ページ区切り、段組み、セクション区切り）	テキストの実施箇所について、再度実施し、復習する。	60
6	表やリストの作成（1）	表作成、文字列→表変換、表→文字列変換、テーブルスタイル、データ並び替え、セルの予約、セル結合・分割、サイズ調整、タイトル行繰り返し、簡条書き、段落番号、行頭文字、リストレベル変更	テキストの実施箇所について、再度実施し、復習する。	60
7	表やリストの作成（2）	6回目と同じ。（表作成、文字列→表変換、表→文字列変換、テーブルスタイル、データ並び替え、セルの予約、セル結合・分割、サイズ調整、タイトル行繰り返し、簡条書き、段落番号、行頭文字、リストレベル変更）	テキストの実施箇所について、再度実施し、復習する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	参考資料の作成と管理（1）	脚注、文末脚注、資料文献、引用文献、図表番号、目次、表紙	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
9	参考資料の作成と管理（2）	8回目と同じ。（脚注、文末脚注、資料文献、引用文献、図表番号、目次、表紙）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
10	グラフィック要素の挿入と書式設定（1）	図形挿入、スクリーンショット挿入、テキストボックス挿入、アート効果、図の背景削除、図の効果、図のスタイル、オブジェクト書式設定、SmartArt	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
11	グラフィック要素の挿入と書式設定（2）	10回目と同じ（図形挿入、スクリーンショット挿入、テキストボックス挿入、アート効果、図の背景削除、図の効果、図のスタイル、オブジェクト書式設定、SmartArt）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
12	模擬試験（1）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
13	模擬試験（2）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
14	模擬試験（3）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
15	まとめ	総合確認と、Microsoft Office Specialist Word2016スペシャリストレベル 受験計画	授業内で指定する模擬試験について、100%中80%程度の正解率を目指し、実施する。	60

科目名	情報処理Ⅲ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	山口 猛		
開講期	Ⅲ		
授業概要	<p>いかなる職業においても必要なパソコン活用能力の習得に向けて、情報処理士の資格取得が目指せることは、ご承知の通りです。昨今の就職活動や就業後のキャリアアップにおいて注目されている、Microsoft Office Specialist Excel2016の受験に相当する内容を学びます。また、IT企業でのシステムエンジニア勤務経験を活かし、実務的なパソコン活用力について考慮した授業を行います。☒</p> <p>☒ 実務経歴：システムエンジニアとして株式会社エフコムに勤務☒ システム開発・情報処理の経験をもとに、文書作成・表計算についての授業を行う。☒</p> <p>☒ 間違いの多い箇所の解説を授業で解説することで、フィードバックを行います。☒ また、随時質問を授業内外で受け付け、対面でフィードバックを行います。☒</p> <p>☒ 位置づけ・水準 CD2230</p>		
達成目標	<p>本演習における達成目標は次の通りとする。☒</p> <p>1. Microsoft Office Specialist Excel2016スペシャリストレベルの合格に必要なスキルを身につける☒</p> <p>2. Excel2016の応用的な利用方法を身につける☒</p> <p>3. Excel2016において、操作時の不明点を自分で調べ、解決することができる☒</p> <p>☒ 課題1～3を実施し、60%以上の理解・正解すること☒</p> <p>☒ ディプロマポリシーとの関係：知識理解</p>		
受講資格	なし。	成績評価 方法	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は課題1を20%、課題2を40%、課題3を40%とする。☒
教科書	Microsoft Excel 2016 対策テキスト&問題集		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。☒		
オフィスタイム	月曜2・4限 芸術館2階 No.2生芸科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、パソコンのセットアップを行う。	パソコンのセットアップ後の、操作方法を復習する。	30
2	ワークシートやブックの作成と管理(1)	1-1 ワークシートやブックを作成する 1-2 ワークシートやブック内を移動する 1-3 ワークシートやブックの書式を設定する	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
3	ワークシートやブックの作成と管理(2)	1-4 ワークシートやブックのオプションと表示をカスタマイズする 1-5 配布するためにワークシートやブックを設定する 確認問題	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
4	セルやセル範囲のデータの管理(1)	2-1 セルやセル範囲にデータを挿入する 2-2 セルやセル範囲の書式を設定する 2-3 データをまとめる、整理する 確認問題	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
5	テーブルの作成	3-1 テーブルを作成する、管理する 3-2 テーブルのスタイルと設定オプションを管理する 3-3 テーブルのレコードを抽出する、並べ替える 確認問題	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
6	数式や関数を使用した演算の実行	4-1 関数を使用してデータを集計する 4-2 関数を使用して条件付きの計算を実行する 4-3 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する 確認問題	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	表やリストの作成	6回目と同じ。(表作成、文字列→表変換、表→文字列変換、テーブルスタイル、データ並び替え、セルの予約、セル結合・分割、サイズ調整、タイトル行繰り返し、箇条書き、段落番号、行頭文字、リストレベル変更)	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
8	参考資料の作成と管理(1)	脚注、文末脚注、資料文献、引用文献、図表番号、目次、表紙	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
9	参考資料の作成と管理(2)	8回目と同じ。(脚注、文末脚注、資料文献、引用文献、図表番号、目次、表紙)	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
10	グラフィック要素の挿入と書式設定(1)	図形挿入、スクリーンショット挿入、テキストボックス挿入、アート効果、図の背景削除、図の効果、図のスタイル、オブジェクト書式設定、SmartArt	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
11	グラフィック要素の挿入と書式設定(2)	10回目と同じ(図形挿入、スクリーンショット挿入、テキストボックス挿入、アート効果、図の背景削除、図の効果、図のスタイル、オブジェクト書式設定、SmartArt)	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
12	模擬試験(1)	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
13	模擬試験(2)	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
14	模擬試験(3)	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
15	まとめ	総合確認と、Microsoft Office Specialist Excel2016スペシャリストレベル 受験計画	授業内で指定する模擬試験について、100%中80%程度の正解率を目指し、実施する。	60

科目名	情報概論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	古山 幹雄		
開講期	Ⅱ		
授業概要	<p>コンピュータや情報通信技術の基本原理を学び、実際のハードウェア構成、ソフトウェアの種類や機能を理解すると共にコンピュータをネットワークで接続したインターネットの日常生活やビジネスでの活用とそれを支える基本技術について学ぶ。さらに、ネット社会が抱える問題とその解決法について考える。また、今後、学習していく情報関連の授業が理解できるようにする。</p> <p>最終授業で試験の概要とポイントを解説するとともにe-learningの実施状況についてフィードバックを行う。</p>		
達成目標	<p>1.情報処理の基本である情報の単位が説明でき、2進16進の計算ができること。☑</p> <p>2.パソコンの動作の仕組みが説明できること。☑</p> <p>3.ネットワークの仕組みを理解すること。</p> <p>4.☑イプロマ・ポリシーと授業科目の関連及び単位認定の最低基準</p> <p>超スマート社会の様々な課題を論理的に捉え問題を解決していく力を身につけるために、ICTの専門的知識の基礎を修得する。</p> <p>単位認定の最低基準：7割を理解している必要がある。</p>		
受講資格	なし	成績評価 方法	e-learningの学習成果：30点 ペーパー試験：70点の100点満点で60点以上で合格。
教科書	「これだけは知っておこう！情報リテラシー」 NOA出版		
参考書	パソコン検定3級試験対策本全般		
学生への要望	馴染みの無い言葉が沢山出てくるが、教科書をよく読み分らない言葉はインターネットで調べる等して学習する習慣をつけてください。☑		
オフィスタイト	非常勤講師控え室☑ 授業実施日の授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	講義内容を説明する。コンピュータ上で扱う情報について表現方法や演算の方法について学ぶ。☑ 用語：2進法、16進法、文字コード☑		0
2	コンピュータの基礎	コンピュータの歴史やコンピュータの種類、パソコンの形や取扱いの注意について学ぶ。☑ 用語：ノイマン型コンピュータ、PS/AT互換機、ハードウェア、ソフトウェア☑		0
3	ハードウェア 1	パソコン本体の内部がどのような部品で構成されているか確認し、それぞれの役割や性能について学習する。☑ 用語：CPU,メインメモリー、RAM/ROM☑		0
4	ハードウェア 2	外部記憶装置および代表的な出力装置の動作原理や種類、性能の見方について学ぶ。☑ 用語：ハードディスク、リムーバブルディスク、CRT、液晶、ラスタデータとベクタデータ☑		0
5	ハードウェア 3	入力装置の種類とその動作原理について学ぶ。また、周辺装置を接続するインターフェースについて学ぶ。☑ 用語：キーボード、マウス、スキャナー、シリアル転送、パラレル転送、IEEE1394、USB☑		0
6	基本ソフトウェア	OSの役割と種類を学習し、現在の主流となっているWindowsの特徴について学ぶ。☑ 用語：ディスク管理、レジストリ、ファイルシステム、拡張子、☑		0
7	アプリケーションソフトウェア	オフィス処理関係ソフトの種類と機能を学習するほかにデータベースソフトやプログラミングについて学ぶ。☑ 用語：テキストエディタ、DTPソフト、テーブル、レコード、フィールド、SQL、プログラミング☑		0
8	情報通信ネットワークの仕組み	コンピュータネットワークの代表的な形態について学び、それぞれの違いについて確認する。☑ 用語：LAN,WAN,OSI,クライアント、サーバー☑		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	LANの構成	LANの規格、データ転送方式、LANのハードウェア、セキュリティについて学ぶ。☒ 用語：イーサネット、無線LAN,ハブ、ルータ、ファイアウォール、暗号化☒		0
10	インターネットの仕組み	インターネットとは何かについて、歴史、しくみ、代表的サービスであるWWWの観点から学ぶ。☒ 用語：ARPAnet、IPアドレス、ドメイン名、ISP☒		0
11	インターネット上のサービス	メールがどの様にして届くか学び正しく利用できる知識を得るとともにインターネット上の色々なサービスについて学ぶ。また、インターネットへの接続方法について説明できるようにする。用語：POP,SMTP,メーリングリスト、ADSL,FTTH		0
12	情報セキュリティ	セキュリティに関する正しい知識を持ち、適切な対策を講じることができるように学習する。☒ 用語：コンピュータウイルス、ウイルス感染の予防、スパイウェア☒		0
13	不正アクセス	不正アクセスとは何か及びそれを禁止している法律について学ぶとともに不正アクセスを防ぐ技術対策を理解し実施できるようにする。 用語：不正アクセス禁止法、セキュリティホール、ファイアウォール		0
14	不正アクセスと詐欺の防止	最も利用機会の多いブラウザのセキュリティ機能を有効に使用するため、設定方法を学び利用形態に合わせた設定ができるようにする。用語：インターネットオプション、Cookie、ソーシャルエンジニアリング、フィッシング詐欺		0
15	情報モラル レポート課題	情報社会の問題点と法律、自分を守るための方法について学ぶ。☒ 用語：知的財産権、個人情報、インターネット利用上のマナー☒		0

科目名	情報倫理	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	古山 幹雄		
開講期	III		
授業概要	倫理は安定した社会を築くための基盤であり、その現代社会は情報化が進展している。本講義では情報を扱う場合にどのような倫理観が必要となるのか、またどのようにすれば安全の確保ができるのかについて学び、実社会に出た時にネット上で人に迷惑をかけないまた犯罪に巻き込まれないような知識を身につける。☒ 最終授業で提出されたレポートやe-learningの実施状況についてフィードバックを行う。		
達成目標	1.ネット社会の基本的仕組みを知り、色々なリスクの回避やリスクへの対応を出来る様にする。 2.ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連及び単位認定の最低基準 ①超スマート社会における多様な課題を自らの力で発見し、それらを分析し解決する能力を身につけている。 ②ICTの専門的知識を活用し、論理的に課題を捉え問題を解決していく力を身につけている。 単位認定の最低基準：7割を理解している必要がある。		
受講資格	地域創成2年	成績評価 方法	レポート1回：10点、e-learningの学習成果：20点、ペーパー試験：70点の合計100点満点で60点以上で合格。
教科書	教科書は指定しない。授業時プリント配布 ☒		
参考書	<情報概論の教科書>☒ 「これだけは知っておこう！情報リテラシー」 NOA出版☒		
学生への要望	日頃からハイテク犯罪や倫理の問題を意識して、ニュース等を見聞し、関心を持つこと。		
オフィスタイム	非常勤講師控室☒ 授業実施日の放課後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本講義の目的や進め方、評価方法について述べる。また、「情報倫理」とは何かについて概要を理解する。☒ e-Learningの活用について説明する。☒		0
2	ネットワーク社会	ネットワーク社会に参加するにあたって、最も基本的な心構えや注意事項を学ぶ。これにより、被害にあわない、他に迷惑をかけないためのポイントを理解する。<キーワード> 情報、倫理、サイバー犯罪☒		0
3	ネットワークとインターネット	ネットワークやインターネットの基本的な仕組みとインターネットで提供されているさまざまなサービスについて学ぶ。☒ <キーワード> ネットワーク、インターネット、ネットワーク社会、ネット上のエチケット、インターネットの代表的サービス☒		0
4	ユーザ認証とアカウント	アカウントの大切さや、より安全なパスワードの設定方法などを学ぶ。これにより、実際にパスワード設定する場面がク拉克されにくい文字列で設定できるようにする。<キーワード> アカウント、パスワード、ユーザID、ク拉克☒		0
5	情報受発信と情報検索 ①	メールを使った悪質ないたずらや犯罪も増加傾向にある。自らがメールのマナーを身につけるとともに、自己防衛のための知識を学ぶ。<キーワード> メール、チェーンメール、メーリングリスト、電子掲示板、チャット☒ パスワードチェッカー ☒ URL https://www.microsoft.com/ja-jp/security/pc-security/password-checker.aspx?wt.mc_id=site_link ☒		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	情報受発信と情報検索 ②	悪質なサイトや有害な情報も混在しており、それに対応したWebページを見る側の知識や心構えを学ぶ。☒ また、携帯電話での心構えや知識も学ぶ。<キーワード>検索エンジン、WEBページの作成、ブログ、WIKI☒		0
7	ネットワークセキュリティ	ネットワーク利用者の一人ひとりが身に着ける必要があるネットワークセキュリティについての正確な知識を学ぶ。☒ <キーワード>ネットワークセキュリティ、コンピュータウイルス、不正アクセス、DOS攻撃、踏み台、ボットネット☒		0
8	情報の流出とサイバー犯罪 レポート1	個人情報も含めた機密情報の流出は、流出時点で被害は甚大である。サイバー犯罪の防止のビデオを上映し、具体的にサーバー犯罪の危険性、防止策について学ぶ。☒ <キーワード>コンピュータウイルスと情報流出、スパイウェア、ファイル交換、記憶装置の紛失☒ レポート課題：最近のサイバー犯罪について		0
9	ネットワーク社会と生活	インターネットの普及で、様々な機関がインターネットを通じてサービスを開始した。そのため社会生活も大きく変化している。社会の変化とネットサービスについて学ぶ。 <キーワード>ISP,電子商取引、BtoB,B to C,GtoC、トレーディング、バンキング、オークション		0
10	「超スマート社会」とは	ネットワーク技術と情報技術を駆使した「超スマート社会」(Society 5.0)の実現が提唱されている。どのような社会を目指しているのかと実現する必要となるキーテクノロジーは何かについて学ぶ。 <キーワード>サイバーセキュリティ技術、IOTシステム構築技術、ビッグデータ解析技術、AI技術		0
11	「超スマート社会」の技術	「超スマート社会」を実現するために開発されている最新の技術について学習する。 <キーワード>5G,AI,ロボット,AR,VR		0
12	ネットワーク社会の問題とトラブル	ネットワークを利用することは非常に便利な面があるが、一方では、不備、脆弱面も多々ある。犯罪や被害事例を学び、自分を守る術を身につける。ネットワークの犯罪は、本人が全く認識しないまま巻き込まれることがあるが、知識の有無でかなりリスクが異なる事を理解する。☒ <キーワード>情報の信頼性、ネットワーク犯罪の傾向、オークション詐欺、不正請求☒サーバーテロ		0
13	ネットワーク社会を取り巻く法律 (全般、個人情報保護法) ①	個人生活の観点からネットワーク社会を取り巻く法律を全般的に学ぶ。生活の中で密接に関連して来る個人情報保護法について詳しく学ぶ。☒ (個人情報保護法、児童買春防止法、訪問販売法)☒		0
14	ネットワーク社会を取り巻く法律 (著作権法) ②	ビジネス社会や日常生活において密接に関係する著作権法について、最近の法律改正事項も含め学習する。☒ 授業の中では、政府が作成したビデオを活用する。☒		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	ネットワーク社会を取り巻く法律 ③ (その他のサイバー法)	社会活動の観点からネットワーク社会を取り巻く法律を学ぶ。法律の改正とネットワーク社会の発展の関係について学び、仕事の中で生かせる知識を得る。☑ (不正アクセス禁止法、電子署名法、プロバイダ法、) ☑		0

科目名	情報メディア論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	山口 猛		
開講期	III		
授業概要	高度情報化社会といわれる21世紀、我々は情報を得ることなくしてよき生活を営むことは考えられない。その情報を伝えるメディアは人間のあらゆる社会的な生活にとって、また人間らしい生活を営む上で必要不可欠なツールとなっている。メディアの歴史と現状を見つめ、充実した社会生活を営むためのメディアの利用方法を身につける。☑ ☑ 随時質問を授業内外で受け付け、対面でフィードバックを行います。☑ 位置づけ・水準 CD2133		
達成目標	1. 日常生活でメディアを活用する力を身につけること☑ 2. 情報の受け方・利用の仕方を理解すること☑ 3. 各種メディアの特性を理解すること☑ ☑ 単位認定の最低基準：最終レポートおよび新聞スクラップブックの提出☑ ディプロマポリシーとの関係：創造的思考力、課題解決力		
受講資格	特になし	成績評価 方法	達成目標の到達度合いは、授業態度・課題・レポートにより評価する。☑ 授業態度20%、実習課題（新聞スクラップブック含む）30%、レポート50%とする。☑
教科書	担当教員作成のプリント		
参考書	なし		
学生への要望	テレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどで毎日必ずニュースに触れること。随時、社会の出来事に関する感想・意見を求めるので積極的に発言すること。☑		
オフィスタイム	月曜日2・4限, 芸術館2階 No.2生芸科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス メディアの歴史	メディアとは何か、生活情報の入手手段としてのメディアはいかに変遷してきたか、日本におけるメディアの歴史と展開を見る。またマスメディアの現状と日常生活との結びつきを考える。	ガイダンスで説明をする新聞スクラップブックの準備を行う。	30
2	マスメディアの理解 -新聞- (1)	最も古いマスメディアである新聞の歴史と、情報提供者として果たしてきた役割を見る。また新聞の紙面構成とニュース記事のスタイル、読み方などを実際の新聞を使って説明する。	新聞スクラップブックを追加する。また、新聞メディアの特徴を復習する。	60
3	マスメディアの理解 -新聞- (2)	地元新聞社の担当者をゲストに迎え、新しい時代の新聞、読者の新聞への期待と新聞社の対応について理解する	新聞スクラップブックを追加する。ゲストから学んだ内容を復習する。	60
4	マスメディアの理解 -テレビ- (1)	日常生活の情報入手源として最も身近なテレビ・ラジオの現状とシステム、重要な社会情報としてのニュース及びニュース番組の制作プロセスを解説する。また視聴者の放送メディア利用スタイルを見つめ、デジタル時代の利用法について考える。	新聞スクラップブックを追加する。また、テレビメディアの特徴を復習する。	60
5	マスメディアの理解 -テレビ- (2)	県内のテレビ局を訪れ、テレビ番組の制作から放送までのシステムを学ぶとともに、情報の送り手（アナウンサー、ディレクター、記者）との懇談を通して、情報の受け方、利用の仕方を学ぶ。	新聞スクラップブックを追加する。また、テレビ局訪問の結果をまとめる。	60
6	デジタルネイティブ世代の ニューメディア (1)	デジタルネイティブ世代（生まれた時からインターネットやパソコンのある生活環境の中で育ってきた世代）が馴染みのある従来のマスメディアに問われないニューメディアの理解を目的に、歴史と特徴を説明する。	新聞スクラップブックを追加する。また、自分のスマホ利用等の生活を振り返りて至るネイティブの特性の理解を深める。	60
7	デジタルネイティブ世代の ニューメディア (2)	ソーシャルメディアの情報発信手段として重要視されているYoutube等のインターネット動画配信について学び、従来のマスメディアとの比較を行い、メディアが持つ目的や役割の違いを理解する。	新聞スクラップブックを追加する。また、ニューメディアとマスメディアの特徴の違いを振り返る。	60
8	広告の役割 (1)	身近なスーパー等の流通や販売に関わる広告の役割を学び、消費者心理に関して理解する。	新聞スクラップブックを追加する。また、自身のSNS利用を振り返り、情報の発信について長短所の理解を深める。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	広告の役割（2）	身近なスーパー等の流通や販売に関わる広告の役割を学び、消費者心理に関して理解する。（前回の続き）	新聞スクラップブックを追加する。また、新メディアへの柔軟な対応を心がける。	60
10	メディアの作成（1）	従来のメディアと、新しいメディアを融合させた作品を制作する。具体的には、ある共通テーマを設定したオリジナルチラシ（紙媒体）を作成するグループワークを行う。	新聞スクラップブックを追加する。また、グループワーク結果のノートを振り返る。	60
11	メディアの作成（2）	第10回の作業を継続し、作品を完成させる。	新聞スクラップブックを追加する。また、作品の作業進捗に合わせて、作業を進めておく。	60
12	メディアの作成（3）	第11回の作業を継続し、作品を完成させる。	新聞スクラップブックを追加する。また、プレゼンテーション練習を行う。	60
13	メディアの評価	第12回で作成したチラシのプレゼンテーションを行う。チラシを手にした相手にどの程度、正確に情報伝達が達成できたか、魅力をアピールできたかなど、作成したメディアが果たした能力を評価する。	新聞スクラップブックを追加する。	60
14	情報メディアの将来	メディアは、インターネットの普及と情報媒体の高性能化により、今後も進化が進んでいくと予想される。現時点で近い将来に世に出てくるであろう情報メディアをまとめたビデオ教材の視聴と解説により、情報メディアへの柔軟な理解を行う。	新聞スクラップブックを追加する。また、将来のメディアについての理解を深め、柔軟な対応の有用性を理解する。	60
15	総合まとめ	課題レポート「日常生活にメディアをどう活かすか」を作成。授業の感想と質疑応答	新聞スクラップブックを追加する。また、課題レポートのテーマについて事前に考えをまとめる。	60

科目名	地域社会と食文化	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	鈴木 奈津子		
開講期	I		
授業概要	福島県の地域的特性である会津地方、中通地方、浜通り地方の3地域の食文化について理解するとともに、地域に根差した伝統料理について実習を交えながら理解を深める。また「地域社会」と「食」の取組みについて事例調査を通して、食文化を次世代に伝え継ぐための方法をレポートにまとめる。提出されたレポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行う。☑ 位置づけ・水準 CD2180		
達成目標	①福島県内の文化について理解する。☑ ②地域社会における食への取組みについて理解を深める。☑ ③「地域社会と食文化」としてプレゼンテーション発表会を実施する。☑ ☑ 単位認定の最低基準：内容の8割を理解していること☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解、主体的行動力		
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	課題の取組み30点、授業態度30点、プレゼンテーション発表内容40点の結果を総合的に判断し、60点以上で合格とするが、授業理解度は8割以上を求める。
教科書	特になし。授業内容について資料を配布する。		
参考書	必要に応じて連絡する。		
学生への要望	グループでの学習が主となるため、無断で欠席しないこと。☑ 調理実習時は、注意事項をよく守り、衛生的な配慮と安全に心がけること。		
オフィスタイト	水曜日と木曜日の16:00～17:05☑ 研究室：家政学館1階「No.1給食管理研究室」		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	地域社会と食文化ガイダンス	地域社会と食文化の授業目的について理解を深めるとともに、班構成を行い、グループ学習に備える。また今後のスケジュール確認等を行う。	福島県について関心を深める。	30
2	福島県の地域的特性について	福島県の地域的特性について知り、県内を縦貫する2つの山脈によって分けられる「会津地方」「中通地方」「浜通り地方」の3つの地域それぞれの特徴について理解する。	それぞれの出身地および現在の居住地における地域的特性について調べる。	60
3	福島県の食文化の特徴について	前回の授業で学んだ地域的特性から発祥し、今日まで伝承されている食文化の特徴について理解するとともに、地域社会での取組みについて考える。	家庭において食されてきた伝統料理が、いつ、どのような時に食べていたか振り返る。	60
4	各地域における「食」への取組みについて(1)	各グループ毎に担当地域を決定し、その地域で伝承されてきている料理について調べるとともに、地域社会との関わり方についての事例について調査する。	決定した地域について各自調査を進める。	60
5	各地域における「食」への取組みについて(2)	前回調査した「地域社会」と「食」の関わり方についての事例を参考に、グループ内で地域社会と食を繋げる新しい連携方法について考える。	地域社会と食文化について理解し、自習からの実習について確認する。	60
6	調理の基本 計器と計量	生活に必要な基本となる正しい計量について、台秤、電子秤、計量カップ、スプーン等を使用して、調味料や食品の概量を理解する。これらをもとに、10、11回の調理実習に備える。 《参考》DVD：「包丁の使い方」	これまでの家庭科の授業で学んだ基本的な調理技術を確認する。	60
7	福島県の郷土料理について	既習の福島県内の郷土料理より代表的な料理を取り上げ、材料や調理方法について理解し、次回からの調理実習に備える。	福島県の郷土料理について理解し、次週からの実習について確認する。	60
8	福島県の郷土料理(1)	7回目の授業で学んだ内容をもとに、実習を行う 会津地方の料理 《実習名》こづゆ 他	当日の実習内容について資料を確認する。終了後、試食後の感想をプリントにまとめる。	60
9	福島県の郷土料理(2)	7回目の授業で学んだ内容をもとに、実習を行う 中通地方の料理 《実習名》凍み餅料理 他	当日の実習内容について資料を確認する。終了後、試食後の感想をプリントにまとめる。	60
10	福島県の郷土料理(3)	7回目の授業で学んだ内容をもとに、実習を行う 浜通り地方の料理 《実習名》さんまのぼうぼう焼き 他	当日の実習内容について資料を確認する。終了後、試食後の感想をプリントにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	新しい食文化について	本学の所在地である「郡山市」における、新しい食文化への取り組みについて理解し、次世代に伝え継ぐための方法について考えた内容をレポートにまとめ、提出する。	食文化を次世代に伝え継ぐ方法について検討する。	60
12	地域社会と食文化につて	これまでに学んだ内容をふまえ、グループの担当地域について「地域社会と食文化」としてプレゼンテーション発表会を実施する。これまでに調査した内容についてまとめるとともに、追加の調査を重ねながら、発表会へ向けて準備を進める。	授業内で分担した調査内容を確認し、次週の授業で報告できるようまとめる。	60
13	プレゼンテーション準備(1)	各グループごとに発表会の準備を行う。	各グループで決定した調査地域について追加調査を行う。	60
14	プレゼンテーション準備(2)	前回に続き、グループごとに発表会の準備を進めるとともに、発表前の最終確認を行う。	発表前の最終調整を行うとともに、自分の発表原稿を確認する。	60
15	「地域社会と食文化」 プレゼンテーション発表会	各グループで調査した内容をパワーポイントを使用して発表を行う。各グループの発表内容と感想をまとめてレポートにして提出する。 《課題》発表の概要と感想のレポート	各グループの発表内容について振り返り、今後の授業や卒業研究活動の参考となるようまとめる。	30

科目名	衣生活文化論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	田辺 真弓		
開講期	Ⅱ		
授業概要	衣服は人がそれを装うときに成り立つものであり、衣服の主人公は人間である。衣服にはいろいろな時代背景や社会状況の中で、人間の様々な心情が託されてきた。本講義では、衣服を人間の存在と結び付いて長い間に培われてきた文化のひとつとして捉え、衣服が着る人の心とどのようにかかわっているかを考える。衣服の機能、衣服への感情移入、衣服の流行、制度と慣習、日本と西洋との色彩感情の違い等に注目する。さらに服飾研究の進め方について例を挙げて解説し、服飾研究に対する関心を高める。☒ 最終授業で全体に対するフィードバックを行います。		
達成目標	目標は☒ ①身近な生活圏の衣生活文化を理解し、地域社会に貢献できる力を身につけている。☒ ②柔軟で応用力のある創造的思考力を身につけている。☒ ③現代の衣生活における多様な課題を発見し、分析・解決する能力を身につけている。☒ ④衣生活文化に関する専門的知識を基に論理的に課題を探索し、他者と協調しつつ、主体的に問題を解決していく能力を身につけている。☒ 単位認定の最低基準は内容の7割を理解していること。☒		
受講資格	地域創成学科 1年生	成績評価 方法	達成目標の到達度合いは課題レポート・期末筆記試験により確認と評価を行う。☒ ①課題レポート 2回 20点☒ ②期末筆記試験 80点☒ 60点以上を合格点とする。
教科書	教科書は用いず、資料を配布する。		
参考書	増田美子編『日本衣服史』吉川弘文館、小池三枝著『服飾文化論』光生館、小池三枝著『服飾の表情』勁草書房、徳井淑子著『服飾の中世』勁草書房、徳井淑子著『ヨーロッパ服飾史』河出書房新社、『衣服の百科事典』丸善出版株式会社・平成27年、一般社団法人日本家政学会編『被服学事典』朝倉書店・平成28年、その他は授業で紹介する。		
学生への要望	衣生活文化に関心をもつとともに、授業で紹介した参考文献にはできるだけ目を通し、自ら調べようとする姿勢を身につけること。		
オフィスタイム	教務部非常勤講師控室 金曜日Ⅱ時限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業計画の提示 日本風俗美術館服飾解説	授業計画を提示し、授業目標ならびに授業内容について説明する。☒ 図書館1階の日本風俗美術館に展示されている風俗人形の服飾、ならびに時代背景についての解説を聴き、日本の服飾についての関心を高めるとともに理解を深める。☒	日本風俗美術館見学の感想をまとめる	60
2	衣服の機能 表現と感情移入	衣服が持つ様々な機能について知る。また、衣服の機能のひとつである社会性について考えるとともに、衣服による表現と衣服への感情移入について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60
3	着心地	着心地には物理的な着心地と、心理的な着心地とがある。ここでは衣服を着るとき心の状態を通して、個人・集団・文化のレヴェルの着心地について知り、衣服が着る人の心にどのように働きかけているかを考える。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60
4	衣服の類型	衣服の3つの基本的類型である懸衣・寛衣・窄衣について学び、それらの類型が服装史や民族服にどのように出現しているかを知る。さらに、現在の衣服にもそれらの類型がどのように受け継がれているかを学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60
5	衣服の流行	衣服の流行はどのように発生して広がり、交代していくか、また、それに付随してどのような現象が現れるか、また、それはどのような意味をもっているかについて、文献および絵画等の資料を参照しながら学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60
6	衣服の美感	日本の近世の美感である「だて」と「いき」とはどのようなことを表し、服飾の上にどのように現れているのかを絵画資料、図版資料、文献等を通して知る。また、あわせて西洋の美感である「ダンディズム」について、それが服飾上にどのように現れ、その後の紳士服に及ぼした影響を知るとともに、その精神主義について理解する。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	衣服と色彩	『ファッションプライム』第4集「色彩」を視聴し、時代や民族による色彩感情の違い、古代から用いられてきた天然染料と近代になって目覚ましく発展した合成染料、様々な染色技法についての知識を得、色彩についての理解を深める。☒	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60
8	日本の色と西洋の色	日本の色が季節感と密接に結び付いているのに対して、西洋の色は季節感とほとんど結び付いていないこと、また、日本と西洋では色の意味や色数の用い方に大きな違いがあることを知り、日本と西洋の色彩感覚が異なっていることを理解する。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60
9	被服材料の種類とその歴史	『ファッションプライム』第3集「素材」を視聴し、世界各地で取材した貴重な映像を通して、天然繊維の種類と特徴、その歴史を知り、被服材料についての知識を深める。さらに、化学繊維が開発された経緯と、その後、その機能が目覚ましく発展し、現在では様々な分野で用いられていることを知る。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60
10	「延喜式」織部司	大蔵省の管轄下に設けられていた織部司は天皇・皇后の御衣の材料となる織物を生産していたことで知られている。当時の織物技術と生産、さらに、七夕の行事である乞巧奠について、文献を手がかりに学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60
11	「むしのたれぎぬ」と苧麻	平安時代から中世において寺社参詣の際の旅装として用いられた「むしのたれぎぬ」は文学作品や絵巻物にしばしば登場している。これがどのような意味をもつ衣服であったかを知るとともに、その材料である苧麻について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60
12	「近世小袖」と町人服飾	近世小袖文様の流行と町人文化が花開いた元禄期の町人服飾について、雛形本、絵画資料、文学作品等を基に学び、服飾と当時の人々の生活との関わりを知る。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60
13	文明開化とファッション	明治維新後の文明開化期は服飾にも大きな変化をもたらした。日本において洋服がどのように用いられるようになっていったかを絵画や写真資料ならびに文献等を基に年代を追って見ていき、当時の人々が衣服についてどのような思いをもち、どのような衣生活をしていたのかを知る。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60
14	洋風の防寒衣料	近代になって西洋から洋服とともに羊毛織物もたらされると、防寒衣料として「肩掛（ショール）」や「赤毛布（あかげつと）」が流行した。また、和服に組み合わせて着用する外套として、男性の「二重廻し」、女性の「東コート」が誕生し、大流行した。西洋の衣服を日本風にアレンジしながら、衣生活に取り入れていった日本人の知恵を知る。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60
15	日本の伝統的な無駄のない衣生活	日本のきものは直線裁ちで、平面的に縫製されていたことから、季節ごとにきものをほだいて繰り返し、縫い直すことが日常的に行われてきた。そのため、衣料を最後まで、即ち「ぼろ」になるまで使い切るという衣生活が実践されてきた。更衣（ころもがえ）とそれに伴う無駄のない衣生活について、文学作品や図版資料を基に考える。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60

科目名	家庭福祉論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	知野 愛		
開講期	IV		
授業概要	子ども家庭福祉を中心に学びます。現代の親子が置かれている状況、少子高齢社会の展望、子ども家庭福祉の基本的枠組み、問題解決に向けての取り組みの方向、子ども子育て新制度、子ども虐待の防止、子どもの貧困と地域社会などを学びます。レポートを13回目授業時に提出、15回目の授業で返却しフィードバックを行います。☑ 位置付け・水準:CD2141		
達成目標	最終レポートを指定の通りに提出すること。単位認定の基準:内容の8割以上を理解していること。ディプロマ・ポリシーとの関係: 知識理解、課題解決力		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	レポート(100点)☑
教科書	レジュメを配布する		
参考書	随時提示する		
学生への要望	興味をもったテーマを積極的に調べてみて下さい。		
オフィスタイム	木曜Ⅱ限、金曜Ⅲ限、場所は芸術館1階 地域創成学科研究室N0.1		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業概要、目標、成績評価法、授業ガイダンスを実施する。	復習：配布資料や関連書籍を読む。予習：関連書籍を読み、テーマに関連する新聞記事などがあれば保存しレポート作成に備える。	120
2	現代の親子が置かれている状況	現代の親子が置かれている社会的状況について理解する。	復習：配布資料や関連書籍を読む。予習：関連書籍を読み、テーマに関連する新聞記事などがあれば保存しレポート作成に備える。	120
3	少子高齢社会の展望	少子高齢社会の現状を理解し今後の展望を考察する。	復習：配布資料や関連書籍を読む。予習：関連書籍を読み、テーマに関連する新聞記事などがあれば保存しレポート作成に備える。	120
4	子ども家庭福祉の基本的枠組み	子ども家庭福祉の基本的枠組みを理解し社会資源や援助技術等について理解する。	復習：配布資料や関連書籍を読む。予習：関連書籍を読み、テーマに関連する新聞記事などがあれば保存しレポート作成に備える。	120
5	問題解決に向けての取り組みの方向	家庭を取り巻く社会状況、地域社会との関係等について理解し考察する。	復習：配布資料や関連書籍を読む。予習：関連書籍を読み、テーマに関連する新聞記事などがあれば保存しレポート作成に備える。	120
6	子ども・子育て支援新制度	子ども・子育て支援新制度の全体像の理解と幼保連携型認定子ども園について理解し考察する。	復習：配布資料や関連書籍を読む。予習：関連書籍を読み、テーマに関連する新聞記事などがあれば保存しレポート作成に備える。	120
7	地域子ども・子育て支援事業	子ども・子育て支援法の重要なポイントの一つが地域子育て支援拠点事業である。それについて調べてまとめたレポートを発表する。	復習：配布資料や関連書籍を読む。予習：関連書籍を読み、テーマに関連する新聞記事などがあれば保存しレポート作成に備える。	120
8	子ども虐待の防止(1)	子ども虐待の状況、子ども虐待への対応、児童相談所の対応について考察する。	復習：配布資料や関連書籍を読む。予習：関連書籍を読み、テーマに関連する新聞記事などがあれば保存しレポート作成に備える。	120
9	子ども虐待の防止(2)	子ども虐待と地域の取り組みについて理解し考察する。	復習：配布資料や関連書籍を読む。予習：関連書籍を読み、テーマに関連する新聞記事などがあれば保存しレポート作成に備える。	120
10	子ども虐待の防止(3)	子ども虐待防止支援の取り組みと課題について理解し考察する。	復習：配布資料や関連書籍を読む。予習：関連書籍を読み、テーマに関連する新聞記事などがあれば保存しレポート作成に備える。	120
11	子どもの貧困と地域社会(1)	子どもの貧困の状況を知り、具体的事例について理解し考察する。	復習：配布資料や関連書籍を読む。予習：関連書籍を読み、テーマに関連する新聞記事などがあれば保存しレポート作成に備える。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	子どもの貧困と地域社会(2)	子どもの貧困、子ども食堂の動向についてレポートをまとめ、発表し意見交換する。	復習：配布資料や関連書籍を読む。予習：関連書籍を読み、テーマに関連する新聞記事などがあれば保存しレポート作成に備える。	120
13	まとめ・レポート作成	授業で扱ったテーマの中から各自テーマを決め、レポートを作成する。指定の通りの方法で提出する。	復習：レポートを指定の通りに提出できたか確認する。予習：関連書籍を読む。	120
14	これからの家庭福祉の展望	今後の家庭福祉の展望、重要課題等について理解する。	復習：配布資料や関連書籍を読む。予習：関連書籍を読む。	120
15	振り返り、まとめ	授業の要点確認。レポートにコメントをつけたものを返却する。	復習：配布資料や書籍を読み、これまでの学びを振り返る。	120

科目名	ビジネスマナー	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	知野 愛		
開講期	II		
授業概要	就職活動を視野に入れ、社会人として働く際のビジネスマナーを様々な角度から実践的に学ぶ。最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☑ 位置づけ・水準:CD2134		
達成目標	①各回の授業で出される課題に挑戦し、授業受講前よりも自信をもって就職試験及び面接に臨み自分の進路を切り拓くこと。②各回の授業で課題を遂行し、最終的に指定の様式でレポートを提出すること。単位認定の最低基準:指定の期日にレポートを提出し、課題に対して8割以上の理解度であること。ディプロマ・ポリシーとの関係:3)課題解決力、4)主体的行動力		
受講資格	地域創成学科 1年生	成績評価 方法	①レポート(80点)、②課題達成態度(20点)
教科書	随時資料を配布		
参考書	随時提示する		
学生への要望	積極的な姿勢で授業に臨みましょう		
オフィスタイト	知野木曜Ⅱ限,金曜Ⅲ限、芸術館1階地域創成学科研究室No.1☑ 山口月曜Ⅳ限,火曜Ⅱ限、芸術館2階地域創成学科研究室No.3☑ 仲田月曜Ⅳ限,火曜Ⅳ限 創学館4階N0,4研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス (知野、山口、仲田)	授業の進め方をシラバスに基づいて説明する。	資料配布物などをよく読み、次回の予習をする。	120
2	マインドマップ (山口)	自己形成に向けてマインドマップを作成する。	復習：授業で配布した資料などをよく読んで復習し気づいたことをノートに書く。予習：次回のテーマからキーワードを2つ以上調べておく。課題が出た場合はそれを完成させ提出する。	120
3	マインドマップを実現するために何をするか (山口)	第1回で作成したマインドマップを実現するため何をすればよいのかグループディスカッションする。	復習：授業で配布した資料などをよく読んで復習し気づいたことをノートに書く。予習：次回のテーマからキーワードを2つ以上調べておく。課題が出た場合はそれを完成させ提出する。	120
4	対人関係の築き方☑ (齋藤美)☑	初対面の人への自己紹介の仕方、わかりやすい話し方というものを学ぶ。	復習：授業で配布した資料などをよく読んで復習し気づいたことをノートに書く。予習：次回のテーマからキーワードを2つ以上調べておく。課題が出た場合はそれを完成させ提出する。	120
5	就職活動対策(1)求人状況・求人票の見方 (山口)	本学の求人状況の理解、求人票の見方および企業研究について。	復習：授業で配布した資料などをよく読んで復習し気づいたことをノートに書く。予習：次回のテーマからキーワードを2つ以上調べておく。課題が出た場合はそれを完成させ提出する。	120
6	就職活動対策(2)履歴書の書き方(知野)	本学の履歴書を記入する際の注意事項、応募書類を送付する際の送付状の書き方を学ぶ。	復習：授業で配布した資料などをよく読んで復習し気づいたことをノートに書く。予習：次回のテーマからキーワードを2つ以上調べておく。課題が出た場合はそれを完成させ提出する。	120
7	就職活動対策(3)面接対策(知野、山口、仲田)☑	面接の受け方、自己アピールの仕方等について模擬面接で実践的に学ぶ。	復習：授業で配布した資料などをよく読んで復習し気づいたことをノートに書く。予習：次回のテーマからキーワードを2つ以上調べておく。課題が出た場合はそれを完成させ提出する。	120
8	就職活動対策(4)試験対策(知野)☑	就職試験対策として試験問題に挑戦し、実践的に学ぶ。	復習：授業で配布した資料などをよく読んで復習し気づいたことをノートに書く。予習：次回のテーマからキーワードを2つ以上調べておく。課題が出た場合はそれを完成させ提出する。	120
9	ビジネスマナー(1)社会人のマナー(仲田)	テキストや検定試験の問題を参考に、社会人として大切なマナーについて考える。	復習：授業で配布した資料などをよく読んで復習し気づいたことをノートに書く。予習：次回のテーマからキーワードを2つ以上調べておく。課題が出た場合はそれを完成させ提出する。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	ビジネスマナー(2)接遇のマナー (仲田)	好感の持たれる服装・身だしなみ・立ち居振る舞いについて理解するとともに、来客対応の基本マナーについて学ぶ。	復習：授業で配布した資料などをよく読んで復習し気づいたことをノートに書く。予習：次回のテーマからキーワードを2つ以上調べておく。課題が出た場合はそれを完成させ提出する。	120
11	ビジネスマナー(3)交際のマナー (仲田)	社会人として身に着けておくべき慶事、弔事に際してのマナーについて学ぶ。	復習：授業で配布した資料などをよく読んで復習し気づいたことをノートに書く。予習：次回のテーマからキーワードを2つ以上調べておく。課題が出た場合はそれを完成させ提出する。	120
12	ビジネスマナー(4)ビジネス文書のマナー(山口)	ビジネス文書の書き方、社内連絡に関わるマナー等を学ぶ。	復習：授業で配布した資料などをよく読んで復習し気づいたことをノートに書く。予習：次回のテーマからキーワードを2つ以上調べておく。課題が出た場合はそれを完成させ提出する。	120
13	ビジネスマナー(5)職場の人間関係(知野)	職場での人間関係上の悩み、ハラスメントなどに遭遇した際の対処方法について学ぶ。	復習：授業で配布した資料などをよく読んで復習し気づいたことをノートに書く。予習：最終回の発表のための準備をする。	120
14	まとめ・振り返り☑ (知野、山口、仲田)	指定の様式、期日を守り、レポートを提出する。	復習・予習:まとめ振り返り、レポート作成。	120
15	レポート返却、フィードバック (知野、山口、仲田)	レポートを返却しフィードバックする。	配布資料などを読み全体の振り返りを行う。関連書籍を読み、さらに理解を深める。	120

科目名	ビジネスホスピタリティ		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	知野 愛			
開講期	II			
授業概要	この授業では、就職活動や社会人となってから役に立つように、ビジネス面を意識したホスピタリティの精神の重要性や実践例を具体的に学ぶ。吉田いくよ先生は現在アナウンス業の会社取締役としての経験を活かして、社会人としての心構えや電話対応の仕方などの授業を行う。知野は元日本看護協会調査研究室での経験を活かし授業ガイダンス・全体的運営に携わる。【実務経歴】(吉田)有限会社ヴォイス・プロ代表取締役・元福島中央テレビアナウンサー、(知野)元日本看護協会調査研究室勤務。最終授業で課題全体に対するフィードバックを行います。☒ 位置づけ・水準:CD2135			
達成目標	授業目標は、将来どのような職に就職しても重要となるホスピタリティの精神を学び実践できる人になること。達成目標は、授業で学んだ内容をパワーポイントを使用しプレゼンテーション用資料としてまとめることである。☒ 単位認定の最低水準:内容の8割を理解していること。ディプロマ・ポリシーとの関係:1)知識理解、3)課題解決力、4)主体的行動力☒			
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	①プレゼンテーション資料提出(80点)、②各講師への提出物(20点)	
教科書	指定しない。レジュメを配布する。			
参考書	必要に応じて提示する。			
学生への要望	最終的にパワーポイント資料をグループウェアで提出することになります。そのため、少しずつ作成しておくことをお勧めします。			
オフィスタイム	木曜II限、金曜III限、場所:芸術館1階地域創成学科研究室No.1			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス、ホスピタリティを学ぶ意義(知野)	授業の進め方、今後の予定をシラバス配布の上で確認する。「ホスピタリティ」の重要性を文献から紹介し、ホスピタリティの重要性を考える。【キーワード:ユニバーサルデザイン・ユニバーサル社会】☒	復習:シラバスに記した内容で興味をもったワードを調べる(図書館で関連書籍を読むことを推奨する)。	120
2	社会人としての心構え(吉田いくよ先生1)☒	社会人としての心構え、言葉遣いの基本と敬語、クッション言葉、職場での態度、心得ておくべき点を具体的に学ぶ。(「授業概要」記載の実務経歴による)【キーワード:クッション言葉】	予習:社会人としての心構えに関する文献を読む(図書館で文献を調べ借りて読むことを推奨)。復習:配布資料を読み直し興味をもったワードを検索したり書籍を読んだりして知識を深める。	120
3	パフォーマンス技術を磨く☒(吉田いくよ先生2)☒	自己表現の重要性。自分の思いをいかに相手に伝えるか、様々な年齢の人々とコミュニケーションをとれるようになる。(「授業概要」記載の実務経歴による)	予習:社会人としての心構えに関する文献を読む(図書館で文献を調べ借りて読むことを推奨)。復習:配布資料を読み直し興味をもったワードを検索したり書籍を読んだりして知識を深める。	120
4	電話対応の仕方☒(吉田いくよ先生3)☒	電話のかけ方・受け方の基本(1)、伝言メモの取り方、クレーム対応の仕方、伝言依頼電話への対応等を実践的に学ぶ。(「授業概要」記載の実務経歴による)	予習:社会人としての心構えに関する文献を読む(図書館で文献を調べ借りて読むことを推奨)。復習:配布資料を読み直し興味をもったワードを検索したり書籍を読んだりして知識を深める。	120
5	ビジネスシーンでの様々な留意事項(吉田いくよ先生4)	電話のかけ方・受け方の基本(2)、伝言メモの取り方、クレーム対応の仕方、伝言依頼電話への対応等を実践的に学ぶ。(「授業概要」記載の実務経歴による)	予習:社会人としての心構えに関する文献を読む(図書館で文献を調べ借りて読むことを推奨)。復習:配布資料を読み直し興味をもったワードを検索したり書籍を読んだりして知識を深める。	120
6	看護や介護現場でのホスピタリティを学ぶ(知野)	看護や介護の場で実施されている様々な事例を紹介し、真のホスピタリティの実践とは何かを考える。【キーワード:ユマニチュード】	予習:社会人としての心構えに関する文献を読む(図書館で文献を調べ借りて読むことを推奨)。復習:配布資料を読み直し興味をもったワードを検索したり書籍を読んだりして知識を深める。	120
7	衣服とホスピタリティ☒(田邊真弓先生1)☒	社会人として知っておくべき冠婚葬祭時の服装やマナー、衣服とホスピタリティについて学ぶ。	予習:社会人としての心構えに関する文献を読む(図書館で文献を調べ借りて読むことを推奨)。復習:配布資料を読み直し興味をもったワードを検索したり書籍を読んだりして知識を深める。	120
8	コミュニティでのホスピタリティ☒手作り品でおもてなし(田邊真弓先生2)☒	高齢社会において顧客が高齢者であることも多い。高齢者が多く集まるコミュニティなどで役立つ手芸作品を作り、人々の心を結び付けるものは何かを考える。	予習:社会人としての心構えに関する文献を読む(図書館で文献を調べ借りて読むことを推奨)。復習:配布資料を読み直し興味をもったワードを検索したり書籍を読んだりして知識を深める。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	ホテルにおけるホスピタリティ ☒ (片桐栄子氏)☒	ホテル・旅館等の宿泊施設での「おもてなし」の実践例を聞き、マナーについても学ぶ。	予習:社会人としての心構えに関する文献を読む(図書館で文献を調べ借りて読むことを推奨)。復習:配布資料を読み直し興味をもったワードを検索したり書籍を読んだりして知識を深める。	120
10	〃	ホテルでのホスピタリティの実践を学び、ホスピタリティとは何かを考える。	予習:社会人としての心構えに関する文献を読む(図書館で文献を調べ借りて読むことを推奨)。復習:配布資料を読み直し興味をもったワードを検索したり書籍を読んだりして知識を深める。	120
11	海外で学んだ思いやりの心、支援学校で子ども達と接して思うこと(ゲストスピーカー・郡山支援学校教諭中地朋子氏)	海外の子どもたちと接した経験を通じて、相手を思いやる心とは何か、また、支援学校教諭の経験を通して学生達に伝えたいことについてお話をうかがう。	予習:社会人としての心構えに関する文献を読む(図書館で文献を調べ借りて読むことを推奨)。復習:配布資料を読み直し興味をもったワードを検索したり書籍を読んだりして知識を深める。	120
12	パワーポイント作成(1)	授業で学んだ内容をまとめ、各自で文献調査したことも加えて「ビジネスとホスピタリティ」という題名で資料を作成する(1)	予習:社会人としての心構えに関する文献を読む(図書館で文献を調べ借りて読むことを推奨)。復習:配布資料を読み直し興味をもったワードを検索したり書籍を読んだりして知識を深める。	120
13	パワーポイント作成(2)	「ビジネスとホスピタリティ」というプレゼンテーション用資料を作成する(2)	復習、予習:「ビジネスとホスピタリティ」というテーマでプレゼンテーションできるように、パワーポイント10枚程度にまとめる。	120
14	パワーポイント代表者発表	代表者が「ビジネスとホスピタリティ」というプレゼンテーションをする。	復習、予習:「ビジネスとホスピタリティ」というテーマでプレゼンテーションできるように、パワーポイント10枚程度にまとめる。	120
15	フィードバック、まとめ	課題の提出状況、フィードバックを行う。学んだ内容を振り返りまとめる。	指定の日時までにプレゼンテーション資料のデータを提出する。	120

科目名	ボランティア活動	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	山口 猛		
開講期	I		
授業概要	講義においてはボランティア活動の意義やマナーについて学ぶとともに、ボランティア団体の実情を知り、理解を深める。実習では学科で推奨あるいは紹介するボランティア活動に全員で参加するものと、各自の希望でボランティア先を選択して参加の二通りの方法によって活動し、体験を通してボランティア精神を身につける。また活動の成果を発表する。☑ ☑ 随時、授業内で問題を受け付け、対面でフィードバックを行います。☑ また、各種提出物への添削・コメントを通じてフィードバックを行います。☑ ☑ 位置づけ・水準 CD2136		
達成目標	・学科主催ボランティア1回以上、自主参加ボランティアを2回以上実施する☑ ・知らない人とのコミュニケーションを取り、協調性を意識した作業ができる☑ ・ボランティア精神を理解し、自主的に行動する意識を持つ☑ ☑ 単位認定の最低基準：年度内を活動期限とした、学科主催ボランティアを1回以上及び自主参加のボランティアを2回以上実施するための計画を立てる☑ ディプロマポリシーとの関係：課題解決力、主体的行動力		
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	年度内を活動期限とした、学科主催ボランティアを1回以上及び自主参加のボランティアを2回以上実施するための計画を立てることができる。＊ボランティア実施後は、報告書を記載して提出する。
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	色々なボランティア活動に参加し、ボランティア活動をする事に慣れてください。☑ 情報処理士（領域3）必修科目のため、情報処理士ユニット選択の場合、必ず履修すること。		
オフィスタイム	コーディネート担当の山口が全体の質問を受け付ける。☑ 月曜日 2・4限, 芸術館2階 No.2生芸科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・一般ボランティア活動の紹介 4/9(火)V	青少年向けボランティア事業とボランティアセミナーの紹介を通し、ボランティア活動を行う基礎を作る。(国立磐梯青少年交流の家よる講演)	自分がボランティアに参加するための心構えを考える	60
2	ボランティア計画方法 4/16(火)V	ボランティア活動の、授業内での管理方法や、ボランティアの参加計画を知る。	ボランティア実施スケジュールを大枠を組み立てる	60
3	ボランティアの意義を考えるグループワーク（作業） 4/23(火)V	ボランティア活動の意義の議論・まとめ・発表を行うグループワークを実施する。	グループでボランティアに関する理解を深めた結果を振り返り、自分の役割を理解する。	60
4	ボランティアの意義を考えるグループワーク（発表） 5/7(火)V	グループごとに発表を行い、ボランティア精神の共有を行い、授業全体のまとめを行う。	グループでボランティアに関する理解を深めた結果を振り返り、自分の役割を理解する。	60
5	体験活動推進ボランティア講習（1日目）5/18(土)※第1回就職模試	国立磐梯青少年交流の家で実施される、ボランティアセミナーを受講する。1泊2日予定。	実施要項を理解し、事前準備を行う。	60
6	体験活動推進ボランティア講習（2日目）5/19(日)	国立磐梯青少年交流の家で実施される、ボランティアセミナーを受講する。1泊2日予定。	ボランティア実施報告書を作成	30
7	自主参加のボランティア活動の実施 5/21(火)V	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。☑ 別途計画表で実施	ボランティア実施報告書を作成	30
8	自主参加のボランティア活動の実施 5/28(火)V	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。☑ 別途計画表で実施	ボランティア実施報告書を作成	30
9	自主参加のボランティア活動の実施 6/4(火)V	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。☑ 別途計画表で実施	ボランティア実施報告書を作成	30
10	自主参加のボランティア活動の実施 6/11(火)V	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。☑ 別途計画表で実施	ボランティア実施報告書を作成	30
11	自主参加のボランティア活動の実施 6/18(火)V	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。☑ 別途計画表で実施	ボランティア実施報告書を作成	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	自主参加のボランティア活動の実施 6/25(火)V	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。☑ 別途計画表で実施	ボランティア実施報告書を作成	30
13	自主参加のボランティア活動の実施 7/2(火)V	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。☑ 別途計画表で実施	ボランティア実施報告書を作成	30
14	自主参加のボランティア活動の実施 7/9(火)V	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。☑ 別途計画表で実施	ボランティア実施報告書を作成	30
15	活動まとめ 7/16(火)V	半期で実施したボランティア活動のまとめを行う	授業内で自分のボランティア成果を発表するための準備	60

科目名	日本文化史	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	佐藤 愛未		
開講期	I		
授業概要	日本社会の移り変わりに影響を受け、様々な発展を遂げた日本文化について近世を中心に検証を行う。社会と文化の関わりから、その特質・独自性を考えてみる。☒ 授業テーマは、「江戸～明治時代の政治・社会と文化」である。徳川幕府成立から明治新政府の行った政策などとの関わりからどのように日本の文化が形成されていったのかを紹介する。☒ なお、最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☒ ☒ 位置づけ・水準 CD2151		
達成目標	現代に通じる日本文化形成の理解を深め、日本史や現代社会における視野を広げる。を達成目標とします。☒ 単位認定の最低基準は、☒ ①授業内容の7割を理解していること。☒ ☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解・創造的思考力		
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	①課題レポート30点☒ ②期末試験70点
教科書	プリントを配布する。		
参考書	尾藤正英『日本文化の歴史』岩波新書、2000年☒ 青木美智男『近世庶民文化史 日本文化の原型』小学館、2009年 ほか適宜指示する		
学生への要望	問題や目的意識を持って受講すること。		
オフィスタイト	火曜日・金曜日I時間目。創学館4階、No.5研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	南蛮文化の伝来と安土桃山文化	15世紀に始まった「大航海時代」の波は天文12年(1543)ポルトガル人の種子島上陸により、日本にも押し寄せた。渡来したポルトガル人・スペイン人えお南蛮人とよび彼らもたらした南蛮文化と呼ばれる。その当時の日本文化とされる安土桃山文化との関わりを検討する。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントをおさらいする。	30
2	寛永文化と「鎖国」	徳川家康は慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いに勝利し、同8年に征夷大将軍就任、江戸幕府を開いた。その頃の17世紀前半の文化を寛永文化とよぶ。サロンの文化と呼ばれ茶の湯や和歌が中心となった寛永文化と幕府の「鎖国」政策との関係を考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
3	文治政治への転換と文化	江戸幕府4代目将軍家綱の治政の後半にあたる寛文期は武断政治から文治政治へと転換した時期である。この時期は文化の面でも同じく転換期とされており仏教・学問など様々な変容が見られる。そこから、文治政治と文化の関わりを検討する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
4	「浮世」の元禄文化と町人	17世紀末から18世紀のはじめにかけての元禄の頃は、上方を中心に都市にぎわい、文化が栄えた時代である。そのため、元禄文化は「浮世」という言葉で代表され、独特の民衆文化が芽生え始めた時代とされている。一方で、身分制社会の文化としての特徴を持っていた文化でもある。この文化を理解するために時代背景と合わせて文化を考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
5	松尾芭蕉と俳諧	元禄文化では武士階級出身の担い手も多く、『奥の細道』で知られる松尾芭蕉もその一人であり、俳諧で蕉風を確立させる。福島県内にも立ち寄りいくつかの俳句を残している。また、芭蕉の旅は地方の門人によって支えられていた。そこで、芭蕉が福島県での旅で出会った相楽等躬をはじめとする人々との関わりなどを検討する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	実学の発展と『会津農書』	元禄時代には諸産業の発達にともない、実学が発展する。実学とは、人々の日々の生活に実際に役立つ学問、実際の見聞にもとづく学問のことである。それは、本草学・和算・医学・農学など様々である。農学では、会津藩の村役人である佐瀬与次右衛門が記した『会津農書』が著名である。そこで、生活を豊かにする実学を中心に当時の庶民の生活を考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
7	宝暦・天明文化と洋学	宝暦・天明期になると学問世界にも新しい動きが現れてくる。その中でも、西洋学術の研究が本格的にはじまり、洋学が大いに発展することになった。なかでも、医学や天文暦学などが中心となり、研究が進められ多くの分野にわたり特異な能力を発揮する人々があらわれた。この時代に活躍した伊能忠敬や平賀源内などを通して文化を考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
8	亜欧堂田善と洋風画	須賀川で生まれた永田善吉（後の亜欧堂田善）は、白河藩主松平定信との出会いから、洋風画家の谷文晁や銅版画家の司馬江漢の弟子となり技術を学び、数々の作品を生み出した。江戸で活躍し、晩年に郷里へ戻った亜欧堂田善の生涯を検証していく。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
9	町人の文化「化政文化」	江戸時代後期になると文化の中心が江戸に移っていく。この時期の文化は化政文化と称される。浮世絵や遠方の寺社や名所への旅も盛んに行われるようになった。「いき」と遊興から、当時の町人の生活を考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
10	学問の発展と諸藩教育	江戸時代では、幕府・藩による学問の奨励や経済の変化により、武士・庶民を問わず教育が普及した。そこで諸藩には、主に藩士の子弟教育を行う機関として藩が運営した藩校が数多く誕生する。会津藩の「日新館」など福島のなかにも藩校を創設した藩がいくつかあった。そこで、福島にあった藩校教育から、藩の教育について探る。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
11	伝統工芸品と諸藩	現在、「伝統工芸品」が全国各地で生産されているが、その中には美術工芸品として重要文化財・重要有形民俗文化財に登録されているものもみられる。この工芸品は江戸時代に藩の政策により奨励された例もいくつかある。このことについて工芸品と藩政策の関係を検討する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
12	洋学と留学生	開国後、欧米の国々との交流を行って、欧米の文化や学術を取り入れて近代化を目指そうとした。そのため、幕府及び諸藩は、文化・学術を学ぶために国内外へ留学生を派遣した。それらの留学がそのようなものだったのかを探る。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
13	文明開化と「和魂洋才」	明治初期、欧米の文物・制度を取り入れ日本の近代化を図ることが国家目標になった。文明開化の風潮がひろまり、政府主導で積極的な西洋文化の導入が図られ急激な西洋化が図られたが、日本の伝統を見直そうという反動の動きも起こり「和魂洋才」という言葉もよく使われた。文明開化と「和魂洋才」について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
14	万博とジャポニスム	日本は慶応3（1867）年に初めて万国博覧会（パリ万博）へ出品参加をする。また、明治6（1873）年のウィーン万博にも参加する。それをきっかけに、日本美術（浮世絵、琳派、工芸品など）が注目され、西洋の作家たちに大きな影響を与えた。日本の万博参加と西洋で広まったジャポニスムについて考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	明治政府とお雇い外国人	<p>日本には幕末から明治にかけて、「殖産興業」などを目的として、欧米の先進技術や学問、制度を輸入するために雇用された外国人であるお雇い外国人を官庁や学校に招聘した。そのなかで東京の宮内省の顧問になり、ヨーロッパの宮廷儀式を導入したドイツ人外交官のオットマール・フォン・モールという人物がいる。そこで、オットマール・フォン・モールを中心にお雇い外国人について探る。</p>	<p>予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。</p>	30

科目名	ヨーロッパ文化史		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	桑野 聡			
開講期	I			
授業概要	現代文明の共通要素として大きな意味をもつヨーロッパ文化（欧米文化）の形成と近代化について、古代・中世～近現代にいたる過程を概観します。また歴史を大学の学問として学ぶ際の一つの切り口として歴史学の歴史と歴史観の問題に着目します。同じ事実が異なった解釈を生むことで歴史像が作り上げられ、変容することを学ぶことで、歴史とは単なる暗記科目ではないことを体感したいと思います。 □レポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行います。 CD2152			
達成目標	大学で歴史学を学ぶ基本姿勢を整え、現在の日本が直面する歴史問題や周辺諸国との関係、国際社会における役割などを正しく考える基本姿勢を育むことを目的とします。その成果として単位認定の最低基準は、課題の期末レポートに対して歴史学の知識を用いて論理的な文章を書くことが出来ることです。 □ディプロマ・ポリシーとの関係： 知識理解・創造的思考力			
受講資格	地域創成学科1・2年生・一般聴講生	成績評価 方法	授業序盤の練習レポート1回（20点）と期末レポート（80点）で評価	
教科書	特に使用しない。WLRにパワーポイント資料を掲載。授業時に配布資料あり。			
参考書	桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説1 古代・中世篇』DTP出版 2006年 桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説2 近現代篇』 DTP出版 2006年 金澤周作 監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房 2020年			
学生への要望	①地図を見る姿勢、②新聞・ニュースを見る姿勢、③高校世界史の基礎知識の確認を期待する。			
オフィスタイム	火曜1時限目（8:50～10:20）・金曜V時限目（16:10～17:40） 考古学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本講義の進め方と学習のための基礎力について解説する。	講義で話した3つの基本姿勢を大切に、次回からの授業のために準備をする。	60
2	歴史学のあゆみ	大学で歴史を学ぶための一つの切り口として「歴史学」の歴史を取り上げる。19世紀に確立した近代歴史学が、現在どのような状態にあるかを解説する。これによって歴史学とは、単なる暗記科目ではなく、現代社会と自己の関係を考えることになることを確認する。	高校までの西洋史の知識を思い出すだけでなく、「歴史ってなんだろう?」と考えてみる。そして、参考文献の手に取ってみる。	120
3	古代世界①	ギリシア・ローマをオリエント世界と共に古代地中海世界という独自の文明世界として考える立場を紹介する。	地中海世界をイメージしてみる。そのために必要な情報を集める。	120
4	古代世界②	ケルト・ゲルマンを中心に古代地中海世界の周辺民族文明について紹介し、ローマの滅亡が単純な「蛮族の侵入」として理解されるべきではないことを解説する。	文明の中心と辺境の関係を理解する。日本の場合の畿内（西日本）と東北の関係などを自分で想像してみる。	120
5	古代世界③	古代末期（4～7世紀頃）に地中海世界が分裂していく過程を概観し、H.ピレンヌやH.オバンのテーゼなどを例に発想の転換の重要性を確認する。	同じ事実をどう解釈するかで歴史像が違ってくことを理解し、その背後にある歴史観を考える。	120
6	中世世界① 前期中世（カロリング・ルネサンス）	前期中世（7～10世紀頃）の西方世界がヨーロッパとして分離・形成されてくる上で重要なカロリング朝フランク王国の役割について解説する。	同じ国名でも時代と関係によって役割が異なることで歴史が動くことを理解する。	120
7	中世世界② 盛期中世（12世紀ルネサンス）	盛期中世（11～13世紀頃）にキリスト教世界として確立するヨーロッパ文明圏の形成を概観し、この時期にヨーロッパが古代文明やビザンツ・イスラム世界などから継受した多様な文化を融合させながら独自の文化を確立した「12世紀ルネサンス」について解説する。	12世紀にヨーロッパ文明が誕生したという考え方を理解し、疑問があれば議論できる準備をする。	120
8	中世世界③ 後期中世（ルネサンス時代）	後期中世（14～16世紀頃）のヨーロッパが封建制の危機の中で新しい価値観（人文主義）を手掛かりに、ルネサンスや宗教改革、大航海時代などに象徴される歴史の転換点に立ったことを解説する。	かつて近代のはじまりとされたルネサンスが、現在は中世として扱われる理由を理解する。	120
9	近世① 絶対主義時代	近世（16～18世紀頃）を特徴づける絶対主義の構造を解説し、宗教戦争や重商主義政策などがヨーロッパ文明の世界への拡大と不可分に結びついていたことを確認する。	近代化のステップと発展のプロセスを理解する。封建制・封建社会が7世紀と12世紀、そして18世紀では全く違うことを理解する。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	近世② 啓蒙主義と市民革命	近世（16～18世紀頃）に顕著となる12世紀以来の個人主義・現実主義などがさまざまな形でヨーロッパ文明を特徴づけ、近代のヨーロッパ社会の形成へと繋がることを解説する。	私たちの近代市民社会の理念を確立した啓蒙主義と市民革命とは何かを理解する。	120
11	近代① ヨーロッパの世紀	19世紀のヨーロッパの変容を概観します。前半のウィーン体制の崩壊による近代市民社会の形成、後半のビスマルク体制の崩壊による世界大戦への疾走の歴史を解説する。	19世紀という時代のダイナミズムを感じる。同じ時代に日本も幕末から明治への転換を経験することと連動した理解が重要。	120
12	近代② 産業革命と帝国主義	ヨーロッパの経済発展が民主的な近代市民社会の発展に大きな貢献を果たす一方で、帝国主義による世界支配を作り上げていったメカニズムを解説する。	ヨーロッパの功罪二つの側面を正しく理解することが21世紀の課題に応えるための大切な前提であることを理解。	120
13	近代③ 二つの世界大戦とファシズム	列強の帝国主義政策が招いた二度の世界大戦の中で台頭した共産主義とファシズムという二つの亡霊の中で、まずファシズムのもつ現代的危険性について解説する。	ファシズムという現象を過去の歴史ではなく、現在も散在する問題として理解する。	120
14	近代④ 社会主義・共産主義と20世紀	19世紀ヨーロッパで生まれたマルクス主義は、第一次大戦末期のロシア革命で最初の社会主義国家建設に成功し、第二次大戦後は東西冷戦の構造を作り出した。社会主義・共産主義を単なる遺物としてではなく、私たちの未来像との関係で捉え直したい。	社会主義・共産主義を単ある前世の遺産としてではなく、現在進行形の未来にとって欠かせない警告であることを理解する。	120
15	まとめ 現代ヨーロッパの課題	イギリスの離脱などで揺れる統合ヨーロッパの歴史を概観し、EUが抱える今日的問題と私たちの関係を考えたい。	EUというヨーロッパの実験が何故、重要なのかを考えることで、日本の未来像をイメージする。	120

科目名	考古学	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	會田 容弘		
開講期	Ⅱ		
授業概要	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。史跡整備、埋蔵文化財の範囲確認・試掘・記録保存、学術調査などのさまざまな目的の発掘調査の実務経験を活かし、遺跡の発掘調査準備、調査、整理作業の実際を学ぶ。考古学は物から人類の過去を明らかにする学問である。考古資料というモノからどのようにして人類の過去を明らかにするのか、考古学の基本的な考え方、方法について講義を行う。課題は「めばえ」を通じて発表し、学生は期限までに提出する。それを添削し、コメントを加えフィードバックを行う。☑ 位置付け・水準CD2153		
達成目標	<到達目標>考古学の基本概念、用語を理解し、考古学論文を読解するの十分な知識を得ること。成績認定基準に基づき、7割以上の理解が望ましい。ディプロマポリシーとの関係：知識理解創造的思考力		
受講資格	地域創成学科学生	成績評価 方法	試験結果と授業への積極的な参加度を評価し、100点を満点とする。60点以上を合格とする。考古学で卒業論文を作成する学生は、講義内容の8割以上の理解が望ましい。
教科書	浜田耕作『通論考古学』、泉拓良『考古学—その方法と現状』		
参考書	授業の中で紹介する。		
学生への要望	予習復習を行うこと。シラバスを参考にして、事前学習を行うこと講義で用いたパワーポイントは講義後、公開するので、復習で授業内容を確認すること。		
オフィスタイム	火曜日3時限目、水曜日2・4時限目。考古学研究室または考古学実習室。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	考古学とは何か	考古学的な思考の成立と簡単な研究史を述べた上で、考古学の定義と範囲について述べる。考古学のめざすものについて、考古学の現代的諸問題を説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
2	考古資料論（1）	考古資料については浜田耕作の定義を紹介し、遺物、遺構、遺跡について説明し、それらを分類し、その特質を説明する。考古資料の特質、考古資料の資料的価値、考古学の限界について説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
3	考古資料論（2）	考古資料の分類を説明し、実際の遺物を実例を示しながら説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
4	発掘調査の方法	分布調査、測量調査、予備調査、本調査の方法について説明し、さらに文化財保護法にある発掘調査の法的手続きについて説明する。	授業内容を整理する。	30
5	発掘調査の実例	郡山女子大学短期大学部文化学科考古学研究室で2001年から継続して行っている笹山原遺跡No.16の調査の積み重ねとその成果について、記録画像を見ながら説明する。宮城県東松島市里浜貝塚の発掘調査について調査の記録画像を見ながら説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
6	文化財保護法	日本では考古学と文化財は不可分の関係にある。戦後日本の考古学は埋蔵文化財保護のために莫大な予算を投入した。その法的背景にある文化財保護法について説明する。	授業で取り上げた文化財保護法を指定HPからダウンロードし、熟読すること。	30
7	層位的研究法	特殊的研究法のひとつである層位的研究法を概説する。☑ 層位的編年の例☑ 1) ☑窟堆積層によるフランス旧石器の編年☑ 2) ☑山灰編年学を用いた広域編年☑ 3) ☑塚堆積層を用いた縄文土器編年	授業内容を整理する。	30
8	層位的研究法の実例	松本彦七郎博士の里浜貝塚の層位的発掘調査について、東北大学理学部に保管されていた松本資料を用いて再検討を行った。その結果松本博士は正しく層位的発掘を行っていたことが明らかになった。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
9	型式学的研究法	古典的型式学。浜田耕作の型式学を説明し、O、モンテリウスや田中琢の例示した型式の組列を説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	型式学的研究法の実例	型式の考古学的意味について考える。J. ディーツとデスレフスの「ドクロ、智天使、柳と骨壺」の論文を説明し、型式の意味を考える。☒ 型式の認定方法について様々な議論がある。ホッドソンが4人の考古学者と1人の解剖学者に留め針を分類させた結果とコンピュータを用いた分析について説明する。	授業内容を整理する。	30
11	暦年代決定の方法	暦は年代決定の物差しである。キリスト紀元をいかにさかのぼらせることができるか。エジプト王名表をもとに、民衆暦とソティス暦を繋ぎ合わせたマイヤーの研究を紹介する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
12	暦年代決定の実例	日本の先史時代の暦年代は中国の暦に頼らざるを得ない。中国と直接交渉のない時代は朝鮮半島を経由して暦年代を決定している。暦年代を決定する資料を紹介しながら、日本の暦年代について説明する。日本国内においても、暦年代を決定するためには大きな困難を伴う。文献と考古資料の間がそこにはある。文献や文字資料を用いて考古資料の相対編年に暦年代を与える問題点を検討する。	授業内容を整理する。	30
13	理化学的年代決定法（1）	理化学的年代決定法は暦とはまったく別の原理に基づいて年代を決定する方法である。地球の周期的な変化に基づく年代推定法と不安定な原子が崩壊する速度を時間の単位する方法がある。まず、地球の周期的な変化から説明する。年輪年代決定法の原理と実際の応用例について説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
14	理化学的年代決定法（2）	放射性炭素年代測定法の原理を説明し、その実際の測定方法、測定資料、測定例を紹介する。放射性炭素年代測定法の登場によって考古学界に起こった短期編年・長期編年論争について説明する。放射性炭素年代決定法によって明らかになった年代の実例。放射性炭素年代測定法の補正によって暦年代に置きなおされた年代とその問題点を検討する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
15	考古学と現代社会	考古学と現代社会の関係を述べ、考古学の将来を考える。	授業内容を整理する。	30

科目名	美術史	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	斎藤 美保子		
開講期	I		
授業概要	学芸員補(認定資格)選択科目。日本と西洋の美術史の基礎を理解し、鑑賞する力を身につける。CD2154		
達成目標	①地域や時代によって特徴のある美術が作られてきたことを理解する。②重要な作品と美術科についての確かな知識を得る。☑ 単位認定の最低基準：日本美術、西洋美術、それぞれの時代様式の違いが見極められること。☑ DPとの関係：知識理解、創造的思考力		
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	授業内で指示する課題(50点) 記述式の期末試験(50点)☑ 60点以上で合格だが、80点以上を目指すこと。
教科書	必要に応じてコピーを配布する。		
参考書	辻惟雄監修『カラー版日本美術史』美術出版社、高階秀爾監修『カラー版西洋美術史』美術出版社		
学生への要望	図書館、美術館を積極的に活用すること。授業内で指示した資料を良く読み、作品鑑賞に努めること。		
オフィスタイム	火曜日16:00-17:00 金曜日10:00-11:00 研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	古代ギリシア美術	紀元前6世紀から紀元前1世紀までの神殿建築、彫刻、陶器画を映像等で鑑賞、その様式的変遷を理解する。	ギリシア神話の知識をふやす。	90
2	古典期様式のカノン	パルテノン神殿(BC.5C)を中心に古典期様式の美の規範を理解する。定規とコンパスで黄金比を作図する。	身の回りのものから、黄金比を探す。	90
3	ガンダーラ美術	初期の釈迦像を映像等で確認しヘレニズム美術が西インドで仏教と融合、仏像が誕生した経緯を理解する。	アレキサンダー大王について調べる。	90
4	日本古代美術	神社建築等に見られる日本古来のさやかな美に、仏教伝来後に大陸的な美が加わった経緯を理解する。	開成山大神宮を参詣し、千木の形を確認する。	90
5	日本仏像美術史	飛鳥、白鳳、天平、平安、鎌倉と変化した仏像の様式史を理解する。	図書館等で仏教伝来と仏教美術について、知識を深める。	90
6	中世後期キリスト教美術	巡礼路沿いに残るロマネスク様式と、都市の大聖堂に多いゴシック様式の違いを理解する。	近隣の教会建築を見て回る。	90
7	平安時代の美術	遣唐使廃止後の国風化した王朝美術を<宇治の平等院><源氏物語絵巻>、十二単などから理解する。	『源氏物語』について知識を深める。	90
8	鎌倉、室町時代の美術	鎌倉五山、鹿苑寺、慈照寺と水墨画を中心に、武士と禅宗の美術を理解する。	風俗美術館で、各時代の服装の変遷を理解する。	90
9	初期ルネサンス	15世紀フィレンツェの彫刻、絵画を映像等で鑑賞理解する。一点透視の遠近法の作図をする。	一点透視を使って、クリスマスカードを作る。	90
10	盛期ルネサンス	16世紀初期のレオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロの代表作を映像等で鑑賞理解する。	画集等で、三巨匠の作品を見極められるようにする。	90
11	桃山美術	戦国大名の美意識を表現した大胆で絢爛豪華な美術を映像等で鑑賞理解する。南蛮文化、茶の湯にも言及。	身近な人から、茶道や華道について話を聞いてみる。	90
12	バロック、ロココ美術	17世紀、18世紀の神話画、宗教画、人物画、風景画を映像等で鑑賞理解する。パステル画に挑戦する。	画集等で、バロックとロココの違いがわかるようにする。	90
13	近代西洋絵画	19世紀のフランスを中心とする西洋絵画の変遷を、映像等で鑑賞理解する。近隣の美術館案内をする。	郡山市立美術館、または、福島県立美術館を見学する。	270
14	浮世絵とジャポニスム	江戸時代末の浮世絵木版を鑑賞理解し、それらがフランスでジャポニスムを引き起こした経緯を理解する。	配布したコピーを読み込み、理解を深める。	90
15	印象派から20世紀美術へ	日本と欧米の交流が盛んになり、東西の美術が刺激し合っで発展してきた経緯を理解する。	配布したコピーとノートを整理し、日本と西洋の大まかな美術の流れを理解する。	90

科目名	宗教文化史	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	福島 寅太郎		
開講期	Ⅱ		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 ☑</p> <p>①本学の建学精神を理解するために必要な教養的知識を習得させる。☑</p> <p>②教養のある現代人として宗教に関する必要な知識を身につけさせる。☑</p> <p>〔授業の概要〕 ☑</p> <p>本講義は本学の建学精神に基づいた全学科・専攻の必修科目である。☑</p> <p>宗教は人間生活のあるところ、どの時代にもどの場所にも影響を及ぼしており、現在の私たちがまた日常生活の中で常にそれらと関わっている。グローバル化が進み、異文化間の相互理解が求められる現代において、宗教は果たしてどのような役割を果たすことができるのであろうか。☑</p> <p>本講義は、諸宗教の思想や信仰、特に現代日本およびアジアの諸宗教におけるさまざまな事例を取り上げ、宗教学的観点から探ることを目的とする。授業への理解を深めるために、アニメなどの映像を数多く取り扱う予定である。ちなみに「トトロはオスですか、それともメスですか」。素朴な疑問が学問への重要な一歩である。☑</p> <p>本年度は、本学の学問の特徴である「生活学」に焦点を当てて、宗教と生活との関わりを考えてみたい。具体的には、当該当該問題に関連した最新の研究書を教科書として用い、当該教科書の読解を通じて理解を深めていきたいと考えている。☑</p> <p>授業時の質疑応答やレポートの返却等によってフィードバックを行う。☑</p> <p>位置づけ・水準:CD2155</p>		
達成目標	<p>〔到達目標〕 ☑</p> <p>①宗教学的“ものの見方”を理解する。☑</p> <p>②宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。☑</p> <p>③紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解する。☑</p> <p>単位認定の最低基準は:は「内容の7割以上を理解していること」☑</p> <p>DPとの関係: 知識理解、創造的思考力</p>		
受講資格	特になし	成績評価 方法	試験成績60点、授業における発表20%、授業における参加態度20%など。理解度8割で、合とする。
教科書	『心経禅解—生活禅から「般若心経」を読む』（浄慧著、東京・山喜房佛書林、2018年）。購買部で買い求めることができる。教室でも販売する。3800円		
参考書	特になし。		
学生への要望	ノートをこまめにとること。		
オフィスタイム	月曜日から金曜日（火曜日を除く）昼休みの時(12時～12時40分)。担当教員の研究室（創学館No.5）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の進み方、建学精神との関連について述べるとともに、テストや成績評価などについて紹介する。教科書についても案内する予定である。	初回に当たり、とくになし	1.5
2	生活と宗教（1）～アップル製品は何故シンプルか～	具体的には禅を取り上げる。禅の歴史や基本的な教えについて、教科書に沿って述べる。アップルの創始者・ジョブズ氏は敬虔な禅の実践者である。シンプルさを追求したアップル製品を話題にしなが、生活における禅の役割を考える。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
3	生活と宗教（2）～今どうして禅なのか～	前回の続き。教科書に沿って、禅とは何かを、身近な話題を通して考える。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
4	生活と宗教（3）～今はどうして生活禅なのか～	「生活禅」とは何か。教科書を通して学びながら、一緒に考えてみる。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
5	生活と宗教（4）～ダルマとは誰か～	「達磨さんが転んだ」という鬼ごっこをみんなは一度ぐらい遊んだことがあろう。ここに出てくる達磨さんとは誰のことであろうか。歴史上の達磨さんと民間信仰のそれとの異同を明らかにしてみたい。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
6	生活と宗教（5）～般若心経とはどんな教えを説いているのか～	『般若心経』と生活禅について述べる。日常生活の中で、『般若心経』に触れる場面があると思う。ここでは教科書を用いながら『般若心経』とはどんなお経なのかを学ぶと共に、生活禅との関係を理解する。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
7	生活と宗教（6）～心の三次元～	心とは何か。宗教は人間の不可視的なものを可視的にする文化的装置である。ここでは宗教から見た人間の心とは何かを、禅における心のとらえ方を通して理解する。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	生活と宗教（7）～心の成長物語～	前回の続き。具体的には『十牛図』という最古のマンガを通して理解を深める。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
9	生活と宗教（8）～悩みはどこから来るのか～	悩みとは何か。禅における悩みの対処法を、教科書を通して理解する。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
10	生活と宗教（9）～特別授業～	気分転換のために、アニメにおける宗教的要素について考察する。具体的には『となりのトトロ』を取り上げる。☒	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
11	生活と宗教（10）～特別授業～	前回の続き。ちなみに、トトロの性別はオスか、それともメスか。素朴な疑問が学問への重要な第一歩である。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
12	生活と宗教（11）～生活と宗教との関わり～その一	再び教科書に戻る。「生活の中で修行し、修行の中で生活する」という教科書の著者の言葉を理解しながら、生活と宗教との関わりを考える。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	0
13	生活と宗教（12）～生活と宗教との関わり～その二	前回の続き。人間らしく生きるためにはどうしたらいいか、人間の本質とは何かについて教科書を参考にしながら、考えてみる。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
14	生活と宗教（13）～まとめ～	これまでの授業の全体についてまとめると共に、期末テストについて説明する。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
15	最終回～まとめ～その②	授業の内容を踏まえつつ、建学精神である「尊敬・責任、自由」の意義を再び考えることにする。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5

科目名	介護概論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	廣野 正子		
開講期	IV		
授業概要	介護の社会化の背景を理解し介護の意義について演習などを通して考える。介護は対人援助であることから、人の理解としてからだのメカニズムを基に健康なからだを意識化して介護が必要な方の理解につなげる。☑ 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックを行います。☑ ☑ 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護総合演習の授業を行う。☑ 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☑ ☑ 位置づけ・水準 CD2142		
達成目標	介護は生活の中に存在する身近な行為であることを理解し、介護を通して生活の質を考慮した人生を考えることができる。☑ 1. 介護の社会化による介護保険制度を理解する。☑ 2. 地域における高齢者を把握し、介護を必要とするひとを理解する。☑ 3. からだのメカニズムを理解し、自身の体調管理につなげることができる。☑ 単位認定の最低基準：本人主体の生活を継続するための介護過程の展開について8割理解していること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力☑ ☑ ☑		
受講資格	地域創成学科 2年生	成績評価 方法	リアクションペーパー14回分（70点）☑ レポート課題（30点）
教科書	ありません。授業毎に必要な資料等を配布します。		
参考書	授業の中で随時紹介します。		
学生への要望	介護は身近な課題であることを理解し、主体的に学んでください。		
オフィスタイム	時間：水曜日1限、木曜日1限☑ 場所：創学館4階No.1研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	1. 授業の目的とシラバスについて説明 2. 介護保険から介護の社会化を考える	出身地の地域の人口構造について調べてくる。詳細の項目は授業の中で指示します。	30
2	介護の理解	1. 要介護状態の理解 2. 地域における介護事情を考える	出身の地域について、特徴になるような項目について調べ発表できるようにしておく。	30
3	介護の理解	1. 地域における介護事情のまとめ 2. 家族における介護と専門職の介護の違い	からだのしくみの資料を参照してわからない点を明らかにする。	30
4	からだのしくみ	1. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 2. ボディメカニクスの理解と活用	からだのしくみの資料を参照してわからない用語などについて調べておく。	30
5	老化の理解	1. 老年期に伴う心身機能の低下 2. 老年期に要介護に至る原因	身近な高齢者を観察して動作などの特徴について、気がついたことをまとめる。	30
6	高齢者の理解（演習）	1. 高齢者疑似体験	本日の体験から、日常生活での不便なところを具体的にあげる。	30
7	高齢者の理解	1. 高齢者疑似体験についてグループワーク 2. 高齢者疑似体験から高齢者に必要な介護を考える	ボディメカニクスの資料を読み、日常生活動作で意識して実践してみる。	30
8	介護技術（演習）	1. ボディメカニクスを活用した移動介助(W/C操作)	本日の体験から、日常生活での移動動作の頻度を確認する。	30
9	介護技術（演習）	1. ボディメカニクスを活用した移動介助から考察	認知症の資料を参照してわからない用語などについて調べておく。	30
10	認知症の理解	1. 認知症の定義と症状 2. 認知症の原因疾患とその病態	認知症の方が日常生活で抱える課題はなにか、考え等をまとめる。	30
11	認知症の理解	1. 寺本ハルさん（DVD）の事例から本人、家族の葛藤を考察する。	自律神経系に関する資料を読んで、わからない用語を調べておく。	30
12	アロマセラピー	1. 自律神経と内部気管に関する基礎知識 2. アロマセラピーの定義	日常生活の中にどのような香りがあるか意識して記録する	30
13	アロマセラピー	1. 高齢者とアロマセラピー 2. 介護者とアロマセラピー	日常生活でアロマセラピーを取り入れたい場面や状況をまとめる。	30
14	アロマセラピー（演習）	1. 女性のからだのリズム 2. アロマセラピーの取り入れ方	演習で作成したアロマグッズを使い、使用後の変化を記録する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	介護概論のまとめ	1. これまでの授業の総括	授業のなかで指示されたことをレポートにまとめる。	120

令和2年度

科目名	社会福祉概論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員	熊田 伸子			
開講期	I			
授業概要	現代社会の生活問題に注目しつつ、日本の福祉制度について概要を学ぶ。☑			
達成目標	現代社会における福祉の課題が理解できている。☑ 社会的困難を抱えている人々のニーズと福祉サービスについて理解できている。☑ ☑ ☑			
受講資格	地域創成学科 1年、音楽科 1年	成績評価 方法	期末試験 80%☑ 小テスト 20%☑	
教科書	随時プリントを配布します			
参考書	授業の中で、紹介します			
学生への要望	常に新聞等に目を通し、現代社会問題に着目してください。			
オフィスタイム	金曜日の3・4限目（創学館4階 No.6研究室）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業の概略を説明する。 地域における福祉の課題について考え、グループで討議する ☑		0
2	社会福祉の意義	具体的な事例により、現代社会における福祉制度の意義や理念について理解する		0
3	社会福祉の理念	『サイレントブア』の視聴により、地域の福祉課題に目を向ける		0
4	生活と社会保障	生活を支える仕組みとしての社会保障の全体像について解説する		0
5	家庭児童福祉	児童家庭福祉の対象となる人々の状況を学ぶ 国の制度と地域で実践されている社会福祉活動について学ぶ		0
6	障がい者の福祉	障がい者の実態を学び、ニーズを理解する 障がい者を支えるサービスの概略を解説する		0
7	高齢者の福祉①	高齢者の心身の状況を理解する 高齢者を取り巻く状況を学ぶ		0
8	高齢者の福祉②	介護保険制度の概略を解説する 認知症高齢者について学ぶ		0
9	地域福祉①	コミュニティと生活課題		0
10	地域福祉②	社会資源について解説する。自分の生活する地域の社会資源について調べる（グループワーク）		0
11	地域福祉③	社会資源について調べた内容をグループごとに発表をし、理解を深める		0
12	少子高齢化時代の福祉政策	現代社会の大きな課題である少子高齢社会について概観する。その中での福祉政策の調整と進展についてどのように進められてきたかを知る		0
13	社会福祉実践の場	社会福祉の実施機関、社会福祉施設の概要について学ぶ		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	社会福祉の専門職	社会福祉の分野で働く専門職、ボランティア、NPO法人について学ぶ		0
15	まとめ	半期の講義を振り返り、まとめを行う。		0

科目名	デッサンⅠ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	浅野 章		
開講期	Ⅰ		
授業概要	「デッサンは芸術の実体そのものである。輪郭をなぞるだけではデッサンにはならない。デッサンというものはただ線だけを問題にしてはいけないのだ。デッサンもまた独自の表現であり内的なフォルムであり計画であり肉付けなのである。－アングル（画家）」このようにデッサンには最小限の材料や色彩によって表現されたシンプルな美しさと厳しさがあります。本授業では造形活動の基礎となるよう「見る・描く」を繰り返すことで物の本質に迫り、描写力と表現力を養います。提出された作品は最終授業で講評会を行い学生へのフィードバックとします。 CD2160		
達成目標	デッサン素材の鉛筆や木炭・パステルなどの特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけのデッサン空間を創りあげていくことを目標とします。☑ 単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していることとし、ディプロマ・ポリシーとの関係は創造的思考力・主体的行動力となります。		
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品や小テストによる課題目標達成度が70%以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
教科書	特になし		
参考書	例－アングル・ダヴィンチ・ラファエロ・ロダンなどのデッサン集・その他、授業に関連する画集等は適宜指示をする。		
学生への要望	すべての造形活動の基礎であるデッサンの意味をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望むこと。		
オフィスタイト	授業に関する質問は火曜日Ⅳ～Ⅴ、水曜日Ⅰ～Ⅱ・Ⅴ、木曜日ⅠにNo1絵画室またはNo5地域創成学科研究室で受けます。ただしⅤ時限目は17:00までとします。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション及びクロッキー1	オリエンテーション ・開講中の授業内容や使用道具の説明。 人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。	【事前学習】授業に関連するクロッキー集などを事前に関連、研究しておく。	30
2	同上	人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
3	クロッキー2	人物クロッキー ・クロッキー（Croquis）とは速写、略画など短時間でこなす写生のこと。 ・学生が輪になり、順番にモデルになる。	【事前学習】授業に関連するクロッキー集などを事前に関連、研究しておく。	30
4	同上	人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
5	鉛筆デッサン	人物を描く ・鉛筆デッサンは形や調子を正確にとったり造形的な線の成り立ちを理解したり的確で微細な描写に優れた特性を持っている。 ・学生同士、お互いにモデルになりながら描く。	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に関連、研究しておく。	30
6	同上	人物を描く ・モデル学生の特徴や雰囲気等を深く観察する。モデル学生に肉薄し、完成に近づけていく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
7	クロッキー3	人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。 ・鉛筆、鞆ペンとインクなど修得状況に応じて画材を変えてゆく。	【事前学習】授業に関連するクロッキー集などを事前に関連、研究しておく。	30
8	同上	人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。 ・鉛筆、鞆ペンとインクなど修得状況に応じて画材を変えてゆく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
9	クロッキー4	人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。 ・鉛筆、木炭、パステルなど修得状況に応じて画材を変えてゆく。	【事前学習】授業に関連するクロッキー集などを事前に関連、研究しておく。	30
10	同上	人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。 ・鉛筆、木炭、パステルなど修得状況に応じて画材を変えてゆく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	木炭デッサン-1	石膏像デッサン ・木炭デッサンは柔らかな材質感と描きやすさ、パン等の消し具を使い、消したり描いたり自由で簡単に出来るという特性を持っている。 ・石膏デッサンは形態、質感、動勢、構図などの要素が含まれる造形の基礎的な訓練の一つである。	【事前学習】授業に関連する木炭デッサン集などを事前に関覧、研究しておく。	30
12	同上	石膏像デッサン ・引き続き、全体の形を整えながら徐々に細部の描写に入っていく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
13	木炭デッサン-2	石膏像デッサン ・石膏デッサンは形態、質感、動勢、構図などの要素が含まれる造形の基礎的な訓練の一つである。 ・デッサンも2週目に入り全体の形を整えながら細部を仕上げていく。	【事前学習】授業に関連する木炭デッサン集などを事前に関覧、研究しておく。	30
14	同上	石膏像デッサン ・デッサン最終コマ。細部を描写しつつ全体の形を整えながら仕上げていく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
15	フロッターージュ	フロッターージュ ・フロッターージュとは柔らかい紙の下に凹凸のある物を置き、紙の上から鉛筆等の描画材料でこすり、形を浮かあがらせるという技法。 ・開成山公園で木の枝、葉、石等を自由にフロッターージュをする。(木炭・鉛筆・チョーク等使用)	【事前学習】授業に関連する描画材や参考作品集などを事前に関覧、研究しておく。	30
16	同上	フロッターージュ ・引き続き、開成山公園で木の枝、葉、石等をフロッターージュをする。(木炭・鉛筆・チョーク等使用)	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
17	鉛筆デッサン	静物デッサン ・油彩画のモチーフ(描画対象)を鉛筆デッサンする。 ・的確で微細な描写のできる鉛筆デッサンをすることによってデッサン力と油彩画の描き込みのヒントになるという両方の効果が望める。	【事前学習】授業に関連する鉛筆デッサン集などを事前に関覧、研究しておく。	30
18	同上	静物デッサン ・引き続きデッサン。細部を描写しつつ全体の形も整えながら仕上げていく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
19	映像メディア表現-1	建物の入った風景と人物の構成(コラージュ絵画) ・各自カメラを持ち開成山公園で自由に取材をする。それを次週までにプリントしておく。	【事前学習】授業に関連するコラージュ作品集などを事前に関覧、研究しておく。	30
20	同上	建物の入った風景と人物の構成(コラージュ絵画) ・他人とは違う自分だけの視点、切り口により様々なアングルで興味ある場所を撮影する。撮影したものは次週までにプリントアウトしておく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
21	映像メディア表現-2	建物の入った風景と人物の構成(コラージュ絵画) ・前回取材しプリントアウトした写真を並べ簡単な意見交換会 ・その写真を自由に拡大・縮小コピーして台紙に貼り、更に彩色をして作品にする。	【事前学習】授業に関連するコラージュ作品集などを事前に関覧、研究しておく。	30
22	同上	建物の入った風景と人物の構成(コラージュ絵画) ・制作最終コマ。全体感を損なわないように彩色をして完成に向かう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
23	段ボール壁画制作-1	壁画共同制作 ・いくつかのグループに分かれて、更紙などにそれぞれメンバーのアイデアや構想を描いてみる。	【事前学習】授業に関連する壁画資料集などを事前に関覧、研究しておく。	30
24	同上	壁画共同制作 ・エスキース(下絵)の中からメンバーで話し合い、少しずつ作品のイメージを作ってゆく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
25	段ボール壁画制作 - 2	壁画共同制作 ・前回同様、メンバーでディスカッション後、更なる壁画作品のイメージを詰めてゆく。	【事前学習】授業に関連する壁画作品集などを事前に関覧、研究しておく。	30
26	同上	壁画共同制作 ・ある程度、構想がまとまったら大型ダンボールに制作を始める。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
27	段ボール壁画制作 - 3	壁画共同制作 ・大型段ボールに制作をする。 画材、色材、コラーージュするものを準備しておく。	【事前学習】授業に関連する壁画作品集などを事前に関覧、研究しておく。	30
28	同上	壁画共同制作 ・あまり細かくなならないように大きな視点で制作していく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
29	段ボール壁画制作 - 4	壁画共同制作 ・大型段ボールに制作をする。最初の直感やインパクトを忘れずに仕上げに入る。	【事前学習】授業に関連する壁画作品集などを事前に関覧、研究しておく。	30
30	同上	壁画共同制作 ・大型段ボールに制作をする。最終仕上げに入る。 講評会 ・段ボール壁画の講評会、意見交換及びデッサンIの総評。	【事後学習】実技授業実施内容（講評会）を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30

科目名	デッサンⅡ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	浅野 章		
開講期	Ⅱ		
授業概要	デッサンは線的な手段を用いて対象の輪郭、構造、量感、質感などを探り出す技術の総称です。また絵画表現の基礎的な物の見方の訓練としても大切なものであります。ここではデッサンⅠの授業内容を引き継ぎ更に一步踏み込んで学生各自の個性に合わせて、徐々に表現内容、素材の幅を広げていきます。提出された作品は最終授業で講評会を行い学生へのフィードバックとします。 CD2260		
達成目標	デッサン素材の鉛筆や木炭・パステルなどの特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえでより確かな描写力と表現力を養うことを目標とします。単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していることとし、ディプロマ・ポリシーとの関係は創造的思考力・主体的行動力となります。		
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）☒
教科書	特になし		
参考書	授業に関連する画集等は適宜指示する。☒ 例－画家のスーラ・ゴッホ・セザンヌ・ピカソなどのデッサン集		
学生への要望	デッサンすることの意味をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望むこと。☒ 【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に閲覧、研究しておく。（1時間）☒ 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理し、必要な場合はポートフォリオなどを製作する。（1時間）☒		
オフィスタイト	授業に関する質問は火曜日Ⅳ～Ⅴ、水曜日Ⅰ～Ⅱ・Ⅴ、木曜日ⅠにNo.1絵画室またはNo.5地域創成学科研究室で受けます。ただしⅤ時限目は17:00までとします。☒ ☒ ☒		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション及びフロッターージュ	オリエンテーション☒ ・ 開講中の授業内容や使用道具の説明。☒ ・ フロッターージュとは柔らかい紙の下に凹凸のある物を置き紙の上から鉛筆等の描画材料でこすり、形を浮かあがらせるという技法。☒ ・ 学内や開成山公園で木の枝、葉、石等を自由にフロッターージュをする。（木炭・鉛筆・チョーク等使用）☒ ・ 放射線量に細心の注意を払い、長時間の屋外滞在は避け効率よく実施する。	【事前学習】授業に関連するフロッターージュ作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
2	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
3	人物クロッキー 1	・ 学生が輪になり、順番にモデルになる。☒ ・ 修得状況に応じて画材、色の幅を広げてゆく。（鉛筆、木炭、水彩絵具など使用）☒	【事前学習】授業に関連するクロッキー集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
4	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
5	人物クロッキー 2	・ 学生が輪になり、順番にモデルになる。☒ ・ 修得状況に応じて画材、色の幅を広げてゆく。（鉛筆、木炭、水彩絵具など使用）☒ ・ 二人ポーズや1分クロッキー	【事前学習】授業に関連するクロッキー集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
6	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
7	石膏像デッサン 1	石膏像デッサン ☒ ・ 石膏像デッサンは形態、質感、動勢、構図などの要素を正確に把握し客観的に造形化する基礎的な訓練である。☒ ・ 細部にとらわれず、たえず全体とのバランスを見る。	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
8	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	石膏像デッサン 2	石膏像デッサン☑ ・対象をよく観察し、形態や大きな構造をとらえる。☑ ・全体的な像の量感、質感をはっきりさせ反射光などの淡い調子も意識しながら完成へと向かう。☑	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に関覧、研究しておく。	30
10	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
11	鉛筆構成デッサン	二つ以上の手を自由に組み合わせて鉛筆デッサンする。☑ ・強く握ったり、やさしく握ったり、いろいろ角度を変えたりして自分の手をよく観察する。☑ ・自分が美しいと思う手の表情が出来たら、いくつか組み合わせてデッサンする。☑	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に関覧、研究しておく。	30
12	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
13	色彩を使った構成デッサン	二つ以上の手を自由に組み合わせてパステル、水彩等の色材でデッサンする。☑ ・観察が大事で基本的には前回の鉛筆デッサンと同じだが、ここでは描画材料の特質を引き出し色彩的効果を考えながら制作する。☑	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に関覧、研究しておく。	30
14	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
15	静物デッサン 1	トレーシングペーパーを含んだ静物を描く。☑ ・トレーシングペーパーと学生個人の私物を自由に構成して透明、不透明を描き分ける。☑ ・単なる静物デッサンと違いトレーシングペーパーから少し透けて見える部分の微妙な違いを描き分ける事により物の質感の把握、鉛筆の技法等の向上が期待できる。☑	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に関覧、研究しておく。	30
16	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
17	静物デッサン 2	透明フィルムを含んだ静物を描く。☑ ・透明フィルムと学生個人の私物を自由に構成して透明、不透明を描き分ける。☑ ・前回のねらいとほぼ同じだが透明感及び光沢を表現するという事でより高度なデッサン力が要求される。☑	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に関覧、研究しておく。	30
18	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
19	人物木炭デッサン 1	人物木炭デッサン☑ ・モデルを使い最初は数分のクロッキーから始め、幾つかのポーズにしぼり、その中から多数決で固定ポーズを決める。☑ ・生きている人のまさに生き生きとした表情を自分なりに表現してみる。☑ ☑	【事前学習】授業に関連する人物デッサン集などを事前に関覧、研究しておく。	30
20	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
21	人物木炭デッサン 2	人物木炭デッサン☑ ・モデルを使い固定ポーズで描く。☑ ・全身の立体感などを忘れずに顔や手の表情もよく観察して完成へと向かう。☑	【事前学習】授業に関連する人物デッサン集などを事前に関覧、研究しておく。	30
22	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
23	自由制作 1	自由制作☑ ・ダンボールを支持体として使った、一年間の集大成としての作品創り。☑ ・ダンボールは木炭や鉛筆描画の他、地塗りや彩色、更には切り張りといった加工がしやすい材料である為、様々な可能性がある。☑ ・スケッチブックや更紙に構想を練る。 ☑	【事前学習】授業に関連するデッサン集や立体作品集などを事前に関覧、研究しておく。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
24	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
25	自由制作－2	自由制作☑ ・基本的には平面制作であるが多少の立体表現は問わないので各自、自由な発想とダイナミズムを忘れずに構想を詰める。☑ ・カラージュを含める学生は材料を集める。☑ ・ある程度、エスキース（下絵）が煮詰まったら制作を開始する。	【事前学習】授業に関連するデッサン集や立体作品集などを事前に関覧、研究しておく。	30
26	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
27	自由制作－3	自由制作☑ ・制作も山場にはいり、作品が徐々に具現化してくる。☑ ・墨汁や彩色、あるいは接着剤使用で乾燥が間に合わない場合はドライヤー等も使い来週の完成を目指す。☑	【事前学習】授業に関連するデッサン集や立体作品集などを事前に関覧、研究しておく。	30
28	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
29	自由制作－4と講評会	自由制作☑ ・作品制作も佳境に入り細部の仕上げなど、まとめにはいる。☑ 講評会☑ ・各自、自由制作の作品を並べ制作コンセプトを発表する。その後、学生との意見交換も含めた講評会を実施する。☑ ・デッサンⅡ及び1年間の総評。☑ ☑	【事前学習】講評会に関連するデッサン集や立体作品集などを事前に関覧、研究しておく。	30
30	同上	☑上	【事後学習】講評会指摘内容を踏まえ、制作した作品の検証を自分なりにしておく。	30

科目名	油彩画Ⅰ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	浅野 章		
開講期	通年		
授業概要	<p>今日、日本の文化の中で絵画ほど人々に浸透し愛され生活の中で欠くことの出来ない存在になっているものはないでしょう。その中でも油絵は油彩絵具によるもので非常に便利で自由、しかも高度な表現が可能とされています。それだけに可能な限りの新造形運動の実験の場となり総合的な表現スタイルをとっている分野でもあります。本授業では基礎的な技法の理解と研究を行ない、一步一步自分の作品の制作向上を計りながら、更にデッサンの授業と相まって描写力と表現力を養うことを目的とします。提出された作品は課題ごとに講習会を行い学生へのフィードバックとします。 CD2161</p>		
達成目標	<p>油彩画の特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけの絵画空間を創りだしていくことを目指します。単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していることとし、ディプロマ・ポリシーとの関係は創造的思考力・主体的行動力となります。</p>		
受講資格	地域創成学科1年生、生涯学習講座受講生	成績評価 方法	<p>この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること（配点80点）</p> <p>②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）</p>
教科書	特になし		
参考書	<p>・新技法シリーズ絵画技術入門…佐藤一郎（美術出版社）<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>その他、授業に関する画集、資料などは適宜指示する。</p>		
学生への要望	油彩画を描くことの意味をよく考え、技法に早く慣れ、自分の世界を創っていく。また主体的、積極的な姿勢で授業に望む。 <input checked="" type="checkbox"/>		
オフィスタイム	<p>授業に関する質問は火曜日IV～V、水曜日I～II・V、木曜日IにNo1絵画室またはNo5地域創成学科研究室で受けます。ただしV時限目は17:00までとします。<input checked="" type="checkbox"/></p> <p><input checked="" type="checkbox"/></p> <p><input checked="" type="checkbox"/></p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	<p>ガイダンス<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>・1年間の授業内容や使用道具の説明。<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>・道具点検…各自、油絵具や筆などを点検して不足分を画材店に発注する。（F20号キャンパスを含む）</p>	<p>【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。 【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。</p>	30
2	静物画ガイダンス	<p>静物画のモチーフ（描画対象）制作<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>・静物画制作では身近な"物"の美しさを発見し自分の内的感情を追求してゆく。<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>・全員でモチーフ倉庫に行き各自好きな静物を選びそれを組み合わせてモチーフを作る。</p>	<p>【事前学習】授業に関連する道具やモチーフなどを事前に調べておく。 【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。</p>	30
3	静物画制作-1	<p>作品制作<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>・スケッチブックに鉛筆でエスキース（下絵）をする。<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>・静物の全体感を損なわないように気を使いながら構図を徐々に決めてゆく。<input checked="" type="checkbox"/></p>	<p>【事前学習】授業に関連する道具や作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。</p>	30
4	静物画制作-2	<p>作品制作<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>・油絵具、オイルなどの基本的な使用方法を具体的に解説しながら指導する。<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>・まず、固有色の固定観念を排除し、頭をやわらかくして好きな色を好きな所に自由に塗ってみる。<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>・参考作品や画集などを適宜、見せながら指導する。</p>	<p>【事前学習】授業に関連する道具や作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。</p>	30
5	静物画制作-3	<p>作品制作<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>・ペインティングナイフ（油彩画専用コテ）や絵画用砂を使いマチエール（画肌）や画面に変化を与える。<input checked="" type="checkbox"/></p>	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>	30
6	静物画制作-4	<p>作品制作<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>・光の方向や取り入れ方を工夫して画面に変化を与える。</p>	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	静物画制作－5	作品制作☑ ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。☑ ・色彩の取り入れ方を工夫する。例えば反対色は強烈な効果生まれ、同色系は統一した効果が生まれる。☑	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
8	静物画制作－6	作品制作☑ ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。☑ ・画面の中で強調、又は不必要な物を省略しながらいい形を探っていく。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
9	静物画制作－7	作品制作☑ ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る☑ ・密度のある描き込みによって物と空間の関係をしっかりと把握していく。☑	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
10	静物画制作－8	作品制作☑ ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る☑ ・制作もかなり進んできたが、描きこむ事によって表現が硬くならないように注意する。☑	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
11	静物画制作－9	作品制作☑ ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。☑ ・かなり完成に近づいてきたが完成まで手を抜かず細心の注意をはらう。☑ ・描きだしの新鮮さを思いだし、色が沈んでいる場合は彩度を上げてみる。☑	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
12	静物画制作－10	作品制作☑ ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。☑ ・画面全体の形とバランスを再確認しながら完成へと向かう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
13	静物画制作－11	作品制作☑ ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。☑ ・最後の微調整では画面全体の形とバランスを整えて完成にする。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
14	静物画講習会	静物画講習会☑ ・仕上がった静物画作品を並べ画集や参考作品も用いながら講評する。☑ ・質問や意見交換なども多角的に行い油彩画静物制作の目標達成を目指す。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。また作品記録用にカメラを準備しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品および作品画像を整理しておく。	30
15	風景スケッチ	・Ⅱ期から始まる風景画の為に準備スケッチ。各自構内を自由に散策しながら好みの場所を探す。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
16	風景画ガイダンス	※これよりⅡ期☑ 風景画ガイダンス☑ ・風景画制作のポイントや具体的方法を指導する。☑ ・参考作品や画集などを適宜、見せながら指導する。☑ ・各自、大学構内の好きな場所で油彩画制作を視野に入れながらスケッチをする。☑	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したスケッチを整理しておく。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
17	風景画制作－1	作品制作☑ ・風景写生は外に出て自然の美しさの中にひたり、そこの一体感から始まる。☑ ・風景画制作の為の場所（大学構内）を決定する。☑ ・カリキュラムスケジュール上、期間が晩秋に至るので風景の色合いや雰囲気の変化なども考慮に入れる。☑	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
18	風景画制作－2	作品制作☑ ・スケッチブックに鉛筆でエスキース（下絵）をする。☑ ・参考資料や画集、デッサン集も適宜見せながら指導する。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
19	風景画制作－3	作品制作☑ ・キャンパスに入る風景の全体感を損なわないように気をつけながら構図を徐々に決めていく。☑ ・光の方向や取り入れ方を工夫して画面に変化を与える。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
20	風景画制作－4	作品制作☑ ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。☑ ・色彩の取り入れ方を工夫する。例えば木の葉の塊、道、空などを色面で捉えてみる。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
21	風景画制作－5	作品制作☑ ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。☑ ・画面の中で強調、又は不必要なものを省略しながら形を探っていく。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
22	風景画制作－6	作品制作☑ ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。☑ ・密度のある描き込みによって物と空間の関係をしっかりと把握していく。☑ ・画面をまとめるにあたり、もう一度画面構成を確認してみる。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
23	風景画制作－7	作品制作☑ ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。☑ ・完成に近づいてきたが完成までは手を抜かず細心の注意をはらう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
24	風景画講評会	風景画講評会☑ ・仕上がった風景画作品を並べ画集や参考作品も用いながら講評する。☑ ・質問や意見交換も行い油彩画風景制作の目標達成を目指す。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。また作品記録用にカメラを準備しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品および作品画像を整理しておく。	30
25	人物画ガイダンス及び人物画制作－1	作品制作（クロッキー）☑ ・人物モデルによるクロッキーを4回実施し、その中から固定ポーズを決める。☑ ・スケッチブックに鉛筆でエスキース（下絵）をする。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
26	人物画制作－2	作品制作（固定ポーズ）☑ ・人物の全体感を損なわないように気をつけながら徐々に構図を決めていく。☑ ・単純な描写だけではなく、人物の内に秘められたキャラクターや美しさなども同時に表現しようと試みる。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
27	人物画制作－3	作品制作（固定ポーズ）☒ ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。☒ ・光の方向や色彩の取り入れ方なども工夫してみる。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に関連、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
28	人物画制作－4	作品制作（固定ポーズ）☒ ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。☒ ・バックとの関係に気をつけながら人物の顔や衣装を描き込んでいく。☒	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に関連、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
29	人物画制作－5	作品制作（固定ポーズ）☒ ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。☒ ・最後の微調整では画面全体の形とバランス（特に人物とバックの関係）を整えて完成へと向かう。☒	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に関連、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
30	人物画講評会及び油彩Ⅰの総評	講評会☒ ・仕上がった人物画作品を並べ、画集や参考作品も用いながら講評する。☒ ・質問や意見交換も行い油彩画人物制作の目標達成を目指す。☒ ・油彩画Ⅰの一年間の総評及び反省☒	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に関連、研究しておく。また作品記録用にカメラを準備しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品および作品画像を整理しておく。	30

科目名	塑造表現	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	黒沼 令		
開講期	通年		
授業概要	彫刻は手を通して触覚感覚を働かせながら、素材（粘土、木、石、鉄など）を直に成形していく造形芸術です。また、立体物を立体物として造形していくため、ものと人間の関係に根ざしているとともに、造形の手応えを強く体験できる活動と言えます。塑造とは彫刻の技法の一つで、粘土などの可塑性のある素材で彫刻作品をつくる事を言います。塑造表現の授業では粘土による造形、石膏取りなどの技法、テラコッタ（焼成による造形）を体験し、彫刻の基礎的な技法や表現を身につけ、ものをつくる喜びや達成感を味わう事を目標とします。☒ 最終授業で取り組んだ作品に対するフィードバックとして合評会を行います。☒ ☒ 位置づけ・水準：CD2167		
達成目標	塑造作品の制作を通して、塑造の技法と表現を学ぶことを目標とします。また、もみじ会や展覧会などの作品発表を積極的に行い、学習の成果を確認する機会とします。☒ ・単位認定の最低基準：課題作品を提出すること。その達成度が8割以上であること。☒ ・ディプロマ・ポリシーとの関係：創造的思考力、課題解決力☒		
受講資格	地域創成学科1年生☒ 生涯学習生	成績評価 方法	・課題作品 70% ☒ ・授業態度、授業に対する意欲・関心 30% ☒ 以上の配分で評価します。60点以上で合格としますが、☒ 授業理解度は7割以上を求めます。
教科書	特に無し。		
参考書	・図書館の彫刻関係図書 ☒ ・美術館（福島県立美術館、郡山市立美術館、他） ☒ ・街の中の彫刻 ☒ ・公募展覧会等		
学生への要望	公共彫刻作品を鑑賞したり、機会があれば彫刻の展覧会を観ることを心がけてください。		
オフィスタイム	・月曜日Ⅲ・Ⅳコマ（12:50～16:00）☒ ・水曜日Ⅰ・Ⅱコマ（8:50～12:00）☒ 彫刻室・工芸Ⅰ室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	塑造表現の授業について	・塑造表現の履修及び授業の年間計画について☒ ・彫刻室の使用について☒ ・準備する道具、材料、費用について☒ ・彫刻の基礎的な学習		0
2	頭像制作 - 1	◆塑造について学習する☒ 塑造の初めての学習として、友人の頭像をつくることで、彫刻の表現（造形要素や用語など）を学習していくとともに、塑造の基礎的な技法（芯棒づくり、石膏取りなど）の習得を目指す。☒ 《課題についての説明とデッサン》☒ ・頭像をつくる目的、意義について☒ ・具象彫刻についての学習☒ ・グループ分けを行いデッサンする	・授業外でもモデルの正面と側面のデッサンを進める	120
3	頭像制作 - 2	《芯棒制作と粘土練り》☒ ・芯棒を作る☒ ・粘土を練る	・授業で使う分の粘土を練って準備する	120
4	頭像制作 - 3	《モデリング・1》 ・荒づけ ・モデルをよく観察し、頭部構造を把握する ・細部にとらわれず、大きな形の組み立てを理解する	・粗付の段階を進める	60
5	頭像制作 - 4	《モデリング・2》 ・第4回に同じ	・粗付の段階を進める	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	頭像制作 - 5	《モデリング・3》 ・前段階を踏まえて、全体のバランスを考えながら、部分的造形に移行していく ・注意する点 1、彫刻性を意識しているか（構造、量塊感など） 2、全体の中で破綻がないか 3、イメージを持って表現しているか	・粗付の段階を進める	60
7	頭像制作 - 6	《モデリング・4》 ・第6回に同じ	・粗付の段階を仕上げる	60
8	頭像制作 - 7	《モデリング・5》 ・完成をイメージしながら、表面処理、細部の表現など、仕上げていく	・細部の造形に入る前の全体的な形をつくる	60
9	頭像制作 - 8	《モデリング・6》 ・第8回に同じ	・授業の内容を振り返りながら、作品を完成させる	60
10	頭像制作 - 9	《石膏取り・1》 ・石膏取りについて学習する ・雌型をつくる 1、石膏取りの環境をつくる 2、粘土作品に切り金を差し込む 3、石膏液を振りかける 4、石膏を盛り上げる 《石膏取り・1》 ・石膏取りについて学習する ・雌型をつくる 1、石膏取りの環境をつくる 2、粘土作品に切り金を差し込む 3、石膏液を振りかける 4、石膏を盛り上げる 《石膏取り・1》 ・石膏取りについて学習する ・雌型をつくる 1、石膏取りの環境をつくる 2、粘土作品に切り金を差し込む 3、石膏液を振りかける 4、石膏を盛り上げる		0
11	頭像制作 - 10	《石膏取り・2》 ・雄型をつくる 1、離型剤を雌型に流し込む 2、雌型に石膏液を流し込む 3、スタッフで補強する		0
12	頭像制作 - 11	《石膏取り・3》 ・割り出し、修正を行う ・乾燥後着色	・修正作業まで終わらせる	120
13	頭像制作 - 12	《石膏取り・4》 ・第12回に同じ	・着色を仕上げる	120
14	頭像制作 - 13	《台座制作》 ・台座について理解する ・木材で台座を制作後、頭像を設置する	・材座をサンドペーパーなどで磨く	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	頭像制作-14	《合評会》 ・制作した頭像作品についてのプレゼンテーションを含めた合評会を行う		0
16	テラコッタ-1	◆塑造（モデリング）の表現の一つである、テラコッタについて学習する。粘土の練り方や保管の方法など、理解する。 テーマは自由。各自彫刻性を意識したものを構想し、制作する。 《アイディアデッサン》 ・自由に構想を練りながらデッサンする	・作品の構想を練りながら、取材、デッサンを用意する	120
17	テラコッタ-2	《モデリング・1》 ・粘土の練り方を練習する ・手びねり（芯棒を用いない）で制作する		0
18	テラコッタ-3	《モデリング・2》 ・第17回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
19	テラコッタ-4	《モデリング・3》 ・第17回に同じ	・授業の内容を振り返りながら制作を進める	60
20	テラコッタ-5	《モデリング・4》 ・第17回に同じ	・授業の内容を振り返りながら制作を進める	60
21	テラコッタ-6	《モデリング・5》 ・第17回に同じ	・授業の内容を振り返りながら制作を進める	60
22	テラコッタ-7	《モデリング・6》 ・焼成の準備 1、少し乾燥させた作品の内側を空洞にする 2、量のある部分は穴を開けるなど、空気の逃げ道を作る		0
23	テラコッタ-8	《モデリング・7》 ・第22回に同じ	・焼成できる状態まで完成させる	60
24	テラコッタ-9	《モデリング・8》 ・第22回に同じ	・焼成できる状態まで完成させる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
25	テラコッタ-10	《モデリング・9》 ・第22回と同じ ・やすりをかけるなど、乾燥した粘土でなければ出来ない造形を行う		0
26	テラコッタ-11	《モデリング・10》 ・第22回と同じ	・焼成前に作品をやすりがけする	120
27	テラコッタ-12	《モデリング・11》 ・第22回と同じ ・着色について学習する		0
28	テラコッタ-13	《モデリング・12》 ・第27回と同じ ・台座の制作を行う	・台座をサンドペーパーなどで磨く。 着色を行う。	120
29	テラコッタ-14	《モデリング・13》 ・第28回と同じ	・台座をサンドペーパーなどで磨く。 着色を行う。	120
30	テラコッタ-15	《合評会を行う》 ・制作したテラコッタ作品についてのプレゼンテーションを含めた合評を行う		0

科目名	基礎デザイン	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	松田 理香		
開講期	I		
授業概要	この授業ではデザインの基本的な考え方や提示の仕方を学びます。点・線・面など構成の基礎となる造形の諸要素を知り、色彩を体系的に把握します。5つほどの課題に取り組みながら、他者への発信の仕方やその技法などを学びます。☑ 提出した作品のいくつかは全員で鑑賞し意見などを述べ合います。また提出したレポートを返却する際はコメントなどによるフィードバックを行います。 CD2168		
達成目標	日常生活の中で一定の情報をわかりやすく視覚的に伝えていく表現の一つにデザインがあります。「視覚言語としてのデザイン」が社会で果たす役割について考えてください。☑ ・単位認定の最低基準：課題作品の提出（ルーブリック評価の基づいて判定します）☑ ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力		
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	制作姿勢(20%)課題作品の提出状況と達成度(80%)の他、授業目標への意欲や関心などを含めて総合的に判断します。
教科書	ありません。☑ 必要に応じて関連資料を配布します。		
参考書	○参考書☑ ・デザイン概論（ダヴィッド社）など☑ ○画材・道具など☑ （画材についてガイダンスを行い購入希望者がいた場合はまとめて発注します）☑ ・アクリル絵具、マスキングテープ、筆、定規、カッターなど		
学生への要望	・生活の中にあるデザインについて興味・関心を持ってください。☑ ・美術館・博物館などへ足を運び、ワークショップなどにも積極的に参加してください。		
オフィスタイム	月曜日 II～IVコマ☑ 木曜日 I・IIコマ☑ 場所：芸術館1階 No.2工芸室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	基礎デザインの授業内容について説明し、生活の中のデザインについて考える。☑ また、必要な材料とデザイン用具について説明する。	ガイダンスで配布された資料を参考に生活の中にあるデザインの役割について考える。	30
2	点・線・面の構成	点が平面構成の原点であることを理解する。点と点の関連性から線や面への可能性を考える。美しいデザインを考えるとときに必要とされるいくつかの要素には、リピテーション（リズム）、コントラスト、シンメトリー、グラデーション、アクセント、ムーブメントがある。ここではシンメトリー（左右対称、点对称、平行移動など）について理解する。 【課題1】 丸型シールを使用する。200×200mmの正方形の内側に5つのテーマに従って「秩序ある配置」を心掛けながら自由に表現する。 ①集合のイメージ ②拡散のイメージ ③感情のイメージ ④匂いのイメージ ⑤色のイメージ	配布資料を参考に①～⑤の課題に取り組みながら造形の要素について理解を深める。	60
3	水貼り技法体験	「水貼り技法」の体験☑ B3サイズのパネルにケント紙を水張りする。紙を水張りすると水溶性の絵具をのせても紙の平滑性が保たれ制作しやすい。☑ 「烏口」の体験☑ 烏口は直線や円弧、曲線など様々な種類の線が引ける製図用具である。☑ コンピュータの普及により手作業で線を引く機会はほとんどなくなったが、道具の扱いや絵具の濃さを知り、またマスキングテープを用いて烏口との違いを体験する。（烏口は学科で用意する）	紙の特性について学習する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	色相環をつくる(1)	色彩を体系的に把握するために、カラーチャート(日本色彩研究所の配色体系:基本色表シリーズ4)をもとにして24色の色相環をつくる。 【課題2】 ①ケント紙を水張りしたB3パネルを横に使用して、パネルの中央に色相環の下書きをする。 ②カラーチャートを参考に、8/黄、12/緑、17/青、20/青紫、22/紫、2/赤、5/橙を先に塗る。	色材や道具の特性を知り色彩を体系的に捉え理解を深める。	30
5	色相環をつくる(2)	(配布資料に基づき制作を進める) ☒ ③次に②の色の中間色を塗る。☒ 色あわせは紙片(ケント紙の余った紙)に絵具を塗りながらPCCS色相環の色に合わせていく。	配布資料をもとに色の再現を試みる作業を行う。	30
6	色相環をつくる(3)	(配布資料に基づき制作を進める) ④紙片(ケント紙の余った紙)に絵具を塗りながらPCCS色相環の色に合わせていく。	配布資料を参考に色の再現を試みる作業を行いながら色彩体系を理解を深める。	60
7	色相環をつくる(4)	(配布資料に基づき制作を進める) ⑤紙片(ケント紙の余った紙)に絵具を塗りながらPCCS色相環の色に合わせていく。	配布資料を参考に色の再現を試みる作業を行いながら色彩体系の理解を深める。	60
8	色相環をつくる(5)	(配布資料に基づき制作を進める) ⑥修正を繰り返しながら色相環を完成させ、すべての色がカラーチャートに近いことを確認してパネルごと提出する。	全体を見直し必要に応じて修正を行う。	30
9	ピクトグラム(1)	ピクトグラムの代表例である「非常口のサイン」「トイレのサイン」などを通して、ピクトグラムの歴史を学び、身近なピクトグラムの必要性和重要性を考える。	配布資料を参考にピクトグラムについての理解を深める。	30
10	ピクトグラム(2)	【課題3】☒ 配布資料を使用して人間の動作について考える。☒ ①指定のパターンを自由に組み合わせて人間の動きについて観察し、形を探る作業を行う。☒ ②それぞれ10個以上の形をラフスケッチ用紙に記録する。	配布資料を参考に、ピクトグラムのパーツを駆使して人間の動作について考え、より良い形を探る作業を行う。	60
11	ピクトグラム(3)	(配布資料に基づき作業を進める) ☒ ①指定のパターンを自由に組み合わせて人間の動きについて観察し、形を探る作業を行う。☒ ②それぞれ10個以上の形をラフスケッチ用紙に記録する。	配布資料を参考に、ピクトグラムのパーツを駆使して人間の動作について考え、よりよい形を探る作業を行う。	60
12	ピクトグラム(4)	(配布資料に基づき作業を進める) ☒ ①スケッチの中から「歩く」「走る」「跳ぶ」の形を1セットとして選ぶ。☒ ②ケント紙に決定したピクトグラムを製図して黒のアクリル絵具で仕上げ提出する。	人間の3つの動作をピクトグラムに置き換えサインとして果たす役割や効果について検証する。	30
13	編集デザイン(1)	主に印刷物を中心とした編集デザインについて学ぶ。☒ ①判型と版面の設計について☒ ②版面に盛り込まれる要素について☒ ③文字について ・和文フォントと英文フォントの違い ・文字の種類 ・文字の大きさ など	配布資料を参考に効果的な紙面の作り方などを検証し編集デザインについての理解を深める。	30
14	編集デザイン(2)	④字間と行間について☒ ⑤マークやロゴについて☒ ⑥色彩計画(色と配色)など☒	配布資料を参考に効果的な紙面の作り方などを検証し編集デザインについての理解を深める。	30
15	まとめ	【まとめ】☒ これまでの課題について振り返り、生活の中のデザインについて考える。	生活の中におけるデザインの役割について改めて考え理解を深める。	30

科目名	絵本とイラストレーション	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	松田 理香		
開講期	Ⅱ		
授業概要	簡易な絵本を制作しながらイラストレーション表現のためのさまざまな技法について学び、「伝える」ことの重要性を学びます。表紙、扉、本文、裏表紙を合体して16ページの絵本を制作します。既刊の代表的な絵本も参考にしながら、文字やイラストレーション、写真、切り絵、飛び出す絵本など、各自のコンセプトに合わせた表現方法で絵本を制作し完成させ提出してください。☑ 完成した作品は講評時に全員で鑑賞し、感想などを述べ合います。また手提出したレポートを返却する際はコメントなどによるフィードバックを行います。 CD2169		
達成目標	編集デザインの視点から絵本を制作します。絵本を手にする対象(年齢や場面など)を具体的にイメージしながら制作してください。☑ ・単位認定の最低基準：課題作品の提出(ルーブリック評価に基づいて判定します) ☑ ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解・創造的思考力		
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	提出作品〔絵本〕(80点)、本の装丁や編集デザインの理解度など(20点)を総合的に判断します。
教科書	簡易な制作手順資料を配布します。		
参考書	既刊の絵本や写真集等の資料を提示します。		
学生への要望	各自の表現方法を活かしながらオリジナルの手作り絵本を完成させてください。また、アニメーションなどの映像表現との違いを知り、あるいはコラボレーションの可能性など、これからの絵本のあり方についても追求してください。		
オフィスタイト	月曜日 Ⅱ～Ⅳコマ☑ 木曜日 Ⅰ・Ⅱコマ☑ 場所：芸術館1階 No.2工芸室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	1. 本の装丁について学ぶ。特に、絵本の装丁の魅力を再確認する。 2. イラストレーション表現に面白さがある本、構成や造本、色調に工夫がある本など、デザイン的な視点から絵本を見る。本の構造や種類、本の部位の名称について学ぶ。	配布された資料を参考に絵本の魅力を改めて考え理解を深める。	30
2	絵本について	1. 絵本について☑ 1) 絵本とデザイン 2) 絵本とアニメーション ☑3) 絵本とマンガ 4) 絵本とアート ☑. 絵本の表現技法について (色、形、技法、仕掛け、材料、基材など)	図書館や書店などで実際に絵本を手に取り、絵本についての理解を深める。	60
3	<絵本の構成と構造> ☑ ストーリーを考える ①	1. 材料、制作上の諸注意、授業の流れについて確認する。 ☑. オリジナルの絵本をタテ型とヨコ型のどちらにするか決める。☑ 3. 本文に、文字や文章を入れるか、絵柄だけで構成するかなど、配布するストーリーボードを用いて16ページの構成(流れ)を考える。☑ ①ストーリー性を持たせるかどうか・・・起承転結、始めと終わり、使用前と使用后 など☑ ②文字や文章を入れるかどうか・・・文字や文章のみとするか(あ～ん、A to Z) など☑ ③既成の詩や物語などに図柄をはめ込む、オリジナルの解釈を加える など☑ 4. ストーリーに合う表現方法を決め、適した材料を用意する。☑ ・水彩表現 ・切り絵(貼り絵)、切り抜き ・色鉛筆 ・版(木、消しゴム等) ・エンボス加工 など	配布資料を参考に絵本の基本的な構成を知り各自の絵本についてオリジナルイメージを固める。	30
4	ストーリーを考える ②	1. オリジナルの表現を吟味する。試しに描いてみる。 2. ストーリーボードをもとに、文字や文章を入れる場合のレイアウトを検討する。	配布資料を参考に絵本の基本的な構成を知り各自の絵本についてオリジナルイメージを固める。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	ストーリーを考える ③	1. レイアウトの確認1ページ(扉)から16ページまでの流れを決める。見開きのページを挿入するなど、読み手を意識して、盛り上がる場面を作るなどの工夫をする。 2. 色材などの検討紙は両面使用なので裏写りしないかなどの試作を行う。他の加工を希望する場合も同様に試作を行う。	16ページの展開をイメージしてスケッチを行う。	60
6	中身(本文)を制作する ①	1. ページの順番を確認しながら中身を制作する。既成の絵本やイラストレーション作品なども参考にしながらオリジナルの表現方法を探る。 2. キャラクターなど主人公が登場する場合は、同一人物であることがわかるようにする。	自分の作品に合う表現方法について考え、さまざまな素材で試作する。	60
7	中身(本文)を制作する ②	1. ストーリーが読み手にとって内容が伝わる構成になっているか確認しながら作業を進める。 2. 読み手を意識して制作する。	自分の作品に合う表現方法で作業を進める。	60
8	中身(本文)を制作する ③	1. 文字や文章を配置する場合は、誤字・脱字がないかなどを確認する。 2. 全体の仕上がりがイメージ通りとなっているか、効果的な流れになっているか確認しながら制作する。	自分の作品に合う表現方法で作業を進める。	60
9	中身(本文)を制作する ④	1. 文字や文章を配置する場合は、誤字・脱字がないかなどを確認する。 2. 全体の仕上がりがイメージ通りとなっているか、効果的な流れになっているか確認しながら制作する。	自分の作品に合う表現方法で作業を進める。	60
10	表紙の台紙を作る ①	○絵本の完成形状(タテ型にするかヨコ型にするか) 1) 本のページ構成の確認 ①表紙と裏表紙・背 ②見返し(接着面・遊び紙・奥付) ③本文16ページ(両面使用のため用紙は8枚) 2) 中身(本文)に合うように表紙・裏表紙となる色紙を選ぶ。 3) 表紙・裏表紙に合わせて見返し紙を選ぶ。 4) 中身(本文)の制作を完成させる。	本文に合わせた表紙のデザインをイメージしてスケッチを行う。	30
11	表紙の台紙を作る ②	5) 配布の資料に基づき、台紙となる芯地のボール紙を切る。 6) 表紙の色紙でボール紙をくるむように貼り、台紙を仕上げる。	台紙の仕上がりを確認しながら表紙・裏表紙のデザインを考える。	30
12	表紙のデザイン ①	○表紙と裏表紙のデザイン 1) 作品タイトル、作者名、出版社名、また価格やバーコードなど絵本に必要な情報を決める。必要な情報をどのようにレイアウトするかも含めてバランスを見ながら検討すること。 2) 中身(本文)に合わせた表現の表紙と裏表紙を制作する。	既存の絵本なども鑑賞し絵本全体の完成イメージを固め作業を行う。	60
13	表紙のデザイン ②	3) 中身(本文)に合わせた表現の表紙と裏表紙を完成させる。 4) ノドの位置やページの順番、扉や奥付に必要な情報が入っているかを確認する。	既存の絵本なども観察し絵本全体の完成イメージを固め作業を行う。	30
14	中身を立てる	○合本1) 最終的な仕上がりを予想して表紙と中身を組み合わせる。 2) タテ型、ヨコ型とも、紙の目、ページの順番や枚数などが合っているか確認する 3) 天地とチリが合っているか確認する。 4) 美しい仕上がりを追求する。	既存の絵本なども観察し絵本を完成させ提出できるよう準備を行う。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	まとめ（鑑賞と講評）	○合評会と作品提出 1) 作品発表 お互いの作品を鑑賞し、内容や仕上げについて感想を述べ合う。 2) まとめ	感想や意見を受け、自分の作品について客観的に検証する。	30

科目名	C G 基礎 I	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	小松 太志,米本 順子		
開講期	I		
授業概要	<p>▼授業の目的・ねらい☑</p> <p>①造形表現を行なう上で必要となるコンピュータの基礎知識・操作方法を修得すること。☑</p> <p>②Draw系グラフィックソフトウェアの操作方法を修得すること。☑</p> <p>③コンピュータを使用して、用途・目的に応じた適切なデザイン制作を行えるようになること。☑</p> <p>☑</p> <p>▼授業全体の内容の概要☑</p> <p>①グラフィックアプリケーション（Draw系）の操作方法（オブジェクトの選択・描画・編集・カラー設定・レイヤー操作）を学修する。☑</p> <p>②Illustrator®クリエイター能力認定試験対応のテキストを使用して、授業を行なう。☑</p> <p>☑</p> <p>▼実務経験に関連する内容☑</p> <p>・広告制作会社に勤務した経験を活かして、デザイン制作におけるコンピュータ利用についての実践的な指導も行う。☑</p> <p>・実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務☑</p> <p>☑</p> <p>▼課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法☑</p> <p>・期末に、ルーブリック表を用いてフィードバックを行なう。☑</p> <p>☑</p> <p>位置づけ・水準 CD2164</p>		
達成目標	<p>▼達成目標☑</p> <p>①コンピュータ・グラフィックス技術の基礎的理解が為されている。☑</p> <p>②グラフィックアプリケーション（Draw系）の基礎的操作方法を習得している。☑</p> <p>③コンピュータによる造形表現の特性が理解できている。☑</p> <p>☑</p> <p>▼単位認定の最低基準☑</p> <p>・授業内容の7割を理解していること。☑</p> <p>☑</p> <p>▼ディプロマ・ポリシーとの関係☑</p> <p>・知識理解、創造的思考力</p>		
受講資格	地域創成学科 1年	成績評価 方法	授業の総合的理解度が7割程度に達していることを基本として、以下の3つ観点で所定のルーブリックに基づき評価する。☑
教科書	Illustrator®クイックマスターCC Windows&Mac、株式会社ウイネット		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	<p>・授業支援システムを活用して、授業資料の配布や課題提出をおこなうため、操作に慣れること。☑</p> <p>・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように自習すること。</p>		
オフィスタイトム	月曜日 III・IV時限、金曜日 III・V時限、No.3地域創成学科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	<p>▼ C G 基礎 II の授業計画と授業目標について説明する。</p> <p>▼CG演習室の使用方法和機器設備について説明する。授業で使用するコンピュータに個々のアカウントを作成する。</p>	<p>【事前学習】CG分野作品について調べる。</p> <p>【事後学習】コンピュータの基本操作について復習する。</p>	60
2	基本操作	<p>▼Illustratorの起動と作業エリア、アートワークの表示とプリント、環境設定について学修する。</p>	<p>【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter1」について予習する。</p> <p>【事後学習】演習課題作品に取り組む。</p>	60
3	オブジェクトの基本操作	<p>▼塗りと線、オブジェクトの描画、基本的な編集操作、レイアウトの補助機能について学修する。</p>	<p>【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter2」について予習する。</p> <p>【事後学習】演習課題作品に取り組む。</p>	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	パスの描画(1)	▼パスの基本的な描画、パスの編集について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter3」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
5	パスの描画(2)	▼パスの基本的な描画、パスの編集について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter3」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
6	カラー設定	▼カラーパレットによるカラー設定、スウォッチ、パターン、グラデーション、アピアランスについて学修する。	【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter4」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
7	オブジェクトの編集	▼レイヤー、パスの編集、オブジェクトの組み合わせによる編集について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter5」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
8	文字	▼文字の作成、文字関連の機能について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter6」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
9	知識理解の確認①	▼実技形式の模擬テストを実施する。これまでの学習内容について、復習する。	【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツ制作編 Chapter1」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
10	知識理解の確認②	▼模擬テストの結果を確認する。回答について、解説を行なう。	【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツ制作編 Chapter1」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
11	知識理解の確認③	▼実技形式の模擬テストを実施する。これまでの学習内容について、復習する。	【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツ制作編 Chapter2」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
12	知識理解の確認④	▼模擬テストの結果を確認する。回答について、解説を行なう。	【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツ制作編 Chapter2」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
13	知識理解の確認⑤	▼実技形式の模擬テストを実施する。これまでの学習内容について、復習する。	【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツ制作編 Chapter4」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
14	知識理解の確認⑥	▼模擬テストの結果を確認する。回答について、解説を行なう。	【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツ制作編 Chapter5」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
15	知識理解の確認⑦	▼実技形式の模擬テストを実施する。これまでの学習内容について、復習する。	【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツ制作編 Chapter5」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60

科目名	C G 基礎 II	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	小松 太志		
開講期	II		
授業概要	<p>▼授業の目的・ねらい☑</p> <p>①造形表現を行なう上で必要となるコンピュータの基礎知識・操作方法を修得すること。☑</p> <p>②Paint系ソフトウェアの操作方法を修得すること。☑</p> <p>③コンピュータを使用して、用途・目的に応じた適切な画像編集を行えるようになること。☑</p> <p>☑</p> <p>▼授業全体の内容の概要☑</p> <p>①グラフィックアプリケーション（Paint系）の操作方法（オブジェクトの選択・描画・編集・カラー設定・レイヤー操作）を学修する。☑</p> <p>②Photoshop®クリエイター能力認定試験対応のテキストを使用して、授業を行なう。☑</p> <p>☑</p> <p>▼実務経験に関連する内容☑</p> <p>・広告制作会社に勤務した経験を活かして、デザイン制作におけるコンピュータ利用についての実践的な指導も行う。☑</p> <p>・実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務☑</p> <p>☑</p> <p>▼課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法☑</p> <p>・期末に、ルーブリック表を用いてフィードバックを行なう。☑</p> <p>☑</p> <p>位置づけ・水準 CD2264</p>		
達成目標	<p>▼達成目標☑</p> <p>①コンピュータ・グラフィックス技術の基礎的理解が為されている。☑</p> <p>②グラフィックアプリケーション（Paint系）の基礎的操作方法を習得している。☑</p> <p>③コンピュータによる造形表現の特性が理解できている。☑</p> <p>☑</p> <p>▼単位認定の最低基準☑</p> <p>・授業内容の7割を理解していること。☑</p> <p>☑</p> <p>▼ディプロマ・ポリシーとの関係☑</p> <p>・知識理解、創造的思考力</p>		
受講資格	地域創成学科1年	成績評価 方法	授業の総合的理解度が7割程度に達していることを基本として、以下の3つ観点で所定のルーブリックに基づき評価する。☑
教科書	Photoshop®クイックマスターCC Windows&Mac、株式会社ウイネット		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	<p>・授業支援システムを活用して、授業資料の配布や課題提出をおこなうため、操作に慣れること。☑</p> <p>・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように自習すること。</p>		
オフィスタイトム	月曜日 III・IV時限、金曜日 III・V時限、No.3地域創成学科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	<p>▼C G 基礎 2の授業計画と授業目標について説明する。</p> <p>▼CG演習室の使用方法和機器設備について説明する。授業で使用するコンピュータに個々のアカウントを作成する。</p>	<p>【事前学習】CG分野作品について調べる。</p> <p>【事後学習】コンピュータの基本操作について復習する。</p>	60
2	Paint系アプリケーションとは	▼ファイル操作、作業エリア、画面表示と色の選択、環境設定について学修する。	<p>【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter1」について予習する。</p> <p>【事後学習】演習課題作品に取り組む。</p>	60
3	選択範囲の作成	▼選択ツールとその他の選択方法について学修する。	<p>【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter2」について予習する。</p> <p>【事後学習】演習課題作品に取り組む。</p>	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	画像の移動と変形	▼画像解像度とサイズ変更、画像のコピー&ペースト、画像の変形について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter3」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
5	カラーモードと色調補正	▼カラーモード、色調補正について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter4」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
6	ペイント	▼ペイント系のツール、レタッチ系のツール、ペイント系のコマンドについて学修する。	【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter5」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
7	レイヤーの操作	▼レイヤーの基本操作、調整レイヤーと塗りつぶしレイヤーについて学修する。	【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter6」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
8	パスとシェイプ、テキスト	▼パスの作成と編集、シェイプについて学修する。 ▼テキストの入力と編集、文字の加工について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter7およびChapter8」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
9	フィルター	▼フィルタの概要と使用について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter9」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
10	画像の入出力	▼保存形式、プリントとスキャナーについて学修する。	【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter10」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
11	知識理解の確認①	▼実技形式の模擬テストを実施する。これまでの学習内容について、復習する。	【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツの制作編 Chapter1」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
12	知識理解の確認②	▼模擬テストの結果を確認する。回答について、解説を行なう。	【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツの制作編 Chapter2」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
13	知識理解の確認③	▼実技形式の模擬テストを実施する。これまでの学習内容について、復習する。	【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツの制作編 Chapter3」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
14	知識理解の確認④	▼模擬テストの結果を確認する。回答について、解説を行なう。	【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツの制作編 Chapter4」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
15	知識理解の確認⑤	▼実技形式の模擬テストを実施する。これまでの学習内容について、復習する。	【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツの制作編 Chapter4」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60

科目名	写真基礎	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	山口 郁生		
開講期	Ⅱ		
授業概要	写真の基本的な教養を身につけるとともに、実習をとおして撮影、画像調整の技術を学習します。		
達成目標	1. 写真の基本的な教養を身につける。☑ 2. 学生各自の研究領域に生かせる写真を思い通りに撮影できるようになる。☑ ※実務経験：カメラマンとして株式会社企画室・コアに勤務。		
受講資格	地域創成学科1年	成績評価 方法	①レポート提出 40% ②課題ノート提出 30%☑ ③学習態度 30%
教科書	特に指定しない。		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	1. デジタルカメラ（スマートフォン以外、コンパクトデジタルカメラ可）と、8～16GBのコンパクトメモリーフラッシュを準備すること。☑ 2. 限られた時間内でできるだけ写真を撮影、出力することを目的に、毎週課題ノートを提出してもらいます。ノートの提出は毎週欠かさないこと。		
オフィスタイム	木曜Ⅳ・Ⅴ限（No.1 生芸研究室・No.1 工芸室）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	①現代写真家列伝	(1) 梅佳代、(2) 森山大道、(3) 「人形の都」 以上を参考に自分にとっての写真表現とは何かについて考える	自主撮影・印刷	30
2	写真の歴史	写真の発明から現在までを欧州から日本に分けて学習	自主撮影・印刷	30
3	写真機の構造と種類	カメラの構造を知ることにより何故、画像を定着できるかを学習	自主撮影・印刷	30
4	デジタルカメラについて	現在主流のデジタルカメラについて、撮影方法について構造を学習	自主撮影・印刷	30
5	画像編集ソフトについて	GINPを用いて撮影画像のパソコンへの取り込み、画像調整を学習	自主撮影・印刷	30
6	人物撮影学習	デジタルカメラによる人物撮影	自主撮影・印刷	30
7	画像編集実習	画像のパソコンへの取り込み→画像の調整の実習	自主撮影・印刷	30
8	①画像編集実習→ 写真出力→仕上げ	画像調整の終わった写真をプリントして仕上げの実習	自主撮影・印刷	30
9	②画像編集実習→ 写真出力→仕上げ	画像調整の終わった写真をプリントして仕上げの実習	自主撮影・印刷	30
10	②現代写真家列伝	(4) 川内倫子、(5) 藤原新也 以上を参考に 自分にとっての写真表現とは何かについて考える	自主撮影・印刷	30
11	①静物撮影実習	写真スタジオでスティルライフの撮影実習	自主撮影・印刷	30
12	②静物撮影実習	写真スタジオでスティルライフの撮影実習	自主撮影・印刷	30
13	①画像編集実習→ 写真出力→仕上げ	撮影画像のパソコンへの取り込み→画像調整→出力→仕上げ	自主撮影・印刷	30
14	②画像編集実習→ 写真出力→仕上げ	撮影画像のパソコンへの取り込み→画像調整→出力→仕上げ	自主撮影・印刷	30
15	まとめ	撮影作品、課題提出ノートの合評会	自主撮影・印刷	30

科目名	水彩表現	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	斉藤 弘久		
開講期	Ⅱ		
授業概要	水彩絵の具は水を加えるだけで手軽に使用でき、誰もが子供の頃、手にした事のあるなじみの深い彩色材料です。しかも他の描画材料との併用も容易であり、この素材の特性から水彩画は柔軟性とみ、多くの可能性を秘めた表現媒体であるといえます。(CD2171)		
達成目標	授業では、水彩絵の具のほかにもその他の水性絵の具の使用方法も含めて、それらの素材の特性の理解と技術の習得を目指し、技法の開拓を図ることにより更に水彩画の表現の可能性を追究していきます。		
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	①授業目標の達成度が70%以上であること。(配点80点) ②授業に対する関心・意欲・態度(配点20点)
教科書	そのつど担当者が資料を配布する。		
参考書	そのつど担当者が紹介する。		
学生への要望	水彩絵の具の表現方法の工夫。例えばティッシュで拭き取ったり、ニードルで引っ掻いたり様々な表現を納得のいくまで追究すると共に制作そのものを楽しみましょう。また、空き時間を利用して画材に触れるよう心掛けてください。		
オフィスタイム	授業に関する質問や相談は毎週金曜日を除く平日(9:00~17:00)の授業のない時間にNo.2.デザイン室で受けます。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の目標と内容について、および授業の進め方について話します。 水彩画の特色と歴史および用具と材料について話します。 透明絵の具と不透絵の具、透明描法と不透明描法について説明します。	授前、水彩画について自学自習 授後、制作の準備	180
2	風景画	キャンパス風景写生の制作をします。校舎内外の描きたい場所を選びます。 作品参考例により構図(近景、中景、遠景の関係と組み合わせ等)を考えます	授前、制作の準備 授後、構図の確認	180
3	風景画	○キャンパス風景写生 キャンパスの描きたい所2~3箇所をスケッチして淡彩で塗ります。クロッキーやデッサンには鉛筆、コンテ、各種の素材を試みましょう。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	180
4	風景画	○キャンパス風景写生 大気に漂う瑞々しい季節感を肌で感じ取りながら、描いている対象の中心(主題)を見極めて行きましょう。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	180
5	風景画	○キャンパス風景写生 淡彩スケッチ2~3枚の中から制作場所を選び、四つ切り水彩用紙(コットマン紙)に描きます。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	180
6	風景画	○キャンパス風景写生 主題と構図の関係を考えながらデッサンしましょう。対象の風景に含まれるいろいろな物には省略や移動を加えて効果的な構図を考えましょう。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	180
7	風景画	あくまでも自分の描きたい場所で、楽しく制作を進めることが大切です。 彩色に入ります。(透明描法、不透明描法の何れでもよいです。)	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	180
8	風景画	各自の主題、コンセプトに合わせ、基調色を選びましょう。 全体の色調のバランスを考えながら、大まかに色を置いていきます。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	180
9	風景画	細部に拘らずに太めの筆でのびのびと彩色しましょう。 構図や色調が各自の主題表現に沿っているかどうか確認しながら、追究し、加筆しましょう。	授前、制作の準備 授後、仕上げに向けての準備	180
10	風景画	キャンパス風景写生を完成させる。担当教員が講評する。	授前、制作の準備 授後、完成作品についてのまとめ	180
11	静物画	各自が描きたいモチーフを選び、2箇所モデルを設置します。(2グループでモデル設置作業を行います。)写生による写実的表現を原則としますが、心象的表現を試みてもかまいません。	授前、静物画について情報を集める 授後、静物画に対しての認識を深める	180

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	静物画	2種類のモデルより一つ選びます。 複数のモチーフの中から各自描きたいものを選び、画面構成を考えながらデッサンします。 モチーフは多すぎないように注意しましょう。半切または全紙の水彩用紙を使用します。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	180
13	静物画	画面上でのモチーフの省略や移動も試みて、各自のコンセプトをより明確に表現できるような構図を考えましょう。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	180
14	静物画	単なる写生に止まらず、モチーフに対する感情移入を大切にして、心象表現の試みなども可能です。表現の方針が決まり、デッサンが済んだら彩色に入ります。色は透明描法、不透明描法および両者の併用など各自のコンセプトに合わせて使い分けましょう。	授前、制作の準備 授後、完成にむけて準備	180
15	静物画	作品を完成させる。最後に教員がこの授業で学んだ風景画、静物画に対する講評を行う。	授前、制作の準備 授後、完成作品についてまとめ	180

科目名	版画基礎	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	斉藤 弘久		
開講期	I		
授業概要	版画の基本的4版種を実習を通して学んでいく。実際の版に触れ積極的に様々な技法を試し用いて描いて行く。そして試し刷りを繰り返すことによって、イメージした物がどのように完成して行くかを思い浮かべながら作品を仕上げる。手作業やパーソナルコンピュータによる制作も加え授業を展開していく。(CD2162)		
達成目標	版画表現の豊かさを感じ、人間相互のコミュニケーションとしての極めて重要な役割を担っている印刷への理解を深めて行く事を目標としている。		
受講資格	地域創成学科 1年生	成績評価 方法	①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること。(配点80点) <input checked="" type="checkbox"/> ②授業に対する関心・意欲・態度 (20点)
教科書	そのつど担当者が資料を配布する。		
参考書	そのつど担当者が紹介する。		
学生への要望	多種多様な素材と表現方法により未だ経験のしたことのない表現を体験するために、各版種の面白さを実感し、可能な限り版から得るイメージを想像し膨らませ制作してください。日頃から版から受けるイメージを想像し、学んだことを工夫して発見したり活かしたりしながら課題内容の充実を図ってください。		
オフィスタイム	授業に関する質問や相談は毎週月曜日を除く平日(9:00~17:00)の授業のない時間にNo.2.デザイン室で受けます。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	版画とはどういう物なのか。歴史と人に与える影響などを解説する。	授前、4版種の基礎を自学習 授後、 版画の認識を深める	180
2	木版画の基礎	木版画と言っても表現の幅はいろいろで、簡単な表現から高度な表現を学びます。	授前、木版画の基礎を自学習 授後、 木版画を深める	180
3	銅版画の基礎	銅版画の直接技法と間接技法を学びます。	授前、銅版画の基礎を自学習 授後、 銅版画を深める	180
4	石版画の基礎	石版画は現代の印刷手段であるオフセット印刷の基本であることを学びます。	授前、石版画の基礎を自学習 授後、 石版画を深める	180
5	シルクスクリーンの基礎	古来より用いられて来た技法から、現在使われている特殊な印刷方法を学びます。	授前、版画の歴史を自学習 授 後、版画の歴史を深める	180
6	デジタル版画の基礎	デジタルを、アナログではない版とする版画の意味と表現を学びます。	授前、現代の印刷を自学習 授 後、印刷全般を深める	180
7	版種の併用	学んだ様々な版形式を併用して、単独の版種では得られない効果を学びます。	授前、版形式の再確認 授後、版を選択する	180
8	版画制作	ここまで学んだ版種を基に、作品を制作していきます。表現方法を考えます。	授前、表現方法を考える 授後、イメージを膨らませる	180
9	版画制作	自分の選んだ版種をどこまで深められるか、版種ごとの様々な技法に取り組みます。	授前、試作を試みる準備 授後、試作の結果を判断する	180
10	版画制作	技法を身につけるために、失敗を恐れなくて試し刷りをしながら制作してください。	授前、試作を試みる準備 授後、試作の結果を活かす	180
11	版画制作	技法が身に付いて来たところで、自分で考えたイメージを作品にしていきます。	授前、制作準備 授後、 次回の制作に活かす判断をする	180
12	版画制作	試し刷りを重ねながら、加えるところ、削るところを調整していきます。紙によっても刷られた表情が違っているので、いろいろな紙で刷りを試みてください。	授前、制作準備 授後、 次回の制作に活かす判断をする	180
13	版画制作	完成を視野に入れながら版の調整、色の調整などをします。	授前、制作準備 授後、 次回の制作に活かす判断をする	180
14	版画制作	作品を完成させる。	授前、制作準備 授後、 完成作品の扱い方を考える	180
15	版画制作	完成した作品の扱い方や、展示方法などを説明しながら教員が講評する。	授前、展示方法などを調べる 授 後、作品を鑑賞する	180

科目名	日本史演習	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	佐藤 愛未		
開講期	Ⅲ		
授業概要	江戸時代は徳川氏が江戸幕府を開いた17世紀初頭から、戊辰戦争により新政府が誕生する19世紀半ばまでの約260年間の時代である。幕府と諸藩による長期間の全国統治により、現代社会の仕組みはこの時代に形づくられることになった。現代社会につながる江戸時代および明治時代初期について考えてみる。☑ 江戸時代は、なぜ長期にわたり継続し、そしてなぜ倒れたのか。これを成立期～解体期前後の国内外の情勢から日本史の流れの概略を、各講義内容に関連する史料を読みながら、政治体制や社会構造、経済、外交などを基本的な視点に据えて把握する。あわせて近世・近代における福島県内で起こった出来事についても合わせて学ぶ。☑ なお、最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☑ ☑ 位置づけ・水準 CD2251		
達成目標	過去と現在とを対比し理解を深めること。過去を学ぶことにより、現在・未来の自信を展望すること。を達成目標とします。☑ 単位認定の最低基準は、☑ ①授業内容の7割を理解していること。☑ ②資料読解の基礎を7割理解していること。☑ ☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：課題解決力・主体的行動力		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	①課題レポート30点☑ ②小課題10点☑ ③期末試験60点
教科書	プリントを配布する。		
参考書	佐々木潤之助ほか『概論日本歴史』吉川弘文館、2000年☑ 松尾正人『維新政権』吉川弘文館、1995年☑ 児玉幸多監修 丸井佳寿子ほか『県史7 福島県の歴史』山川出版社、1997年 ほか適宜指示する。☑		
学生への要望	問題や目的意識を持って受講すること。身近にある歴史に関心・興味を抱くこと。		
オフィスタイム	火曜日Ⅲ時間目、金曜日Ⅱ時間目。創学館4階、No5研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	徳川三代と江戸幕府の成立	家康は慶長8（1601）年に征夷大将軍に就任し、江戸幕府を開き、江戸を建設させた。その後、秀忠・家光の時代を経て、政治や社会の仕組みが確立する。近世の政治や社会の仕組みが確立するまでを、織豊期から江戸幕府開設に至るまでの時代背景との関連で考える。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントをおさらいする。	30
2	「鎖国」への道と四口	日本におけるキリスト教禁教のため、幕府は「鎖国」への道を歩むこととなった。一方で、幕府の管理・独占のもと長崎・対馬・薩摩・松前でオランダやアジアとの交易が行われることとなった。この場をまとめて四口と呼ぶ。「鎖国」と四口について検証し、江戸時代の海外交流について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
3	交通網の整備と商業発展	江戸時代は、人々や物（商品）の往来が盛んになり商業経済が発展した時代でもある。その1つの要因として、街道と宿場町の整備、海運・舟運の整備の陸上・海上における交通網の整備行われたためである。これらの整備がふくしまにおいてもどのように実施され、商業発展に影響したのかを論じてみたい。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
4	江戸幕府の政治構造と藩の設立	江戸時代は将軍以下の武士階級がその社会を掌握・支配するために、幕府・藩として構築された幕藩体制が確立した。そのため、全国各地には藩が成立し、多岐にわたる格式序列が形成された。幕府と藩、将軍と大名など江戸幕府の構造について論じる。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
5	ふくしまの藩と城下町	本県下には、会津・中通り・浜通りに大中小の諸藩が置かれた。各藩の成り立ちを大名配置および城下町の形成との関連から検証し、その特色について学ぶ。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	近世の村社会	江戸時代、人口の大部分を占め、幕府や大名の経済基礎である米年貢を負担する農民は生産と生活のために相応しいように村をかえていった。村組織・申し合わせや掟、村の共同整備などについても村々で整えられた。村のあり方は社会の変容と共に少しずつ変化し、農民の自立を可能にした背景について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
7	寛政改革と地域諸産業の発展	宝暦・天明期には、飢饉や災害などによって政治的・社会的危機が引き起こされた。そこで、松平定信が寛政改革を遂行し、幕府が直面していたさまざまな課題や問題の解決に尽力した。また、諸藩でも、財政窮乏対策のため商品生産や特産物生産の奨励などを行い藩政を立て直した。諸藩の政策と産業発展について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
8	天保改革と飢饉～諸藩の改革～	天保期、江戸幕府は内憂外患の本格的な危機の時代をむかえ、その対応策として天保改革を断行した。多くの諸藩も幕府同様に危機に直面し、藩政改革を行う。それらの改革を紹介し、寛政期の藩政改革との相違、および天保期の藩政改革がその後の社会にどのように影響したのかを考察する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
9	朝幕関係と尊号事件	寛政元（1789）年の尊号事件により朝廷と幕府の間に江戸時代初期以来の緊張が走った。江戸時代の朝廷と幕府の関係について、寛永4（1627）年に起こった紫衣事件と尊号事件が前後について学び、その後の国内情勢への影響について考察する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
10	儒学・蘭学・国学—江戸時代の学問	江戸時代には政治や社会状況に合った様々な学問が発展した。儒学・蘭学・国学などが例としてあげられ政治や社会にも利用、活用される。それらの学問と政治・社会との関係について検証する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
11	異国船の来航と沿岸防備	江戸時代後期以降、ラクスマン来日で現実化した対外的危機に直面し、対応策が幕府の重要課題になった。幕府が実施した沿岸防備にも多くの諸藩が動員された。本県下の会津藩・白河藩なども命じられた。沿岸防備の実態について検証する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
12	開港の影響と動揺	安政5（1858）年幕府は米蘭露英仏の5ヶ国と修好通商条約を締結した。それによって、日本は資本主義的世界市場のなかに強制的に組み込まれることとなり、政治・経済などに大きな混乱と影響がおよんだ。開港による社会にもたらした影響と揺らぐ幕藩体制について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
13	戊辰戦争と明治維新	慶応4（1868）年1月から始まった戊辰戦争によって、それまで長期にわたって続いた江戸幕府が倒れ、明治政府（維新政府）が誕生した。明治政府の基本方針や実施した政策などについて紹介し、藩体制の解体がどのように進められたのかを検証する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
14	お雇い外国人と文明開化	明治政府は、「殖産興業」や文明開化などを目的として、欧米の先進技術や学問、制度を輸入するために雇用された外国人（お雇い外国人）を官庁や学校に招聘した。交通・工業技術・軍備・教育面で活躍し、日本の近代化に大きく貢献した。お雇い外国人と文明開化の関係について紹介する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
15	廃藩置県と福島県設立について	明治4（1871）年に全国の藩を廃止して府県に統一する、廃藩置県により藩体制が解体された。全国には府県が成立し、本県にも県が置かれ、現在の福島県になるまでには、いくつかの県の統合が行われた。現在の福島県が出来るまでの過程を探る。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

科目名	ヨーロッパ史演習		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	桑野 聡			
開講期	IV			
授業概要	1年次のヨーロッパ文化史では、ヨーロッパの形成から近代化の歴史を駆け足で学んだ。この時間では、その後に日本文化史や考古学、美術史、宗教学などを学ぶと共に、学芸員ユニット・図書館司書ユニット、情報処理士ユニットおよびアート系諸科目を広く学んだ学生が、歴史の知識を生活の中で活用していくためのアカデミック・トレーニングを行うと共に、卒業研究に取り組む学生には、論文執筆のサポートとなる歴史的思考力の育成に努める。 リアクションペーパーや小レポートにコメントを付けてフィードバックを行う。CD2252			
達成目標	授業で取り上げられる話題に関心をもって取り組み、現代社会との相違点を発見すると共に、その意味や役割を考える力を育成する。 ディプロマ・ポリシーとの関係： 課題解決力・主体的行動力			
受講資格	ヨーロッパ文化史履修学生が望ましい	成績評価 方法	ワークと小レポート（70%）・授業時の質疑応答（30%）	
教科書	桑野聡、関連論文6本（『郡山女子大学紀要』第35～40集 1999～2004年）のコピーを配布する。			
参考書	桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説1 古代・中世篇』DTP出版 2006年 桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説2 近現代篇』 DTP出版 2006年 堀越宏一・基野尚志 編著『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』ミネルヴァ書房 2013年、など必要に応じて提示する			
学生への要望	基本用語を『世界史B用語集』や高校の教科書、資料集などを用いて自主的に調べる姿勢も期待したい。☒ 新聞やニュースの国際情報にアンテナを張って欲しい。☒			
オフィスタイム	火曜日のII時限目（10:30～12:00）・金曜日V時限目（16:10～17:40） 考古学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本講義の進め方を解説する。	授業の進め方を良く理解し、次回からの準備を整える。	30
2	家族史の研究史	歴史学における家族研究の歴史と論点を解説する。	自分の家族史を調べ、今後の授業に備える。	120
3	ワーク(1) 古代の家族①	ローマの家族制度の特色を概観する。ポエニ戦争～前期帝政期（前3～後2世紀頃）に進展した市民の「ファミリア」型から「ドムス」型家族への移行を解説する。	ポンペイ遺跡について調べ、授業に備える。	60
4	ワーク(1) 古代の家族②	ローマから蛮族世界と解された周辺民族の中でゲルマンの家族制度の特色を概観する。都市文明とは異なる彼らの「ジッペ」と呼ばれる家族制度の機能を解説する。	家族を支える紐帯とは何かを考えてみる。	60
5	ワーク(2) フランクの家族①	古代～中世の過渡期にあたるフランク時代の家族制度の変容を概観する。まずメロヴィング時代の事例からゲルマン的影響が強いことを確認する。	長男・長女と弟・妹の違いを考えてみよう。	60
6	ワーク(2) フランクの家族②	カロリング王家の事例から、カール大帝の新しい相続法の意味とその後継者たちの相続の実態を追うことで、新しい家族制度の形成過程を考察する。	遺言や財産分与から何が分かるかを考える。	60
7	ワーク(2) フランクの家族③	家族史研究から見えてくる歴史像が従来の歴史の見方（各国史）を改めることになることを解説する。	天皇制と日本の歴史の見方について考える。	60
8	ワーク(3) キリスト教と家族①	古代・中世のキリスト教の家族像の理想と現実を比較検討する。	キリスト教と家族の関係について自分のイメージを整理しておこう。	60
9	ワーク(3) キリスト教と家族②	古代・中世のキリスト教の女性観について解説する。	女性の特徴、「女らしさ」とは何かを考えてみよう。	60
10	ワーク(3) キリスト教と家族③	キリスト教の女性観と魔女の関係について解説する。	魔女に対するイメージを整理しておこう。	60
11	ワーク(3) キリスト教と家族④	キリスト教と結婚の問題を解説する。	「教会での結婚式は本当に素敵なのか？」を考えてみよう。	60
12	ワーク(4) 家族制度の転換①	盛期中世に貴族の家族観に「新しい家」の観念が明瞭かすることを解説する。	「長男が家を継ぐ」という伝統のはじまりが何かを考える。	60
13	ワーク(4) 家族制度の転換②	新しい「家」意識の形成の背景となる封建社会の確立について解説する。	「封建制度」というものが何かを考えてみよう。	60
14	ワーク(4) 家族制度の転換③	新しい「家」意識と教会の関係を解説する。	家系図に関心を持ってみよう。	60
15	ワーク(4) 家族制度の転換④	中世貴族の家意識の反映でもある「騎士文化」について解説する。	「家紋」について考えてみよう。	60

科目名	美術史演習	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	斎藤 美保子		
開講期	IV		
授業概要	今期のテーマ：女性像の鑑賞と意味☒ 1年生の「美術史」の知識を元に、古今東西の女性像鑑賞し、そこに表現されている意味を読み取る。☒ 仏画および日本画の女性像、ギリシア神話の女性彫刻、キリスト教美術の聖母マリア、寓意画、肖像画等が対象となる。授業中の課題は提出後1か月以内に評価を記して返却する。☒ CD2254		
達成目標	多様な女性像の意味を、制作年代の時代背景や地域性、思想宗教等から読み取れるようになる。☒ 女性像の意味を的確な言葉で表現できるようになる。☒ 単位認定の最低基準：寓意的な女性像をスケッチやCGを用いて、自ら提案する。☒ DPとの関係：課題解決力、主体的行動力		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	①授業中のテキスト読解と意見交換（30点）②寓意像の簡単な作画（20点）③記述式の期末試験（50点）
教科書	斎藤美保子著「アングルとドラクロワのカヴェ夫人像」「上村松園作品展を読み解く」の抜刷を配布する。☒ その他、授業内でコピー資料を配付する。		
参考書	神林恒道編著『西洋美術101』三元社、2008年		
学生への要望	美術館や美術書に親しみ、女性像に関する多くの知識を得ること。☒ スケッチブックに気軽に線を描くように、心がける。		
オフィスタイム	火曜日16:00-17:00 金曜日10:30-11:30 研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	「美術史」の知識を確認し、授業の進め方を理解する。	参考文献を準備する。	90
2	神道および古代の女性像	神道の美術では女神像を表すことが稀であること、高貴な女性は<源氏物語絵巻>の様に引き目鉤鼻で描かれることを理解する。	開成山大神宮に参詣し、天照大神の表し方を確認する。	90
3	上村松園の女性像	近代の女性画家、上村松園について抜刷りを読み、彼女の女性像を画集等で鑑賞理解する。	配布テキストを読み込み、ネーチャードームの「上村松園作品展」を鑑賞理解する。	90
4	ギリシア神話の女性彫刻	パルテノン神殿東破風について幾つかの解釈を比較する。	配付資料を読み込む。	90
5	ギリシア神話の女性彫刻 つづき	サモトラケのニケについて、鑑賞理解する。	配付資料を読み込む。	90
6	キリスト教美術の聖母マリア像	マリアの生涯を名作でたどる。	美術書を渉猟する。	90
7	キリスト教美術の聖母マリア像 つづき	ピエタの諸作を比較する。	美術書を渉猟する。	90
8	寓意画における女性像	17世紀の図像学を理解する。	真理、正義等の寓意像を探す。	90
9	寓意画における女性像 つづき	フランス革命期の図像学を理解する。	自由、平等、友愛の寓意像を探す。	90
10	肖像画における女性像	アングルの女性肖像画を鑑賞理解する。	配付資料を読み込む。	90
11	肖像画における女性像 つづき	アングルとドラクロワの女性肖像画の違いを鑑賞理解する。	配付資料を読み込む。	90
12	寓意像の作画	正義、平和の寓意像のアイデアを出す。	アイデアスケッチの数を増やす。	90
13	寓意像の作画 つづき	平和な学園の図像を描く。	作品を完成させる。	90
14	作品の合評	作品を持ち寄り、感想を述べ合う。	作品の手直しをする。	90
15	まとめ	美術における意味について考える。試験の準備指示。	試験の準備をする。	180

科目名	宗教文化史演習	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	福島 寅太郎		
開講期	IV		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕☑</p> <p>①必要な文化知識を習得させること。☑</p> <p>②幅広い専門知識を養わせること。☑</p> <p>③文献の読解および扱い方に必要な基礎力を高めさせること。☑</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕☑</p> <p>この授業は、末木文美士氏の『日本宗教史』（岩波新書）を教科書として使い、毎回輪読をし、日本宗教の歴史と文化を学ぶ。新書版だから、読みやすいというイメージがあるが、実際に読んでみると読めない言葉、わからない用語が多々ある。一字一句を声を出して読むという読書の経験が少なくなってきた今日では、一冊の本を時間をかけてじっくり読むという姿勢が珍しいと思われるかも知れないが、必要なことであり、学ぶという本来あるべき姿勢だと考える。なお、後期の概要については改めてお知らせする。☑</p> <p>〔授業終了時の到達目標〕☑</p> <p>①文化としての宗教を理解する。☑</p> <p>②日本の歴史における宗教の影響とその役割を学び、日本文化の総合的な理解を目指す。☑</p> <p>③紹介された諸事例について学問的な理解をする。☑</p> <p>授業時の質疑応答やレポートの返却等によってフィードバックを行う。☑</p> <p>位置づけ・水準:CD2251</p>		
達成目標	<p>〔授業終了時の到達目標〕☑</p> <p>①文化としての宗教を理解する。☑</p> <p>②日本の歴史における宗教の影響とその役割を学び、日本文化の総合的な理解を目指す。☑</p> <p>③紹介された諸事例について学問的な理解をする。☑</p> <p>単位認定の最低基準は:は「内容の7割以上を理解していること」☑</p> <p>DPとの関係:課題解決力、主体的行動力</p>		
受講資格	短大地域創成学科 2年	成績評価 方法	試験成績60点、授業における発表20%、授業における参加態度20%など。理解度8割で、合とする。
教科書	『日本宗教史』、末木文美士著。岩波新書、2006年。丸善などの書店で買求めることができる。		
参考書	末木文美士『日本宗教史』、岩波新書。担当教員個人が持っているが、授業でよく参考にするので、できればそれぞれが一冊を購入することをおすすめする。		
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的に参加すること。☑ ・ノートをこまめにとること。 		
オフィスタイム	月曜日 16時～17時。担当教員の研究室（創学館No.5）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	各回の内容や計画、成績評価の方法などについて説明するほか、教科書のことや参考文献購入のことについても話す予定です。必ず出席してください。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
2	日本宗教史とはなにか	これまで日本史の立場に日本宗教史の研究が多かったが、宗教学独自の視点によるものはあまりないようである。宗教学独自の「日本宗教史」は可能か。これまでの議論を踏まえつつ考えてみる。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
3	記紀神話の世界	古事記や日本書紀に伝えられている神々の構造を分析し、記紀時代の神話はいったい何を意味するのかを考える。丸山真男の「古層」の問題も話題にする予定である。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
4	神と仏	仏教の伝来と神々の変容、神仏習合の諸相などについて、指定された教科書を一緒に読みながら、理解する。神話から歴史への移行に見られる宗教の役割を考えることも課題として予定されている。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
5	神仏論の展開	これまでの話を踏まえ、中世の神仏論の展開を考えてみる。具体的には、実践しそうとしての仏教思想、王法と仏法との関係を取り上げて話題にする。『日本霊異記』を参考しながら授業を進める予定で☑ある。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
6	神仏と中世（1）	習合神道の理論や中世的思维と神仏の関係を具体的に取り上げて話題にする予定である。また、鎌倉新仏教の「新」にも注目し、中世の神仏論の展開を総合的に理解することを目指している。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	神仏と中世（2）	習合神道の理論や中世の思惟と神仏の関係を具体的に取上げて話題にする予定である。また、鎌倉新仏教の「新」にも注目し、中世の神仏論の展開を総合的に理解することを目指している。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
8	世俗と宗教（1）	キリシタンと権力者崇拝、宗教統制と権力者崇拝、儒教のイデオロギー、宗教と世俗倫理などを取り上げて話題にする予定である。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
9	世俗と宗教（2）	キリシタンと権力者崇拝、宗教統制と権力者崇拝、儒教のイデオロギー、宗教と世俗倫理などを取り上げて話題にする予定である。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
10	神道とナショナリズム（1）	近世の神道の展開などを話題にしなが、「神儒」や「神仏」および「国学」、国家神道の問題を考えてみる。本居宣長の「古層」発見の方法や神道イデオロギーの問題にも注目してみたい。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
11	神道とナショナリズム（2）	近世の神道の展開などを話題にしなが、「神儒」や「神仏」および「国学」、国家神道の問題を考えてみる。本居宣長の「古層」発見の方法や神道イデオロギーの問題にも注目してみたい。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
12	近代化と宗教（1）	国家神道と他の諸宗教の関係を考える。神仏分離から国家神道、キリスト教と国家（内村鑑三事件をの波紋）精神主義の提唱者である清澤満之を具体的に取上げてみることにしたい。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
13	近代化と宗教（2）	国家神道と他の諸宗教の関係を考える。神仏分離から国家神道、キリスト教と国家（内村鑑三事件をの波紋）精神主義の提唱者である清澤満之を具体的に取上げてみることにしたい。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
14	民衆宗教の形成	前半は新宗教の誕生、戦後宗教の消長を概観する。後半は「宗教」という概念の生成の背景に注目しつつ、宗教とはなにか、宗教史とは果たして可能かを総括的に考えてみる予定である。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
15	前期のまとめ	レポートを書いて提出する。		1.5
16	後期のガイダンス	絵画に見る「天神さま」について		1.5
17	天神信仰における東福寺の位置づけについて	東福寺における天神信仰の伝承を探る	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
18	天神像の変容について	怨霊信仰から学問の神様への「変身」についての歴史的な過程をたどる	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
19	怨霊信仰と天神信仰について	先行研究の紹介とその問題点について探る	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
20	天神信仰と陰陽道について	陰陽道の動向を視野に入れつつ、天神信仰の展開をさらに探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
21	梅と天神信仰	菅原道真像を手がかりに梅と天神の変容のあり方を探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
22	北野天満宮をめぐる諸問題	担当者の実地調査を踏まえつつ、北野天満宮の実体と天神信仰の変容について探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
23	学問の神様としての菅原道真像の形成	学問の神様としての菅原道真像の形成とその確立について探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
24	天神信仰の広がりについて	天神信仰の地方への広がりについて具体的な事例を取り上げて述べる。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
25	東北地方における天神信仰	東北六県における天神信仰の実体を写真などを通じて探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
26	会津地方における天神信仰の特徴	学問の神様へと変容された会津地方の天神信仰の実体とその特徴について探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
27	庶民信仰としての天神信仰	地域の人々が天神信仰とどのように関わっているかを市町村の関連資料を基に探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
28	天神信仰の現在－地方神社における合格祈願を手がかりに－	神社と天神信仰の関係について、会津地方の事例を手がかりに探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
29	まとめ～その①天神信仰の宗教性と歴史的な性格	まとめに当たって、天神信仰の宗教性と歴史性、地方的特徴について考える。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
30	まとめ～其の②天神信仰の宗教性と歴史性	前回と同じ。期末試験については、レポートを提出すること。詳しいことは授業で指示する。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
---	----	------	------	------

科目名	考古学実習	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	會田 容弘		
開講期	通年		
授業概要	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。史跡整備、埋蔵文化財の範囲確認・試掘・記録保存、学術調査などのさまざまな目的の発掘調査の実務経験を活かし、遺跡の発掘調査準備、調査、整理作業の実習を行う。5月に実施する実習発掘調査に向けて、様々な発掘調査の方法、実際について講義と実習を行ないながら学んでゆく。本年は5月11日から21日まで笹山原遺跡No. 16の実習発掘を実施する。受講者は発掘調査に参加しなくてはならない。発掘調査終了後は、発掘調査で出土した遺物の整理を行う。課題に対するレポートはデータで提出し、それを添削し、コメントを加えるなどのフィードバックを行う。内容が不十分な場合は再提出を求め、同様のフィードバックを行う。☑ 位置付け・水準CD2253		
達成目標	<到達目標>発掘調査の全過程を理解し、実際の発掘調査を行う場合、作業、資料整理の流れを理解できるレベルに到達できること。発掘調査・報告書製作補助ができること。単位認定の最低基準は授業内容の7割以上を理解していること。DPとの関係：課題解決力、主体的行動力		
受講資格	1年次において考古学を履修しているか、考古学の基本知識を有していること。	成績評価 方法	レポート及び実習課題と授業への積極的な貢献状況を100点を満点として評価する。60点以上で合格とするが卒業論文を考古学で作成する学生は80%以上の理解が必要である。
教科書	『発掘調査のてびき』		
参考書	文化学科（資格課程）報告集第4～21集,地域創成学科報告集第1集☑		
学生への要望	考古学実習を受講する学生は5月に実施する笹山原遺跡No. 16の発掘調査に参加しなくてはなりません。何らかの事情で、全期間発掘調査に参加できない学生は會田に相談してください。		
オフィスタイトム	考古学研究室または考古学実習室。火曜日3時限目・水曜日2・4時限目。メールの質問も可。レポート作成に関する質問を行う場合は事前にメールで質問内容を示してアポをとること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	猪苗代湖の自然史	笹山原遺跡群の位置する猪苗代湖の自然史について、福島大学を中心とした研究成果を紹介する。磐梯山の火山学的研究と湿原のボーリング調査によって得られた植生史から、人類が生活できる環境の変遷を述べる。	過去の発掘調査の理解。	30
2	笹山原遺跡群の調査史	郡山女子大学短期大学部考古学研究室によって実施された、笹山原A遺跡、No. 8遺跡、No.16遺跡の発掘調査の調査成果を紹介する。	過去の発掘調査の理解。	30
3	発掘調査の方法	遺跡発掘調査方法について笹山原遺跡No.16の調査を示しながら講義を行う。	過去の発掘調査の理解。	30
4	発掘調査の実際（1）	発掘調査で用いる機材の名称、使い方について講義を行い、それをを用いた実習を行なう。	過去の発掘調査の理解。	30
5	発掘調査の実際（2）	発掘調査における記録方法を説明する。出土位置の記録方法、レベルの使い方、平面図の描き方、層序断面図の描き方を説明する。発掘現場で用いる野帳の使い方、毎日記録する調査日誌の書き方を説明する。	過去の発掘調査の理解。	30
6	発掘調査の実際（3）	教室内に発掘調査区を模擬的に作り、遺物の出土記録の取り方の実習を行なう。	過去の発掘調査の理解。	30
7	発掘調査実習（1）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。II a層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。	30
8	発掘調査実習（2）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。II a層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。	30
9	発掘調査実習（3）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。II a層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。	30
10	発掘調査実習（4）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。II b層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	30
11	発掘調査実習（5）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。II b層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	30
12	発掘調査実習（6）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。II b層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	30
13	発掘調査実習（7）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。III層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	発掘調査実習（8）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。III層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	30
15	発掘調査実習（9）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。III層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	30
16	発掘調査実習（10）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。IV層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	30
17	発掘調査実習（11）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。IV層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ	発掘調査の記録の整理。	30
18	発掘調査実習（12）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。IV層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ	発掘調査の記録の整理。	30
19	発掘調査のまとめ	発掘調査経過、調査内容、最終的な調査成果について説明する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
20	資料整理実習（1）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、土器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
21	資料整理実習（2）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、土器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
22	資料整理実習（3）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、土器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
23	資料整理実習（4）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、土器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
24	資料整理実習（5）	縄文土器整理法。縄文土器の製作技術、型式、機能について観察方法を説明し、実習を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
25	資料整理実習（6）	縄文土器の記録方法としての拓本、実測について説明し、実習を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
26	資料整理実習（7）	石器の実測法。石器製作技術の説明を行い、石器実測図の描き方を説明する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
27	資料整理実習（8）	石器実測実習。石器の実測図を描く実習を行なう。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
28	資料整理実習（9）	石器・縄文土器の写真撮影方法を説明し、実習を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
29	資料整理実習（10）	報告書作成のための図版作成方法を説明し、実習を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
30	発掘調査・整理の成果	考古学実習の総まとめを行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30

科目名	地域社会と食生活	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	加藤 雅子		
開講期	通年		
授業概要	〔授業概要〕☑ 私たちの食生活は、通常摂取する食事である「日常食」と、地域や家庭にとって特別な習慣や行事のために準備する「行事食」とに分類することができる。さらに行事食には「年中行事」や「通過儀礼」といった豊作への祈願や人生の節目を祝う行事など多種に亘る。これらの行事には食物との深い関連性があることを学び理解を深める。また、食生活における「日常食」と「行事食」について実習を通じて地元の食文化や食生活に関心を高めることを目的とする。なお、後期において、郡山料理教室で校長を務めていた佐藤文男氏を招き、「給巻寿司講習会」を実施する。☑ ☑ 〔課題に対するフィードバック方法〕☑ レポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行います。☑ ☑ 〔位置づけ・水準〕☑ CD2182		
達成目標	〔達成目標〕☑ ①「日常食」と「行事食」について理解する。☑ ②地域社会における行事食について理解を深める。☑ ③実習を通じて食文化や食生活に関心を高める。☑ ④プレゼンテーション発表会を実施する。☑ 単位の認定の最低基準は、内容の6割を理解していること。☑ ☑ 〔ディプロマポリシーとの関係〕☑ 創造的思考力、課題解決力、主体的行動力		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	課題の取組み60点（Ⅲ期30点、Ⅳ期30点）、プレゼンテーション発表内容40点（Ⅲ期20点、Ⅳ期20点）の結果を総合的に判断し、60点以上で合格とする。
教科書	特になし。授業内容について資料を配布する。		
参考書	必要に応じて連絡する。		
学生への要望	グループ内での学習が主となるため、無断で欠席しないこと。調理実習時は注意事項をよく守り、衛生的な配慮と安全に心がけること。		
オフィスタイム	加藤：月曜日12：15～12：45、水曜日12：15～12：45、No.1給食管理研究室（家政学館1F）、☑ 善方：月曜日12：15～12：45、水曜日12：15～12：45、No.2給食管理研究室（家政学館2F）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	地域社会と食生活ガイダンス	地域社会と食生活の授業目的について理解を深めるとともに、今後のスケジュール確認等を行う。	配布資料に「日常の食生活」を記入する。	30
2	日常における食生活について①	食生活における栄養バランスの良い食事について理解する。献立マスターシートを利用して自分の食生活を振り返り、栄養バランスを視覚的に確認する。	「献立作成マスターシート」の使い方について復習する。	30
3	日常における食生活について②	前回に続き、献立マスターシートを作成する。	「献立作成マスターシート」の使い方について復習する。	30
4	日常における食生活について③	完成した献立マスターシートを見て、普段の食事バランス、改善方法、今後の食生活において注意して取り組みたいこと等を確認する。感想をまとめて提出する。	「献立マスターシート」の感想をまとめる。	30
5	家族の食生活について① -子どもの栄養-	女性にとって、家族の食生活や健康管理に携わる機会は少ない。子育てから介護と、ライフステージにおける食生活の注意点について理解する。本時は特に子どもの栄養について理解する。	配布資料にをもとに「子どもの栄養」を振り返り、調理実習の確認を行う。	30
6	家族の食生活について② -介護食について-	女性にとって、家族の食生活や健康管理に携わる機会は少ない。子育てから介護と、ライフステージにおける食生活の注意点について理解する。本時は特に介護食について理解する。	配布資料をもとに「介護食」を振り返る。	30
7	家族の食生活について③	子どものおやつ調理実習と試食を行い、理解する。	調理実習の振り返りを行う。	30
8	家庭における行事食について、 地域における行事食について	家庭において人生の節目を祝う「通過儀礼」など、特別な習慣や行事のために用いる行事食について理解し、家庭における行事食を振り返る。また、地域において、天地の恩恵に感謝し豊作を祈願する「年中行事」について調査するとともに、その際に振る舞われる行事食についても知る。	各自、家庭で行っている「行事食」について振り返る。「年中行事」について振り返る。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	福島県内における行事と行事食について①	グループワーク：福島県内（会津地方、中通り地方、浜通り地方）における行事について取り上げ、食材と行事食について理解する。	発表準備を進める。	30
10	福島県内における行事と行事食について②	グループワーク：福島県内（会津地方、中通り地方、浜通り地方）における行事について取り上げ、食材と行事食について理解し、発表準備を行う。	発表準備を進める。	30
11	福島県内における行事と行事食について③	行事食に関わる調理実習と試食を行い、理解を深める。	調理実習の振り返りを行う。	30
12	福島県内における行事と行事食について④	福島県内（会津地方、中通り地方、浜通り地方）における行事についてグループごとに発表を行い、県内の行事食について理解する。	福島県内の行事食を振り返る。	30
13	郡山市の行事食について、新しい行事食について①	郡山市における行事と、行事食について知り、地元の取り組みについても理解する。 これまで県内における行事食について理解を深めてきた。地域創成学科の学生として、今後新しい行事食として、県内をPRできるような献立について検討する。	郡山市と地元（出身地）の特徴を振り返る。また、新しい行事食を検討する。	30
14	新しい行事食について②	グループワーク:新しい行事食のアイデアを考え、他へ発信できるよう資料を作成する。	新しい行事食について、振り返る。	30
15	授業の確認とまとめ	これまでの授業をを通して学んだ内容について振り返るとともに、IV期の授業内容について確認する。	III期の内容をまとめる。	30
16	オリエンテーションおよび「日本の四季」について	シラバスをもとに授業概要、達成目標、課題について確認する。オリエンテーション後、日本の四季について二十四節気を通し、理解を深める。	配布資料をもとに、IV期の授業内容について理解を深める。	30
17	「米」について	主食の代表である「米」について理解を深める。福島県内における米の生産状況を知り、日本の稲作文化について考える。（レポート：稲作について）	配布資料をもとに、地域の食について理解を深める。	30
18	「郷土料理」について	郷土料理の特徴として、食材・地理・気候・歴史等が関係することを学ぶ。また、福島県の産業や特産物を学び、郷土料理について理解を深める。 今後の実習に備え、グループ編成を行い、実習室内の見学、器具や備品の確認を行う。	配布資料をもとに、地域の食について理解を深める。また、実習前に、調理手順について理解する。	30
19	調理実習「秋の献立」	今までの講義をふまえ、実際の調理を通して学ぶ。 ≪実習名≫白飯、けんちん汁、青菜のゆで物	実習後に、調理内容についてまとめる。	30
20	調理実習「行事食」	「絵巻寿し講習会」 外部講師に委託して、絵巻寿しの方法を用いて絵柄を表現し、季節の行事や地域社会の行事に応用できる技術を身につける。	実習前に、調理手順について理解する。	30
21	調理実習「行事食」	≪実習名≫絵巻寿し、すまし汁	実習後に、調理内容についてまとめる。	30
22	「年中行事」について	年中行事と行事食について学び、特に五節句について理解を深める。	配布資料をもとに、地域の食について理解を深める。	30
23	「通過儀礼」について	通過儀礼と食事について学び、米・餅文化について理解を深める。	配布資料をもとに、地域の食について理解を深める。	30
24	「食育」について	食育基本法の理念を学び、各地の食育の事例をもとに、地域社会と食生活について考える。 （レポート：食育について）	配布資料をもとに、地域の食について理解を深める。	30
25	「正月料理」について	正月料理について学び、次回の調理について理解する。	実習前に、調理手順について理解する。	30
26	調理実習「正月料理」	前回の授業をふまえ、実際の調理を通して「正月料理」について学ぶ。 ≪実習名≫黒豆、田作り、紅白なます 他	実習後に、調理内容についてまとめる。	30
27	地域社会と食生活の関わり プレゼンテーション準備①	グループワーク：学生が地域に関わり、地元の食を継承していくための課題について、「地域社会の食の伝承」をテーマに福島県をPRできる料理を立案し、伝承方法を考える。	プレゼンテーションに向け、文献調査をする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
28	地域社会と食生活の関わり プレゼンテーション準備②	グループワーク：次回の自由調理に向けて準備作業を行う。発表用のパワーポイント作成を行う。 (レポート：自主学習のノート提出)	プレゼンテーションに向け、文献調査をする。	30
29	調理実習「自由献立」	グループで立案した献立をもとに実習を行う。写真撮影後、試食をする。画像は、発表用レポートに添付する。	実習後に、調理した内容についてまとめる。	30
30	授業のまとめ プレゼンテーション	グループごとに、料理を考えた背景や由来、作り方や工夫点、伝承・発信方法、感想等を発表会し、他グループとディスカッションする。 (レポート：パワーポイント内容提出、ノート返却)	IV期の内容をまとめる。	30

科目名	地域社会と衣生活	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	田辺 真弓		
開講期	III		
授業概要	本演習は地域創成学科の選択科目として地域社会と衣生活の関わりについて学ぶ。授業概要をつぎに掲げる。☑ ①衣生活に関連する福島県内の産業について学ぶ。☑ ②福島県内の農村の伝統的な衣生活ならびに会津の地歌舞伎と歌舞伎衣裳について学ぶ。☑ ③衣生活を円滑に営むための基礎的な知識を得るために、衣服の廃棄とリサイクル、アパレルファッションビジネス、被服衛生(衣服気候、健康に留意した着装)、被服管理(家庭洗濯とドライクリーニング、衣服の保管)、衣生活と介護などについて学ぶ。☑ ④この授業で学んだ内容で特に関心を持った事柄の中からテーマを決めて各自で調査してまとめ、プレゼンテーションを行う。☑ ⑤最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☑		
達成目標	目標は☑ ①身近な生活圏の衣生活文化を理解し、地域社会に貢献できる力を身につけている。☑ ②柔軟で応用力のある創造的思考力を身につけている。☑ ③現代の衣生活における多様な課題を発見し、分析・解決する能力を身につけている。☑ ④衣生活文化に関する専門的知識を基に論理的に課題を探索し、他者と協調しつつ、主体的に問題を解決していく能力を身につけている。☑ 単位認定の最低基準は内容の7割を理解していること。☑		
受講資格	福祉情報専攻2年生	成績評価 方法	達成目標の到達度合いは課題レポート・期末レポートにより確認と評価を行う。☑ ①課題レポート提出 40点☑ ②パワーポイントデータ提出 30点☑ ③プレゼンテーション 30点☑ 60点を合格点とする。
教科書	教科書は用いず、プリントを配付する。		
参考書	福島県内自治体史、『衣服の百科事典』丸善出版株式会社・平成27年、一般社団法人日本家政学会編『被服学事典』平成28年、その他は授業で紹介する。		
学生への要望	地域社会で営まれている衣生活に関心を持ち、また、新聞や雑誌の衣生活に関する記事や参考図書などを読み、広く知識を得ること。☑ 事前学習:当日の内容をシラバスで確認しておく。☑ 事後学習:授業内容を振り返り、ノートにまとめる。☑		
オフィスタイム	創学館2階 教務部 非常勤講師控室 水曜日11時限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業計画の提示	授業計画(シラバス)を配布し、講義の目標と、どのような内容について学ぶかを示す。この授業は演習であり、この授業で学んだ内容で特に関心を持った事柄の中からテーマを決めて各自で調査する。調査方法は文献資料調査、博物館・資料館等の見学、インターネットでの検索、家族や地域住民等への聞き取りなどとする。調査したことをまとめて考察を加え、パワーポイントを作成し、プレゼンテーションを行う。	本日の授業内容についてまとめる	60
2	衣服の廃棄とリサイクル	現在、地球環境を守り、限られた資源を無駄なく活用しようとする意識が高まり、アパレル企業も3Rに取り組み始めた。衣服の廃棄についての現状とリサイクルやリユースの取り組みについて知る。	本日の授業内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60
3	福島県内の衣生活関連産業(1)☑ 昭和村のカラムシ栽培とカラムシ織	かつてカラムシは広く自生し、また栽培されていたが、現在では奥会津の昭和村のみで伝統的な方法を守って栽培されている。昭和村で行われているカラムシ栽培とカラムシ織の取り組みについて学ぶ。	本日の授業内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60
4	福島県内の衣生活関連産業(2)☑ 会津木綿とふくしまオーガニックコットンプロジェクト	会津地方では16世紀末から木綿栽培が始まり、会津藩の綿花栽培・織物奨励により、会津木綿は特産品のひとつとして発展した。現在は民芸織物として生産されている。ふくしまオーガニックコットンプロジェクトは塩害に強い綿を有機栽培で育てて収穫したコットンを製品化・販売し、新しい農業と繊維産業を作り出すことを目的とする。☑	本日の授業内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	福島県内の衣生活関連産業(3)☒ 川俣の絹生産と絹織物	江戸時代中期に伊達郡地方の養蚕業は高い技術を持ち、先進地として全国に知れ渡っていたという。明治期になるとこの地方で生産された生糸は輸出され、日本経済を支えた。その後外国産の安価な絹に押されて衰退したが、現在は技術革新によって優れた絹製品を作り出し、世界的に認められるようになってきている。	本日の授業内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60
6	アパレルファッションビジネスと情報技術の活用	『アパレル一企画から販売まで』を視聴して、現代のアパレル産業の商品企画、設計、サンプル作成、展示会、生産販売会議、工業用パターン作成、グレーディング、マーキング、延反、裁断、バンドリング、縫製、仕上げ、検査、販売等の実際を理解する。また、多品種少量生産をおこなうための情報技術の活用について学ぶ。	本日の授業内容について、関心を持ったこと、並びに感想をまとめる	60
7	福島県内の衣生活関連産業(4)☒ ニット・縫製業	福島県は縫製業が盛んな県として知られている。県内各地で多くの縫製工場が稼働している。大手アパレルメーカーと提携して縫製を行っている工場や、独自のブランドを立ち上げ、企画から販売までを行い、業績を上げている会社もある。それらの例を挙げ、福島県内のアパレル産業について学ぶ。	本日の授業内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60
8	福島県の伝統的衣生活	福島県の農村ではかつて、各戸で衣服材料となる繊維を生産し、機織りや染色をして生地とし、衣類に仕立て着用していた。また、蓑や笠、わらじ等も家内で生産していた。この自給自足を原則とした衣生活について学ぶ。	これまでの授業内容に関連して、最も関心を持った事柄について調べる	60
9	会津の地歌舞伎と歌舞伎衣裳	会津地方は近世から近代にいたるまで、農民が自ら演じる地歌舞伎が盛んな地域であった。この地歌舞伎の歴史を知るとともに、その舞台上で使用された歌舞伎衣裳についての知識を得、地歌舞伎についての理解を深める。	最も関心を持った事柄についての調査を続ける	60
10	被服衛生	人が健康的な衣生活を営んでいく上で欠くことのできない被服衛生について学ぶ。被服気候、季節にあった着装、肌着の役割、衣服と皮膚障害などについての知識を得、今後の衣生活に生かせるようにする。	最も関心を持った事柄についての調査を続ける	60
11	被服整理と被服管理	衣服を清潔に、また質を低下させることなく繰り返し着用していくため、それぞれの衣服に適った家庭洗濯とドライクリーニングについて学び、またさらに、次のシーズンまで品質を保って保管するために必要な知識を得る。	調べた内容についてまとめ、パワーポイントを作成する	60
12	介護と衣服	ユニバーサルファッションとは何かを知るとともに、介護用の衣服と障害者のための衣服にはどのようなものがあり、どのような点に配慮すべきかを学ぶ。	パワーポイントを完成させ、プレゼンテーションの練習をする	60
13	プレゼンテーション(1)	パワーポイントを使用してプレゼンテーションを行い、さらに質疑応答を行う。	本日のプレゼンテーションの内容についてまとめる	60
14	プレゼンテーション(2)	パワーポイントを使用してプレゼンテーションを行い、さらに質疑応答を行う。	本日のプレゼンテーションの内容についてまとめる	60
15	まとめ	これまでの授業内容を振り返り、補足説明を行う。また、質問に答える。さらに、授業の目標について改めて確認し、達成度を確認する	この授業で学んだことを今後どのように発展させていくかについて、自分の考えをまとめる	60

科目名	油彩画Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員	浅野 章		
開講期	Ⅲ		
授業概要	油彩画Ⅰで学習したことを基礎として更に、より多様な表現方法や技術について演習し、技法とその効果を充分理解した上で作品を制作していきます。また、それと並行させながら様々な技法を試みて油彩の技術的向上を目指すと共に発想の柔軟性・表現の更なる深化を追求します。提出された作品は課題ごとに講評会を行い学生へのフィードバックとします。 CD2261		
達成目標	油彩画の特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけの絵画空間を創りあげていくことを目指します。単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していることとし、ディプロマ・ポリシーとの関係は創造的思考力・主体的行動力となります。		
受講資格	地域創成学科 2年生☒	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品や小テストによる課題目標達成度が70%以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
教科書	教科書は使用せず適宜資料を配布します。☒ 参考書や画集については適宜指示します。		
参考書	新版油彩画の技法（美術出版社）、絵具材料ハンドブック（中央公論美術出版）その他、授業に関する画集等は適宜指示します。☒		
学生への要望	油彩画を描くことの意味をよく考え、徹底的に自己の表現を追究すると共に遊び心を持って制作を存分に楽しむ。☒ ☒		
オフィスタイトム	授業に関する質問は火曜日Ⅳ～Ⅴ、水曜日Ⅰ～Ⅱ・Ⅴ、木曜日ⅠにNo.1絵画室またはNo.5地域創成学科研究室で受けます。ただしⅤ時限目は17:00までとします。☒ ☒ ☒		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	・ 授業目標と内容、および授業の進め方について。 ・ 油彩画の特色や歴史についての復習。 ・ 道具点検…各自油絵具や筆などを点検して不足分を画材店に発注する。(制作キャンバス含む)	【事前学習】 授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。 【事後学習】 授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	30
2	自由画制作－1	・ 表現は具象・抽象のどちらでも可。モチーフは静物・風景・人物・構成画など選定は自由。 ・ 各種モチーフの組み合わせによる心象表現でも可。 ・ F50号以上のキャンバス及びF4～6号程度の小キャンバスを数枚準備する。	【事前学習】 授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。 【事後学習】 授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	30
3	自由画制作－2	基底材（キャンバス）の準備… ・ 木枠に布を張る（2人組共同作業）。または市販の張りキャンバスを使用。各自の制作意図によっては下地塗りもおこなう。 ・ 表現したいテーマについての取材やモチーフ選定、セット。	【事前学習】 授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。 【事後学習】 実技授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	30
4	自由画制作－3	エスキース制作… ・ スケッチやエスキース（下絵）などで構想を練る。 ・ 表現のイメージがある程度かたまったら50号または小キャンバスに制作を始める。	【事前学習】 授業に関連する道具や作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】 実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。	30
5	自由画制作－4	作品制作… ・ 表現意図をなるべく明確にする。 ・ 固有色の固定観念を排除し、頭を柔らかくして好きな色を好きな所に自由に塗ってみる。	【事前学習】 授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】 実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
6	自由画制作－5	作品制作とさまざまな技法の試み… ・ 50号制作と並行させて、小キャンバスにさまざまな技法を試みる。 ・ 大画面の絵具の乾燥を待つ間や発想の転換を図る際に有効。	【事前学習】 授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】 実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	自由画制作－6	作品制作とさまざまな技法の試み… ・さまざまな技法を試みながら作品制作における表現の深化を図っていく。 ・技法例－グリザイユ（単色描画法）、グラッシ（おつけ描き）、ドリッピング（液状絵の具の滴下）、フロット（刷り込み）、フロウイング（流し込み）、スクラッチング（引っかき）など。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
8	自由画制作－7	作品制作とさまざまな技法の試み… ・さまざまな技法を試みながら作品制作における表現の深化を図っていく。 ・技法例－絵の具の掻き取りや盛り上げ、異物混入、コラージュ、デカルコマニー、フィンガーペインティング、プリンティング、その他。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
9	自由画制作－8	作品制作とさまざまな技法の試み… ・制作意図に応じて様々な技法を画面に応用したり、発想の転換を図ることなどを繰り返しながら画面上で各自の表現意図を絞り込んでいく。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
10	自由画制作－9	作品制作… ・画面構成や色調が自分の表現意図に沿ったものであるかどうかを確認しながら、また全体の関係を見ながら制作を進める。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
11	自由画制作－10	作品制作… ・細部に捕らわれず、絶えず画面全体の関係をみながら制作を進める。 ・画面上で強調したい部分と抑えるべき部分のバランスを考え、魅力のある画面創りを目指す。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
12	自由画制作－11	作品制作… ・制作意図が十分に表現できているかどうかを確認しながら制作を進める。 ・参考作品や画集などを適宜、見せながら指導する。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
13	自由画制作－12	作品制作… ・完成に近づきつつある作品を前に、更により深い表現を追究する。 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
14	自由画制作－13	作品制作… ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・画面全体の構成要素のバランスを整えて完成に向かう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
15	自由画制作 <講評会>	・完成した作品を並べて一点一点講評する。 ・学生、教員の意見交換もおこない、作品制作のより高い目標達成を目指す。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。また作品記録用にカメラを準備しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品および作品画像を整理しておく。	30

科目名	油彩画Ⅲ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員	浅野 章		
開講期	Ⅳ		
授業概要	油彩画Ⅱで学習したことを基礎として更に、より多様な表現方法や技術について演習し、技法とその効果を充分理解した上で作品を制作していきます。また、それと並行させながら様々な技法を試みて油彩の技術的向上を目指すと共に発想の柔軟性・表現の更なる深化を追求します。提出された作品は課題ごとに講評会を行い学生へのフィードバックとします。 CD2361		
達成目標	油彩画の特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけの絵画空間を創りあげていくことを目指します。単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していることとし、ディプロマ・ポリシーとの関係は創造的思考力・主体的行動力となります。		
受講資格	地域創成学科 2年生☒	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品や小テストによる課題目標達成度が70%以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
教科書	教科書は使用せず適宜資料を配布します。☒ 参考書や画集については適宜指示します。		
参考書	新版油彩画の技法（美術出版社）、絵具材料ハンドブック（中央公論美術出版）その他、授業に関する画集等は適宜指示します。☒		
学生への要望	油彩画を描くことの意味をよく考え、徹底的に自己の表現を追究すると共に遊び心を持って制作を存分に楽しむ。☒		
オフィスタイト	授業に関する質問は火曜日Ⅳ～Ⅴ、水曜日Ⅰ～Ⅱ・Ⅴ、木曜日ⅠにNo1絵画室またはNo5地域創成学科研究室で受けます。ただしⅤ時限目は17:00までとします。☒ ☒ ☒		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	後期ガイダンス	・授業の目標と内容、および授業の進め方についての説明。 ・用具材料の点検。（不足品については各自で購入補充する。） ・油彩画の特色や歴史についての復習。 ・道具点検…各自油絵具や筆などを点検して不足分を画材店に発注する。（制作キャンパス含む）	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	30
2	自由画制作－1	作品制作…主題の設定とモチーフの取材および選択 ・テーマの設定は自由とする。表現は具象、抽象どちらでも可。モチーフの設定も自由。 ・自分のテーマに合うモチーフや作家の作品等について取材し、制作のコンセプトを明確にしていく。	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	30
3	自由画制作－2	作品制作…基底材（キャンパス）の準備 ・木枠に布を張る（2,3人組み共同作業）。F80号～F150号の木枠を準備する。 ・各自の制作意図によっては下地塗りもおこなう。	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	30
4	自由画制作－3	作品制作…エスキース制作 ・自由な発想で画面構成を試みる。 ・油彩画Ⅰや油彩画Ⅱ前半で試みた様々な技法も応用して自分の制作意図を絞り込んでいく。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
5	自由画制作－4	作品制作… ・木炭エスキース、淡彩画、小キャンパスの利用などいろいろ試みながら発想の柔軟性を図り、画面構成をおこなう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
6	自由画制作－5	作品制作… ・構想がまとまり、画面構成がおおまかに決まったら大画面制作をはじめ。 ・F80号以上のキャンパスを使用。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
7	自由画制作－6	作品制作… ・細部に捕らわれず、絶えず画面全体の関係を見ながら制作を進める。 ・自分の制作意図をより効果的に表現するための、技法の選択と組み合わせも考えながら進める。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	自由画制作－7	作品制作… ・制作意図に応じて、さまざまな技法を画面に取り入れてみる。 ・発想の転換を図ったりしながら画面上で自分の表現意図を絞り込んでいく。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
9	自由画制作－8	作品制作… ・画面構成や色調が自分の表現意図に沿っているかどうかを確認する。 ・全体の関係をみながら制作を進める。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
10	自由画制作－9	作品制作… ・制作意図に沿っているかどうかを確認しながら制作を進める。 ・画面の中で強調、又は不必要な物を省略しながらいい形を探っていく。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
11	自由画制作－10	作品制作… ・細部に捕らわれずに絶えず画面全体の関係をみながら制作を進める。 ・画面上で強調したい部分と抑えるべき部分のバランスを考え、魅力のある画面づくりを目指す。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
12	自由画制作－11	作品制作… ・自分の制作意図やイメージに沿った作品となっているかどうかを絶えず確認する。 ・密度のある画面作りを目指して更に描き込む。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
13	自由画制作－12	作品制作… ・完成に近づきつつある作品に対して、より深い表現となるよう追究する。 ・描きだしの新鮮さを思いだし、色が沈んでいる場合は彩度を上げてみる。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
14	自由画制作－13	作品制作… ・必要に応じて強調や省略等を加え、画面全体の構成要素のバランスを整えて魅力ある完成度の高い画面づくりを目指す。 ・制作もかなり進んできたが、描きこむことによって表現が硬くならないように注意する。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
15	自由画制作 < 講評会 >	完成した作品を並べ講評。 ・質問や意見交換なども多角的に行い油彩画制作の目標達成を目指す。 ・油彩画Ⅱの総評。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。また作品記録用にカメラを準備しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品および作品画像を整理しておく。	30

科目名	木彫表現	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	黒沼 令		
開講期	通年		
授業概要	<p>彫刻は手を通して触覚感覚を働かせながら、素材（粘土、木、石、鉄など）を直に成形していく造形芸術です。また、立体物を立体物として造形していくため、もの与人間の原初の関係に根ざしているとともに、造形の手応えを強く体験できる活動と言えます。木彫とは彫刻の技法の一つで、木を素材として彫刻作品をつくる事を言います。木彫表現の授業では木による造形を体験しながら、木彫の基礎的な技法を学ぶ、また、木の素材的な魅力を味わう事を目標とします。☑</p> <p>最終授業で取り組んだ作品に対するフィードバックとして合評会を行います。☑</p> <p>☑</p> <p>位置づけ・水準：CD2172☑</p>		
達成目標	<p>木彫作品の制作を通して、木彫の技法と表現を学ぶことを目標とします。また、もみじ会や展覧会などの作品発表を積極的に行い、学習の成果を確認する機会とします。☑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位認定の最低基準：課題作品を提出すること。その達成度が8割以上であること。☑ ・ディプロマ・ポリシーとの関係：創造的思考力、課題解決力 		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題作品 70% ☑ ・授業態度、授業に対する意欲・関心 30% ☑ <p>以上の配分で評価します。60点以上で合格としますが、☑ 授業理解度は7割以上を求めます。</p>
教科書	特に無し。		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の彫刻関係図書 ☑ ・美術館（福島県立美術館、郡山市立美術館、他） ☑ ・街の中の彫刻 ☑ ・公募展覧会等 		
学生への要望	公共彫刻作品を鑑賞したり、機会があれば彫刻の展覧会を観ることを心がけてください。		
オフィスタイム	<ul style="list-style-type: none"> ・月曜日Ⅲ・Ⅳコマ（12:50～16:00）☑ ・水曜日Ⅰ・Ⅱコマ（8:50～12:00）☑ <p>彫刻室・工芸Ⅰ室</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	木彫表現の授業について	<ul style="list-style-type: none"> ・木彫表現の履修及び授業の年間計画について☑ ・彫刻室の使用について☑ ・準備する道具、材料、費用について☑ ・彫刻の基礎的な学習 		0
2	しおり制作-1	<ul style="list-style-type: none"> ◆木彫について学習する☑ 木彫の初めての学習として、しおりをつくることで、木彫の表現（造形要素や用語など）を学習していくとともに、木彫の基礎的な技法（木の材質的特徴、魅力や造形方法）の習得を目指す。☑ 《課題についての説明とアイディアスケッチ》☑ ・しおりをつくる目的、意義について☑ ・木についての学習☑ ・アイディアスケッチを行う 	・アイディアスケッチを進めながら構想を練る	120
3	しおり制作-2	<ul style="list-style-type: none"> 《材料選び》☑ ・アイディアスケッチを基に材料を選択する☑ ・鋸などを使い、材料を加工する 	・材料を短冊型に加工する	60
4	しおり制作-3	<ul style="list-style-type: none"> 《しおり作り・1》 ・彫刻刀などを使い、造形する ・道具の扱い等学習する 	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
5	しおり制作-4	<ul style="list-style-type: none"> 《しおり作り・2》 ・第4回に同じ 	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
6	しおり制作-5	<ul style="list-style-type: none"> 《しおり作り・3》 ・サンドペーパーなどを使い、木を磨く ・磨くことで感じる材質的な変化や魅力について学習する 	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
7	しおり制作-6	<ul style="list-style-type: none"> 《しおり作り・4》 ・着色する ・飾ひもなどを付けて仕上げる 	・授業内容を振り返りながら作品を完成させる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	自然物をモチーフとした木彫作品制作-1	◆動物や植物などの自然のものをモチーフとして木彫作品を制作する。その際、モチーフの選択など、木彫に適したものであること、意欲が持続するものであることなどを意識する。 《アイディアデッサン・1》 ・自由に構想を練りながらデッサンする	・自分がつくりたいものを基に取材、デッサンを進める	120
9	自然物をモチーフとした木彫作品制作-2	《アイディアデッサン・2》 ・自由に構想を練りながらデッサンする ・立体的にデッサンする	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
10	自然物をモチーフとした木彫作品制作-3	《木彫・1》 ・素材を選択する ・素材にデッサンを入れる	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
11	自然物をモチーフとした木彫作品制作-4	《木彫・2》 ・鋸、鑿などを使い、粗どりを行う	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
12	自然物をモチーフとした木彫作品制作-5	《木彫・3》 ・第11回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
13	自然物をモチーフとした木彫作品制作-6	《木彫・4》 ・第11回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
14	自然物をモチーフとした木彫作品制作-7	《木彫・5》 ・第11回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
15	自然物をモチーフとした木彫作品制作-8	《木彫・6》 ・第11回に同じ	・授業内容を振り返りながら作品を完成させる	60
16	自然物をモチーフとした木彫作品制作-9	《木彫・7》 ・鑿や彫刻等を使い、粗彫りを行う	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
17	自然物をモチーフとした木彫作品制作-10	《木彫・8》 ・第16回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
18	自然物をモチーフとした木彫作品制作-11	《木彫・9》 ・第16回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
19	自然物をモチーフとした木彫作品制作-12	《木彫・10》 ・第16回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
20	自然物をモチーフとした木彫作品制作-13	《木彫・11》 ・第16回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
21	自然物をモチーフとした木彫作品制作-14	《木彫・12》 ・第16回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
22	自然物をモチーフとした木彫作品制作-15	《木彫・13》 ・第16回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
23	自然物をモチーフとした木彫作品制作-16	《木彫・14》 ・第16回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
24	自然物をモチーフとした木彫作品制作-17	《木彫・15》 ・鑿や彫刻刀とやすりを併用して、より細かい造形を進める	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
25	自然物をモチーフとした木彫作品制作-18	《木彫・16》 ・第24回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
26	自然物をモチーフとした木彫作品制作-19	《木彫・17》 ・第24回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
27	自然物をモチーフとした木彫作品制作-20	《木彫・18》 ・第24回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
28	自然物をモチーフとした木彫作品制作-21	《木彫・19》 ・第24回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
29	自然物をモチーフとした木彫作品制作-22	《木彫・20》 ・着色などを行い作品を仕上げる	・授業内容を振り返りながら作品を完成させる	60
30	合評会	《合評会》 ・1年間の作品についてのプレゼンテーションを含めた合評会を行う		0

科目名	版画表現	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員	斉藤 弘久		
開講期	III		
授業概要	版画基礎で学んだ事の中から興味を持った版種を2種類選び技法をさらに深めて表現方法を考える。技法は基礎で学んだ以外にもあるので、さらに挑戦してみる。アナログとデジタルの併用による効果なども試して行く。(CD2262)		
達成目標	版画への理解を深め、表現の豊かさ新鮮さを感じる。		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること。(配点80点) ②授業に対する関心・意欲・態度(20点)
教科書	そのつど担当者が資料を配布する。		
参考書	そのつど担当者が紹介する。		
学生への要望	学んだことを工夫して発見したり活かしたりしながら課題内容の充実を図ってください。		
オフィスタイム	授業に関する質問や相談は毎週月曜日を除く平日(9:00~17:00)の授業のない時間にNo.2.デザイン室で受けます。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	版画の表現手段を再確認する。	授前、版画の基礎を確認 授後、自分にあった技法を選択	180
2	2版種の選択	選ぶために技法を確認する	授前、選ぶ技法を確認 授後、選んだ技法を確認	180
3	1版種目の技法の再確認	選んだ技法の確認と試作。この時間は下書きをしながら表現方法を考えます。	授前、絵柄を考える 授後、絵柄の確認	180
4	版画制作	自分の選んだ版種をどこまで深められるか、版種ごとの試作つくります。	授前、さらに絵柄を深める 授後、試作の活かし方を考える	180
5	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
6	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
7	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
8	版画制作	選択した版種で制作 完成をさせる。	授前、制作の完成を目指す 授後、完成作品を振り返る	180
9	2版種目の技法の再確認	2つ目に選んだ技法の確認。この時間は下書きをしながら表現方法を考えます。	授前、絵柄を考える 授後、絵柄の確認	180
10	版画制作	自分の選んだ版種をどこまで深められるか、版種ごとの試作つくります。	授前、さらに絵柄を深める 授後、試作の活かし方を考える	180
11	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
12	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
13	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
14	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
15	版画制作まとめ	完成した作品を鑑賞する。	授前、制作の完成を目指す 授後、版画についてまとめる	180

科目名	ビジュアルデザインⅠ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員	松田 理香		
開講期	Ⅲ		
授業概要	視覚的な伝達を試みる課題に取り組みます。広告表現の効果的な方法には、文字のみによって意味を伝える方法と、文字や言葉に頼らない意味の伝達方法があります。自分の意見や考えを視覚的要素を駆使しながら表現することを試みます。☒ 完成した作品は講評時に全員で鑑賞し、感想などを述べ合います。また提出したレポートを返却する際はコメントなどによるフィードバックを行います。 CD2163		
達成目標	広い視野で物事に関心を寄せ、身近な社会問題にも興味を持ってください。また、撮影の際はモラルとマナーを守り、自分らしい視点を大事にしながら制作にあたってください。☒ ・単位認定の最低基準：課題作品の提出（ルーブリック評価に基づいて判定します）☒ ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	課題作品の提出状況と達成度(80点)、制作姿勢(20点)の他、授業目標への意欲や関心度などを総合的に判断します。
教科書	ありません。☒ 必要に応じて関連資料を配布します。		
参考書	○参考書☒ ・デザイン概論(ダヴィッド社)☒ ・graphic elements(武蔵野美術大学出版局) など☒ ○表現材料・道具など☒ ・撮影し出力したもので制作します。各自の表現方法に合わせて準備をしてください。☒ (材料についての相談は受けます)		
学生への要望	例えば、標識の図記号やスマートホンのアイコンなどは単純でわかりやすく、それらを構造化、システム化して表示することにより、言語のようなメッセージを発信します。☒ 自分の伝えたい情報が適切に提示できているか、他者を意識した視点で課題制作に取り組んでください。		
オフィスタイト	月曜日 Ⅱ～Ⅳコマ☒ 木曜日 Ⅰ・Ⅱコマ☒ 場所：芸術館1階 No.2 工芸室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	「視覚的な伝達」について事例を提示してガイダンスを行う。	配布された資料にもとづき視覚的要素による伝達について考え理解を深める。	30
2	視覚言語とは何か	色や形、イメージなどの要素となる「視覚言語」について考える。	校内や街中にある身近なサインを複数確認して間違いのない理解が可能な確かめる。	60
3	演習：課題1(1)	【カルタの制作】 特定の言葉やイメージを連想させる写真を撮影し、カルタを1セット制作する。 ①読み札となるキーワードを五十音で考える。 ※名詞と動詞を原則とし固有名詞や抽象的な形容詞はし ようしない。 ②①のキーワードを連想させる適切な写真を撮影する。 ③指定された大きさで取り札としてのカードを制作する。	五十音で始まるキーワードを提案するために図書館や書店、その他で情報を集める。	60
4	演習：課題1(2)	課題1の作業を進める。 ・キーワードの候補をいくつかセットで考える。	五十音で始まるキーワードを提案するために図書館や書店、その他で情報を集める。	60
5	演習：課題1(3)	課題1の作業を進める。 ・キーワードに合わせるための写真を用意する。 ・必要に応じて撮影した写真の加工などを行い、より効果的な構図を検討する。	キーワードを連想させるための写真を撮影し、データを収集する。	60
6	演習：課題1(4)	課題1の作業を進める。 ・キーワードと写真の組み合わせについて検討を重ね、自分の意図が明確に伝わる仕上げとなっているを確認して作業を進める。	キーワードを連想させるための写真を撮影し、データを収集する。	60
7	演習：課題1(5)	課題1の作業を進める。 ・撮影した写真とキーワードを検証し必要に応じて改めて撮影するなどしてデータを整理する。 ・カルタとして仕上げた作品を提出する。	撮影した写真とキーワードを検証し必要に応じて改めて撮影する。	60
8	演習：課題1(6)	課題1の作品提出 お互いの作品を鑑賞し感想を述べ合う。	感想や意見などを受け、客観的に自分の作品について検証する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	演習：課題2（1）	【フリーペーパーを作る】☑ ①文字組☑ ・内容に合うタイトルを作る。下書き用紙を使って「文字組」の計画をたてる。☑ ・A3判の台紙に手作業で構成する。	数種類の新聞に目を通し内容の見出しや文字組についての差異を調べ、自分の表現方法を探る。	60
10	演習：課題2（2）	課題2の作業を進める。☑ ・フリーペーパーの構成を考える。☑ ・タイトルの書体や大きさ、本文の行送りやレイアウトを考える。	数種類の新聞に目を通し内容の見出しや文字組についての差異を調べ、自分の表現方法を探る。	30
11	演習：課題2（3）	課題2の作業を進める。 ・指定の台紙に決められたサイズの枠を設定しタイトルとともに手作業で構成する。	数種類の新聞に目を通し内容の見出しや文字組についての差異を調べ、自分の表現方法を探る。	30
12	演習：課題2（4）	課題2の作業を進める。☑ ②意見広告の文字組☑ ・600字程度で社会に向けた問題提起と、それに対する自分の意見を文章として書く。☑ ・これを本文として主題に相応しいタイトルをつけ、PCを使用してメッセージが伝わるよう効果的な文字組を制作する。	数種類の新聞に目を通し興味のある社会問題などについて調べ資料を集める。	60
13	演習：課題2（5）	課題2の作業を進める。 ・興味のある社会問題をいくつか考えて必要に応じて資料を持参しテーマを絞る。 ・自分の意見や考えをまとめる作業を行う。	数種類の新聞に目を通し興味のある社会問題などに対し、自分の意見をいくつか考える。	30
14	演習：課題2（6）	課題2の作業を進める。☑ ・紙面をまとめる作業を行う。☑ ・メッセージ性のあるものに仕上がっているか検証する。	自分で決めた社会問題などについてさらに情報を収集し、自分の意見をまとめておく。決められた文字数（スペース）に落とし込むための準備を行う。	30
15	まとめ（鑑賞と講評）	課題2の作品提出 お互いの作品を鑑賞し感想を述べ合う。	感想や意見などを受け、自分の作品について客観的に検証する。	30

科目名	ビジュアルデザインⅡ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員	斉藤 弘久		
開講期	Ⅳ		
授業概要	視覚伝達デザインとも言われるように、視覚に訴える行為でコミュニケーションには欠かせないものである。手作業の時代からコンピュータの出現した今日に到るまでと、今を考えます。途中その都度制作された物を各自のアイデアを活かし最後に1冊の本にまとめます。(CD2263)		
達成目標	人間相互のコミュニケーションとしての極めて重要な役割を担っている印刷への理解を深めて行く事を目標としている。		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	①授業目標の達成度が70%以上であること。(配点80点) ②授業に対する関心・意欲・態度(配点20点)
教科書	そのつど担当者が資料を配布する。		
参考書	そのつど担当者が紹介する。		
学生への要望	ビジュアルデザインとそれ以外の様々なデザインの存在を意識しながら、自分がどのようにデザインと関わって生活しているかを考えてください。		
オフィスタイム	授業に関する質問や相談は毎週金曜日を除く平日(9:00~17:00)の授業のない時間にNo2.デザイン室で受けます		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	教員の経験を交えながらビジュアルデザインを解説します。	授前、ビジュアルデザインを自学習 授後、ビジュアルデザインの可能性を考える	180
2	形の面白さ	平面上に現れる2Dと3Dの捉え方と不思議。	授前、2Dと3Dの違いを自学習 授 後、2Dと3Dの扱い方を考える	180
3	色で遊ぶ	どれだけの数の色があるか、配色による効果。	授前、伝統色について自学習 授後、 配色の効果を探す	180
4	文字の表現	文字の種類と形とその表現。	授前、文字の種類について自学習 授 後、文字の配置等の効果を調べる	180
5	表現される文字	テーマを決めて自分流文字を制作する。	授前、自分流の文字を作る 授後、テー マと文字が効果的か考察する	180
6	1mmを知る	色、文字などを用いて1mmを知る。	授前、30cm以内の世界を考える 授後、1mmの違いを考察する	180
7	バランス	ここまで学んだ事を用いて画面にまとめる。	授前、画面構成の準備 授 後、テーマと文字や色が効果的か考察する	180
8	バランスⅡ	さらに画面への工夫を加える。	授前、画面構成の準備 授 後、テーマと文字や色が効果的かさらに考 察する	180
9	スケール	バランスの良い悪いを考える。	授前、意識的のバランスの悪い方向を考え る 授後、バランスが視覚的 にどう映るか考察する	180
10	スケールⅡ	拡大、縮小の面白さを学ぶ。	授前、拡大、縮小率を自学習 授後、拡大、縮小の面白さ組み合わせを考え る	180
11	構成	写真を加えて画面構成をして見る	授前、写真の事について知る限りを自学習 授後、写真との構成した 結果を考察する	180
12	構成Ⅱ	さらに様々な素材を試みる	授前、紙やインクなど制作の準備 授後、どのような効果が得られたか考察す る	180
13	フライヤー制作	自分の好きなもの表現して見る。	授前、制作の準備 授後、どのよ うな効果がもたらされるか考察する	180
14	フライヤー制作Ⅱ	自分自身を表現して見る。	授前、制作の準備 授後、最終調 整	180
15	まとめ	この授業を通してのまとめ	授前、まとめにむけての準備 授 後、ビジュアルデザインとはを考える	180

科目名	Webデザイン	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員	小松 太志		
開講期	III		
授業概要	<p>▼授業の目的・ねらい☑</p> <p>①Webを活用したビジュアルコミュニケーション能力の養成☑</p> <p>②情報の構造化と視覚化に関する理解の促進☑</p> <p>☑</p> <p>▼授業全体の内容の概要☑</p> <p>①インターネットの基礎理解とHTML、CSSを使用したWebサイト制作について学修する。☑</p> <p>②演習を通して、情報を構造的に捉え、視覚を通して効果的に伝達する方法を理解する。☑</p> <p>☑</p> <p>▼実務経験に関連する内容☑</p> <p>広告制作会社に勤務した経験を活かして、ビジュアルコミュニケーションの視点からWeb制作についての授業を行う。☑</p> <p>実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務☑</p> <p>☑</p> <p>▼課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法☑</p> <p>・期末に、ルーブリック表を用いてフィードバックを行なう。☑</p> <p>☑</p> <p>位置づけ・水準 CD2173</p>		
達成目標	<p>▼達成目標☑</p> <p>①HTML、CSSについて基礎的理解ができている。☑</p> <p>②HTML、CSSを使用して簡易なWebサイトを制作できる。☑</p> <p>③ユーザビリティ、アクセシビリティについて理解している。☑</p> <p>④情報の構造化と視覚化について理解している。☑</p> <p>☑</p> <p>▼単位認定の最低基準☑</p> <p>・授業内容の7割を理解していること。☑</p> <p>☑</p> <p>▼ディプロマ・ポリシーとの関係☑</p> <p>・知識理解、課題解決力</p>		
受講資格	<p>・地域創成学科2年 対象☑</p> <p>・CG基礎Ⅰ・Ⅱを履修済みであることが望ましい。</p>	成績評価 方法	<p>授業の総合的理解度が7割程度に達していることを基本として、以下の3つ観点で所定のルーブリックに基づき評価する。☑</p> <p>①課題作品の制作過程（40%）☑</p> <p>②課題作品（40%）☑</p> <p>③課題作品の提出状況（20%）</p>
教科書	Webクリエイター能力認定試験 HTML5対応 スタンダード 公式テキスト、FOM出版、2015		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	<p>・授業支援システムを活用して、授業資料の配布や課題提出をおこなうため、操作に慣れること。☑</p> <p>・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように自習すること。</p>		
オフィスタイム	月曜日 III・IV時限、金曜日 III・V時限、No.3地域創成学科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	<p>▼Webデザインの授業計画と授業目標について説明する。</p> <p>▼CG演習室の使用方法和機器設備について説明する。授業で使用するコンピュータに個々のアカウントを作成する。</p>	<p>【事前学修】さまざまなWebサイトを閲覧する。</p> <p>【事後学修】授業内容についてまとめる。</p>	90
2	Webサイト・制作の基礎知識	Webサイトの基礎知識、ページを構成するファイル、Webページを作る手順、HTMLファイル・CSSファイル編集の基本操作について学修する。	<p>【事前学修】教科書「第1章（pp.16-31）」について予習する。</p> <p>【事後学修】授業内容についてまとめる。</p>	90
3	HTMLの基礎①	HTMLの基礎、HTML5の特徴、HTMLの記述法について学修する。	<p>【事前学修】教科書「第2章（pp.36-42）」について予習する。</p> <p>【事後学修】授業内容についてまとめる。</p>	90
4	HTMLの基礎②	第3回の授業に基づいて、HTMLを使用してページを作成する。	<p>【事前学修】教科書「第2章（pp.44-55）」について予習する。</p> <p>【事後学修】授業内容についてまとめる。</p>	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	CSSの基礎①	CSSの基礎知識、セレクターについて学修する。	【事前学修】教科書「第3章 (pp.58-61)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
6	CSSの基礎②	CSSの使用・外部CSSファイルの読み込みについて学修する。第4回の授業で作成したHTMLファイルにCSSを適用する。	【事前学修】教科書「第3章 (pp.62-76)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
7	ページの作成①	Webページを作成しながら、HTML及びCSSについて理解を深める。サイト共通のHTMLとCSSを作成する。 HTML：ページの基本構造・リンク・背景の設定、CSS：テキスト関連プロパティ・paddingとmarginプロパティの設定	【事前学修】教科書「第4章 (pp.82-100)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
8	ページの作成②	Webページを作成しながら、HTML及びCSSについて理解を深める。ページのメイン領域を作成する。 HTML：画像の挿入・箇条書きリスト・クラス属性の設定、CSS：リスト関連プロパティの設定	【事前学修】教科書「第4章 (pp.101-108)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
9	ページの作成③	Webページを作成しながら、HTML及びCSSについて理解を深める。ページレイアウトを整える。 CSS：floatプロパティの設定	【事前学修】教科書「第4章 (pp.108-122)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
10	テーブルとそのスタイル①	テーブルの作成、及び基本設定について学修する。	【事前学修】教科書「第5章 (pp.126-134)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
11	テーブルとそのスタイル②	テーブルにCSSを設定して、デザインを整える。	【事前学修】教科書「第5章 (pp.136-146)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
12	フォーム①	フォーム領域、コントロールをHTMLで作成する。	【事前学修】教科書「第6章 (pp.150-161)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
13	フォーム②	フォーム領域、コントロールのCSSを設定する。	【事前学修】教科書「第6章 (pp.163-166)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
14	知識理解の確認①	▼実技形式の模擬テストを実施する。これまでの学習内容について、復習する。	【事前学修】これまでの教科書内容について、復習する。 【事後学修】模擬テストを復習する。	90
15	知識理解の確認②	▼模擬テストの結果を確認する。回答について、解説を行なう。	【事前学修】模擬テストの不明点を明らかにしておく。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90

科目名	児童サービス論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	邊見 美江子, 和知 剛, 桑野 聡		
開講期	I		
授業概要	・子ども時代に読書の喜びを知り図書館利用を身に付けることは、生涯にわたっての自己学習の基盤を築き、生きる力を育みます。この「児童サービス論」では、公共図書館における児童サービスの意義・運営・活動等について理解を深め、児童サービスのあり方と重要性について学びます。 ・課題「私のおすすめする本」をまとめ、「私たちのおすすめ本リスト」として配布し、講評します。 ・レポート「子ども時代の読書と図書館」提出後、全体に対して授業の中で、フィードバックします。		
達成目標	公共図書館における児童サービスの意義・運営・活動について学び、その重要性を知る。 目標・課題「私のおすすめする本」・レポート「子ども時代の読書と図書館」の提出。		
受講資格	地域創成学科学生☑ 科目等履修生	成績評価 方法	参加態度20% 積極性・質問等 課題演習60% 総合評価20% 出席回数・遅刻等
教科書	特に使用しない。資料を配付する。		
参考書	・堀川照代編著『児童サービス論 JLA図書館情報学テキストシリーズIII 6』日本図書館協会 2014年 ・植松貞夫編『児童サービス論 現代図書館情報学シリーズ6』樹村房 2012年		
学生への要望	期限までの課題提出は必須です		
オフィスタイム	授業開始前 非常勤講師室☑授業終了後 教室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	児童サービスの意義	公共図書館におけるジドウサービスの意義と歴史等について		0
2	子どもの生活と読書	子どもを取り巻く社会の動きと、子どもの発達と読書等について		0
3	児童資料の選書と管理	絵本・児童文学・ノンフィクション・レファレンスブック等、児童書の種類と特色等について	各種の児童書を読み、楽しさと特色を知る	0
4	児童資料の選書と管理	児童室における児童資料の選書・整理・蔵書構成等について		0
5	児童サービスの諸活動	資料情報提供・レファレンスサービス・フロアワーク・集会行事・展示・PR等について		0
6	児童図書館の運営と管理	児童室の運営・管理・評価・施設・設備・市民との協働等について		0
7	子どもと本をつなぐ活動	読み聞かせ・ストーリーテリング・ブックトーク・おはなし会等の活動について	機会を見つけて実践する	0
8	乳幼児サービス	乳幼児サービスの意義と現状・資料・サービスの展開等について		0
9	児童サービス	児童（幼児・児童）へのサービス実践・おはなし会のプログラム構成等について		0
10	ヤングアダルトサービス	中高生へのサービスの意義と現状・選書・サービスの展開等について		0
11	特別支援サービス	支援が必要な子どもへのサービスの意義と現状・資料の形態・サービスの展開等について		0
12	学校・学校図書館との連携協力	学校図書館整備計画と現状・学校図書館との連携協力・支援等について		0
13	関連施設との連携協力	幼稚園・保育所・子ども文庫・民俗資料館等の関連施設との連携協力と支援について		0
14	読書活動の推進と公共図書館	国・自治体・民間団体による読書活動の推進と公共図書館の活動について		0
15	司書のキャリアアップ まとめ	児童室担当者の職務・研修・児童図書館界の動向等について		0

科目名	図書館サービス概論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	和知 剛		
開講期	Ⅱ		
授業概要	<p>公共図書館をはじめとする各館種で行われている「図書館サービス」の種類とそのあらましを学ぶ。図書館サービスの内容を覚え、図書館で働く際とはより、図書館を利用する側になったときも、的確なサービスを選択し図書館を効率的に利用できる社会人になる。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していくとともに、学生自らが図書館サービスを調査報告する課題と機会を設けて、学生が主体的に学ぶことを身につける。</p> <p>講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。</p> <p>担当教員は大学図書館に30年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。</p> <p>位置づけ・水準 GD2112</p>		
達成目標	<p>目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー③にある「地域社会において円滑に対応できるコミュニケーション力を活かしながら、現代社会の多様な課題を自らの力で発見し、それらを分析し解決する能力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。</p>		
受講資格	地域創成学科に所属し、図書館司書課程を選択している学生	成績評価 方法	レポート5割、期末試験5割
教科書	講義ではその都度プリントを配布します		
参考書	参考書よりも、自ら図書館利用者となって足繁く通い、実際に様々なサービスを楽しむことが講義の参考になります		
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜－木曜 のそれぞれ2コマ目（10時30分－12時）に図書館情報学研究室まで		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	「図書館サービス」のあらまし：意義と理念	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	「図書館サービス」とは（1）	実際に行われている「図書館サービス」の類型	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	「図書館サービス」とは（2）	「図書館サービス」は外部からどのように見られているか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	学生による事例報告（1）	国立国会図書館、移動図書館、専門図書館、病院図書室	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	学生による事例報告（2）	コレクション構築（蔵書構成論）、蔵書管理、閲覧・貸出、予約・リクエスト	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	学生による事例報告（3）	複写サービス、参考図書、地域資料、逐次刊行物（継続資料）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	学生による事例報告（4）	オーディオ・ヴィジュアル（AV）資料、新聞、上映会、演奏会	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	学生による事例報告（5）	地域交流・集会、読書会、TRPG・ボードゲーム、レファレンスサービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	学生による事例報告（6）	レフェラルサービス, エンベディット・ライブラリアン, 広報, 展示	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について, 図書館用語集等で復習するとともに, 次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	学生による事例報告（7）	利用者支援（利用者教育）, 読書通帳, 児童サービス, ヤングアダルトサービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について, 図書館用語集等で復習するとともに, 次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	学生による事例報告（8）	認知症の方へのサービス, 多文化サービス, 法情報サービス, 視覚・聴覚障害者へのサービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について, 図書館用語集等で復習するとともに, 次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	学生による事例報告（9）	アウトリーチサービス, ビジネス支援・課題解決型サービス, 電子書籍, 医療情報サービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について, 図書館用語集等で復習するとともに, 次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	学生による事例報告（10）	学校図書館との相互協力, 大学図書館との相互協力, 博物館・美術館との連携, 公民館との連携	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について, 図書館用語集等で復習するとともに, 次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	まとめ（1）	「図書館サービス」計画の策定と評価	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について, 図書館用語集等で復習するとともに, 次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	まとめ（2）	「図書館サービス」のこれから	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について, 図書館用語集等で復習するとともに, 次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

科目名	図書館情報資源概論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	和知 剛		
開講期	I		
授業概要	<p>図書館で扱う情報資源の歴史について学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。☒</p> <p>担当教員は大学図書館に30年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。☒</p> <p>☒ 位置づけ・水準 GD2113</p>		
達成目標	<p>目標は①図書館で扱う情報資源は一朝一夕にいまの形になったものではないことを8割理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探索し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。</p>		
受講資格	地域創成学科に在籍し司書課程を受講している学生	成績評価 方法	レポート3割、期末試験7割で評価します。
教科書	その都度プリントを配布。		
参考書	NDC014, 021, 023に分類される書籍		
学生への要望	知識を習得する講義です。受講生の無断欠席は受講を継続する意欲がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜～木曜のそれぞれ2コマ目（10時30分～12時）に図書館情報学研究室まで		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション(1)	記憶と記録のメディア	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	イントロダクション(2)	アナログからデジタルへ	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	文字の歴史(1)	文字の誕生	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	文字の歴史(2)	日本における文字の歴史	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	紙の歴史(1)	紙以前の記録媒体と紙の出現	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	紙の歴史(2)	紙の発明と伝播	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	印刷の歴史(1)	黎明期の印刷（木版印刷）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	印刷の歴史(2)	活字の発明	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	印刷の歴史(3)	活版印刷の発明	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	書物について	さまざまな書物のかたち	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	近代出版の歴史(1)	16世紀ヨーロッパの出版	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	近代出版の歴史(2)	17世紀ヨーロッパの出版	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	近代出版の歴史(3)	近世日本の出版(1)	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	近代出版の歴史(4)	近世日本の出版(2)	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	近代出版の歴史(5)	明治時代以降の出版	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

科目名	情報資源組織論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	和知 剛		
開講期	I		
授業概要	図書館業務において「混沌（カオス）」から「秩序（コスモス）」を作り出し、利用者に必要な情報資源を提供しやすくしておくことの手段のひとつが「情報資源の組織化」であることを学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。講義の最後に毎回、時間をとってミニトペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に30年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。 位置づけ・水準 GD2114		
達成目標	目標は①内容の7割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探索し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。		
受講資格	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	成績評価 方法	レポート3割、期末試験7割で評価します。
教科書	プリントをその都度配布します		
参考書	『知識資源のメタデータ』（谷口・緑川）、『情報資源の組織化と提供』（根本・岸和田）など		
学生への要望	知識を習得する講義です。受講生の無断欠席は受講を継続する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜-木曜 のそれぞれ2コマ目（10時30分-12時）に図書館情報研究室まで		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	目録 (catalog) , 目録作成者 (caraloger) の役割	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	「情報資源」とは何か（1）	情報(information), 情報資源(information resource)についてそれぞれ考える	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	「情報資源」とは何か（2）	「データ→情報→知識→知恵」という定説を疑い、「Information→分析→Intelligence」という流れを併せて考える	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	メタデータとは何か（1）	「情報資源」の組織化とは、情報資源が図書館業務においてどのような状態になることか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	メタデータとは何か（2）	所蔵/所有を超えた情報資源の「目録化」	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	図書館と「目録化」	混沌から秩序を生み出し、図書館利用者が必要としている情報資源を必要ときに提供するための仕事としての目録作成について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	図書館目録の簡単な歴史	FRBR/RDAに至る目録規則の話	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	書誌コントロールとMARC	書誌コントロールの歴史と標準化	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	書誌ユーティリティとコピーカタロギング	書誌ユーティリティの構築とコピーカタロギングの導入に伴う目録作成の合理化と目録作成業務の地位低下	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	インターミッション	ここまでのおさらい	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	日本目録規則のはなし	日本における「目録法」の歴史と現在	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	日本十進分類法のはなし	日本における「分類法」の歴史と現在	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	OPACの簡単な歴史	OPAC (Online Public Access Catalog) の歴史と現在	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	OPACの未来	リンクリゾルバ/ディスカバリーサービス/OPACのGoogle化	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	まとめ	図書館目録の「未来への展望」はありやなしや	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

科目名	図書館情報技術論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員	和知 剛			
開講期	III			
授業概要	<p>現在の図書館の現場において使われている情報技術（ICT）にどのようなものがあるかを学ぶとともに、これまでの歴史を踏まえ、技術を支える法制度の現状を見て、単なる知識の習得に終わらない、情報技術の「困難さ」をめぐる思考を深めていく。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。図書館サービスに有効に活用されている情報技術にどのようなものがあるかを学修し、エンドユーザーとして使いこなすことが可能になることを目指す。</p> <p>講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。</p> <p>担当教員は大学図書館に30年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。</p> <p>位置づけ・水準 GD2115</p>			
達成目標	<p>目標は①内容の7割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。</p>			
受講資格	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	成績評価 方法	レポート3割、期末試験7割で評価します。	
教科書	プリントをその都度配布します			
参考書	<p>「ITパスポート試験」「基本情報技術者試験」の教科書、参考書の類を読んでおくに役立ちます。</p> <p>『電子書籍と電子ジャーナル』（日本図書館情報学会研究委員会編/勉誠出版）</p> <p>『メタデータとウェブサービス』（日本図書館情報学会研究委員会編/勉誠出版）</p>			
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。			
オフィスタイム	月曜～木曜のそれぞれ2コマ目（10時30分～12時）に図書館情報学研究室まで			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	図書館に限定せず、アナログからデジタルへのテクノロジーの歴史について。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	コンピュータ（電子計算機）の簡単な歴史	機械式計算機からノイマン型コンピュータまで。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	コンピュータの構成要素	コンピュータの構成要素とその機能、種類と役割について。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	ソフトウェアとハードウェア	オペレーションズシステム（OS）、アプリケーションソフトウェア（アプリ）、ファイルシステムなどについて。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	システムの構成要素	現在の主要なコンピュータシステムの構成要素について。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	データベースのしくみと現在	データベースの役割と種類、主にリレーショナル・データベースについて。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	デジタルアーカイブの現在	デジタルアーカイブとは何を目的としているのか、使われている技術はどのようなものか。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	インターネットの簡単な歴史	インターネット黎明期から現在に至る歴史を解説。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
9	情報セキュリティ対策	「情報セキュリティ」が図書館においても重視されるのはなぜか。ポリシーとマネジメントを組織として確立し、適切なリスク管理を実施することが必要。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	情報技術をめぐる法制度	知的財産権、セキュリティ、プライバシーに関する法制度	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	図書館システムの歴史としくみ	図書館システムのはじまりから最近の動向について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	電子書籍と電子ジャーナル	その基礎知識とこれまでの動向について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	図書館とウェブサービス	RSS、WebAPI、SNSをそれぞれ図書館サービスに活用する	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	テクノロジーを用いた障碍のあるひとへの図書館サービス	マルチメディアデイジーほか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	講義のまとめ	図書館はこれから、どこへ向かうのか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

科目名	図書館制度・経営論		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	和知 剛			
開講期	III			
授業概要	<p>公共図書館の経営に関して必要な法制度および代表的な公共図書館経営論について学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。図書館をとりまく環境（法律・政策・社会）やニーズ（社会的需要・利用者の要求）を考えながら、どのように経営されるのかについて理解を深める。</p> <p>講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。</p> <p>担当教員は大学図書館に30年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。</p> <p>位置づけ・水準 GD2116</p>			
達成目標	目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探索し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。			
受講資格	地域創成学科に在籍し司書課程を受講している学生	成績評価 方法	レポート3割、期末試験7割	
教科書	その都度プリントを配布			
参考書	NDC013に排架されている書籍を中心に			
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがある。			
オフィスタイム	月曜－木曜 のそれぞれ2コマ目（10時30分－12時）に図書館情報学研究室まで			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	「図書館制度・経営論」において何が問題になってきたのか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	地方行政とその制度（1）	その組織	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	地方行政とその制度（2）	その法制度	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	図書館をめぐる法規	日本国憲法、地方自治法、教育基本法、子どもの読書活動の推進に関する法律	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	図書館法逐条講義（1）	図書館法の成立と逐条解説	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	図書館法逐条講義（2）	逐条解説（続）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	図書館法逐条講義（3）	改正の概略	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	リクエストアワー（1）	質問にお答えします	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	出版流通（1）	図書館の書架に並ぶ本は誰が作っているのか？	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	出版流通（2）	書籍の販売について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	出版流通（3）	再販制度について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	図書館の危機管理	自然災害と人災	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	図書館の評価	業務統計と評価指標	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	リクエストアワー（2）	質問にお答えします	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	これまでのまとめ	「理想の図書館経営」とは	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

科目名	情報サービス論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	和知 剛		
開講期	III		
授業概要	<p>まず各自の情報リテラシーを高め、その上で図書館における情報サービス（主にレファレンス）業務に関する知識を学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。情報を取り扱うための新しい情報サービスについて学修し、情報を選択するための多様な手段を習得する。☒</p> <p>講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。☒</p> <p>担当教員は大学図書館に30年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。☒</p> <p>☒ 位置づけ・水準 GD2117</p>		
達成目標	<p>目標は①内容の7割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探索し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。</p>		
受講資格	地域創成学科に所属し、図書館司書課程を選択している学生	成績評価 方法	レポート4割、期末試験6割で評価します。
教科書	その都度プリントを配布。		
参考書	NDC015に分類される書籍		
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜－木曜 のそれぞれ2コマ目（10時30分－12時）に図書館情報学研究室まで		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	情報リテラシー概説	講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に30年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
2	しらべる力を身につける	「しらべる」ために必要な能力について	講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に31年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
3	その情報はどこから	主にインターネット上で拡散するフェイクニュース/オルタナティブ・ファクトを注意深く選択から外すために	講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に32年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
4	情報収集	情報に対する「感度」を上げるために各々がなすべきことについて	講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に33年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
5	情報の分析	informationとintelligenceの違い	講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に34年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
6	情報リテラシー教育	図書館における基本的な考え方とその事例紹介	講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に35年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	図書館の広報	基本的な考え方とその事例紹介	講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に36年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
8	オープンサイエンス・オープンデータ	情報の「見える化」への取り組み	講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に37年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
9	もののインターネット (IoT)	IoTの現状と図書館への応用	講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に38年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
10	AI	学術情報の流通とAIの寄与	講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に39年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
11	研究評価	学術雑誌と研究評価に関わる技術	講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に40年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
12	リクエストアワー	これまで受けた質問への回答	講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に41年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
13	情報メディア論再考	コミュニケーションの枠組みとしての「メディア」ほか	講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に42年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
14	情報リテラシー再考	その情報はどこから？	講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に43年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
15	まとめ	これまでのおさらい	講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に44年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60

科目名	情報サービス演習	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	和知 剛		
開講期	通年		
授業概要	<p>PDCAサイクルに倣って、情報サービスの各種の業務における設計から評価までを考える能力、利用者の質問に対する適切かつ柔軟なレファレンスサービスと情報検索サービスの適用が可能な能力、そして積極的な発信型情報サービスの演習を通して、実践的な能力を養成する。</p> <p>また図書館における種々の情報サービスについて設計・展開・評価を、それぞれ実際の業務に近い形で実習し、学生が相互にそのプロセスと結果に評価を加える。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について、演習を通して解説していく。</p> <p>講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーもしくは報告の記録の記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。</p> <p>担当教員は大学図書館に30年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。</p> <p>位置づけ・水準 GD2217</p>		
達成目標	<p>目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー③にある「地域社会において円滑に対応できるコミュニケーション力を活かしながら、現代社会の多様な課題を自らの力で発見し、それらを分析し解決する能力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。</p>		
受講資格	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	成績評価 方法	課題レポート（4本程度）で評価します
教科書	プリントをその都度配布します		
参考書	<p>あらかじめ☑ レファレンス協同データベース ☑ http://crd.ndl.go.jp/reference/☑ 等を見ておくように。</p>		
学生への要望	技術と能力を習得する演習です。受講生の無断欠席は演習を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜～木曜のそれぞれ2コマ目（10時30分～12時）に図書館情報学研究室まで		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	情報サービス演習の目的と概要	当演習の目的と概要を説明する。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	図書館報・図書館だよりを作ろう(1)	架空の市町村にある、架空の公共図書館による「図書館報・図書館だより」を編集する	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
3	図書館報・図書館だよりを作ろう(2)	架空の市町村にある、架空の公共図書館による「図書館報・図書館だより」を編集する	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
4	図書館報・図書館だよりを作ろう(3)	架空の市町村にある、架空の公共図書館による「図書館報・図書館だより」を編集する	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
5	図書館報・図書館だよりを作ろう(4)	架空の市町村にある、架空の公共図書館による「図書館報・図書館だより」を編集する	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
6	図書館報・図書館だよりを作ろう(5)	進捗状況の中間報告	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
7	図書館報・図書館だよりを作ろう(6)	架空の市町村にある、架空の公共図書館による「図書館報・図書館だより」を編集する	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
8	図書館報・図書館だよりを作ろう(7)	架空の市町村にある、架空の公共図書館による「図書館報・図書館だより」を編集する	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	図書館報・図書館だよりを作ろう(8)	図書館報・図書館だよりの完成品を披露し、報告と評価を行う	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
10	パスファインダーを作ろう(1)	初心者の情報探索の道標となる「パスファインダー」を作成する	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
11	パスファインダーを作ろう(2)	初心者の情報探索の道標となる「パスファインダー」を作成する	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
12	パスファインダーを作ろう(3)	初心者の情報探索の道標となる「パスファインダー」を作成する	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
13	パスファインダーを作ろう(4)	初心者の情報探索の道標となる「パスファインダー」を作成する	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
14	パスファインダーを作ろう(5)	初心者の情報探索の道標となる「パスファインダー」を作成する	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
15	パスファインダーを作ろう(6)	初心者の情報探索の道標となる「パスファインダー」を作成する	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
16	レファレンスコレクションの構築を考える	これからの図書館経営にふさわしいレファレンスコレクションの内容を考える。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
17	構築されたレファレンスコレクションを評価する	これからの図書館経営にふさわしいレファレンスコレクションの評価を考える。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
18	レファレンスサービスの展開(1)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
19	レファレンスサービスの展開(2)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
20	レファレンスサービスの展開(3)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
21	レファレンスサービスの展開(4)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
22	レファレンスサービスの展開(5)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
23	レファレンスサービスの展開 (6)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
24	レファレンスサービスの展開 (7)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
25	レファレンスサービスの展開 (8)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
26	レファレンスサービスの展開 (9)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
27	ビブリオバトル	知的書評合戦「ビブリオバトル」を開催する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
28	レファレンスサービスの評価 (1)	図書館における「情報サービス」の一環としてのレファレンスサービスを、これから図書館経営の中でどのように評価し、活用していき、図書館経営のアピールポイントとしていくことが可能なかを考えていく。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
29	レファレンスサービスの評価 (2)	図書館における「情報サービス」の一環としてのレファレンスサービスを、これから図書館経営の中でどのように評価し、活用していき、図書館経営のアピールポイントとしていくことが可能なかを考えていく。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
30	レファレンスサービスの評価 (3)	図書館における「情報サービス」の一環としてのレファレンスサービスを、これから図書館経営の中でどのように評価し、活用していき、図書館経営のアピールポイントとしていくことが可能なかを考えていく。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

科目名	情報資源組織演習	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	和知 剛		
開講期	通年		
授業概要	<p>日本でもっとも利用されている、情報資源を組織化するためのツールである『日本十進分類法』、『日本目録規則』、『基本件名標目表』を中心に、国立情報学研究所のNACSIS-CATや国立国会図書館件名標目表、基本的なメタデータの記述規則であるDublin Core等も交えつつ、情報資源の組織化の実際を学び、受講生がこれらのツールを用いて図書館目録の整理を行うに必要な知識と技術を習得する。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について、演習を通じて解説していく。図書館利用者がその検索結果を以って、十分な図書館利用を可能にする目録の提供が可能な技術の習得を目標とする。</p> <p>講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーもしくは報告の記録の記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。</p> <p>担当教員は大学図書館に30年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。</p> <p>位置づけ・水準 GD2214</p>		
達成目標	<p>目標は①内容の7割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー③にある「地域社会において円滑に対応できるコミュニケーション力を活かしながら、現代社会の多様な課題を自らの力で発見し、それらを分析し解決する能力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。</p>		
受講資格	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	成績評価 方法	レポート5割、期末試験5割で評価します。
教科書	プリントをその都度配布します		
参考書	『日本十進分類法』新訂9版・新訂10版 『日本目録規則』1987年版改訂3版、2018年版 他		
学生への要望	技術を習得する演習です。受講生の無断欠席は演習を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜～木曜のそれぞれ2コマ目（10時30分～12時）に図書館情報学研究室まで		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	情報資源組織論演習の目的と概要について	自己紹介。演習の目的と1年間の概要を説明する。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	「情報資源」とは何か(1)	図書館が何を以って「情報資源」と捉えるのかを考える。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	「情報資源」とは何か(2)	図書館が何を以って「情報資源」と捉えるのかを考える。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	「情報資源」とは何か(3)	図書館が何を以って「情報資源」と捉えるのかを考える。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	情報資源を「組織化」するとは(1)	情報資源の「組織化」とはどのような作業を指し、組織化することによって何を達成することが可能になるのかを考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
6	情報資源を「組織化」するとは(3)	情報資源の「組織化」とはどのような作業を指し、組織化することによって何を達成することが可能になるのかを考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
7	情報資源を「組織化」するとは(3)	情報資源の「組織化」とはどのような作業を指し、組織化することによって何を達成することが可能になるのかを考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
8	新しい目録規則(1)	新しい目録規則である『日本目録規則』2018年版および「CAT2020」（国立情報学研究所）を解説し、簡単な利用方法を学ぶ	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	新しい目録規則(2)	新しい目録規則である『日本目録規則』2018年版および「CAT2021」(国立情報学研究所)を解説し、簡単な利用方法を学ぶ	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
10	新しい目録規則(3)	新しい目録規則である『日本目録規則』2018年版および「CAT2022」(国立情報学研究所)を解説し、簡単な利用方法を学ぶ	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
11	新しい目録規則(4)	新しい目録規則である『日本目録規則』2018年版および「CAT2023」(国立情報学研究所)を解説し、簡単な利用方法を学ぶ	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
12	情報資源組織化の技法(1)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
13	情報資源組織化の技法(2)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
14	情報資源組織化の技法(3)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
15	情報資源組織化の技法(4)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
16	情報資源組織化の技法(5)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
17	情報資源組織化の技法(6)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
18	情報資源組織化の技法(7)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
19	情報資源組織化の技法(8)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
20	情報資源組織化の実際(1)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
21	情報資源組織化の実際(2)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
22	情報資源組織化の実際(3)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
23	情報資源組織化の実際(4)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
24	情報資源組織化の実際(5)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
25	情報資源組織化の実際(6)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
26	情報資源組織化の実際(7)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
27	情報資源組織化の実際(8)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
28	情報資源組織化の実際(9)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
29	情報資源組織化のまとめ(1)	情報資源の組織化とは何を意図し、何を達成すべきものなのか、改めて考える。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
30	情報資源組織化のまとめ(2)	情報資源の組織化とは何を意図し、何を達成すべきものなのか、改めて考える。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

科目名	図書館基礎特論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員	和知 剛		
開講期	IV		
授業概要	<p>図書館業務の上で必要不可欠な参考文献である「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」「公立図書館の任務と目標」「図書館の設置及び運営の望ましい基準」について学び、ライブラリアンシップの醸成に努める。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」「公立図書館の任務と目標」「図書館の設置及び運営の望ましい基準」を学び、その現実的な運用精神を習得する。</p> <p>講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。</p> <p>担当教員は大学図書館に30年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。</p> <p>位置づけ・水準 GD2118</p>		
達成目標	<p>目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。</p>		
受講資格	地域創成学科に所属し、司書ユニットを選択している学生	成績評価 方法	レポートの成績による
教科書	その都度プリントを配布。「図書館の自由に関する宣言」はあらかじめ日本図書館協会のサイト等で確認しておくこと。		
参考書	「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」「公立図書館の任務と目標」「図書館の設置及び運営の望ましい基準」に関連する書籍		
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜～木曜のそれぞれ2コマ目（10時30分～12時）に図書館情報学研究室まで		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」「公立図書館の任務と目標」「図書館の設置及び運営の望ましい基準」の歴史	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	図書館の自由に関する宣言(1)	知る権利の保障	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	図書館の自由に関する宣言(2)	利用者の秘密	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	図書館の自由に関する宣言(3)	「図書館の自由に関する宣言」における「自由」を巡る諸問題	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	図書館員の倫理綱領	利用者に対する責任	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	公立図書館の任務と目標	資料に対する責任	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	図書館の設置及び運営の望ましい基準	研修に努める責任	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	まとめ	「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」 「公立図書館の任務と目標」「図書館の設置及び運営の望ましい基準」のこれから	本日の講義・配布したプリントで解説した 専門用語について、図書館用語集等で復習 するとともに、次回の講義として予告した テーマについて最近の動向を確認すること。	60

科目名	図書館情報資源特論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員	和知 剛		
開講期	IV		
授業概要	<p>著作権法制度について、その概要を学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、著作権制度の沿革および日本の現行著作権法制度とその問題点について解説する。現在の日本の著作権法制度について知り、著作物の適切な利用法を習得する。</p> <p>なお、「図書館基礎特論」から続く時間割になるが別の講義である。</p> <p>講義の最後に毎回、時間をとってミニトペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。</p> <p>担当教員は大学図書館に30年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。</p> <p>位置づけ・水準 GD2213</p>		
達成目標	<p>目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。</p>		
受講資格	地域創成学科に所属し、司書ユニットを選択している学生	成績評価 方法	レポートの成績による
教科書	『著作権テキスト』（文化庁）文化庁著作権課のページから最新のテキストを受講生各自がダウンロードすること		
参考書	雑誌「ジュリスト」「情報の科学と技術」の特集号ほか		
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜－木曜 のそれぞれ2コマ目（10時30分－12時）に図書館情報学研究室まで		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	知的財産権の概要	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	著作権法制度(1)	著作権制度の沿革と概要	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	著作権法制度(2)	著作物とは・現行の著作権制度における「権利」について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	著作権法制度(3)	著作者人格権・財産権としての著作権	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	著作権法制度(4)	著作隣接権・保護期間・外国の著作物の保護	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	著作権法制度(5)	他人の著作物の利用・著作物等の「例外的な無断使用」ができる場合	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	著作権法制度(6)	著作物等の「例外的な無断使用」ができる場合（続き）・著作権侵害とその対策	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	まとめ	直近の著作権法改正とその目的	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
---	----	------	------	------

科目名	博物館資料論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	佐藤 愛未		
開講期	Ⅱ		
授業概要	<p>学芸員の責務のなかに博物館資料の収集・保存・普及・活用などがある。☑</p> <p>この授業では、博物館・文書館・図書館における歴史資料を中心とした資料の管理方法・取り扱い方・目録作成の方法について、文化施設における勤務経験をもとに授業を行う。☑</p> <p>①博物館ほか社会教育機関における歴史資料の重要性、活用方法、保存管理方法などを学ぶ。☑</p> <p>②歴史資料の取り扱い方法、史料の整理方法などの実例を紹介・実践し、博物館ほか社会教育機関における歴史資料の活用及び保存管理する意義を考察する。☑</p> <p>なお、最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☑</p> <p>☑</p> <p>実務経験：千葉県立文書館ほか文化施設において勤務（資料整理・展示補助ほか）☑</p> <p>位置づけ・水準 CD2121</p>		
達成目標	<p>単位認定の最低基準は、☑</p> <p>①博物館資料及び博物館資料の整理・保存・活用における授業内容の7割を理解していること。☑</p> <p>②博物館資料の取り扱いの方法に関する授業内容の7割を理解していること。☑</p> <p>☑</p> <p>ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解・創造的思考力</p>		
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	①課題レポート30点☑ ②小課題10点☑ ③期末試験60点
教科書	適宜プリントを配布する。		
参考書	倉田公裕・矢島國雄『新編 博物館学』東京堂出版、1997年☑ 安藤正人『記録史料学と現代』吉川弘文館、1998年☑ 林英夫監修『新編 古文書解読事典』柏書房、1993年 ほか適時指示する。		
学生への要望	次年度実施予定の「博物館実習」の課外実習に臨むための重要な講義となっているので、問題意識を持って受講し、講義内容を復習すること。また、博物館の展示を出来るだけ多く観覧し、関連する資料や文献を講読すること。		
オフィスタイム	月曜日Ⅲ時間目、金曜日Ⅱ時間目。創成館4階、No5研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	導入（ガイダンス）	歴史資料（主に博物館資料）とは何かを概説し、今後の授業計画を説明する。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントをおさらいする。	30
2	資料化の過程	博物館における資料（モノ）の収集から整理、管理、活用までの過程を学ぶ。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
3	資料の収集（1）	博物館など社会教育機関における資料の収集は、その館の基本的性格や目的にそって行うことが重要となってくる。そこで、資料収集における理念と原則について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
4	資料の収集（2）	博物館など社会教育機関における資料（モノ）の収集の方法について、どのような手法によって収集するのかを検証する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
5	資料の整理方法（1）	収集・受け入れを行った資料は、分類を行い整理され、登録し管理される。そこで、収蔵されるまでの過程を学ぶ。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	資料の整理方法（2）	資料は整理される際に史料概要の情報を資料カードや目録作成によってデータ化し管理する。その意義と方法について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
7	資料の整理方法（3）	博物館など触れる機会の多いモノ資料や古文書について、形態や表題の取り方など目録の形式を説明し、古文書の資料目録作成方法を実践的に学ぶ。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
8	資料の整理方法（4）	目録を作成するために必要な古文書の取扱い方、読み方について説明する。また、実際に古文書を読んで古文書の読み方を学ぶ。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
9	資料の整理方法（5）	古文書の読み方について学び、そこから実際に古文書を読んで目録作成を実践する。また、目録作成の過程やデータ化される資料の情報内容について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
10	資料の保存と活用（1）	博物館ほか社会教育機関では、収蔵資料の資料および作成した目録データの公開が行われている。そこから、資料の活用方法また、データの管理について考察する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
11	資料の保存と活用（2）	博物館では、研究紀要などの研究成果を発表する刊行物が出版されている。では、博物館における調査・研究について、何を対象とし、いかなる方法があるのかを検証する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
12	資料の保存と活用（3）	博物館において、収集され登録された資料は収蔵庫に保存され、管理される。それにあたって、収蔵資料の保存方法や収蔵庫の条件・環境などが課題となる。資料の保存方法について検証する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
13	資料の保存と活用（4）	資料は受け入れする際、その資料の状態は様々である。そのため、収蔵庫で管理するために、資料の処理や修復・修理が行われる。以上について、実例をいくつか紹介し、資料保存の在り方について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
14	資料の保存と活用（5）	資料公開は、展示が代表的なものとなるが、研究者や市民への資料閲覧なども行われている。そして、近年では資料の画像データ化し、インターネット公開を行う機関が増加している。これらの公開方法について検証する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
15	まとめ～今後の史資料活用や保存～	これまでの講義を念頭に置きつつ、資料を保存管理、活用する側とその利用者側との関係や、資料保存や活用における今後について展望する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

科目名	博物館実習		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 3単位 選択
担当教員	會田 容弘, 仲田 佐和子, 佐藤 愛未			
開講期	通年			
授業概要	<p>奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。博物館の建設、運営、常設展示、企画展時、教育の実践を行ってきた経験をもとに、授業を行う。【授業の目標・ねらい】 学芸員資格取得を目指す学生が、1年次の博物館学概論・博物館学資料論の知識を基に、博物館施設における多様な学芸員の仕事を実践的に学習することを目的とする。☒</p> <p>☒【授業内容の概要】 学内実習では、会津若松市歴史資料センターまなべこで企画展を行う。11月に実施する企画展示の展示計画、展示準備、展示、展示解説、展示撤収を実習の授業として行う。また学外実習では、博物館等施設5館見学と1週間程度の施設実習を実施する。施設実習に伴い、事前事後指導を授業の中で行う。☒</p> <p>授業では展示を進める過程でそれぞれのグループに課題を与え、その成果発表を行い、適時指導を行う。不足している内容については指摘し、次回までの課題とする。位置付け・水準CD2222</p>			
達成目標	<p>【達成目標】 ☒具体的にコミュニケーションをとってグループ全体の作業を実現していけるように努力できる姿勢を育てること。☒</p> <p>成績評価基準に基づき、7割以上の理解を求める。DPとの関係：課題解決力、主体的行動力</p>			
受講資格	学芸員課程履修学生（要「博物館概論」・「博物館資料論」履修済）☒ ☒ 1年終了時のGPAが2.0以上であること。	成績評価 方法	授業態度（出席状況重視）と展示計画と展示品及びポスター（50%）・5館見学レポート（20%）・学外実習（30%）を総合的に評価する。	
教科書	特に使用しない。			
参考書	授業時に適宜提示する。『文化学科資格課程報告集』バックナンバー☒ 『地域創成学科報告集』第1集			
学生への要望	主体的に学ぶ姿勢と共に、博物館施設で実際に働くことを各自がイメージしながら実習に取り組んでほしい。☒ 学内実習での学習態度・出席状況の悪い学生の学外実習参加は許可しない場合がある点、要注意！☒			
オフィスタイト	各教員の週間スケジュールを確認した上で、随時。展示実習の打ち合わせをする場合は事前に質問内容と面会希望時間をメールで教員に打診し、予定を合わせて面会すること。火曜日3・4限目と水曜日2・4時限目。考古学研究室または考古学実習室。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	全体ガイダンス	学芸員課程全体の中の博物館実習の位置づけを確認し、今年の展示実習の概要を説明する。また博物館施設5館見学レポートについて解説し、「博物館で働く側の視点」を学生が意識できるように準備を行う。1年次の文化学科研修旅行博物館見学レポート提出日。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
2	学外施設実習ガイダンス	6月から始まる学外施設実習を有効に実施するために諸注意や確認事項の事前指導を行う。実習施設への提出書類の作成も行うため、欠席しないこと！	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
3	展示施設見学①	会津若松市歴史資料センターまなべこの施設見学を行う。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
4	施設見学②	会津若松市歴史資料センターまなべこの施設見学を行う。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	施設見学③	会津若松市歴史資料センターまなべこの施設見学を行う。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
6	展示計画	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示施設に合わせた、笹山原遺跡の展示を計画する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
7	展示計画	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示施設に合わせた、笹山原遺跡の展示を計画する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
8	展示計画	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示施設に合わせた、笹山原遺跡の展示を計画する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
9	展示準備	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
10	展示準備	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
11	展示準備	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	展示準備	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
13	展示準備	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
14	展示発表	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示するために作成したパネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを提示し、発表を行う。その結果に基づき修正を行う。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
15	展示修正	展示品の指摘点を修正する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
16	模擬展示	作成した展示品を展示してみる。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
17	模擬展示修正	展示品を修正する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
18	展示品作成	展示品を作成し、搬入できるように準備する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
19	展示準備	展示内容を広報宣伝するためのポスター制作を行う。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
20	展示準備	展示原案に基づいて展示資料を制作する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
21	展示実習	会津若松市歴史資料センターまなべこにおいて実際に展示を行う（10月29日）	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
22	展示実習	会津若松市歴史資料センターまなべこにおいて実際に展示を行う（10月29日）	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
23	展示実習	会津若松市歴史資料センターまなべこにおいて実際に展示を行う（10月29日）	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
24	展示実習	会津若松市歴史資料センターまなべこにおいて実際に展示を行う（10月29日）	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
25	展示解説実習	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示初日、及び土曜日に展示解説を実施する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	展示撤収	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示撤収作業を行う（12月3日）	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
27	展示撤収	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示撤収作業を行う（12月3日）	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
28	展示撤収	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示撤収作業を行う（12月3日）	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
29	後期まとめ	展示の反省について討論会を開催する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
30	総まとめ	一年を通しての博物館実習、学内・学外実習の振り返りを行う。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60

科目名	博物館情報・メディア論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	福島 ひろ子		
開講期	III		
授業概要	博物館情報・メディア論の重要性と必要性が情報化社会および生涯学習時代において、益々高まってきており、情報技術の日進月歩の発達により、メディアが博物館などの文化施設の利用形態へ与える影響は特に大きい。本講義では、メディアの歴史や近代のマスメディアの発展、メディアと教育との関係、コンピューターとインターネット、メディアリテラシー、知的財産権、世界の博物館や美術館における映像展示の歴史と現状及び災害報道などについて映像メディアを通して具体的に学ぶ。		
達成目標	①博物館における情報・メディアの意義、特性及び課題を理解する。☑ ②人間社会に与えるメディアの影響およびその意義を考える。☑ ③博物館や公民館などで働くために必要と思われる情報提供や活用に関する基礎的な知識を身につける。		
受講資格	学芸員課程	成績評価 方法	①出席状況、授業中の態度など20点☑ ☑ ②小テスト20点☑ ☑ ③課題20点☑ ☑ ④期末試験40点
教科書	特に指定しない、必要に応じて、プリントの配布や参考文献の案内を行う。		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	紹介された参考文献や図書などを可能な限り読んで、理解しておくこと。		
オフィスタイト	授業開始前 水曜日 II 限目の教務部非常勤控室☑ 授業終了後 教室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	時間配分や進め方などについて説明し、参考文献の案内なども行う。	課題を課す	40
2	ICT社会における博物館の現状と展望	日本及び世界の博物館に関する現状と課題を新聞記事、政府の統計調査資料やビデオなどを利用して、具体的な例を踏まえながら紹介する。	課題を課す	40
3	博物館における情報・メディアの意義①	視聴覚メディアの歴史と発展を映像で紹介し、その重要性を伝える。	課題を課す	40
4	博物館における情報・メディアの意義②	Society5.0、スーパーシティ構想を中心に、デジタル社会における博物館の役割と意義を認識する。	課題を課す	40
5	メディアとしての博物館の歴史と発展	世界と日本の博物館の歴史を振り返りながら、博物館の情報メディアとしての特質を理解する。	課題を課す	40
6	博物館活動の情報化①	デジタルミュージアムの構築と現状（バーチャル展示、復元CG画像と双方向情報発信など）を紹介する。	課題を課す	40
7	博物館活動の情報化②	博物館の調査研究と展示活動におけるメディアの活用を修復や展示などの事例を取り入れて説明する。	課題を課す	40
8	博物館活動の情報化③	博物館の教育普及活動におけるメディアの活用を実例で説明する。	課題を課す	40
9	情報メディアの心理と基礎理論	認知心理学の基礎理論知識を学習しながら、博物館展示や来館者心理などに関する理解を深める。	課題を課す	40
10	博物館と情報リテラシー①	博物館の社会教育施設という機能の側面から、デジタル教科書などの実例を取り入れて、博物館情報リテラシーへアプローチする。	課題を課す	40
11	博物館と情報リテラシー②	博物館のバリアフリー建設という角度から、情報発信の仕方を検討する。	課題を課す	40
12	博物館と情報リテラシー③	映画（The Cove）などの実例を取り入れて、情報リテラシーの複雑さと難しさを認識する。	課題を課す	40
13	博物館と知的財産権①	実例を利用して、著作権法の中身と重要性について学習する。	課題を課す	40
14	博物館と知的財産権②	デジタルアーカイブと知的財産権の関係、プライバシーとパブリシティ権の取り扱いなどについて理解する。	課題を課す	40

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	まとめ	これまでの授業を振りかえつつ、授業の内容を纏めると共に、その狙いなどを指摘する。質疑応答という形で行うことになる。試験についての説明もする予定である。	授業ノートを読み返し、内容理解を深める	60

科目名	博物館教育論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	仲田 佐和子		
開講期	III		
授業概要	本授業では、社会教育施設である博物館の役割を教育・学習の観点から検討する。現代は社会生活の多様化、高学歴化、生涯学習の普及などにより、博物館の教育的役割が今までになく重視されるようになった。このことから、博物館教育の理念・方針、実践事例などを紹介し、生涯学習時代にふさわしい博物館のあり方、利用者と博物館の関係性を考察する。課題に対しては、レポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行います。 位置づけ・水準 C D 2124		
達成目標	博物館の教育的活用・運営に必要な基本的知識を修得し（知識理解）、自ら課題を見つけ解決できる学芸員補としての知識を修得する（創造力・思考力）。単位認定の基準は、内容の8割を理解してほしい。		
受講資格	短期大学部地域創成学科2年生	成績評価 方法	①提出課題10点 ②中間レポート40点 ③期末レポート50点 60点以上を合格とするが、80点以上を目指してほしい。
教科書	使用しない。適宜、資料を配布する。		
参考書	『博物館教育論』講談社・2015年、『博物館教育論』玉川大学出版部・2016年		
学生への要望	博物館、美術館等に問題意識を持って、積極的訪れてほしい。また、新聞等で文化財や博物館に関する記事に注意してほしい。		
オフィスタイム	火曜日V時限、金曜日V時限。創学館4階No4研究室。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	学芸員科目改正により「博物館教育論」新設の要因を解説し、今後の授業計画を説明する。	配布資料を読み復習する。	90
2	福島県の博物館	福島県博物館連絡協議会加盟の博物館を紹介する。規模・設置目的・収蔵資料など、県内の博物館が多様な形態であることを指摘し、財源難・入館者減・高齢化など、厳しい現状に直面している博物館を考える。	今まで訪れたことがある博物館を書きだす。	90
3	博物館教育の理念と目的①-生涯学習と博物館-	生涯学習の考え方を検証し、生涯学習時代到来が社会の要請であることを考える。生涯学習にとって、知識意欲を啓発する博物館の教育的役割が重要であることを確認し、博物館を拠点とする生涯学習のあり方を考察する。	生涯教育について具体的に調べる。	90
4	博物館教育の理念と目的②-地域社会と博物館-	住民参加による地域活動の拠点としての博物館、利用者（学習者）主体の博物館運営が要請されるようになった。特定の行政区域、地域社会を基準に設置された博物館は多種多様な地域資源を収蔵しており、地域再発見の役割を考えてみる。	自分の出身地域にどんな博物館があるか調べる。	90
5	博物館教育の理念と目的③-博物館教育と学校教育-	博物館と学校の役割を比較しながら、両者の連携のあり方、学校とは異なる学習体験可能な博物館教育の独自性を検証する。	生涯教育と学校教育の違いについて考える。	90
6	博物館教育の理念と目的④-博物館教育と学び-	博物館運営は資料（モノ）・知識の一方的伝達から利用者の自己学習を支援するように変化してきた。博物館における学びの特質を利用者の視点に立って考えてみる。	博物館利用者として博物館に望むことを考える。	90
7	博物館教育の方針①-博物館教育と利用者-	博物館は展示見学の一般市民・研究者・学生・友の会など、年齢・興味・関心・目的を異にする、さまざまな個人・団体に囲まれている。博物館教育にふさわしい博物館と利用者（学習者）との相互関係作りを検証する。	博物館利用者はどのような個人・団体が考えられるかを調べる。	90
8	博物館教育の方針②-博物館教育の評価-	社会教育施設である博物館は、教育的活動が地域社会や利用者（学習者）により不断に評価される。博物館は教育活動の概要を外部に提示しなければならない存在となった。評価にふさわしい教育活動の企画立案と課題を考えてみる。	博物館が評価されるポイントにはどのようなものがあるか調べる。	90
9	博物館教育の方針③-博物館教育と学芸員-	利用者（学習者）の近くに位置する学芸員には、資料収集・展示・調査研究など多様な専門性に加えて、生涯学習支援者としての教育的役割が求められるようになった。博物館と地域をつなぐ学芸員像を検証する。	学芸員に求められる教育的役割について調べる。	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	博物館教育の実際①-展示と展示解説-	展示は資料(モノ)の陳列ではない。展示担当者の学芸員は利用者(学習者)の学習意欲を刺激し、興味を持たせるための展示を模索しなければならない。効果的に学習行動へ導く展示のあり方を検証する。展示理解を支援する展示解説・解説シートについても説明する。	「解説シート」とはどのようなものか調べる。	90
11	博物館教育の実際②-講習会と講座-	展示とともに、講習会・講座は学芸員の専門的研究成果と利用者(学習者)に発信する重要な手段である。利用者の学習支援に適う講習会・講座の運用を考える。	博物館で行われている講習会・講座にはどのようなものがあるか調べる。	90
12	博物館教育の実際③-出前講座-	学校と市民を対象とした「出前講座」がある。これは学芸員が専門分野の学習メニューを作成し、直接出向いて学校支援・生涯学習支援を図るものである。利用者の掘り起こしでもある「出前講座」の実例を紹介する。	「出前講座」とは何か調べる。	90
13	博物館教育の実際④-ワークショップ-	博物館教育は一方向的に知識・情報を伝達することではない。「ワークショップ」は利用者(学習者)の主体性を重視した参加・体験型の教育活動である。新たな学びを創出する「ワークショップ」の実例を紹介する。	「ワークショップ」とは何か調べる。	90
14	博物館教育の実際⑤-博物館友の会-	博物館友の会は会員の相互親睦団体であり、博物館の支援団体である。会員は学芸員とともに博物館の教育活動を創造していく存在である。生涯学習の一翼を担うようになった博物館友の会活動を検証する。	「博物館友の会」とは何か調べる。	90
15	まとめ-博物館教育の今後-	これまでの授業内容から、生涯学習時代の社会が要請する利用者(学習者)主体の博物館教育を展望する。	これまでの授業を振り返りながら、まとめる。	90

科目名	博物館経営論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	藤原 妃敏		
開講期	IV		
授業概要	<p>【授業全体の内容の概要】☒</p> <p>①博物館の管理・運営の根拠となる法令、財政、組織の概要と博物館経営の実際について事例をあげながら解説する。☒</p> <p>②最終授業で全体のフィードバックを行います。☒</p>		
達成目標	<p>【授業の目的・ねらい】☒</p> <p>①学芸員として身につけておかなければならない、博物館のさまざまな形態と活動における管理・運営について理解を深め、博物館経営に関する基本的な能力を養うことを目標とする。☒</p> <p>☒</p> <p>【授業修了時の達成課題（到達目標）】☒</p> <p>①博物館を利用者側としてだけでなく、管理・運営する側として、何が必要なのかについて理解を深める。☒</p> <p>単位設定の最低基準は内容の7割を理解していることとする。</p>		
受講資格	地域創成学科2年	成績評価 方法	レポート40点、期末試験60点
教科書	プリント配布		
参考書	博物館学 IV 博物館資料保存論 *博物館実習論(学社文)、文化財の保存環境(中央公論美術出版)、博物館資料保存論(講談社)、文化財保存環境学(朝倉書店)、美術工芸品の保存と保管(フジ・テクノシステム)など		
学生への要望	資料保存には、様々な要因が複雑に絡み合っています。このため、理解しにくい事柄については、必ず復習を行い理解を深めるようにして下さい。解らないことがあれば、授業終了後、気軽に質問していただければよいと思います。☒ 出席を重視します。		
オフィスタイト	授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	博物館経営(ミュージアムマネージメント)の概要を説明する。	講義資料について復習する。	60
2	博物館法および関連法規	博物館法、博物館施行規則、望ましい基準に示されている博物館経営内容について説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
3	博物館の行政制度	行政内における公立博物館の位置づけについて具体的事例をあげて説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
4	博物館の財政制度	公立博物館における予算の作成について具体的事例を挙げながら説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
5	博物館の施設・設備	博物館の施設、設備の特徴について具体的な事例について説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
6	博物館の組織と職員	博物館の組織を具体的例をあげて提示し、それぞれの職務内容を説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
7	博物館の経営(1)	福島県立博物館を例にとり、その設立に至る経過、設立意義、条例などに基づきその使命を説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
8	博物館の経営(2)	福島県立博物館の一年を通じた博物館運営の実例を紹介し、博物館経営の実際を説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
9	博物館の経営(3)	福島県立博物館の運営に関する評価方法、評価結果を提示し、博物館における評価制度の実際を説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
10	博物館の経営(4)	博物館における、体験学習など教育普及活動の方法と実践例について説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
11	博物館の経営(5)	友の会、ボランティア、支援組織の設立と運営方法について具体的事例をあげて説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
12	博物館の経営(6)	博物館と地域の連携について具体的事例をあげながら説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
13	博物館の経営(7)	博物館の危機管理、学芸員の倫理について具体的事例をあげて、説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
14	博物館経営の諸問題	指定管理者制度の導入、予算の削減など現在の博物館の経営に関する問題点を説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
15	まとめ	授業全体をふりかえるとともに、博物館経営に学芸員がどのように関わるかを実際の経験を踏まえて説明する。	講義資料について復習する。	60

科目名	博物館資料保存論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	松田 隆嗣		
開講期	IV		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ☑ 学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料保存の基本、資料の取り扱いおよび文化財の保管や公開において注意すべき基準等について学習します。また、地域の文化財の保存活用についても学習します。☑ ☑ 〔授業全体の内容の概要〕 ☑ 資料に劣化や害を及ぼす要因について学習するとともに資料を展示・保管している環境を調査し把握する方法や環境を適切に保つ方法について学習するとともに文化財の保管や公開に当り注意しなければならない基準等についても学習します。☑ ☑ 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 ☑ 博物館や美術館ばかりでなく地域の文化財の保存や取り扱いについての一般的な知識について理解すること。☑		
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕 ☑ 学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料保存の基本、資料の取り扱いおよび文化財の保管や公開において注意すべき基準等について学習します。また、地域の文化財の保存活用についても学習します。☑ ☑ 〔授業全体の内容の概要〕 ☑ 資料に劣化や害を及ぼす要因について学習するとともに資料を展示・保管している環境を調査し把握する方法や環境を適切に保つ方法について学習するとともに文化財の保管や公開に当り注意しなければならない基準等についても学習します。☑ ☑ 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 ☑ 博物館や美術館ばかりでなく地域の文化財の保存や取り扱いについての一般的な知識について理解すること。☑		
受講資格	地域創成学科 2年	成績評価 方法	①小テスト30点（15点×2回） ②課題30点（15点×2回） ③期末試験40点
教科書	プリント配布		
参考書	博物館学 IV 博物館資料保存論 *博物館実習論（学社文）、文化財の保存環境（中央公論美術出版）、博物館資料保存論（講談社）、文化財保存環境学（朝倉書店）、美術工芸品の保存と保管（フジ・テクノシステム）など		
学生への要望	資料保存には、様々な要因が複雑に絡み合っています。このため、理解しにくい事柄については、必ず復習を行い理解を深めるようにして下さい。解らないことがあれば、授業終了後、気軽に質問していただければよいと思います。		
オフィスタイム	授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	文化財に害を及ぼす様々な要因は数多くあり、授業時間内で全てを説明することは困難です。これらの要因を挙げ簡単に説明するとともに博物館の資料保存に関する文献の調査方法について話します。		0
2	資料に影響を及ぼす物理的要因（1 温度）について	温度の変化が資料にどのような影響を与えるかを説明します。☑ 特に、温度は他の物理的要因や化学的要因及び生物的要因にも大きな影響を与えます。そのため、これらの点を中心に話します。☑		0
3	資料に影響を及ぼす物理的要因（2 湿度）について	湿度の管理は、資料を展示・保管する上で最も注意すべき要因のひとつです。☑ このため、どのよう要因が湿度の変化に影響及ぼし、どのような害が表れるのかについて話します。☑		0
4	温度・湿度の計測について	温度・湿度の計測には温度計及び湿度計を用いますが、これらは、その種類により精度や測定方法が異なります。このため、温時計及び湿度計の基本的な測定法を説明する共に測定における注意点について話します。		0
5	資料に影響を及ぼす物理的要因（3 光（電磁波））とその計測について	博物館で資料を展示し、来館者に観ていただくには、光は不可欠なものです。また、資料の展示を様々な演出する上でも重要なものです。しかし、反面、光自体が資料に害を与えます。このため、この光による害とその測定法について話します。		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	資料に影響を及ぼす化学的要因について	資料に影響を及ぼす化学的物質には、数多くの様々な物質がありますが、中でも有機酸、ホルムアルデヒド、アンモニアなどは特に注意すべき物質です。これらの資料に対する影響及び発生原因等について話します。		0
7	資料に影響を及ぼす生物的要因について	資料に影響を及ぼす生物的要因及び引き起こされる害について説明するとともにその発生要因について話します。		0
8	燻蒸ガスによる資料の燻蒸とその問題点について	資料燻蒸の長所・短所及びその問題点・注意点について話すと共に、現在使用されている燻蒸ガス種類と毒性及び資料に及ぼす影響などについても話します。		0
9	IPMによる資料保存環境の管理と燻蒸剤によらない殺虫法について	IPM(総合的害虫管理)による資料の展示・収蔵環境管理方法の基本及び、IPMにより資料の保存環境を管理するに当たり燻蒸剤に依存しない防・殺虫法は重要な役割を果たしています。このため、これらについても話します。		0
10	収蔵庫の保存環境とその維持方法について	資料の保存環境の維持は空調設備により簡単に行えると考えますが、現実には空調のみで環境を維持することは困難なことです。よりよい環境を維持するためにどのようなことを行っているかについて話します。		0
11	展示室の資料展示環境とその維持方法について	展示室は外界などから、常に様々な影響を受けています。具体的にどのような影響を受けているかについて話しをすると共に展示環境を適正に保つためにどのようなことを行っているかを話します。		0
12	資料の修理、修復、保存処理の基本について	資料の修理や修復の基本的な考え方及び遺跡から出土した金属製遺物や木製遺物の保存処理方法についてもその方法(科学処理)の概略について話します。博物館において		0
13	伝統的な資料保存の方法について	昔から行われている日本古来の資料の保存方法には、現在でも資料を保存する上で重要な方法が数多くあります。これらの方法について説明をします。☒		0
14	博物館資料の災害防止について	博物館資料が受ける災害について述べると共にその防止方法について話します。☒		0
15	地域資源と地域の文化財の保存と活用について	各地域に数多くの様々な文化財や資料が所在しますが、これら文化財や資料の保存への取り組みや活用について話します。☒		0

科目名	博物館展示論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	斎藤 美保子, 仲田 佐和子		
開講期	III		
授業概要	展示の歴史、メディア、教育活動、諸形態に関する理論及び方法に関する知識、技術を習得し、博物館展示の基礎能力を養う。CD2227 仲田佐和子先生と交代で、時に一緒に授業をします。		
達成目標	博物館展示に精通することによって、歴史資料や美術工芸品と向き合う姿勢、鑑識眼を身につけることの大切さを知る。☑ 単位認定の最低基準：学内外の展示に積極的に関心を持ち、実践的な提案ができること。☑ DPとの関係：創造的思考力、課題解決力		
受講資格	地域創成学科2年生☑ 学芸員資格取得必修科目	成績評価 方法	授業中の課題（50点）☑ 学期末の記述式試験（50点）
教科書	授業内でコピー等を配布する。		
参考書	『博物館展示法』雄山閣出版、『新しい博物館学』芙蓉書房出版、『博物館展示論』講談社、『博物館展示論』放送大学		
学生への要望	時間をみつけて近隣の美術館、博物館を訪ねること。		
オフィスタイム	火曜日16:00-17:00 金曜日10:00-11:00 研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	学芸員資格としての展示論の意義。学内のブロンズ像を例に、コミュニケーションとしての展示を考える。	学内のブロンズ像を鑑賞して回る。	90
2	展示と展示論の歴史（日本）	上野の国立博物館、西洋美術館、県内の美術館の歴史を辿り、重要な展示品を映像等で鑑賞理解する。	各館のホームページを閲覧する。	90
3	展示と展示論の歴史（西洋）	大英博物館、ルーヴル美術館の歴史を辿り、重要な展示品を映像等で鑑賞理解する。	各館のホームページを閲覧する。	90
4	調査研究の成果としての展示	芸術鑑賞講座の展示、「発掘ガール展」の展示を例に、調査研究の成果を理解する。	各展示を振り返り、感想をまとめておく。	90
5	展示の政治性と社会性	大ルーヴル、山梨県立美術館、福島県立美術館を例に、展示の政治性と社会性を理解する。☑ 更に、短期大学部に学芸員資格取得のカリキュラムが導入された経緯を理解する。	良く行く文化施設の設立の経緯を調べる。	90
6	展示の諸形態	資料から展示の諸形態を整理し、学内展示（ブロンズ像展示、日本風俗美術館、上村松園作品展、62年館民具展示ケース等）を比較検討する。	学内の諸展示に注意する。	90
7	展示の制作	博物館実習の授業と連携し、「発掘ガール展」を準備する。	博物館実習の意義をよく理解する。	90
8	関係者との協力	学芸員として展示に関わっている卒業生から体験談を聞き、ひとつの展示が仕上がるまでの協働を学ぶ。	二本松市の大山忠作美術館を見学する。	270
9	日本文化再確認	慎思庵で和の文化を実体験する。掛け軸、茶碗、漆器、着物の扱いに慣れる。	浴衣のたたみ方を練習する。	90
10	展示の評価と改善	観覧者への聞き取り、アンケートなど展示評価の種々の方法を比較検討する。学内の展示を評価し、改善策を提案する。	特に、ネーチャードームと風俗美術館を熟覧する。	90
11	解説文・解説パネル	学内の解説文を検討評価し、各自でより良い解説文を試作する。	パネルの大きさ、字体等、より美しい解説パネルの試作を仕上げる。	90
12	人による解説	前回の解説文を元に、学内展示の解説を順次行う。	自他の解説を振り返り、よりよい解説を工夫する。	90
13	展示解説書	芸術鑑賞講座のリーフレットや「発掘ガール展」の解説シートを参考に、学内展示の解説書を作る。	製本の仕方を工夫する。	90
14	設えと生け花	日本の暮らしに潤いをもたらしてきた設えについて学び、生け花の実演から展示の意義を考える。	自分の部屋で花を飾ってみる。	90
15	まとめ	授業を振り返り、学内展示の一部分を実際に改善する。試験準備の指示をする。	15回のノートをまとめ、試験の準備をする。	270

科目名	卒業研究（論文もしくは制作）	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	斎藤 美保子		
開講期	通年		
授業概要	美術史の分野に関わる独創的な研究テーマを見出し、文献調査、作品調査の結果を踏まえ、論理的な考察と議論を経て、創造的な論文に仕上げる。少人数のゼミゆえ、毎時間輪読、発表、ディスカッションを繰り返し、個々のテーマで調べ、まとめ、論文にまとめていく。その都度、丁寧に評価を伝えます。CD2101		
達成目標	専門的な研究の基礎力を養い、社会に貢献できる力を身につけることができる。☑ 単位認定の最低基準は、各自の論文を完成させることです。☑ DPとの関係：創造的思考力、課題解決力、主体的行動力を身につけます。		
受講資格	地域創成学科2年生☑ 一年次に「美術史」の単位を取得していることが望ましい。	成績評価 方法	①研究に取り組む姿勢（計画性・主体性・継続性・創造性など）（40点）☑ ②論理的で創造的な論文であったかどうか（40点） ③発表会、成果のプレゼンテーション力（20点）
教科書	特になし		
参考書	適宜指示する		
学生への要望	地道に、積極的に取り組むこと。		
オフィスタイム	火曜日16:00-17:00 金曜日10:30-11:30 研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	仮所属	仮所属の確認と調整。教員の自己紹介。過去の論文の閲覧。	一年間、本当に研究したいテーマかどうか、よく考える。	60
2	テーマの確認と研究倫理	テーマについて指導教員と共通の理解を持ち、研究倫理の基本を学ぶ。	研究倫理を良く理解する。	60
3	参考文献選択	教えられた参考文献から5冊適度を選ぶ。	図書館等で参考文献を手にとって、更に検討する。	90
4	文献調査1	参考文献から知り得た情報を報告する。	参考文献を読み進む。	90
5	文献調査2	参考文献から知り得た情報を報告する。	参考文献を読み進む、ノートを取る。	90
6	文献調査3	参考文献から知り得た情報を報告する。	参考文献を読み進む、ノートを取る。	90
7	文献調査4	参考文献をから知り得た情報を報告する。	参考文献を読み進む、ノートを取る。	90
8	ゼミ内発表	この段階で抱いた自分なりの意見を発表する。	先行研究とは少し違う、自分独自の意見を探す。	90
9	作品分析1	特に重要な作品について自分なりの分析をする。	美術書、美術館等で、特に重要な作品の理解を深める。	90
10	作品分析2	特に重要な作品について自分なりの分析をする。	美術館、美術書等で、特に重要な作品の理解を深める。	90
11	作品分析3	特に重要な作品について自分なりの分析をする。	美術館、美術書等で、特に重要な作品について理解を深める。	90
12	作品解釈4	特に重要な作品について自分なりに分析する。	美術館、美術書等で、特に重要な作品の理解を深める。	90
13	英文資料指示	各自に短い英文資料を指示するので、和訳をする。	訳文をわかりやすく美しい日本語にしていく。	90
14	英文資料解説	英文資料の内容を理解する。	英文資料の内容を深く理解する。	90
15	課題指示	各自のテーマにあわせ、美術館見学など夏休みの課題を指示する。	指示された美術館を見学し、論文の下書きを始める。	450
16	課題発表	夏休みの課題の成果を発表する。	パワーポイント等を使って、わかりやすい発表を心がける。	270
17	作品解釈1	特に重要な作品について自分なりの解釈を試みる。	参考文献を増やし、多様な視点から、納得できる自分の解釈を見つける。	90
18	作品解釈2	特に重要な作品について自分なりの解釈を試みる。	ゼミ内の意見を参考に、自分の解釈を深める。	90
19	作品解釈3	特に重要な作品について自分なりの解釈を試みる。	参考文献を増やし、多様な視点から、自分の解釈を再考する。	90
20	作品解釈4	特に大切な作品を選び自分なりの解釈を試みる。	学生同士で議論しながら、自分の解釈を深める。	90
21	ゼミ内発表	この段階で考えていることを発表する。	発表の準備と振り返り。	180
22	課題設定の書き方	課題を設定する「はじめに」の文章から、書き始める。	執筆と読み返しを繰り返す。	180
23	章立て	四章程度に構成し、論理的な文章を書き進める。	執筆と読み返しを繰り返す。	180
24	論考のまとめ方	独自の推論をわかりやすい文章で書き進む。	執筆と読み返しを繰り返す。	180
25	結論の導き方	無理のない推論かどうか自問しながら、結論をまとめる。	執筆と読み返しを繰り返す。	180

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	注、参考文献、図版等の付け方	研究倫理を念頭に、論文としての形式を整える。	細部を吟味する。	180
27	要旨提出	A4一枚程度の要旨をまとめる。	過不足のない文章に仕上げる。	180
28	論文提出	A4で10枚程の論文に、誤字脱字等がないことを確認して印刷、バッチリまでに提出する。	見た目も美しく仕上げる。	180
29	発表会準備	要旨を元に、パワーポイントで図像資料を提示するなど、わかりやすい発表の準備をする。	パワーポイント等の資料を作り、リハーサルなど、発表会の準備をする。	180
30	卒業研究発表会	自分の卒業研究の概要を7分程度で発表し、質問にこたえる。	発表会の準備をし、また、発表会で指摘された事項について、必要があれば手直しする。	180

科目名	卒業研究（論文もしくは制作）		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	福島 寛太郎			
開講期	通年			
授業概要	<p>授業の概要】☒</p> <p>卒業研究は文化学科2年間を通して学んできた専門的な知識を学問的に探求した成果と位置づけられています。授業では各自の問題関心に合わせながら、文献の探し方、先行研究の整理、論文の書き方、仕上げ方などについて具体的に指導すると共に、中間発表も計画しています。☒</p> <p>☒</p> <p>〔授業の目的・ねらい〕☒</p> <p>①地域創成学科の卒業生として必要な文化知識を習得させること。☒</p> <p>②幅広い専門知識を養わせること。☒</p> <p>③文献の読解および扱い方に必要な基礎力を高めさせること。☒</p> <p>授業時の質疑応答やレポートの返却等によってフィードバックを行う。☒</p> <p>位置づけ・水準:CD2101</p>			
達成目標	<p>所属学生の問題関心にかかわる独創的な研究テーマを選び、そのテーマに関わる専門的な知識を集め、論理的に組み立て、創造的に考察していく作業が求められます。「探求力」「文章力」「表現力」の修得は卒業論文の基本モットーです。☒</p> <p>なお、卒業論文（1200字以上）の提出日および最終発表会は別途にて指示する。☒</p> <p>単位認定の最低基準は:は「内容の7割以上を理解していること」☒</p> <p>DPとの関係:創造的思考力、課題解決力、主体的行動力</p>			
受講資格	短大地域創成学科2年	成績評価 方法	論文成績60点、ゼミにおける発表20%、ゼミにおける参加態度20%など。理解度8割で、合とする。	
教科書	とくに指定しない			
参考書	個々の卒業研究のテーマに合わせて案内する			
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的に参加すること。☒ ・ノートをこまめにとること。 			
オフィスタイム	月曜日16時～17時。担当教員の研究室（創学館No.5）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	『卒業研究手引き』を使いながら、ゼミのやり方と流れについて話す。1年生の授業を復習し、その中から課題を見つける試み	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
2	課題1 宗教史	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること	1.5
3	課題2 神話	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること	1.5
4	課題3 神と仏	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること	1.5
5	課題4 神仏習合の歴史	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること	1.5
6	課題5 神仏と中世（1）	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること	1.5
7	課題6 神仏と中世（2）	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること	1.5
8	課題7 世俗と宗教（1）	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること	1.5
9	課題8 世俗と宗教（2）	課題を発見する方法を学ぶ。参考文献案内	参考文献を読み、理解すること	1.5
10	課題9 神道とナショナリズム（1）	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
11	課題10 神道とナショナリズム（2）	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
12	課題11 近代化と宗教（1）	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
13	課題12 近代化と宗教（2）	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
14	課題13 民衆宗教の形成	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
15	前期のまとめ	中間発表。個々のテーマを確定する。		1.5
16	後期のガイダンス			1.5
17	課題14 天神信仰における東福寺の位置づけについて	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
18	課題15 天神像の変容について	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
19	課題16 怨霊信仰と天神信仰について	先行研究の紹介とその問題点について探る	参考文献を読み、理解すること	1.5
20	課題17 天神信仰と陰陽道について	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
21	課題18 梅と天神信仰	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
22	課題19 北野天満宮をめぐる諸問題	担当者の実地調査を踏まえつつ、北野天満宮の実体と天神信仰の変容について探る。	参考文献を読み、理解すること	1.5

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
23	課題18 学問の神様としての菅原道真像の形成	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
24	課題19 天神信仰の広がりについて	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
25	課題20 東北地方における天神信仰	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
26	課題21 会津地方における天神信仰の特徴	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
27	課題22 庶民信仰としての天神信仰	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
28	課題23 天神信仰の現在―地方神社における合格祈願を手がかりに―	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
29	まとめ I	論文の完成を確認する	卒業研究手引きを読み、よく理解すること	1.5
30	まとめ II	論文の完成を確認する	卒業研究手引きを読み、よく理解すること	1.5

科目名	卒業研究（論文もしくは制作）	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	浅野 章		
開講期	通年		
授業概要	<p>絵画というものは精神的に立派に成り立っていないことは当然ですが、同時にその精神は素材を通して表現されます。故に技術と精神は切り離しては考えられません。どうすれば自分の表現したいものに近づけるか。作者はいつも技法の研究と発見に努力をしなければならないということです。この授業では油彩画1で学習したことを基礎とし、更に一歩踏み込んで学生各自の個性に合わせて、二年間の集大成としての、より高度な技法の研究と表現を目指します。提出された作品は課題ごとに講評会を行い学生へのフィードバックとします。なお教授会で休講になった授業については、卒業制作展の搬入搬出、会期中の役割業務参加などで補填します。 CD2101</p>		
達成目標	<p>油彩画の特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで、個性ある自分だけの絵画空間を創りあげ、二年間の集大成としての、より高度な技法の研究と表現を目指します。単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していることとし、ディプロマ・ポリシーとの関係は創造的思考力・課題解決力・主体的行動力となります。</p>		
受講資格	地域創成学科2年生☑	成績評価 方法	<p>この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。</p> <p>①提出作品や小テストによる課題目標達成度が70%以上であること（配点80点）</p> <p>②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）</p>
教科書	教科書は特に使用しません。		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・新技法シリーズ絵画入門 … 佐藤一郎著（美術出版社）☑ ・彩色技法 … J・Mパラモン（グラフィック社）☑ ・その他、授業に関する画集・資料などは適宜指示します。☑ 		
学生への要望	油彩画の大作を描くことの意味をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望む。また、空き時間を有効に活用し十分に時間をかけて、制作を進めると。☑		
オフィスタイト	授業に関する質問は火曜日IV～V、水曜日I～II・V、木曜日IにNo.1絵画室またはNo.5地域創成学科研究室で受けます。ただしV時限目は17:00までとします。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	卒業研究履修についてのオリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・各自、卒業研究の目標を確認します。 ・1年間の授業内容や使用道具の説明。 ・道具点検—各自で油絵具や筆などを点検して不足分の補充をして下さい。（作品の大型化に伴い、大型ペインティングナイフの準備等） 	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。	30
2	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・静物画及び自由画どちらかを選び、それぞれモチーフ作りやエスキースを始めます。 	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。	30
3	静物画、自由画制作—1	<ul style="list-style-type: none"> … 作品制作 ・各自で制作日程を検討し、作品完成までの計画を立てましょう。 ・静物画に関しては身近な“物”の美しさを発見し、自分の内的感情を追及し作品にしていきたいと思います。 ・自由画に関しては自分のテーマ、進め方について考えましょう。 ・木枠を組み立て各自でキャンバスを張ります。（大型化のため、共同作業。） 	【事前学習】授業に関連する道具や作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
4	同上	<ul style="list-style-type: none"> … 作品制作 ・木枠を組み立て各自でキャンバスを張ります。（大型化のため、共同作業。） 	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、張り終ったキャンバスを整理しておく。	30
5	静物画、自由画制作—2	<ul style="list-style-type: none"> … 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースをします。 	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
6	同上	<ul style="list-style-type: none"> … 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・参考作品や画集などを適宜見ながら、徐々に進めていきましょう。 	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
7	静物画、自由画制作—3	<ul style="list-style-type: none"> … 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・油絵具、オイルなどの技法や使用方法を色々、工夫してみましょう。 	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・参考作品や画集などを適宜見ながら、徐々に進めて行きましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
9	静物画、自由画制作－4	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
10	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・静物画では人物とは異なる“物”の持つ素朴な形の組み合わせを感じながら表現して行きましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
11	静物画、自由画制作－5	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
12	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・光の方向や取り入れ方を工夫して画面に変化を与えてみましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
13	静物画、自由画制作－6	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
14	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・静物画では床、モチーフ台、モチーフ、背面の関係をもう一度確認してみましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
15	静物画、自由画制作－7	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
16	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・色彩の取り入れ方を工夫する。例としては、反対色は強烈な印象、同系色は統一した印象になる等。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
17	静物画、自由画制作－8	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
18	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略をしながらいい形を探っていくきましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
19	静物画、自由画制作－9	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
20	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・密度のある描き込みによって物と空間との関係をしっかりと把握していきます。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
21	静物画、自由画制作－10	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
22	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・制作もかなり進んできたが描きこむ事によって表現が硬くならないように注意しましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
23	静物画、自由画制作－1 1	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
24	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・描きだしの新鮮さを想いだし、色が沈んでいる場合は彩度を上げてみるなど、工夫をしましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
25	静物画、自由画制作－1 2	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
26	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・かなり完成に近づいてきましたが最後まで手を抜かず細心の注意をはらいましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
27	静物画、自由画制作－1 3	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
28	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・最後の微調整では画面全体の形とバランスを整えて完成とします。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
29	静物画、自由画講習会	…講習会 ・仕上がった作品を並べ、画集や参考作品なども用いながら講評します。	【事前学習】講習会に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
30	同上	…講習会 ・質問や意見交換も多角的に行い油彩画静物制作の目標達成を目指します。	【事後学習】講習会実施を踏まえ、自分の作品の出来栄や見え方を確認・検証しておく。	30
31	オリエンテーションとエスキース制作	※これよりⅣ期 ・残り半期の授業内容や使用道具の説明をします。 ・道具点検一各自で、油絵具や筆などを点検して不足分の補充をしましょう。 ・卒業制作をイメージしながら80号以上のキャンパス1点と小キャンパスを5～6枚準備して下さい。	【事前学習】授業に関連する使用道具や材料などを事前に調べておく。	30
32	同上	…作品制作 ・卒業制作をイメージしながら少しずつエスキースをしましょう	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。	30
33	構成画制作－1	…作品制作 ・構成画制作では今までの油彩画やデッサンで学んだことを踏まえ、構想を練りましょう。 ・各自、効率的な制作日程を検討し、計画を立てましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
34	同上	…作品制作 ・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースをします。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
35	構成画制作－2	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略をしながら、いい形を探って行きましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
36	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略をしながら、いい形を探って行きましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
37	構成画制作－3	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・作品制作・油絵具、オイルなどの技法や使用方法を色々、工夫してみましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
38	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・参考作品や画集等を適宜見ながら、徐々に進めていき、まとめに入ります。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
39	構成画作品講評会	…作品講評 ・仕上がった構成画作品を並べ参考作品や画集等も用いながら講評します。	【事前学習】講評会に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
40	同上	…作品講評 ・質問や意見交換も多角的に行ない油彩画構成制作の目標達成を目指します。	【事後学習】作品講評内容を踏まえ、自分なりに指摘点を整理しておく。	30
41	市民展搬入準備	…搬入準備 ・各自、出品票や額の準備をします。	【事前学習】作品搬入に際し、道具や機材の使い方を事前に確認しておく。	30
42	同上	…搬入準備 ・各自、出品票や額の準備をします。 ・額にニスやアクリル絵具で色を塗る学生はその準備をします。	【事後学習】作品搬入に際し、道具や機材、搬入する作品を整理しておく。	30
43	市民展見学	…市民展見学 ・展覧会会場で自分の作品がどのように見えるかを確認しましょう。 ・他の作品と比較検討して卒業制作展会場での作品展示のイメージを作っておきましょう。	【事前学習】市民展見学に際し事前に、この展覧会の会場や歴史を調べておく。	30
44	同上	…市民展見学 ・展覧会会場で自分の作品がどのように見えるかを確認しましょう。 ・他の作品と比較検討して卒業制作展会場での作品展示のイメージを作っておきましょう。	【事後学習】市民展見学後に、展示された自分の作品の見え方や展示方法を確認・検証しておく。	30
45	卒業制作－1	…ガイダンス ・油彩画の平面作品に限定せず他の素材を使った立体作品またはインスタレーションなど表現方法は自由とします。 ・作品制作・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースします。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
46	同上	… 作品制作 ・作品制作・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースします。 ・各自、制作日程を検討し、計画を立てましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
47	卒業制作－2	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めます。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
48	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めます。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略しながら、いい形を探って行きましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
49	卒業制作－3	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
50	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・密度のある描き込みによって物と空間との関係をしっかりと把握して行きましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
51	卒業制作－4	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
52	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・制作もかなり進んできたが書き込む事によって表現が硬くならないように注意をしましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
53	卒業制作 - 5	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
54	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・描き込むことによって表現が硬くならないように注意しながら完成へと向かいます。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
55	卒業制作 - 6	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
56	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・かなり完成に近づいてきたが最後まで手を抜かず細心の注意をはらいましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
57	卒業制作作品搬入準備	…作品の完成、搬入準備 ・卒業制作作品の額にニスやアクリル絵具で色を塗る学生はその準備をします。	【事前学習】作品搬入に際し、道具や機材の使い方を事前に確認しておく。	30
58	同上	…作品の完成、搬入準備 ・会場展示のプレゼンテーションをします。	【事後学習】作品搬入に際し、道具や機材の使い方の復習・検証をしておく。	30
59	卒業制作作品講評会	…講評会 ・完成した作品は卒業制作展において展示し、2年間の学習の成果として発表します。	【事前学習】講評会に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。また作品記録用にカメラを準備しておく。	30
60	同上	…講評会及び意見交換 ・各自、作品の前で質問や意見交換も多角的に行ないながら講評します。 ・一年間の総評をします。	【事後学習】講評会実施を踏まえ、自分の作品の出来栄や見え方を確認・検証しておく。また、制作した作品および作品画像を整理しておく。	30

科目名	卒業研究（論文もしくは制作）	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	斉藤 弘久		
開講期	通年		
授業概要	現代社会におけるグラフィックデザインの役割は重要なものとなってきている。対人間のより良いコミュニケーションはもとより、地球環境全体にまで及ぶ深い洞察と積極的関与が求められている。このような時代の中にあつて、グラフィックデザイン及びデザインが人間生活にどのように寄与できるかを考え制作する。 尚、教授会で休講になった授業については、卒業制作展の搬入搬出、会期中の役割などで補填する。 (CD2100)		
達成目標	人間が生活にどのように寄与できるかを考えると共に、学生としての新しい視点を見つけ出すことを目的としている。作品の完成度が高いことも大切であるが、主体的な研究・作品制作の過程がより重要である。		
受講資格	地域創成学科 2年生	成績評価 方法	①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること。(配点80点) ②授業に対する関心・意欲・態度(配点20点)
教科書	なし。		
参考書	各自の研究制作に参考となる書籍や図録などを推薦する。		
学生への要望	専門的な立場から、主体的に研究・制作されたい。		
オフィスタイム	授業に関する質問や相談は毎週金曜日を除く毎日空きコマ(9:00~17:00)にNo2.デザイン室で受けます。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	卒業研究の目的と進め方について説明する。 現代デザインの動向を知り、その役割と問題点を理解す	授前、卒制の心構えを考えてみる 授後、どのように取り組むかを考える	240
2	討論会	現代デザインの役割と問題点について、特に人間のコミュニケーションのあり方と地球環境の側面から討論する。	授前、制作に向けての姿勢を考える 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
3	研究方法	作品テーマ(表現のための主題)を決定するための研究方法について学ぶ。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
4	研究資料について	参考文献と参考作品の収集の方法を知る。直接取材についても考える。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
5	研究テーマⅠ	デザインの分野や技法から考えるのではなく、純粋に表現したい事柄を文章化してみる。提出する。人間生活の中で、どのようなことがデザインの力で、より良くなるのかを考える。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
6	研究テーマⅡ	文章化した「表現のためのテーマ」を読み返し、過不足があれば書き加える。次にキーワードを抜き書きし、考えていること全体の輪郭を見る。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
7	資料の収集Ⅰ	自分が考えているテーマが現代のデザイン界で、どのように表現されているのか。その類型を収集する。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
8	資料の収集Ⅱ	文章化したテーマを作品化(視覚化)するために必要な資料を考え収集する。 授業時間内だけの収集には限界があるので、普段から心が	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
9	ムードボード制作Ⅰ	収集した資料(画像・テキストなど)をB2のパネルに貼り、考えている事柄全体の雰囲気を感じ取る。写真・新聞の切り抜き・メモ・スケッチなど幅広く集め、一覧できるものにする。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
10	ムードボード制作Ⅱ	貼り付ける画像やスケッチの大小・傾き・色調のバランスも考えながら制作する。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
11	表現テーマの決定	ムードボードやその他の資料をもとに、表現テーマを決定する。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
12	表現技法の決定	テーマを表現するために、最も適している技法を考える。大きくCGと手描き技法に分けて考えるが、併用もありうるので柔軟に考える。手描きの場合は描画材料のほかに、基底材についても考える必要がある。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	プレ制作Ⅰ	材料実験を兼ねて、縮小サイズでミニチュアを制作し、これを完成予想図とする。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
14	プレ制作Ⅱ	この時に、今後制作中に起こる問題点を予測する。材料的な問題・技法的な問題点・さらに必要な資料・展示の際の問題点などを予測する。また、どこに多くの時間を要するかも考えておく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
15	制作計画・材料の手配	本制作の計画書を作成する。時間の配分をよく考えて作成する。修正作業に2週間は確保すること。展示作業も含め、必要な材料・用具を手配する。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
16	本制作①(基底材)	基底材に対応した下地処理を行う。紙の場合は水張りなど。パソコンによる制作の場合でも、最終的に印刷物で展示する場合はパネルを準備する。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
17	本制作②(下絵)	トレーシングペーパーなどを使用して、下絵を描く。大きい画面の作品は離れて見てバランスを確認することが必要である。パソコンの場合は、スケッチをスキャンして下絵とする。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
18	本制作③(下絵)	細部については転写後でも描くことができるので、全体のバランスを優先的に描いていく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
19	本制作④(下絵)	細部については転写後でも描くことができるので、全体のバランスを優先的に描いていく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
20	本制作⑤(下絵の転写)	トレーシングペーパーに鉛筆の粉を塗りつけて、カーボン紙の代わりにするものを作っておく。これを基底材と下描きの間にはさみ転写していく。この際、ずれが生じないように下絵の周囲をテープで固定しておく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
21	本制作⑥(下絵の転写)	トレーシングペーパーに鉛筆の粉を塗りつけて、カーボン紙の代わりにするものを作っておく。これを基底材と下描きの間にはさみ転写していく。この際、ずれが生じないように下絵の周囲をテープで固定しておく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
22	本制作⑦(描画・彩色)	平面的な作品の場合は、大きい面から彩色し、画面の大勢を占める色調を把握する。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
23	本制作⑧(描画・彩色)	大まかに全体的に制作を進めていく。最初から細部に走らない。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
24	本制作⑨(描画・彩色)	迷わずに制作し、一定の結果が出たら作品の検証を行う。授業時間内だけでは時間的に不足するので、学生は空き時間をすべて利用して制作に専念すること。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
25	本制作⑩(描画・彩色)	制作に専念する。パソコンで制作している学生は、この時点で出力しておく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
26	途中経過発表会	制作中の作品を全員で鑑賞し、感想を述べ合う。特にテーマとの合致性、今後の問題点について確認し、以後の制作の指針とする。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
27	修正・仕上げ①	経過発表会で確認した点につて、修正・強調などを行い、完成度を上げていく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、完成に向けた取り組みを考える	240
28	修正・仕上げ②	同上。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、完成に向けた取り組みを考える	240
29	修正・仕上げ③	離れて作品を鑑賞し、微調整を加えていく。展示具をパネルに取り付けておく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、最終段階で仕上がりを確認する	240

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
30	作品講評・まとめ	作品が生み出されるまでの全工程を振り返って、鑑賞する。自分で決定したテーマが表現できているか、それが、どのくらいできているのか検証する。お互いに意見を述べ合う。教員は講評する。	授前、完成作品の調整 授後、完成した作品を鑑賞しまとめる	240

科目名	卒業研究（論文もしくは制作）		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	桑野 聡			
開講期	通年			
授業概要	<p>本卒業研究は、文化・歴史系の学びを通して歴史学（西洋史）の専門的な知識を学問的に探究した成果です。学生各自が独創的な研究テーマを選び、そのテーマに関わる専門的な知識を集め、論理的に組み立て、創造的に考察していく作業が求められます。「探求力」「文章力」「表現力」の修得は卒業論文の基本目的です。☒</p> <p>授業では各自の問題関心に合わせながら、文献の探し方、先行研究の整理、論文の書き方、仕上げ方などについて具体的に指導します。個別相談・ゼミ内発表・レポート提出と添削などによるフィードバックを行います。☒</p> <p>CD2101☒</p>			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的にものごとを考えることができる能力を修得します。☒ ・専門分野の探求において、文化の多様性を理解すると共に、自らの力で問題を発見し、それを創造的に解決する能力を身につけます。☒ ・専門的な知識の探求を通して、社会に貢献できる力を身につけます。☒ <p>期日までに卒業論文を提出し、学会形式の発表を行うことを単位認定の最低基準とする。</p> <p>ディプロマ・ポリシーとの関係： 創造的思考力・課題解決力・主体的行動力</p>			
受講資格	「ヨーロッパ文化史」履修学生が望ましい	成績評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業における発表（30点）☒ ・卒業論文は、表紙・目次・本文に加えて、註・資料・参考文献が付加されたものであること（50点）☒ ・卒業研究発表会（20点） 	
教科書	特に使用しません。			
参考書	<p>桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説』1・2 DTP出版 2006年☒</p> <p>金澤周作 監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房 2020年☒</p> <p>その他、適宜提示する。</p>			
学生への要望	各自の就職・資格・アルバイト活動などを考慮してスケジュール管理を確実に、計画的に取り組むこと。☒			
オフィスタイム	火曜1時限目（8:50～10:20）・金曜V時限目（16:10～17:40） 考古学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本講義の進め方と学習のための基礎力について解説する。ゼミ参加学生のテーマについて話し合い、課題を提示する。	自分の関心テーマについて、主体的に説明し、課題に取り組む。	60
2	ウォーミングアップ①	図書館の使い方や文献検索方法を説明する。	実際に自分の関心テーマの参考文献を検索してみる。	120
3	ウォーミングアップ②	学生各自が課題を報告し、話し合う。更に次の課題を提示する。	自分の課題への取り組み方と他の学生の取り組み方を比較し、よりよい取り組み方を考える。	120
4	ウォーミングアップ③	文献検索に関する課題を報告し、話し合う。	自分の課題への取り組み方と他の学生の取り組み方を比較し、よりよい取り組み方を考える。	120
5	報告1-①	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
6	報告1-②	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
7	報告1-③	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
8	報告1-④	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
9	報告1-⑤	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
10	報告1-⑥	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
11	報告1-⑦	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
12	報告1-⑧	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
13	インターミッション①	前期の報告を踏まえて、各自の課題を整理し、問題点を話し合う。	各自の報告の中から課題を見つけ、解決に取り組む。	120
14	インターミッション②	前期の報告を踏まえて、各自の課題を整理し、問題点を話し合う。	各自の報告の中から課題を見つけ、解決に取り組む。	120
15	前期まとめ	前期の作業を振り返り、各自の論文構成を考え、夏休みのスケジュールを確定する。	各自の研究スケジュールを計画する。	120
16	後期ガイダンス	夏休みの成果を報告し、後期の研究スケジュールを相談する。	夏休みの課題を作成し、提出する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
17	インターミッション③	課題に対するコメントを確認し、後期の報告に備える。	夏休みの課題に対するコメントをよく理解し、次の作業準備を進める。	120
18	インターミッション④	課題に対するコメントを確認し、後期の報告に備える。	夏休みの課題に対するコメントをよく理解し、次の作業準備を進める。	120
19	インターミッション⑤	次週からの報告に備えて相談を受ける。	報告準備を進め、具体的な質問事項を用意する。	120
20	報告2-①	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
21	報告2-②	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
22	報告2-③	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
23	報告2-④	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
24	報告2-⑤	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
25	報告2-⑥	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
26	報告2-⑦	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
27	報告2-⑧	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
28	最終確認①	卒業研究の要旨をまとめ、最終の章立て、論文構成を確認する。	各自の論文の全体像を要旨にまとめ、添削を受ける準備を行う。	120
29	最終確認②	論文提出のための書式確認、註の付け方などを確認する。	本文だけでなく、論文としての体裁、形式を理解し、正しく準備する。	120
30	最終確認③	論文提出後の確認と発表会の準備を行う。	発表用パワーポイントの準備を行い、発表原稿をまとめる。	120

科目名	卒業研究（論文もしくは制作）	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	會田 容弘		
開講期	通年		
授業概要	<p>【授業の目標・ねらい】☑ 卒業研究は地域創成学科2年間を通して学んできた専門的な知識を学問的に探求した成果と位置づけられる。専門分野にかかわる独創的な研究テーマを選び、そのテーマに関わる専門的な知識を集め、論理的に組み立て、創造的に考察していく作業が求められる。「探求力」「文章力」「表現力」の修得は卒業論文の基本である。☑</p> <p>【授業の概要】☑ 東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。考古資料を用いた実際の研究を行ってきた経験を授業に生かし、指導する。授業では各自の問題関心に合わせながら、考古資料の取り扱い方と観察方法、文献の探し方、先行研究の整理、論文の書き方、仕上げ方などについて具体的に指導すると共に、中間発表も計画している。授業では毎回課題を課し、次の授業で発表を行う。それにコメント、添削を加え、論文基礎資料とする。なお、卒業論文（A4版12000字以上）の提出日は2021年1月14日（木）、発表会は2月2日（火）。☑ 位置付け・水準：CD2101☑</p>		
達成目標	<p>【到達目標】☑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的にものごとを考えることができる能力を修得します。☑ ・専門分野の探求において、文化の多様性を理解すると共に、自らの力で問題を発見し、それを創造的に解決する能力を身につけます。☑ ・専門的な知識の探求を通して、社会に貢献できる力を身につけます。☑ ・DPとの関係：創造的思考力、課題解決力、主体的行動力、単位認定基準は成績評価基準に基づき、7割以上の理解が望ましい。 		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価方法	<p>【成績評価法】☑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業における内容の発表（30点）☑ ・卒業論文の内容は論理的で創造的であること（50点）☑ ・卒業研究発表会（20点）☑
教科書	會田 著述「短大生のための考古学論文作法」（私家版）		
参考書	『文化学科（資格課程）報告集』第4～21集『地域創成学科報告集』第1集		
学生への要望	1年間かけてじっくりと自分の研究テーマを完成させてほしい。それにはたゆまず考古学の勉強をすることが必要である。授業は課題研究と発表および実習である。課題を調べることが予習である。発表および実習の指摘点を修正するのが復習である。☑ 一日30分を考古学の時間にあててほしい。		
オフィスタイム	水曜日2・4時限目。考古学研究室または考古学実習室。論文作成に関する質問の場合は事前にメールで連絡を取り、質問内容を示してから面会すること。特に必要な文献などがある場合は必ず事前連絡すること。☑ ☑		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	研究倫理の説明を行う。考古資料・文化財を研究に利用する場合の手続き、調査研究方法、卒業論文作成の過程を説明する。	自分の興味ある分野と卒論担当教員の説明が一致しているかどうか十分検討する。	30
2	論文作成の動機付け（1）	対話を行いながら、興味ある対象が考古学研究の対象であるかないか、どのようにすれば考古学・博物館学・文化財学となるかを明らかにする。	自分の研究テーマ候補をいくつか考え、自分の興味はどこにあるのか整理する。	30
3	論文作成の動機付け（2）	実際の考古資料（笹山原遺跡No.16出土資料）を観察する。	資料観察を授業時間外にも行う。	120
4	論文作成の動機付け（3）	會田の最新論文（「考古学動作連鎖研究の社会的効用—遺跡博物館での活用法—」『考古学研究』第64巻第4号pp.31-35（2018.3）「上屋地遺跡B地点出土石器群の石器技術学的再検討」東北日本の旧石器文化を語る会編『東北日本の旧石器時代』pp.239-254（2018.5.31））の読み合わせを行い、考古学論文の構成・資料・提示方法などを説明する。	論文を読み、読書ノートを作成する。	120
5	論文資料の決定	論文で扱う資料を決定する。実物考古資料、文献考古資料、現地遺跡などにより論文作成方法は異なる。	文献リストを作成する。	120
6	資料操作方法（1）	取り扱う資料（遺物（石器・土器・骨角器・自然遺物・木製品・金属器）遺構（住居・土坑・古墳））によりその折扱い方が異なる。基本的な資料の取り扱い方法を説明し、論文作成に備える。	文献リストを作成する。	120
7	資料操作方法（2）	資料操作の実習。土器であれば個体分類、接合作業。石器であれば石材分類、接合作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
8	資料化作業（1）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	資料化作業（2）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
10	資料化作業（3）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
11	資料化作業（4）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
12	資料化作業（5）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
13	資料化作業（6）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
14	資料化作業（7）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
15	中間発表	操作した資料がどのような状況にあるか、報告する。さらにその資料から何が言えそうか対話により検討する。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
16	図化作業（1）	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。	実測図作成、資料の写真撮影、図版作成。	120
17	図化作業（2）	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。	実測図作成、資料の写真撮影、図版作成。	120
18	図化作業（3）	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。	実測図作成、資料の写真撮影、図版作成。	120
19	図化作業（4）	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。	実測図作成、資料の写真撮影、図版作成。	120
20	図化作業（5）	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。	実測図作成、資料の写真撮影、図版作成。	120
21	図版レイアウト	図化した図版をレイアウトし、図版を作る。	実測図作成、資料の写真撮影、図版作成。	120
22	論文作成（1）	事実記載。	論文執筆と資料観察。	120
23	論文作成（2）	事実記載。	論文執筆と資料観察。	120
24	論文作成（3）	事実記載。	論文執筆と資料観察。	120
25	論文作成（4）	事実記載。	論文執筆と資料観察。	120
26	論文作成（5）	事実記載。	論文執筆と資料観察。	120
27	研究史上の位置付け	記述した資料がどのような位置にあるものか、指導教員が関連文献を提示し、記述する。	論文執筆。	120
28	考察の執筆（1）	資料化した資料が過去の人間行動のどの部分が投影されているか考察する。	論文執筆。	120
29	考察の執筆（2）	資料化した資料が過去の人間行動のどの部分が投影されているか考察する。	パワーポイント作成。	120
30	発表データ作成および予行	卒業論文発表会に向けてパワーポイントを作成し、実際にそれを持ちいて発表の練習を行う。	パワーポイント修正。	30

科目名	卒業研究（論文もしくは制作）		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	知野 愛			
開講期	通年			
授業概要	家族社会学、女性史(日本近現代)に関するテーマの中から、自分の課題を決定し、各自のテーマについて調査研究し定期的に報告する。卒業研究室内でお互いの進捗状況を知り質疑応答をしてさらに発展させ、最終的に完成する。途中のレポート提出後、添削・返却しコメントをつけてフィードバックします。最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☒ 位置づけ・水準:CD2101			
達成目標	①各自の研究テーマの先行研究や参考資料をよく読む。②独自性のある研究とする。③卒業研究発表会で発表し、論文を提出する。単位認定の最低基準:内容の8割を理解していること。ディプロマポリシーとの関係:2)創造的思考力、3)課題解決力、4)主体的行動力			
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	研究に取組む姿勢(40点)☒ 卒業論文の内容が論理的で創造的であったか(40点)☒ 卒業研究発表会、成果のプレゼンテーション力(20点)	
教科書	なし			
参考書	適宜提示する			
学生への要望	各自の課題に対して真摯に取り組みましょう			
オフィスタイム	(Ⅲ期)木曜Ⅰ限、金曜Ⅰ限、(Ⅳ期)木Ⅱ限、金Ⅲ限、場所：芸術館1階地域創成学科研究室No.1			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	卒業研究のテーマについて話し合い、各自の関心の中心はどこにあるのかを明確にする。年間計画についても話し合い、一年間の行動計画を立てる。	各自の研究テーマについてインターネット検索や図書館での資料調査を行う。	60
2	研究テーマの検討	各自のテーマに関連する書籍を持参する。先行研究の確認。	各自の研究テーマについてインターネット検索や図書館での資料調査を行う。	60
3	先行研究を基に学ぶ	各自のテーマに関連する書籍を持参する。先行研究の確認。	各自の研究テーマについてインターネット検索や図書館での資料調査を行う。	60
4	論文の書き方、研究の進め方	研究テーマを明確にし、論文の書き方を資料から学ぶ。	各自の研究テーマの先行研究を読み、概要をまとめる。	60
5	論文の書き方、研究の進め方	研究テーマを明確にし、論文の書き方を資料から学ぶ。	各自の研究テーマの先行研究を読み、概要をまとめる。	60
6	先行研究の検討	各自のテーマに関連する先行研究の内容を要約する。	各自の研究テーマの先行研究を読み、概要をまとめる。	60
7	先行研究の概要発表	各自が先行研究の概要をまとめ、順番に発表する。	各自の研究テーマの先行研究を読み、概要をまとめる。	60
8	先行研究の概要発表	各自が先行研究の概要をまとめ、順番に発表する。	各自の研究テーマの先行研究を読み、概要をまとめる。	60
9	先行研究の概要発表	各自が先行研究の概要をまとめ、順番に発表する。	各自の研究テーマの先行研究を読み、概要をまとめる。	60
10	先行研究の概要発表	各自が先行研究の概要をまとめ、順番に発表する。	各自の研究テーマの先行研究を読み、概要をまとめる。	60
11	論文作成の進め方	複数の先行研究を読み、各自が研究の独創性を確認する。	先行研究の概要をまとめ、独自の資料を探し各自の研究方法で調査を進める。	60
12	論文作成の進め方	複数の先行研究を読み、各自が研究の実証性を確認する。	先行研究の概要をまとめ、独自の資料を探し各自の研究方法で調査を進める。	60
13	独創性、実証性の方法確認	各自が研究調査をどのように進めるか、独創性・実証性はどうかを確認する。	先行研究の概要をまとめ、独自の資料を探し各自の研究方法で調査を進める。	60
14	独創性、実証性の方法確認	各自が研究調査をどのように進めるか、独創性・実証性はどうかを確認する。	先行研究の概要をまとめ、独自の資料を探し各自の研究方法で調査を進める。	60
15	独創性、実証性の方法確認	各自が研究調査をどのように進めるか、独創性・実証性はどうかを確認する。	先行研究の概要をまとめ、独自の資料を探し各自の研究方法で調査を進める。	60
16	概要まとめ	要旨集の内容を意識して、各自の研究要旨を書けるように準備し、順番に発表する。	要旨集の原稿を提出できるように、各自の研究の概要と参考資料などを整理してまとめる。	60
17	概要まとめ	要旨集の内容を意識して、各自の研究要旨を書けるように準備し、順番に発表する。	先行研究の概要をまとめ、独自の資料を探し各自の研究方法で調査を進める。	60
18	概要まとめ	要旨集の内容を意識して、各自の研究要旨を書けるように準備し、順番に発表する。	先行研究の概要をまとめ、独自の資料を探し各自の研究方法で調査を進める。	60
19	これまでの調査内容報告	これまでの調査の結果を発表報告を順番にする。質疑応答をして理解を深める。	これまでの調査結果をまとめて報告できるようレジュメを作成する。	60
20	これまでの調査内容報告	これまでの調査の結果を発表報告を順番にする。質疑応答をして理解を深める。	これまでの調査結果をまとめて報告できるようレジュメを作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
21	これまでの調査内容報告	これまでの調査の結果を発表報告を順番にする。質疑応答をして理解を深める。	これまでの調査結果をまとめて報告できるようレジュメを作成する。	60
22	論文作成上の注意事項確認	論文作成上の留意点を再度確認する。	論文の体裁に整えることを意識して、調査内容を書いてまとめる。	60
23	卒業論文発表会の提示資料作成	卒業発表会で使用する資料をパワーポイントで作成開始する。	卒業発表会で使用する資料をパワーポイントで作成する。	60
24	卒業論文発表会の提示資料作成	卒業論文発表会の提示資料作成。	卒業発表会で使用する資料をパワーポイントで作成する。	60
25	論文(紙媒体)仮提出	これまでの研究調査内容を一度印刷して修正点を確認する。	修正点などを正確に修正していく。	60
26	論文(紙媒体)仮提出	これまでの研究調査内容を一度印刷して修正点を確認する。	修正点などを正確に修正していく。	60
27	論文(紙媒体)仮提出	これまでの研究調査内容を一度印刷して修正点を確認する。	修正点などを正確に修正していく。	60
28	修正確認	修正指摘点が、修正されているかのチェックを受け、最終的に整える。	研究発表会で使用する作成資料作成を開始する。	60
29	卒業研究発表会提示資料の確認	研究発表会で使用する作成資料の準備および確認。	研究発表会で使用する作成資料をさらによくする。	60
30	発表予行練習、論文提出	研究発表会で使用する提示資料の最終確認。発表練習。発表後の質疑応答をふまえて修正後、論文を提出する。	必要な部分を修正する。最終的に指定の期日までに論文を提出する。	60

科目名	卒業研究（論文もしくは制作）	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	小松 太志		
開講期	通年		
授業概要	<p>▼授業の目的・ねらい☑</p> <p>①「映像メディア」の特性を理解して、独自の表現手法の構築する。☑</p> <p>②コンピュータによる造形制作に習熟する。☑</p> <p>☑</p> <p>▼授業全体の内容の概要☑</p> <p>①卒業研究は、静止画・動画・Webなどの広範な表現領域を含む。制作過程や入力・出力媒体、またはコンセプトの核としてコンピュータの特性を理解し、活用されているかどうかを映像メディア領域の特性とする。☑</p> <p>☑</p> <p>▼実務経験に関連する内容☑</p> <p>広告制作会社に勤務した経験を活かして、デザインの視点から映像メディアに関わる研究指導を行う。☑</p> <p>実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務☑</p> <p>☑</p> <p>▼課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法☑</p> <p>・最終回に、ルーブリック表を用いてフィードバックを行なう。☑</p> <p>☑</p> <p>▼備考☑</p> <p>・教授会で休講になった授業については、卒業制作展の搬入搬出、会期中の役割業務参加などで補填することとします。☑</p> <p>☑</p> <p>位置づけ・水準 CD2101</p>		
達成目標	<p>▼達成目標☑</p> <p>①卒業制作展に向けた制作活動を通じて、独自の表現を探究する基盤ができています。☑</p> <p>②コンピュータ・グラフィックスによる造形表現技術の向上を目指すための基盤ができています。☑</p> <p>③工程を明確にして、計画的に制作を進めることができる。☑</p> <p>☑</p> <p>▼単位認定の最低基準☑</p> <p>・卒業制作作品を提出すること。☑</p> <p>☑</p> <p>▼ディプロマ・ポリシーとの関係☑</p> <p>・知識理解、創造的思考力、課題解決力</p>		
受講資格	<ul style="list-style-type: none"> ・地域創成学科 2年 対象☑ ・CG基礎1・2を履修済みであることが望ましい。 	成績評価 方法	<p>授業の総合的理解度が7割程度に達していることを基本として、以下の3つ観点で所定のルーブリックに基づき評価する。☑</p> <p>①卒業研究の制作過程（40%）☑</p> <p>②卒業研究作品（50%）☑</p> <p>③授業への姿勢・意欲（10%）</p>
教科書	適宜、配布または提示する。		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・授業支援システムを活用して、授業資料の配布や課題提出をおこなうため、操作に慣れること。☑ ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように自習すること。 		
オフィスタイム	月曜日 III・IV時限、金曜日 III・V時限、No.3地域創成学科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ●卒業研究の授業目標・授業計画について説明 -過去の卒業研究作品とその制作過程を紹介 	<p>【事前学習】卒業研究のテーマを検討する。☑</p> <p>【事後学習】卒業研究のテーマを決めるための資料を収集する。</p>	60
2	一次制作（もみじ会出品作品の制作）	<ul style="list-style-type: none"> ●コンピュータのメディア特性を活用した芸術・デザイン作品を資料提示（以後、適宜資料を提示） →コンピュータによる造形表現の可能性について理解を深めます。 ●造形全般について作品資料を収集（以後、適宜資料を収集） →造形的な方向性について検討を試みます。 	<p>【事前学習】卒業研究のテーマを検討する。</p> <p>【事後学習】卒業研究のテーマを決めるための資料を収集する。</p>	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
3	一次制作	<ul style="list-style-type: none"> ●コンピュータのメディア特性を活用した芸術・デザイン作品を資料提示（以後、適宜資料を提示） →コンピュータによる造形表現の可能性について理解を深めます。 ●造形全般について作品資料を収集（以後、適宜資料を収集） →造形的な方向性について検討を試みます。 	<ul style="list-style-type: none"> 【事前学習】卒業研究のテーマを検討する。 【事後学習】卒業研究のテーマを決めるための資料を収集する。 	60
4	一次制作	<ul style="list-style-type: none"> ●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →造形：形態や色彩、材質感などの視覚的イメージについて検討 →メディア：表現（静止画、動画、Web）に応じた入力装置、出力装置、制作機器について検討 →展示形態：展示方法について検討 	<ul style="list-style-type: none"> 【事前学習】卒業研究のテーマを検討する。 【事後学習】卒業研究のテーマを決めるための資料を収集する。 	60
5	一次制作	<ul style="list-style-type: none"> ●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →造形：形態や色彩、材質感などの視覚的イメージについて検討 →メディア：表現（静止画、動画、Web）に応じた入力装置、出力装置、制作機器について検討 →展示形態：展示方法について検討 	<ul style="list-style-type: none"> 【事前学習】表現方法を検討する。 【事後学習】表現方法を決めるための資料を収集する。 	60
6	一次制作	<ul style="list-style-type: none"> ●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。 	<ul style="list-style-type: none"> 【事前学習】表現方法を検討する。 【事後学習】表現方法を決めるための資料を収集する。 	60
7	一次制作	<ul style="list-style-type: none"> ●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。 	<ul style="list-style-type: none"> 【事前学習】表現方法を検討する。 【事後学習】表現方法を決めるための資料を収集する。 	60
8	一次制作	<ul style="list-style-type: none"> ●プレゼンテーション →表現の方向性についてプレゼンテーションを実施します。 一次制作作品完成までのスケジュール、想定し得る技術的課題についても明らかにします。 	<ul style="list-style-type: none"> 【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。 	60
9	一次制作	<ul style="list-style-type: none"> ●プレゼンテーション →表現の方向性についてプレゼンテーションを実施します。 一次制作作品完成までのスケジュール、想定し得る技術的課題についても明らかにします。 	<ul style="list-style-type: none"> 【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。 	60
10	一次制作	<ul style="list-style-type: none"> ●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。 	<ul style="list-style-type: none"> 【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。 	60
11	一次制作	<ul style="list-style-type: none"> ●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。 	<ul style="list-style-type: none"> 【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。 	60
12	一次制作	<ul style="list-style-type: none"> ●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。 	<ul style="list-style-type: none"> 【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。 	60
13	一次制作	<ul style="list-style-type: none"> ●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。 	<ul style="list-style-type: none"> 【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。 	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて、入力（データ化あるいはソフトウェアへの取り込み）します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
15	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて、入力（データ化あるいはソフトウェアへの取り込み）します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
16	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。（静止画→編集・加工／動画→映像編集／Web→コーディング）	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
17	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。（静止画→編集・加工／動画→映像編集／Web→コーディング）	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
18	一次制作	●プレゼンテーション →一次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
19	一次制作	●プレゼンテーション →一次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
20	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
21	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
22	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
23	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
24	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。（静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力）	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
25	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。（静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力）	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。 (静止画→印刷/動画→レンダリング/Web→ブラウザへの出力)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
27	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。 (静止画→印刷/動画→レンダリング/Web→ブラウザへの出力)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
28	一次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行いません。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。	60
29	一次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行いません。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。	60
30	一次制作	●プレゼンテーション →一次制作作品についてプレゼンテーションを実施します。 作品講評を実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
31	二次制作(卒業制作展出品作品の制作)	●表現の方向性(造形、メディア、展示形態)について検討 →二次制作に向けて、一次制作における技術あるいは表現上の問題点について検討します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
32	二次制作	●表現の方向性(造形、メディア、展示形態)について検討 →二次制作に向けて、一次制作における技術あるいは表現上の問題点について検討します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
33	二次制作	●表現の方向性(造形、メディア、展示形態)について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
34	二次制作	●表現の方向性(造形、メディア、展示形態)について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
35	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。 二次制作作品完成までのスケジュール、想定し得る技術的課題についても明らかにします。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
36	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。 二次制作作品完成までのスケジュール、想定し得る技術的課題についても明らかにします。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
37	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
38	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
39	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
40	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
41	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて、入力（データ化あるいはソフトウェアへの取り込み）します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
42	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて、入力（データ化あるいはソフトウェアへの取り込み）します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
43	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。（静止画→編集・加工／動画→映像編集／Web→コーディング）	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
44	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。（静止画→編集・加工／動画→映像編集／Web→コーディング）	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
45	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
46	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
47	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
48	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
49	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
50	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
51	二次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。（静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力）	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
52	二次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。 (静止画→印刷/動画→レンダリング/Web→ブラウザへの出力)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
53	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行いません。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。	60
54	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行いません。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。	60
55	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行いません。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。	60
56	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行いません。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。	60
57	二次制作	●制作 →卒業制作展に向けて展示計画を確認します。	【事前学習】展示計画を作成する。 【事後学習】展示計画を確認する。	60
58	二次制作	●制作 →卒業制作展に向けて展示計画を確認します。	【事前学習】展示計画を作成する。 【事後学習】展示計画を確認する。	60
59	二次制作	●制作 →卒業制作展に向けて展示計画を確認します。	【事前学習】展示計画を作成する。 【事後学習】展示計画を確認する。	60
60	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作作品についてプレゼンテーションを実施します。 作品講評を実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】卒業研究発表に向けて、準備する。	60

科目名	卒業研究（論文もしくは制作）	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	松田 理香		
開講期	通年		
授業概要	<p>デザインの表現や提示の仕方に新しい価値や意味を見出し、自分のアイデアを形にして発表します。研究テーマを決め発表方法をいくつか考えます。そのための資料収集や材料の選定を行いながら試作を重ね、自分の作品のイメージを絞っていきます。展示会場の下見などしながら本制作し卒業制作展で発表します。☑</p> <p>完成した展示作品は講評時に全員で鑑賞し、感想などを述べ合います。また解説やコメントなどによるフィードバックを行います。 CD2101☑</p> <p>☑</p> <p>☐教授会で授業が休講となる場合は事前に連絡し、卒業制作展の搬入・展示・搬出作業および会期中の役割などで補填することとします。</p>		
達成目標	<p>伝えたいメッセージを明確にし、主体的に研究と制作へ取り組むことを目標とします。☑</p> <p>・単位認定の最低基準：卒業制作展における作品展示・発表（ルーブリック評価に基づいて判定します）☑</p> <p>・ディプロマ・ポリシーとの関係：創造的思考力、課題解決力、主体的行動力</p>		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	①自分のテーマへの探究心・情報収集の成果（20点） ②制作姿勢（40点） ③作品の完成度（40点）
教科書	ありません。☑ 必要に応じて資料などを提示します。		
参考書	取り組むテーマに応じて参考となる書籍や図録、情報などを紹介します。		
学生への要望	専門的な視点を意識して主体的に研究・制作してください。参考資料や使用する道具・素材などについてはできるだけ多くの現物で検討し、制作のための準備に時間をかけることを希望します。		
オフィスタイム	月曜日 Ⅱ～Ⅳコマ☑ 木曜日 Ⅰ・Ⅱコマ☑ 場所：芸術館1階 No2工芸室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	卒業研究について説明する。	卒業研究で取り組む作品テーマについて資料などに当たりながら考える。	30
2	討論会	デザインとは何か、デザインの役割と問題点について考える。デザインには人や暮らし、社会を豊かにするという目的が含まれていることを起点とし、デザインの領域について理解を深める。 その中でも、絵本やブックバイディング（装丁）を中心に、新しい価値やその存在意味について考える。	生活の中にあるデザインの役割などについて調べる。	30
3	研究方法	作品テーマ（表現のための主題）と発表方法について考える。	美術館や博物館、ギャラリーなどへ行き、イラストレーションやデザイン作品等に触れる。	60
4	研究方法	作品テーマ（表現のための主題）と発表方法について考える。	美術館や博物館、ギャラリーなどへ行き、イラストレーションやデザイン作品等に触れる。	60
5	研究資料について	参考文献と参考作品の収集を行う。イラストレーターやデザイナーに直接取材したりフィールドワーク、ワークショップへの参加などにも積極的に取り組む。	美術館や博物館、ギャラリーなどへ行き、イラストレーションやデザイン作品等に触れる。	60
6	研究資料について	参考文献と参考作品の収集を行う。イラストレーターやデザイナーに直接取材したりフィールドワーク、ワークショップへの参加などにも積極的に取り組む。	美術館や博物館、ギャラリーなどへ行き、イラストレーションやデザイン作品等に触れる。	60
7	研究資料について	参考文献と参考作品の収集を行う。イラストレーターやデザイナーに直接取材したりフィールドワーク、ワークショップへの参加などにも積極的に取り組む。	美術館や博物館、ギャラリーなどへ行き、イラストレーションやデザイン作品等に触れる。	60
8	研究資料について	参考文献と参考作品の収集を行う。イラストレーターやデザイナーに直接取材したりフィールドワーク、ワークショップへの参加などにも積極的に取り組む。	美術館や博物館、ギャラリーなどへ行き、イラストレーションやデザイン作品等に触れる。	60
9	研究テーマ①	自分が表現したい事柄をレポートにまとめる。	自身の作品テーマに関係しそうな資料や材料、表現方法や展示計画等について情報収集を行いファイリングをする。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	研究テーマ①	自分が表現したい事柄をレポートにまとめる。	自身の作品テーマに関係しそうな資料や材料、表現方法や展示計画等について情報収集を行いファイリングをする。	60
11	研究テーマ②	レポートを見返し過不足があれば書き加える。キーワードを抜き書きし、研究テーマの輪廓を探る。	自身の作品テーマに関係しそうな資料や材料、表現方法や展示計画等について情報収集を行いファイリングをする。	60
12	研究テーマ②	レポートを見返し過不足があれば書き加える。キーワードを抜き書きし、研究テーマの輪廓を探る。	自身の作品テーマに関係しそうな資料や材料、表現方法や展示計画等について情報収集を行いファイリングをする。	60
13	資料の収集①	自分の作品テーマが世界でどのように表現されているか、その類型を収集する。	自分の作品テーマをいくつか検討しながら情報収集を行う。	30
14	資料の収集①	自分の作品テーマが世界でどのように表現されているか、その類型を収集する。	自分の作品テーマをいくつか検討しながら情報収集を行う。	30
15	資料の収集②	文章化したテーマをもとに、作品として展示する（視覚化）ために必要な材料や資料について検討する。授業時間外で収集した資料なども持ち込んでさらに確認・検討する。	自分の作品テーマをいくつか検討しながら情報収集を行う。	30
16	資料の収集②	文章化したテーマをもとに、作品として展示する（視覚化）ために必要な材料や資料について検討する。授業時間外で収集した資料なども持ち込んでさらに確認・検討する。	自分のテーマをいくつか検討しながら情報収集を行う。	30
17	ムードボードの制作①	収集した資料（画像・テキストなど）を整理する。	収集した資料の整理を行い、必要に応じて追加も検討する。	30
18	ムードボードの制作①	収集した資料（画像・テキストなど）を整理する。	収集した資料の整理を行い、必要に応じて追加も検討する。	30
19	ムードボードの制作②	色調のバランスを考えながらスケッチを行う。	収集した資料の整理を行い、必要に応じて追加も検討する。	60
20	ムードボードの制作②	色調のバランスを考えながらスケッチを行う。	収集した資料の整理を行い、必要に応じて追加も検討する。	60
21	表現テーマの決定	ムードボードやその他の資料をもとに各自のテーマを決定する。	作品制作のための材料・資料について確認し入手ルートなども調べる。	60
22	表現テーマの決定	ムードボードやその他の資料をもとに各自のテーマを決定する。	作品制作のための材料・資料について確認し入手ルートなども調べる。	60
23	表現技法の決定	テーマを表現するためにもっとも適している表現方法・技法について考える。	作品制作のための材料・資料について確認し入手ルートなども調べる。	60
24	表現技法の決定	プリンターによる出力や手描き、または業者への発注などについて検討する。 手描きの場合は描画材料の他に、基底材についても検討する。	作品制作のための材料・資料について確認し入手ルートなども調べる。	60
25	プレ制作①	材料実験を重ね、おおよその完成形をイメージして制作する。	作品のスケッチを重ねる。	60
26	プレ制作①	材料実験を重ね、おおよその完成形をイメージして制作する。	作品のスケッチを重ねる。	60
27	プレ制作②	計画を進める段階で考えられる問題点を予測する。	作品のスケッチを重ねる。	60
28	プレ制作②	材料的・技術的な問題がないか、追加や交換が必要な資料・機器などについて確認し、展示に向けた問題点を細かく洗い出し予測する。	作品のスケッチを重ねる。	60
29	制作計画書の作成	時間配分などを見直し本制作の全体計画書を作成する。機器の不具合や材料の不足、アクシデントによる修正など、有事に備えて二週間程度の予備日を確保するよう計画する。	制作に係る時間を検討し、完成させるまでの計画を練る。	60
30	材料の手配	作品の完成形のイメージを固め、必要な材料・道具などを検討する。	制作に係る時間を検討し、完成させるまでの計画を練る。必要な材料などを揃え制作に備える。	60
31	本制作①（本文）	作品制作で使用する道具・材料をいくつか選び、それぞれをそのように使用するかを検討する。	道具の使用方法を確認し、材料を使用して表現方法の試作を行う。	30
32	本制作①（本文）	作品制作で使用する道具・材料をいくつか選び、それぞれをそのように使用するかを検討する。	道具の使用方法を確認し、材料を使用して表現方法の試作を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
33	本制作② (本文)	表現方法に合わせて下絵・下図を描く。	使用する画材などの試作を行う。パソコンなどで制作する場合は作業時間の確認や出力した際の色調などの確認作業を行う。	60
34	本制作② (本文)	表現方法に合わせて下絵・下図を描く。	使用する画材などの試作を行う。パソコンなどで制作する場合は作業時間の確認や出力した際の色調などの確認作業を行う。	60
35	本制作③ (本文・表紙)	発表する作品の点数やサイズなどを検討して、色彩、配置、また展示場所についても考慮しながら制作を進める。	制作を続ける。	60
36	本制作③ (本文・表紙)	発表する作品の点数やサイズなどを検討して、色彩、配置、また展示場所についても考慮しながら制作を進める。	制作を続ける。	60
37	本制作④ (本文・表紙)	発表する作品の点数やサイズなどを検討して、色彩、配置、また展示場所についても考慮しながら制作を進める。	制作を続ける。	60
38	本制作④ (本文・表紙)	発表する作品の点数やサイズなどを検討して、色彩、配置、また展示場所についても考慮しながら制作を進める。	制作を続ける。	60
39	本制作⑤ (本文)	作品に客観性をもたせるため、他分野の教員や学生に作品を見てもらい、率直な感想や意見を聞きながら作業を進める。	制作を続ける。	60
40	本制作⑤ (本文)	作品のサイズなど基本的な間違いがないかを確認しながら作業を進める。	制作を続ける。	60
41	本制作⑥ (本文)	平面構成的な作品の場合は画面の大勢を占める色調を把握する。描画的な作品は全体の書き込みのバランスを見ながら作業を進める。	制作を続ける。	60
42	本制作⑥ (本文)	平面構成的な作品の場合は画面の大勢を占める色調を把握する。描画的な作品は全体の書き込みのバランスを見ながら作業を進める。	制作を続ける。	60
43	本制作⑦ (本文・表紙)	色彩計画は下図の段階でおおよそ決めてあるが、実寸においては再考し、色調整を検討しながら作業を進める。	制作を続ける。	60
44	本制作⑦ (本文・表紙)	色彩計画は下図の段階でおおよそ決めてあるが、実寸においては再考し、色調整を検討しながら作業を進める。	制作を続ける。	60
45	本制作⑧ (本文・表紙)	細部にこだわらず全体を意識しながら作業を進める。	制作を続ける。	60
46	本制作⑧ (本文・表紙)	細部にこだわらず全体を意識しながら作業を進める。	制作を続ける。	60
47	本制作⑨ (本文・表紙)	細部にこだわらず全体を意識しながら作業を進める。	制作を続ける。	60
48	本制作⑨ (本文・表紙)	細部にこだわらず全体を意識しながら作業を進める。	制作を続ける。	60
49	本制作⑩ (本文)	パソコン作業では画面上の色彩と出力した場合の色彩が異なるので、ときどき出力しながら色調整を繰り返す作業を行って制作する。画材などを使用して作品制作を行う場合は、基調色や背景など全体の色彩のバランスを見ながら作業を行って制作する。	制作を続ける。	60
50	本制作⑩ (本文)	パソコン作業では画面上の色彩と出力した場合の色彩が異なるので、ときどき出力しながら色調整を繰り返す作業を行って制作する。画材などを使用して作品制作を行う場合は、基調色や背景など全体の色彩のバランスを見ながら作業を行って制作する。	制作を続ける。	60
51	本制作⑪ (本文・表紙)	制作に専念する。色彩調整や表現材料に気を配りながら作業を行う。	制作を続ける。	60
52	本制作⑪ (本文・表紙)	制作に専念する。色彩調整や表現材料に気を配りながら作業を行う。	制作を続ける。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
53	途中経過の発表	制作中の作品について授業選択者全員で鑑賞し、意見や感想を述べ合う。	制作を続ける。	60
54	途中経過の発表	経過発表で確認した点について修正・見直しなどを行い完成度を高めていく。	制作を続ける。	60
55	修正と仕上げ①	テーマに合う展示方法、考えられる問題点などを確認し完成度を高めていく。	制作を続けながら細部の確認作業を行う。	60
56	修正と仕上げ①	会場に作品を持ち込み効果的な展示方法を検討する。必要に応じて微調整を加える。	制作を続けながら細部の確認作業を行う。	60
57	修正と仕上げ②	会場に作品を持ち込み効果的な展示方法を検討する。必要に応じて微調整を加える。	制作を続けながら細部の確認作業を行う。	60
58	修正と仕上げ②	展覧会はまとまった一つの空間構成として捉える必要があるため会場全体の調和を図る展示となっているかを検討する。	制作を続けながら細部の確認作業を行う。	60
59	作品の講評・まとめ	作品が生み出されるまでの全工程を振り返る。 卒業制作展開催中は作品をさまざまな視点で鑑賞し、自分の作品についてメッセージ性が失われていないかなどを検証する。	ブックデザインの観点から、伝えたいメッセージが表現されているかを検証する。	60
60	作品の講評・まとめ	作品が生み出されるまでの全工程を振り返る。 卒業制作展開催中は作品をさまざまな視点で鑑賞し、自分の作品についてメッセージ性が失われていないかなどを検証する。	ブックデザインの観点から、伝えたいメッセージが表現されているかを検証する。	60

科目名	卒業研究（論文もしくは制作）		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	山口 猛			
開講期	通年			
授業概要	情報処理、情報メディア、ICT（Information and Communication Technology）、情報モラル、コミュニケーションなど、情報処理士ユニットの学修に関連する研究テーマに基づき、グループ研究を行う。現在のグループ研究のメインテーマはマインドマップによる学修支援である。グループ内においては、個々の興味関心に応じて役割分担を行い、協業で研究活動を進める。☑ ☑ 課題・研究進捗に関し、対面・資料へのコメント添削などにより、フィードバックを行います。☑ ☑ 位置づけ・水準 CD2101			
達成目標	卒業研究論文に必要な、予備調査、予備分析を終了している。☑ ☑ 単位認定の最低基準：研究意欲を持ち、卒業論文を提出すること☑ ☑ ディプロマポリシーとの関係：創造的思考力、課題解決力、主体的行動力			
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	研究意欲20%、論文50%、研究発表30%	
教科書	なし			
参考書	適宜、資料等を用いて指導を行う			
学生への要望	研究テーマに沿って、積極的に実験・調査に取り組むこと。			
オフィスタイトム	月曜日 2・4限、芸術館2階 No.2生芸科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	卒業研究の概要を説明する。また、学生が関心のある研究テーマについて議論し、大まかな研究対象のイメージをつける。	研究活動を理解するために、説明内容を振り返る。	60
2	研究スケジュール・役割分担の検討	グループ研究のメインテーマにおける学生個々の役割分担を検討する。	自分の興味関心をまとめて、研究課題に対する自分なりのアプローチをイメージできるようにする。	60
3	論文執筆の方法の理解（1）	論文執筆の基本ルールを解説する。	授業内容を復習して、論理や論文の構成について理解する。	60
4	論文執筆の方法の理解（2）	論文執筆の基本ルールを解説する。	授業内容を復習して、論理や論文の構成について理解する。	60
5	研究活動（1）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
6	研究活動（2）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
7	研究活動（3）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
8	研究活動（4）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
9	研究活動（5）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
10	研究活動（6）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
11	研究活動（7）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
12	研究活動（8）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
13	研究活動（9）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
14	研究活動（10）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
15	中間報告	研究活動（10）までの研究進捗をまとめ、中間報告を行う。	グループの他のメンバーとの進捗確認、研究活動の見直し等を行う。	60
16	研究活動（11）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
17	研究活動（12）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
18	研究活動（13）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
19	研究活動（14）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
20	研究活動（15）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
21	論文作成（1）	研究活動（15）までに実施した研究成果に基づき、論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60
22	論文作成（2）	研究活動（15）までに実施した研究成果に基づき、論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60
23	論文作成（3）	研究活動（15）までに実施した研究成果に基づき、論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60
24	論文作成（4）	研究活動（15）までに実施した研究成果に基づき、論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60
25	論文作成（5）	研究活動（15）までに実施した研究成果に基づき、論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	論文発表プレゼンテーション準備(1)	卒業研究発表会に向けたプレゼンテーションPowerPointスライドを作成する。	教員からのアドバイスを理解し、プレゼンテーション資料及び・リハーサルを行う。	60
27	論文発表プレゼンテーション準備(2)	卒業研究発表会に向けたプレゼンテーションPowerPointスライドを作成する。	教員からのアドバイスを理解し、プレゼンテーション資料及び・リハーサルを行う。	60
28	論文発表プレゼンテーション準備(3)	卒業研究発表会に向けたプレゼンテーションPowerPointスライドを作成する。	教員からのアドバイスを理解し、プレゼンテーション資料及び・リハーサルを行う。	60
29	論文発表練習	発表練習を行う。	グループでの発表練習リハーサルを行う。	60
30	卒業研究発表	卒業研究発表会において、発表を行う。	最終的な発表見直しを行う。	60

科目名	卒業研究（論文もしくは制作）		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	仲田 佐和子			
開講期	通年			
授業概要	2年間の学びの総まとめとして、独自の課題をみつけ、調査、資料収集をおこないます。そこから論理的な考察を経て論文に仕上げていきます。課題は博物館学（博物館教育論、博物館展示論等）を基本とします。博物館は生涯学習施設であることをふまえ、幅広く柔軟な考え方で、今後の博物館を含む生涯学習施設と学生の社会との関わりについても展望します。論文に仕上げるまで、レポートや論文下書きを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行います。 位置づけ・水準CD2124			
達成目標	①自ら問題意識を持って選択したテーマについて調査研究し、論理的かつ創造的にものごとを考えることができる能力を修得する。（創造力、思考力） ②専門分野の探求煮おいて各分野の多様性を理解するとともに、自らの力で問題を発見し、それを創造的に解決する能力を身につける。（課題解決力） ③専門的な知識の探求を通して知見を得、それらを社会に貢献できる力を身につける。（主体的行動力）			
受講資格	短期大学部地域創成学科2年生	成績評価 方法	卒業研究論文（80点） 卒業研究発表会での発表（20点） 60点以上で合格だが、80点以上を目指してほしい。	
教科書	使用しない。			
参考書	各自のテーマ設定により、適宜、参考文献等を紹介しします。			
学生への要望	博物館を含む生涯学習施設や社会全体に対して興味を持ち、自分が今後どのように関わっていくかを考えながら、柔軟な発想をしてほしい。			
オフィスタイム	火曜日・V時限、金曜日・V時限。創学館4階No.4、研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業の進め方を説明する。	生涯学習施設としての博物館の役割を考える。	90
2	資料の探し方	大学図書館での資料の探し方を学ぶ。	大学図書館へ行き、興味のある分野を探しておく。	90
3	テーマ設定①	興味のある事からテーマを考えていく。	大学図書館や地域図書館で調べる。	90
4	テーマ設定②	興味のある事からテーマを考えていく。	大学図書館や地域図書館で調べる。	90
5	テーマ設定③	興味のある事からテーマを考えていく。	大学図書館や地域図書館で調べる。	90
6	テーマ設定④	興味のある事からテーマを考えていく。	大学図書館や地域図書館で調べる。	90
7	テーマ設定⑤	興味のある事からテーマを考えていく。	大学図書館や地域図書館で調べる。	90
8	論文の構成を考える①	論文全体の構成を考える。	図書館で不足している資料を調査する。	90
9	論文の構成を考える②	論文全体の構成を考える。	図書館で不足している資料を調査する。	90
10	論文の構成を考える③	論文全体の構成を考える。	図書館で不足している資料を調査する。	90
11	論文の章立てを行う①	構成から大まかな章立てを考える。	資料を深く読み込み、自分なりの課題を見つける。	90
12	論文の章立てを行う②	構成から大まかな章立てを考える。	資料を深く読み込み、自分なりの課題を見つける。	90
13	論文の章立てを行う③	構成から大まかな章立てを考える。	資料を深く読み込み、自分なりの課題を見つける。	90
14	Ⅲ期のまとめ	これまでで明らかになったことを整理する。	参考にした資料をまとめておく。	90
15	今後の進め方について	夏休みにやるべきことを明確にする。	参考にした資料をまとめておく。	90
16	論文執筆①	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
17	論文執筆②	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
18	論文執筆③	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
19	論文執筆④	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
20	論文執筆⑤	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
21	論文執筆⑥	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
22	論文執筆⑦	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
23	論文執筆⑧	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
24	論文執筆⑨	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
25	論文執筆⑩	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
26	論文のまとめ	論文に誤植がないか、確認する。	自分の論文を丁寧に読み返す。	90
27	卒業研究発表会準備①	卒業研究発表会の発表原稿をつくる。	発表時間内に発表できる原稿をつくる。	90
28	卒業研究発表会準備②	卒業研究発表会の発表原稿をつくる。	発表時間内に発表できる原稿をつくる。	90
29	卒業研究発表会準備③	卒業研究発表会のパワーポイントをつくる。	発表に合わせたパワーポイントをつくる。	90
30	卒業研究発表会リハーサル	パワーポイントと発表が時間内に行えるかを確認する。	発表会の最終確認をおこなう。	90

科目名	卒業研究（論文もしくは制作）		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	和知 剛			
開講期	通年			
授業概要	図書館情報学研究における基礎となる技術と理論の樹立と展開を目指し、学問的に有益であり、かつ地域社会への貢献が期待できる研究の遂行を目指す。担当教員はこれまで大学図書館に30年ほど勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について解説していく。☒ 担当教員は大学図書館に30年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。☒ ☒ 位置づけ・水準 GD2101			
達成目標	目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。			
受講資格	地域創成学科2年次に所属する学生（司書ユニットを受講していることが望ましい）	成績評価 方法	完成した卒業論文および卒研報告会における発表・発表資料等を総合的に評価する。	
教科書	特になし（必要なテキストはその都度作成配布）			
参考書	特になし（必要なテキストはその都度指定する）			
学生への要望	卒業研究は大学における勉学の総決算です。知力と体力を惜しまないでください。			
オフィスタイム	月曜 - 木曜 のそれぞれ2コマ目（10時30分 - 12時）に図書館情報研究室まで			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	卒業研究計画の立案（1）	研究目的の明確化	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
2	卒業研究計画の立案（2）	論点整理	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
3	卒業研究計画の立案（3）	論文構成の当初計画作成	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
4	卒業研究計画の立案（4）	参考文献の洗い出し	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
5	参考文献の収集と読解（1）	大学図書館等を利用して参考文献を収集し、その読解をすすめる	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
6	参考文献の収集と読解（2）	大学図書館等を利用して参考文献を収集し、その読解をすすめる	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
7	参考文献の収集と読解（3）	大学図書館等を利用して参考文献を収集し、その読解をすすめる	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
8	参考文献の収集と読解（4）	大学図書館等を利用して参考文献を収集し、その読解をすすめる	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
9	参考文献の収集と読解（5）	大学図書館等を利用して参考文献を収集し、その読解をすすめる	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
10	参考文献の収集と読解（6）	大学図書館等を利用して参考文献を収集し、その読解をすすめる	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
11	論文の構成準備（1）	当初計画に基づく論文構成の確認と論文における議論の構築	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
12	論文の構成準備（2）	当初計画に基づく論文構成の確認と論文における議論の構築	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
13	論文の構成準備（3）	当初計画に基づく論文構成の確認と論文における議論の構築	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
14	論文執筆（1）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	論文執筆（2）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
16	論文執筆（3）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
17	論文執筆（4）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
18	中間発表	ゼミ内での卒業研究中間発表とゼミ生による相互確認	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
19	論文執筆（5）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
20	論文執筆（6）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
21	論文執筆（7）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
22	論文執筆（8）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
23	論文執筆（9）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
24	論文初稿提出	卒業研究本文ならびに要旨提出	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
25	初稿修正（1）	本文における問題点の洗い出しと推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
26	初稿修正（2）	本文における問題点の洗い出しと推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
27	論文修正稿提出	修正稿の提出と確認	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
28	論文修正稿確認、論文完成	提出用論文の完成	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
29	卒研発表用資料確認	卒研発表用パワーポイント資料の提出と確認	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた発表の準備に取り組むこと	60
30	卒研発表会リハーサル	卒業研究発表会リハーサル	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた発表の準備に取り組むこと	60

科目名	卒業研究（論文もしくは制作）		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	黒沼 令			
開講期	通年			
授業概要	彫刻は手を通して触覚感覚を働かせながら、素材（粘土、木、石、鉄など）を直に成形していく造形芸術です。また、立体物を立体物として造形していくため、ものと人間の原初の関係に根ざしているとともに、造形の手応えを強く体験できる活動と言えます。彫刻作品をつくっていく中で、ものをつくる喜びや充実感を味わうとともに、彫刻の基礎的な知識や表現の理解を深めることを目標とします。☒ 最終授業や卒業制作展で取り組んだ作品に対するフィードバックを行います。☒ 教授会で休講になった授業については、卒業制作展の搬入搬出、会期中の役割業務参加などで補填することとします。☒ ☒ 位置づけ・水準：CD2101			
達成目標	卒業制作展に向けて作品を制作し、発表を行います。☒ 作品制作の中で、彫刻の基礎的な技能の習得と自己表現、自己探求を深める事を目標とします。☒ ・単位認定の最低基準：作品を最低1つ完成させること。☒ ・ディプロマ・ポリシーとの関係：創造的思考力、課題解決力、主体的行動力☒			
受講資格	地域創成学科 2年	成績評価 方法	・課題作品 70% ☒ ・授業態度、授業に対する意欲・関心 30% ☒ 以上の配分で評価する。☒ 60点以上で合格とするが、授業理解度は7割以上を求める。	
教科書	教科書は無し。 ☒			
参考書	・図書館の彫刻関係図書☒ ・美術館（福島県立、郡山市立、他）☒ ・街の中の彫刻（仙台市、福島市、他）☒ ・公募展覧会☒ ☒			
学生への要望	野外彫刻作品を鑑賞したり、機会があれば彫刻の展覧会を見ることなどを心がけてほしい。☒ ☒			
オフィスタイム	・月曜日Ⅲ・Ⅳコマ（12:50～16:00）☒ ・水曜日Ⅰ・Ⅱコマ（8:50～12:00）☒ 彫刻室・工芸Ⅰ室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	・卒業研究の進め方、設備、道具についてなど説明する。☒ ・各自、目標や技法について考える。		0
2	構想	・卒業制作作品を構想する。☒ ・資料、作品などを参考にしながら、自分が目指す表現について確認する。☒ ・デッサンする。	・作品の構想をデッサンする	120
3	構想	・第2回の内容をより深める。		0
4	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
5	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
6	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
7	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
8	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
9	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
10	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
11	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
12	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
13	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
14	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
15	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
16	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
17	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
18	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
19	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
20	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
21	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
22	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
23	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
24	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
25	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
26	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
27	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
28	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
29	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
30	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
31	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
32	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
33	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
34	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
35	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
36	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
37	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
38	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
39	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
40	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
41	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
42	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
43	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
44	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
45	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
46	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
47	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
48	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
49	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
50	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
51	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
52	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
53	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
54	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
55	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
56	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
57	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
58	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
59	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
60	合評会	・作品についてプレゼンテーションを行い1年間の成果を確認する。	・自主的に制作を進める	120

科目名	卒業研究（論文もしくは制作）	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	佐藤 愛未		
開講期	通年		
授業概要	<p>卒業研究は各自の2年間の学びの総まとめです。独自の課題をみつけ、教員の丁寧な指導を受けて資料の収集調査を進め、論理的な考察を経て、創造的な論文や作品に仕上げます。その成果は卒業研究発表会（報告会、展示会）で、多くの人に知ってもらいます。☑</p> <p>歴史・文化系、アート&デザイン系、情報系のいずれかの専門分野に関わる独創的な研究テーマを見出し、教員の指導で専門的な研究の基礎力を養い、社会に貢献できる力を身につけます。☑</p> <p>■課題に対するフィードバック方法☑</p> <p>1、個人発表を行い、提出された課題をその都度チェックし授業内でフィードバックします。☑</p> <p>2、卒業論文の提出後、内容を確認して説明します。☑</p> <p>☑</p> <p>位置づけ・水準 CD2100</p>		
達成目標	<p>(1) 自ら問題意識を持って選択したテーマについて調査研究、または卒業研究作品としての制作活動を通し、論理的かつ創造的にものごとを考える事ができる能力を修得する。☑</p> <p>(2) 専門分野の探究において、各分野の多様性を理解するとともに、自らの力で問題を発見し、それを創造的に解決する能力を身につける。☑</p> <p>(3) 専門的な知識の探究及び制作活動を通して知見を得、それらを社会に貢献できる力を身につける。☑</p> <p>☑</p> <p>単位認定の最低基準は、☑</p> <p>①卒業研究の時間内に個人の研究中間発表を最低2回はすること。☑</p> <p>②卒業論文を提出日時に必ず提出すること。☑</p> <p>☑</p> <p>ディプロマ・ポリシーとの関係：創造的思考力・課題解決力・主体的行動力</p>		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	<p>各自の指導教員が最終的に評価をする。☑</p> <p>【論文系の評価】☑</p> <p>① 研究に取り組む姿勢(計画性・主体性・継続性・創造性など)がどの程度であったか(40点)☑</p> <p>② 卒業論文の内容が論理的で創造的であったか(40点)☑</p> <p>③ 卒業研究発表会、成果のプレゼンテーション力(20点)☑</p>
教科書	なし		
参考書	研究テーマ・課題に即した文献を個別に指示する。		
学生への要望	各人の研究テーマ・課題を自覚し、自主的に探究すること。☑		
オフィスタイム	火曜日・木曜日 時間目。創学館4階、No5研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	研究論文の書き方（1）	論文の構成要素、論理の展開などを概説する。	自学自習：自分の卒業論文のテーマ決めに向けて、興味のある分野の図書を読む。	60
2	研究論文の書き方（2）	論文の構成要素、論理の展開などを概説する。	自学自習：自分の卒業論文のテーマ決めに向けて、興味のある分野の図書を読む。	60
3	研究テーマの決め方（1）	研究の目的は何か、何を調べるのかなど、各人の問題関心を検証し、確認する	自学自習：自分の卒業論文のテーマ決めに向けて、興味のある分野の図書を読む。ある程度、テーマを絞る	60
4	研究テーマの決め方（2）	研究の目的は何か、何を調べるのかなど、各人の問題関心を検証し、確認する	自学自習：自分の卒業論文のテーマ決めに向けて、興味のある分野の図書を読む。ある程度、テーマを絞る	60
5	研究テーマの決め方（3）	研究の目的は何か、何を調べるのかなど、各人の問題関心を検証し、確認する	自学自習：自分の卒業論文のテーマ決めに向けて、興味のある分野の図書を読む。ある程度、テーマを絞る	60
6	研究論文題目の決め方（1）	研究の基盤となる研究テーマ、研究主題を概説する。各人の問題関心に即して仮の研究論文題目を絞り込む。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関する図書を読み、要約する。	60
7	研究論文題目の決め方（2）	研究の基盤となる研究テーマ、研究主題を概説する。各人の問題関心に即して仮の研究論文題目を絞り込む。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関する図書を読み、要約する。研究論文題目などの発表にむけた準備を行う。	60
8	仮題目の発表（1）	講読した専門書、先行研究、各人の問題関心、絞り込んだ研究論文題目を発表する。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関する図書を読み、要約する。研究論文題目などの発表にむけた準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	仮題目の発表（2）	講読した専門書、先行研究、各人の問題関心、絞り込んだ研究論文題目を発表する。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関する図書を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
10	調査研究の方法（1）	論文執筆の前段階となる資料・参考文献の収集、現地調査、聞き取り調査、フェールドワークなどを概説し、質疑応答する。図書館の活用法についても論議する。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関する図書を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
11	調査研究の方法（2）	論文執筆の前段階となる資料・参考文献の収集、現地調査、聞き取り調査、フェールドワークなどを概説し、質疑応答する。図書館の活用法についても論議する。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関する図書を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
12	研究計画の作成（1）	これまでの授業内容を踏まえて、1月上旬の論文提出を念頭に研究計画表を作成する。スケジュール管理の重要性を認識する。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関する図書を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
13	研究計画の作成（2）	これまでの授業内容を踏まえて、1月上旬の論文提出を念頭に研究計画表を作成する。スケジュール管理の重要性を認識する。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関する図書を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
14	研究構想発表会（1）	論文提出に向けて研究構想を持ち廻り形式で発表する。発表者と聴講者の間で、発表内容について質疑応答をする。発表内容は研究史、研究状況、研究目的、研究上の疑問点、資料・文献の収集経過などである。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関する図書を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
15	研究構想発表会（2）	論文提出に向けて研究構想を持ち廻り形式で発表する。発表者と聴講者の間で、発表内容について質疑応答をする。発表内容は研究史、研究状況、研究目的、研究上の疑問点、資料・文献の収集経過などである。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関する図書を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
16	卒業論文の題目確定	研究構想発表での質疑応答を踏まえ、研究課題・構想の妥当性、研究課題説明の方策などを検討し、研究論文の題目を確定する。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関する図書・文献・史料を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
17	卒業論文の章立て（1）	資料・参考文献の収集経過、論文題目などから総合的に研究論文の目次構成を確定する。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関する図書・文献・史料を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
18	卒業論文の章立て（2）	資料・参考文献の収集経過、論文題目などから総合的に研究論文の目次構成を確定する。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関する図書・文献・史料を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
19	卒業論文の提出計画	研究上の問題点を解決し、論文執筆と論文提出に向けて、具体的な論文提出工程計画表を作成する。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関する図書・文献・史料を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
20	卒業論文の執筆（1）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
21	卒業論文の執筆（2）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
22	卒業論文の執筆（3）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
23	卒業論文の執筆（4）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
24	卒業論文の執筆（5）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
25	卒業論文の執筆（6）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
26	卒業論文の加筆（1）	研究論文の過不足を点検、補正し、研究論文の提出に備える。	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
27	卒業論文の加筆（2）	研究論文の過不足を点検、補正し、研究論文の提出に備える。	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
28	卒業論文の点検	直前の研究論文提出に備え、研究論文を最終的に点検する。	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
29	卒業論文発表会（1）	日本史所属の学生による発表会の予行演習	自学自習：卒業論文発表会の準備を行う。	60
30	卒業論文発表会（2）	日本史所属の学生による発表会の予行演習	自学自習：卒業論文発表会の準備を行う。	60